

旭川医科大学  
研究年報

第 01 集

**Annual Report of Research Activities**

**Asahikawa Medical University**

**Volume 01**

**2022**

**2023 年 4月**



# 目 次

■旭川医科大学研究年報の創刊にあたり .....	3
■旭川医科大学学術研究表彰 .....	4
■業績集計表 .....	6
■医学科	
[基礎医学]	
解剖学講座(機能形態学分野) .....	10
解剖学講座(顕微解剖学分野) .....	15
生理学講座(自律機能分野) .....	20
生理学講座(神経機能分野) .....	24
生化学講座 .....	30
薬理学講座 .....	36
病理学講座 (腫瘍病理分野) .....	40
病理学講座 (免疫病理分野) .....	45
感染症学講座 (微生物学分野) .....	52
感染症学講座 (寄生虫学分野) .....	55
社会医学講座.....	59
法医学講座 .....	68
先端医科学講座.....	73
[臨床医学]	
内科学講座 (循環・呼吸・神経病態内科学分野) .....	77
内科学講座 (病態代謝・消化器・血液腫瘍制御内科学分) .....	89
精神医学講座.....	118
小児科学講座.....	122
外科学講座 (血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野) .....	136
外科学講座 (心臓大血管外科学分野) .....	155
外科学講座 (肝胆膵・移植外科学分野) .....	167
外科学講座 (消化管外科学分野) .....	179
整形外科学講座.....	183
皮膚科学講座.....	193
腎泌尿器外科学講座.....	202
眼科学講座 .....	212
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 .....	218
産婦人科学講座.....	231
放射線医学講座.....	236

麻酔・蘇生学講座 .....	241
脳神経外科学講座 .....	248
歯科口腔外科学講座 .....	258
救急医学講座 .....	263
地域医療教育学講座 .....	277
形成・再建外科学講座 .....	281
<b>■看護学科</b>	
看護学講座 .....	285
<b>■一般教育</b>	
心理学・社会学・数学・数理情報科学・物理学・化学・ 生物学・生命科学・英語 .....	294
<b>■診療科等</b>	
リハビリテーション科 .....	301
腫瘍センター .....	307
呼吸器センター .....	312
緩和ケア診療部 .....	317
乳腺疾患センター .....	320
<b>■中央診療施設等</b>	
臨床検査・輸血部 .....	324
手術部 .....	330
放射線部 .....	334
病理部 .....	336
集中治療部 .....	343
周産母子センター .....	348
経営企画部 .....	352
臨床研究支援センター .....	355
遺伝子診療カウンセリング室 .....	358
透析センター .....	362
薬剤部 .....	368
<b>■学内施設等</b>	
国際交流推進センター .....	376
地域共生医育統合センター .....	379
インスティテューショナル・リサーチ室 .....	382
研究技術支援センター .....	385
先進医工学研究センター .....	388

## 旭川医科大学研究年報の創刊にあたり

旭川医科大学

学長 西川 祐司

本学の使命は、北海道の地域医療を支えるとともに、医科大学として独自性の高い研究活動と先進的な医療活動を通して医学・看護学の発展に貢献することにあります。現在、日本では研究力の急激な低下が深刻な問題となっており、これまで国内の研究を牽引してきた国立大学においていかにして研究活動を活性化するかが真剣に議論されています。本学では個々の部局がそれぞれ努力を続け、それぞれ業績を上げてきた側面は確かにあるのですが、論文発表、競争的資金獲得、大学院生の数などの客観的指標から判断しますと、残念ながら現状では大学としての研究力は医学部を有する他大学の後塵を拝していると言わざるを得ません。本学は研究力を高めるために全員で協力して積極的な行動をしなければならない重大な局面を迎えています。

ひとつの研究をまっとうするためには長期間にわたる相当の労力を要し、その過程でさまざまな困難に直面するのが通例です。本学での研究を再び隆盛とするためには、教員、学生（学部、大学院）の皆さんに研究の難しさと面白さを味わいながら生き生きと研究活動を続けていただくことが最も重要です。4月から導入される医師の働き方改革も見据えながら、大学として皆さんの研究活動に対する最大限のサポートを行いたいと思っています。2022年4月からの新執行部体制では、研究戦略企画室の体制強化、研究予算の確保、ユーザーの希望に沿った機器更新、若手研究者の支援（基盤的科学研究の自立化支援助成）、旭川医科大学学術研究表彰の設立、研究技術支援センターなど研究支援体制の整備、大学院教育の強化、大学院セミナー・研究セミナー・研究フォーラムの開催、研究成果の積極的な広報などの改革や改善を進めてきました。まだ十分とは言えない状況ですが、皆さんのご要望、ご批判をお聞きしながら、より良い研究環境が実現できるよう努力していきます。

そして、大学全体の研究力を高めるための重要な試みとして、2023年度から各部局の研究成果を年報として発行することになりました。特に本学のような小規模の大学では研究者間の交流および協力がより重要な意味を持つと考えられます。そのためには各部局が現在どのようなテーマに興味を持ち、研究を進めているのか、将来どのような研究を目指しているのかについての情報をお互いに共有することが欠かせません。また、年報を皆さんの研究成果をアピールし、研究参画者や協力者を増やすための媒体としても積極的にお使いいただければ幸いです。年報のフォーマットは今後も改訂し、できるだけ皆さんの負担を減らすとともに、魅力的で閲覧しやすい形にしていく予定です。本年報発刊により研究者同士の理解が深まり、学内での技術協力、クラスター形成を含む共同研究が促進されることを心から希望しています。

# 旭川医科大学学術研究表彰

#### 学術賞受賞者

病理学講座（免疫病理分野）  
准教授 大栗 敬幸

#### 研究テーマ

免疫抑制的な腫瘍内環境を改善する画期的ながん免疫治療法の開発に向けた基礎研究

#### 対象論文(著者名・タイトル)

Akemi Kosaka, Kei Ishibashi, Toshihiro Nagato, idemitsu Kitamura, Yukio Fujiwara, Syunsuke Yasuda, Marino Nagata, Shohei Harabuchi, Ryusuke Hayashi, Yuki Yajima, Kenzo Ohara, Takumi Kumai, Naoko Aoki, Yoshihiro Komohara, Kensuke Oikawa, Yasuaki Harabuchi, Masahiro Kitada, Hiroya Kobayasi, Takayuki Ohkuri  
“CD47 blockade enhances the efficacy of intratumoral STING-targeting therapy by activating phagocytes”



#### 学術賞受賞者

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座  
講師 熊井 琢美

#### 研究テーマ

頭頸部癌による免疫逃避メカニズムの解明および革新的免疫療法の開発

#### 対象論文(著者名・タイトル)

Yamaki H, Kono M, Wakisaka R, Komatsuda H, Kumai T, Hayashi R, Sato R, Nagato T, Ohkuri T, Kosaka A, Ohara K, Kishibe K, Takahara M, Hayashi T, Kobayashi H, Katada A  
“Brachyury-targeted immunotherapy combined with gemcitabine against head and neck cancer”

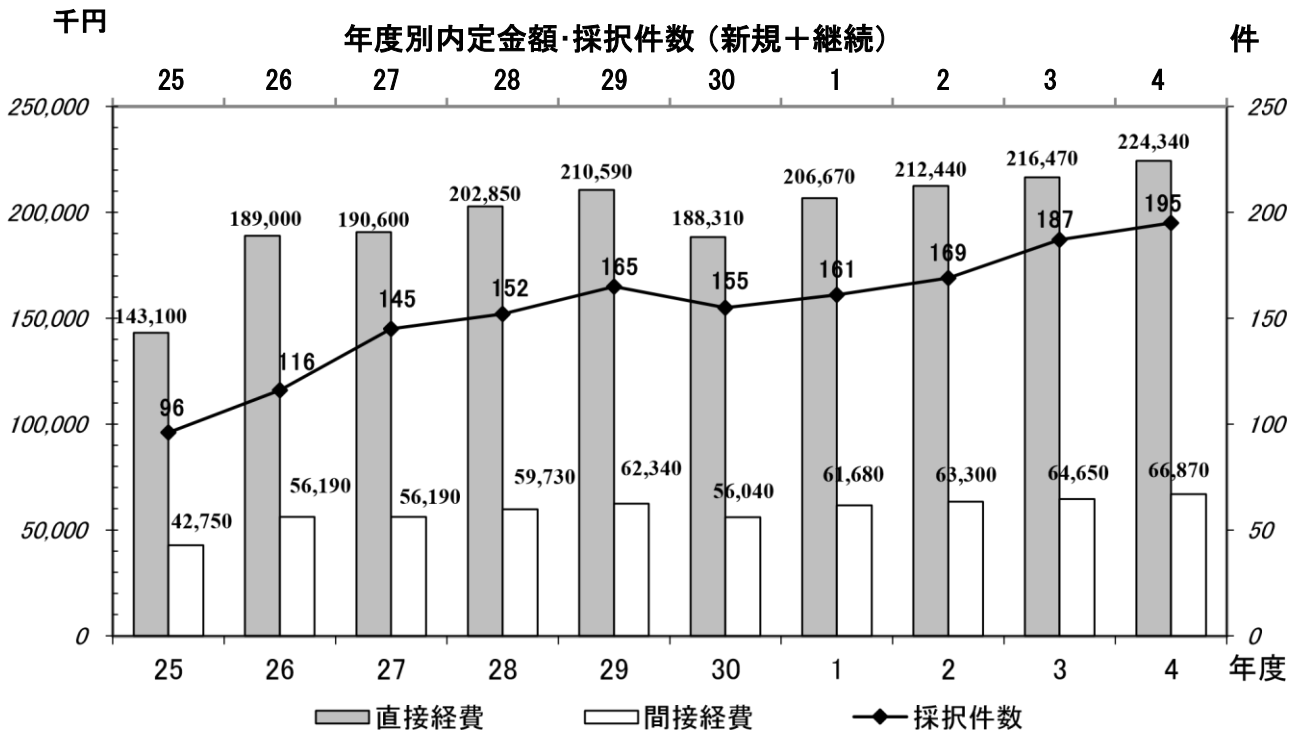
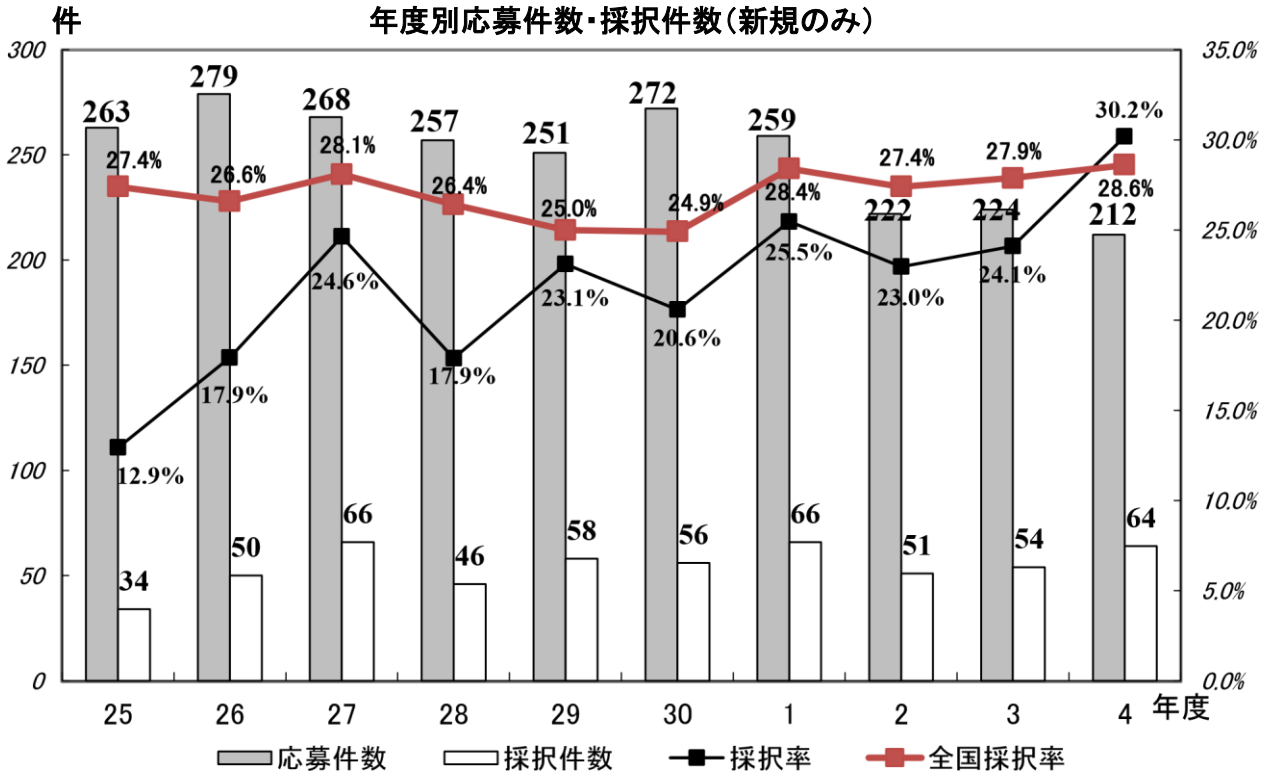


※ 学術研究表彰は、優れた研究成果をあげた旭川医科大学の研究者を表彰することにより「個々の研究者の研究意欲向上」を目的とするとともに、その研究成果とその研究内容を学内外に広め、大学の更なる研究の活性化を図るものとして、令和5年度から導入されました。

# 業績集計表

# 科学研究費助成事業(科研費) 推移

令和 5 年 3 月 31 日現在





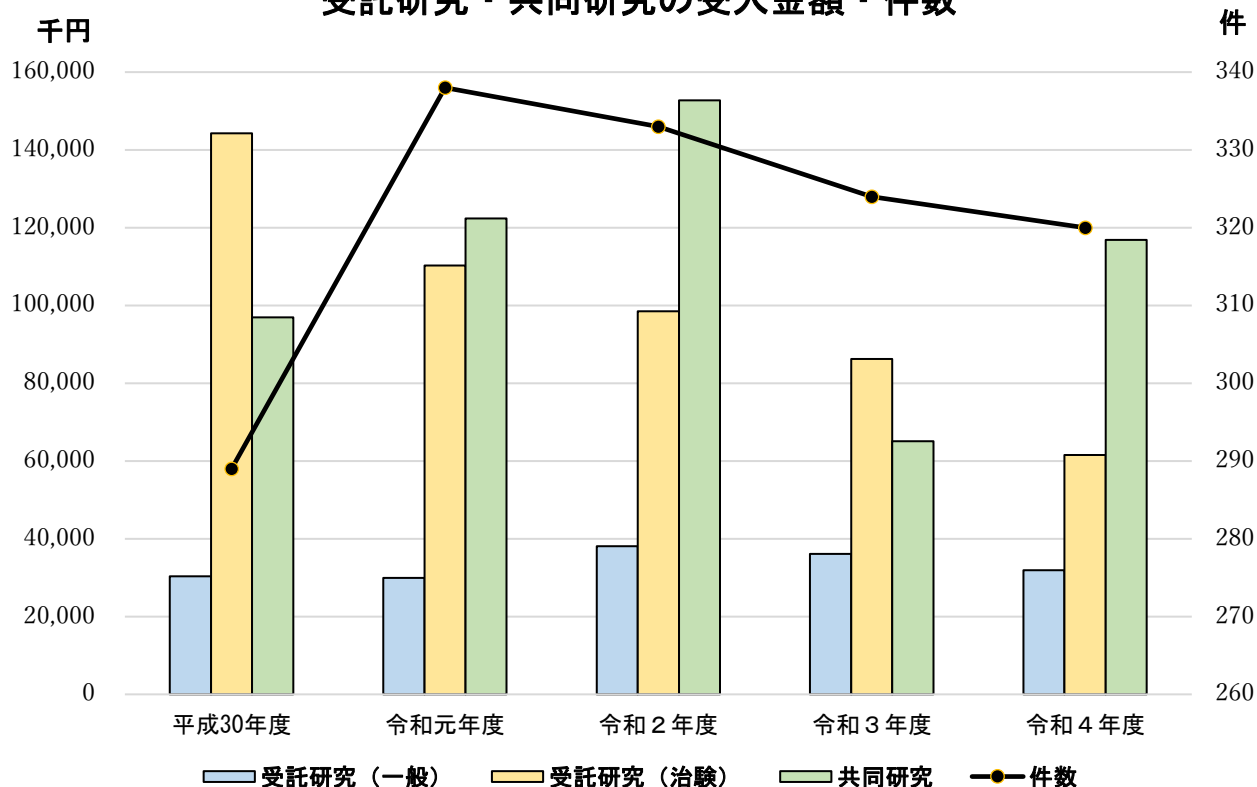
## 令和4年度 科学研究費助成事業 申請・採択状況

令和5年3月31日現在

(金額単位:円)

研究種目	新規応募件数		採択件数		配分額(新規+継続)	
	(R3 前年度 年度)	R4 年度	(R3 前年度 年度)	R4 年度	(R3 前年度 年度)	R4 年度
新学術領域研究	2	1	2	1	29,900,000	26,390,000
基盤研究(S)	1	0	0	0	0	0
基盤研究(A)	0	1	0	0	0	0
基盤研究(B)	9	6	8	8	39,780,000	38,870,000
基盤研究(C)	139	144	105	114	107,380,000	121,290,000
挑戦的研究(開拓)	1	0	0	0	0	0
挑戦的研究(萌芽)	14	12	2	1	4,160,000	0
若手研究	25	24	57	54	67,470,000	52,390,000
研究活動スタート支援	9	5	6	7	9,100,000	9,100,000
国際共同研究強化(A)	3	1	3	3	14,040,000	31,200,000
国際共同研究強化(B)	2	2	2	3	8,320,000	8,580,000
独立基盤形成支援	-	1	-	1	-	1,950,000
研究成果公開促進費 (ひらめき☆ときめきサイエンス)	1	1	1	1	500,000	500,000
奨励研究	18	14	1	2	470,000	940,000
<b>合計</b>	<b>224</b>	<b>212</b>	<b>187</b>	<b>195</b>	<b>281,120,000</b>	<b>291,210,000</b>

## 受託研究・共同研究の受入金額・件数



### ●その他競争的資金

事業名等	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	件数	経費合計	件数	経費合計	件数	経費合計	件数	経費合計	件数	経費合計
AMED 医療研究開発推進事業費補助金 (橋渡し研究戦略的推進プログラム)	1	21,000	1	7,000	1	7,350	1	7,320	2	4,878
AMED 医療研究開発推進事業費補助金 (橋渡し研究プログラム)									1	22,810
AMED 委託研究開発費 (保健衛生医療調査等推進事業費補助金)									1	6,500
AMED 委託研究開発費 (医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業・e-ASIA)							1	2,386	1	3,428
AMED 医療研究開発推進事業費補助金 (革新的医療ニーズ実用化研究事業)	1	102,800	1	83,900	1	29,750				
AMED 医療研究開発推進事業費補助金 (橋渡し研究戦略的推進プログラム・preB)					1	12,103				
厚生労働省科学研費補助金							2	9,043	2	8,464
科学技術振興機構 COIプログラム							1	3,900		
科学技術振興機構 CREST							1	390	1	59,020
日本学術振興会 二国間交流事業							1	1,900	1	0
文部科学省 研究拠点形成費等補助金 (人と医を紡ぐ北海道がん医療人養成プラン)	1	26,752	1	22,716	1	22,937	1	14,862		
<b>計</b>	<b>3</b>	<b>150,552</b>	<b>3</b>	<b>113,616</b>	<b>4</b>	<b>72,140</b>	<b>8</b>	<b>39,801</b>	<b>9</b>	<b>105,100</b>

(単位:千円)

解剖学講座  
(機能形態学分野)

Department of Anatomy  
(Functional Anatomy and Neuroscience)

## I. 所属教員等

### 解剖学講座（機能形態学分野）

教授 吉田 成孝  
講師 扇谷 昌宏  
助教 古部 瑛莉子  
田中 佑典

## II. 研究業績紹介

解剖学講座機能形態学分野は主に中枢神経のグリア細胞の機能について研究を行っている。ミクログリアは免疫のはたらきがあるグリア細胞であるが、中枢神経疾患に多様に関連していることが知られている。扇谷昌宏は共同研究者と共にうつ病モデルであるマウスの水浸拘束ストレスにおける海馬のアポトーシスに関して、ミクログリアの関与が少ないことを示した。また、双極性障害を示す臨床症例において、ミクログリアに特異的に発現するカルシウム結合タンパク質である allograft inflammatory factor 1 (Alf1) が欠損していることを見出した。Alf1 タンパク質はカルシウム結合蛋白質で、ミクログリアマーカー蛋白質 Iba1 としても知られており、このたんぱく質がミクログリアの形態変化や貪食能に関連していることも示した。古部瑛莉子は中枢神経の髄鞘形成細胞であるオリゴデンドロサイトが発現する細胞外プロテアーゼである KLK6 が、炎症時に細胞体から paranode へ細胞内局在が変化することを見出した。KLK6 は脱髄に関与することが知られており、paranode は脱髄の起点となることが考えられるので、多発性硬化症をはじめとする脱髄疾患や脱髄の病態解明に重要なステップとなることが期待される。田中佑典は前の所属先で動物病理に関する多様な研究発表を行ってきた。

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

## IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Yusuke Tanaka, Kenichi Watanabe, Shotaro Nakagun, Andrew D Miller, Motoki Sasaki, Yoshiyasu Kobayashi	Bilateral Plaque-Like White Matter Degeneration in Cerebral Septal Regions of a Chapman's Zebra ( <i>Equus quaggachapmani</i> )	Journal of Comparative Pathology	2022.06

- |    |   |  |   |         |
|----|---|--|---|---------|
| 2) | Yusuke Tanaka,<br>Kenichi Watanabe,<br>Andrew D Miller,<br>Kotaro Matsumoto,<br>Yoshiyasu Kobayashi   | Cholesterol granuloma<br>associated with degenerative<br>neuropathy in the cauda<br>equina of a dog  | Journal of<br>Veterinary<br>Diagnostic<br>Investigation | 2022.11 |
| 3) | Co-first author,<br>Enomoto, S. and<br>Ohgidani, M. and<br>Sagata, N. and<br>Inamine, S. and Kato,<br>T.A.  | Preliminary analysis of<br>hippocampus synaptic<br>apoptosis and microglial<br>phagocytosis induced by<br>severe restraint stress                    | Neuropsychophar<br>macology Reports                     | 2023    |
| 4) | Ohgidani, M. and<br>Kushima, I. and<br>Inamine, S. and<br>Kyuragi, S. and<br>Sagata, N. and Nakao,<br>T. and Kanba, S. and<br>Ozaki, N. and Kato,<br>T.A. | A case of bipolar disorder<br>with AIF1 (coding gene of<br>Iba-1) deletion: A pilot in vitro<br>analysis using blood-derived<br>microglia-like cells | Psychiatry and<br>Clinical<br>Neurosciences             | 2023    |
| 5) | Furube E, Ohgidani M,<br>Yoshida S  | Systemic inflammation leads<br>to changes in the intracellular<br>localization of KLK6 in<br>oligodendrocytes in spinal<br>cord white matter         | Neurochemical<br>Research                               | 2023    |
| 6) | Yusuke Tanaka,<br>Keisuke Suganuma,<br>Kenichi Watanabe,<br>Yoshiyasu Kobayashi   | Epididymitis in mice<br>experimentally infected with<br>Trypanosoma equiperdum: a<br>histopathological and<br>immunohistochemical study              | Journal of<br>Comparative<br>Pathology                  | 2023.02 |

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

---

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 渡邊健一, 峰重隆幸, 田中佑典, 伊藤めぐみ, 高橋英二, チェンバースジェームズ, 畑井仁, 道下正貴, 井沢武史, 古林与志安	動物の病理組織検体標準化 (SATP)プロジェクト: ホルマリン固定条件が病理検査結果に与える影響	令和4年度北海道獣医師会	2022.09
2) 田中佑典, 渡邊謙一, 峰重隆幸, 武山暁子, 田上正明, 南保泰雄, 福本奈津子, 古林与志安	両側陰囊の顕著な腫大を呈した日本輓系種で認められた精巣動脈炎の1例	令和4年度北海道獣医師会	2022.09
3) 峰重隆幸, 田中佑典, 渡邊謙一, 田川道人, 古林与志安	ネコの口腔扁平上皮癌におけるがん微小環境についての病理学的研究	第165回日本獣医学会学術集会	2022.09
4) Yusuke Tanaka, Kenichi Watanabe, Takayuki Mineshige, Yoshiyasu Kobayashi	Histological, lectin histochemical, and immunohistochemical study on the normal kidneys and renal lesions of african pygmy hedgehogs ( <i>Atelerix albiventris</i> )	ESVP-ECVP Annual Meeting	2022.09
5) 古部瑛莉子, 扇谷昌宏, 吉田成孝	LPS 誘発全身炎症中の中枢神経系のオリゴデンドロサイトにおける KLK6 のパラノードへの細胞内局在変化	日本解剖学会 第68回東北・北海道連合支部学術集会	2022.09
6) 山崎藍, 河津信一郎, 井上昇, 北潔, 田中佑典, 渡邊謙一, 菅沼啓輔	<i>Trypanosoma congolense</i> 感染マウスに対するアスコフラノンとグリセロールを用いた経口治療試験について	第68回日本寄生虫学会北日本支部会	2022.1
7) Eriko Furube	Changes in the intracellular localization of KLK6 to paranodes in oligodendrocytes of the central nervous system during LPS-induced systemic inflammation	グリア研究会	2022.12
8) 古部瑛莉子, 扇谷昌宏, 吉田成孝	スクロース飲水および高脂肪食摂取が最後野神経幹/前駆細胞	第128回日本解剖学会総	2023.03

	の増殖に与える影響	会・全国学術 集会	
9) Yusuke Tanaka, Kenichi Watanabe, Takayuki Mineshige, Yoshiyasu Kobayashi	Immunohistochemical characteristics of luminal and myoepithelial cells of canine normal mammary ducts and ductal tumors.	The 10th ASVP and 10th JCVP Joint Conference	2023.03
10) Aoi Oiso, Sachio Iida, Yusuke Tanaka, Kenichi Watanabe, Takayuki Mineshige, Yuji Sunden, Noriaki Miyoshi, Yoshiyasu Kobayashi	Pathology of embryonal tumor of brain in cattle	The 10th ASVP and 10th JCVP Joint Conference	2023.03

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

解剖学講座  
(顕微解剖学分野)

Department of Anatomy  
(Microscopic Anatomy and Cell Biology)



## I. 所属教員等

### 解剖学講座（顕微解剖学分野）

教授 渡部 剛  
講師 甲賀 大輔  
助教 春見 達郎  
森永 涼介

## II. 研究業績紹介

2022 年度研究業績紹介（解剖学講座顕微解剖学分野） 文責：渡部 剛

解剖学講座顕微解剖学分野は、生命現象の礎となる生体の「構造」に焦点を絞り、様々な器官、組織、細胞の微細構造・分子構築の特徴やその生理的意義について、主に顕微鏡を使った解析方法で検討しています。特にこの 10 年間は、甲賀大輔准教授を中心として、複合的な組織中の特定の細胞を同定した上で標的細胞内における分子局在と微細構造を正確に対応付ける技術の開発に取り組み、本年度も業績欄で挙げたような論文および学会発表で成果を報告しました。なかでも、走査型電子顕微鏡観察と免疫組織化学染色を有機的に連携させた新しい解析技法（CLEM 法；光－電子相関顕微鏡法）や半自動化された連続超薄切片の観察・撮像・立体再構築技法（array tomography）に対する評価は高く、開発者の甲賀准教授は様々な学会でシンポジストをつとめ（学会発表(1)(2)(5)）、日本解剖学会第 68 回東北・北海道連合支部学術集会では、学会賞を受賞しました。

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

## IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Naoshi Hotta, Takahiro Tadokoro, John Henry, Daisuke Koga, Keisuke Kawata, Hiroyuki Ishida, Yuko Oguma, Akihiro Hirata, Masato Mitsunashi, Kenji Yoshitani	Monitoring of Post-Brain Injuries By Measuring Plasma Levels of Neuron-Derived Extracellular Vesicles	Frontiers in Cardiovascular Medicine	2022.08
2) Kawamura Ryoya 他	Fluorene is Highly Toxic to Zoea Larvae of the Red-Clawed Crab Chiromantes	International Journal of Zoological Investigations	2023.01

haematocheir

- 3) Atsushi Kobayashi, Tetsuya Hirata, Taishi Shimazaki, Yoshiko Munesue, Keisuke Aoshima, Takashi Kimura, Junko Nio-Kobayashi, Rie Hasebe, Atsuko Takeuchi, Yuichi Matsuura, Satoshi Kusumi, Daisuke Koga, Yasushi Iwasaki, Taroh Kinoshita, Shirou Ohri, Tetsuyuki Kitamoto
- A point mutation in GPI-attachment signal peptide accelerates the development of prion disease
- Acta Neuropathologica
- 2023.03

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) [公社]日本顕微鏡学会 電子顕微鏡技術認定委員会	新 電顕入門ガイドブック	国際文献社	2022.06
2) (監訳) 内山 安男	組織細胞生物学 (原書第 5 版):第 18 章 神経内分泌系、および第 19 章 内分泌系	エルゼビア・ジャパン/南江堂	2022.12

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) Daisuke Koga, Satoshi Kusumi, Tsuyoshi Watanabe	Recent applications of correlative light and electron microscopy	日本顕微鏡学会 第 78 回学術集会	2022.05
2) Daisuke Koga	脳の細胞内外の構造を超解像可視化技術で明らかにする	NEURO2022	2022.06
3) 春見 達郎, 毛利 達磨, 成瀬 清, 松原 創, 柳町 隆造	温故知新~受精後のメダカ卵の Ca 上昇~	(社)日本動物学会 第-93 回早稲田大会	2022.09
4) 森永涼介, 甲賀大輔, 穂坂正博, 渡部剛	コルヒチン脳室内投与ラットの視床下部神経分泌細胞におけるグラニン蛋白発現部位の同定	日本解剖学会 第 68 回東北・北海道連合支部学術集会	2022.09
5) 甲賀 大輔	電顕によるオルガネライマー	第 45 回日本分	2022.11

		ジングのニューエッジ	子生物学会年会	
6)	Nakade,M, Rafiuddin,M.A, Kobayashi,H, Kobayshi,S, Sakai,K, Inada.K, Shigematsu,K, Nagami,A, Ogiso,s, Toyota,K, Tabuchi,Y, Furusawa,Y, Hirayama,J, Harumi, T, Suzuki,N, Matsubara,H	Gonadal sexual plasticity in tiger puffer Takifugu rubripes	国際シンポジウム「越境汚染と社会環境への影響」	2022.12
7)	Kobayashi,S, Rafiuddin,M.A, Nakade,M, Kobayshi,H, Sakai,K, Inada.K, Shigematsu,K, Nagami,A, Ogiso,S, Toyota,K, Tabuchi,Y, Furusawa,Y, Hirayama,J, Harumi, T, Suzuki,N, Matsubara,H	Reproductive behavior of mature tiger puffer Takifugu rubripes in Noto, Japan	国際シンポジウム「越境汚染と社会環境への影響」	2022.12
8)	Rafiuddin,M.A, Sakai,K, Kobayashi, S, Shigematsu,K, Nakade,M, Inada.K, Kobayshi,H, Nagami,A, Ogiso,S, Toyota,K, Tabuchi,Y, Furusawa,Y, Hirayama,J, Harumi, T, Suzuki,N, Matsubara,H	Effect of environmental factors on the embryonic development of the rosy seabass Doederleinia berycoides	国際シンポジウム「越境汚染と社会環境への影響」	2022.12
9)	小林 寛 他	トウガレイの初期発生を制御する環境要因	第 6 回富山湾研究会	2023.03
10)	森永涼介, 甲賀大輔, 久住聡, 渡部剛	オスミウム浸軟法を取り入れた CLEM 法による視床下部神経分泌細胞のオルガネラ立体微細構造の観察	第 128 回日本解剖学会総会・全国学術集会	2023.03
11)	渡部剛、甲賀大輔、森永涼介、穂坂正博	「コルヒチン投与による微小管破壊がラット下垂体性腺刺激ホルモン産生細胞（LH/FSH 細胞）のゴルジ装置の構築に及ぼす影響」	第 128 回日本解剖学会全国各術集会	2023.03

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

---

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
1) 甲賀 大輔, 久住 聡, 渡部 剛	日本解剖学会 第 68 回東北・北海道連合支部学術集会学会賞	国内学会・会議・シンポジウム等の賞	2022.09

生理学講座  
(自律機能分野)

Department of Physiology  
(Autonomous Function)

## I. 所属教員等

### 生理学講座（自律機能分野）

教授 入部 玄太郎  
助教 金子 智之  
千葉 弓子

## II. 研究業績紹介

生理学講座自律機能分野では現在は主に心臓の機械刺激に対する反応の生理的・病態生理的意義を解明する研究に取り組んでいる。現在の教員数は教授1名、助教2名である。

2022年度は、前年度から継続している科研費研究課題（基盤研究C×3題、研究活動スタート支援）に加え、若手研究（「課題名：心臓の生理的 ROS シグナリングと心不全の過剰酸化ストレスの関係」2022～2024、研究代表 千葉弓子）が採択され、心臓機械感受性研究が大きく進んだ。論文成果として、生理学研究所との共同研究の論文および岡山大学との共同研究による論文が発表となった。

学会発表としては、岡山大学との共同研究によるヒト心筋細胞を用いた研究、高静水圧を用いた研究など、多施設研究ならではの独自の標本・手法を用いた独創的研究結果を発表することができた。また最近の教室のメインテーマである糖尿病性心筋症と伸展誘発性酸化ストレスに関する研究結果について国際学会を含めて3つの学会で発表することができた。また、第43回循環制御医学会においては教育講演を行い、心臓力学・機械感受性研究のおもしろさを広くアピールすることができた。

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

## IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Sayaka Oda, Kazuhiro Nishiyama, Yuka Furumoto, Yohei Yamaguchi, Akiyuki Nishimura, Xiaokang Tang, Yuri Kato, Takuro Numaga-Tomita, Toshiyuki Kaneko, Supachoke Mangmool, Takuya Kuroda, Reishin Okubo, Makoto Sanbo, Masumi Hirabayashi, Yoji Sato, Yasuaki Nakagawa, Koichiro Kuwahara, Ryu Nagata,	Myocardial TRPC6-mediated Zn <sup>2+</sup> influx induces beneficial positive inotropy through $\beta$ -adrenoceptors	Nature Communications	2022.01

Gentaro Iribe, Yasuo Mori,  
Motohiro Nishida

- 2) Yamaguchi Y, Nishiyama M, Kai H, Kaneko T, Kaihara K, Iribe G, Takai A, Naruse K and Morimatsu M. High hydrostatic pressure induces slow contraction in mouse cardiomyocytes. Biophysical Journal 2022.09

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 金井秀太、板倉正道、千葉弓子、入部玄太郎	SGLT2 阻害薬であるエンパグリフロジンは心筋細胞において急性の機械刺激誘発性 ROS 産生を抑制する	第99回日本生理学会大会	2022.03
2) 入部玄太郎	心筋細胞機械感受性と心臓メカノエナジェティクス	第43回日本循環制御医学会総会・学術大会	2022.05
3) Yumiko Chiba, Shuta Kanai, Masamichi Itakura, Gentaro Iribe	Myocardial acute stretch-induced increase in ROS production is mediated by sodium myoinositol cotransporter 1	9th World Congress of Biomechanics	2022.07
4) 金子智之、山口陽平、高井章	高齢期マウスの瞳孔径調節における TRPC チャンネルノックアウトの影響	第64回日本平滑筋学会総会	2022.07
5) 千葉弓子、金井秀太、板倉正道、入部玄太郎	SGLT2 阻害薬は SMIT1 を介して心筋の急性伸展刺激誘発性 ROS 産生を抑制する	第102回北海道医学大会生理系分科会	2022.09
6) 山口陽平、西山雅祥、甲斐寛彬、金子智之、貝原恵子、入部玄太郎、高井章、成瀬恵治、森松賢順	高静水圧で誘発されるマウス心筋細胞の緩徐な収縮現象	第102回北海道医学大会生理系分科会	2022.09

- |    |  |                                  |                              |         |
|----|--|----------------------------------|------------------------------|---------|
| 7) | 小松弘明、小谷恭弘、<br>貝原恵子、成瀬恵治、<br>笠原真悟、入部玄太郎 | ヒト単離心筋細胞における長さ張<br>力関係を用いた力学機能評価 | 第45回日本生体<br>医工学会中国四<br>国支部大会 | 2022.10 |
|----|--|----------------------------------|------------------------------|---------|

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

---

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

---



生理学講座  
(神経機能分野)

Department of Physiology  
(Neuroscience)

## I. 所属教員等

### 生理学講座（神経機能分野）

教 授	高草木 薫
准 教 授	千葉 龍介
講 師	野口 智弘
助 教	高橋 未来

## II. 研究業績紹介

昨年度の研究業績は、①本講座における独自の研究、②他の講座との共同研究、③他研究機関との共同研究、の3つがあります。2023年度と2022年度とを合わせて英文の原著論文ならびに総説論文を十数編、また、数編の邦文解説書を報告させて頂いています。

### ① 本講座における独自の研究

本講座では動物やヒトの運動機能（主に、姿勢制御と歩行運動）に関する研究を展開しております。本内容に関しては同講座では、これ迄80編を超える英文原著・総説論文と70編を超える邦文解説論文を報告して参りました。2022-2023年度は、随意運動における姿勢制御が脳の高次機能に基づく予測情報を利用することで実現されることを世界で初めて形而下に記述することに成功した論文をFrontier誌に掲載いたしました。また、パーキンソン病における姿勢と歩行障害のメカニズムに関する総説論文や世界中の神経学者の教科書であるHandbook of Clinical Neurology誌に、前頭葉による歩行制御（Gate control by the frontal lobe）とのタイトルで、本講座の研究成果に基づく「二足歩行のメカニズム」について1 chapterを記すことができました。

### ② 他講座との共同研究

内科学講座（旧第三内科）ならびに地域医療教育学講座との共同研究において、脳と消化管機能の連関に関する共同研究を約20年に渡って実施しております。脳神経系の様々な異常が、消化器の機能障害を誘発することを証明する毎年3-4編のペースで原著論文として報告しております。また、整形外科講座との共同研究において、バレーボール選手の膝損傷に関する研究についても報告させて頂きました。

### ③ 他研究機関との共同研究

東京大学大学院（工学系研究科）と「姿勢と歩行の調節に關与する脳-身体連関」の共同研究を20年間に渡り実施しております。2023年度は、パーキンソン病における姿勢異常に関する数理モデル研究の成果を含む数編の原著論文を提出するに至りました。また、高草木は、国際運動障害学会のExecutive memberも務めており、パーキンソン病等における歩行障害に関する国際共同研究論文の執筆にも貢献しております。

### Ⅲ. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 高草木薫, 野口智弘, 千葉龍介	歩行の生理的メカニズム	日本医師会雑誌	2022.02
2) 高草木 薫, 高橋 未来, 野口 智弘, 千葉 龍介	姿勢の進化・発達と退化	計測と制御	2022.04
3) 安 琪, 高橋 未来, 大畑 龍	特集：身体と脳で生じる超適応の システム論的理解	計測と制御	2022.04
4) 高草木 薫, 高橋 未来, 野口 智弘, 千葉 龍介	姿勢の進化・発達と退化	計測と制御	2022.04
5) 高草木薫, 高橋未来, 野口智弘, 千葉龍介	姿勢の進化・発達と退化	計測と制御	2022.04
6) Kaoru Takakusaki, Mirai Takahashi, Tomohiro Noguchi, Ryosuke Chiba	Neurophysiological mechanisms of gait disturbance in advanced Parkinson's disease patients	Neurology and Clinical Neuroscience	2022.04
7) 高草木 薫, 高橋 未来, 福山 秀青, 野口 智弘, 千葉 龍介	大脳基底核による姿勢と歩行の調 節機構-パーキンソン病における 病態生理メカニズム	BRAIN and NERVE	2022.09
8) 高草木 薫, 高橋 未 来、福山 秀青、野 口 智弘, 千葉 龍介	大脳基底核による姿勢と歩行の調 節機構	BRAIN and NERVE	2022.09
9) 高草木 薫	姿勢と歩行の大脳皮質-皮質下構 造ネットワーク	脊椎脊髄ジャーナ ル	2022.11

### Ⅳ. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Nozu T, Miyagishi S, Ishioh M, Takakusaki K, Okumura T.	Peripheral apelin mediates visceral hypersensitivity and impaired gut barrier in a rat irritable bowel syndrome model.	Neuropeptides	2022.04
2) Bohnen NI, Costa RM, Dauer WT, Factor SA, Giladi N, Hallett M, Lewis SJG, Nieuwboer A, Nutt JG, Takakusaki K,	Reply to: "Letter on Discussion of Gait Research".	Mov Disord.	2022.06

- Kang UJ, Przedborski S, Papa SM.
- 3) Kaoru Takakusaki, Mirai Takahashi, Shusei Fukuyama, Tomohiro Noguchi, Ryosuke Chiba  
 大脳基底核による姿勢と歩行の調節機構—パーキンソン病における病態生理メカニズム  
 BRAIN and NERVE 2022.09
  - 4) Takakusaki K, Takahashi M, Noguchi T, Chiba R  
 Neurophysiological mechanisms of gait disturbance in advanced Parkinson's disease patients.  
 Neurology and Clinical Neuroscience 2022.11
  - 5) Kaoru Takakusaki, Mirai Takahashi, Tomohiro Noguchi, Ryosuke Chiba  
 Neurophysiological mechanisms of gait disturbance in advanced Parkinson's disease patients  
 Neurology and Clinical Neuroscience 2022.11
  - 6) Kaoru Takakusaki, Mirai Takahashi, Tomohiro Noguchi, Ryosuke Chiba  
 Neurophysiological mechanisms of gait disturbance in advanced Parkinson's disease patients  
 Neurology and Clinical Neuroscience 2022.11
  - 7) Kaoru Takakusaki, Mirai Takahashi, Tomohiro Noguchi, Ryosuke Chiba  
 Neurophysiological mechanisms of gait disturbance in advanced Parkinson's disease patients  
 Neurol Clin Neurosci. 2022.11
  - 8) Kaminishi K, Li D, Chiba R, Takakusaki K, Mukaino M, Ota J.  
 Characterization of Postural Control in Post-Stroke Patients by Musculoskeletal Simulation  
 J Robotics 2022.12
  - 9) Kohei Kaminishi, Dongdong Li, Ryosuke Chiba, Kaoru Takakusaki, Masahiko Mukaino, Jun Ota  
 Characterization of postural control in post-stroke patients by musculoskeletal simulation  
 Journal of Robotics and Mechatronics 2022.12
  - 10) 垂又 修一, 高橋 未来, 丹保 亜希仁  
 COVID-19 流行下でのオンライン意見交換会が地域救急医療業務に及ぼす効果  
 日本救命医療学会雑誌 2022.12
  - 11) Ishioh M, Nozu T, Igarashi S, Tanabe H, Kumei S, Ohhira M,  
 Activation of central adenosine A2B receptors mediate brain ghrelin-induced improvement of intestinal barrier function  
 Exp Neurol. 2023.03

Takakusaki K, through the vagus nerve in  
Okumura T rats.

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 高草木 薫	カンデル神経科学 第2版:Part V, 第36章 姿勢	メディカルサイ エンス社	2022.09

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講 演会等の名称	発表年月
1) Toshi Nakajima, Mirai Takahashi, Kaoru Takakusaki	Postural adjustments in cats during a reaching task reflect strategies to predict the forthcoming target location	(第15回カナダ 神経科学大会	2022.05
2) 高草木 薫	感覚と姿勢制御	2022 日本弱視 斜視学会総会	2022.06
3) Mirai Takahashi, Toshi Nakajima, Shusei Fukuyama, Tomohiro Noguchi, Ryosuke Chiba, Kaoru Takakusaki	The effect of muscimol microinjection into the posterior parietal cortex on postural control during forelimb reaching in the cat.	第45回日本神経 科学大会	2022.06
4) 野口 智弘、笹島 仁、 宮園 貞治、高橋 未 来、千葉 龍介、高草 木 薫	マウス嗅神経の符号化を制御する イオンチャネル機構	Neuro2022	2022.06
5) Takakusaki K	Posture and gait control by the Basal Ganglia with reference to Parkinson's disease	Neuro2022 Okinawa	2022.06
6) Tomohiro Noguchi, Hitoshi Sasajima, Sadaharu Miyazono, Kaoru Takakusaki	Complementary information transfer on stimulus dynamics by olfactory and vomeronasal sensory neurons	日本味と匂学会 第56回大会	2022.08
7) 高橋未来, 中島敏, 福 山秀青, 野口智弘, 千 葉龍介, 高草木薫	頭頂皮質へのムシモール注入はネ コ前肢リーチング中の圧力中心分 布範囲を狭小化する	第102回日本生 理学会北海道地 方会	2022.09

8)	野口 智弘, 笹島 仁, 宮園 貞治, 高橋 未来, 高草木 薫	マウス嗅神経における刺激周期に依存した発火抑制機構	第 102 回北海道医学大会生理系分科会	2022.09
9)	Takakusaki K	Postural control mechanisms by the central nervous system	WEB seminar at International Bobath Instructors Training Association	2022.09
10)	千葉龍介	計算機モデルにおける歩行の筋シナジー	第 20 回日本神経理学療法学会学術大会	2022.1
11)	大滝達也, 高橋未来, 丹保亜希仁, 小林巖, 藤田智	ドクターヘリは人口希薄地域消防の救急車不在時間を短縮する	第 29 回日本航空医療学会総会	2022.12
12)	高橋未来, 中島敏, 福山秀青, 野口智弘, 千葉龍介, 高草木薫	ネコ頭頂皮質へのムシモール注入は前肢リーチング中の先行性姿勢制御に変化を及ぼす	新学術領域「超適応」第 4 回全体会議	2023.03
13)	野口智弘, 笹島仁, 宮園 貞治, 高草木薫	ロテノン鼻腔内投与によって惹起されるマウス嗅球シナプス可塑性	第 100 回日本生理学会大会	2023.03
14)	Mirai Takahashi, Toshi Nakajima, Shusei Fukuyama, Tomohiro Noguchi, Ryosuke Chiba, Kaoru Takakusaki	Changes in temporal and spatial parameters of the postural control for forelimb reaching following microinjection of muscimol into the posterior parietal cortex in the cat.	日本生理学会 第 100 回記念大会	2023.03

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
1) 高橋未来	若手奨励賞	日本生理学会北海道地方会	2022.09

# 生化学講座

Department of Biochemistry

## I. 所属教員等

### 生化学講座

教 授	川辺 淳一
准 教 授	大保 貴嗣
講 師	山崎 和生
	矢澤 隆志
	江口 良二
助 教	中島 恵一
	安田 哲
	鹿原 真樹

## II. 研究業績紹介

従来の生化学講座の教官である大保先生や山崎先生の「Ca ポンプ蛋白機能解析研究」や、矢澤先生の「ステロイド産生機構研究」に加え、川辺らを中心とした「毛細血管研究」が、これまでの心血管再生先端医療講座の総合研究棟 5F から生化学講座の 8F に移ってきた形になる。毛細血管の形成を制御する分子や新規の毛細血管幹細胞の発見といった研究成果を基軸に、虚血、糖代謝異常、炎症、さらに組織再生や老化と多岐にわたるプロジェクトを展開し、Translational Research も見据えた専門分野や講座の枠をこえた学内外の連携研究活動を進めている。これまで、さまざまな臨床講座から集ってくれた 20 名の大学院生が巣立ち、海外留学も含め各フィールドで活躍している。現在も 5 名の大学院生が忙しい臨床業務の傍ら研究を進めている。（「脈管研究クラスター」ホームページ参照 <https://www.asahikawa-med.ac.jp/dept/mc/biochem2/>）

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) Eguchi R, Kawabe JI and Wakabayashi I.	VEGF-Independent Angiogenic Factors: Beyond VEGF/VEGFR2 Signaling.	J Vasc Res.	2022.12
2) Mohammad Sayful Islam、今道力敬、矢澤隆志	ヒトとヒツジにおける HSD17B3 変異タンパク質の酵素活性の比較から分かったこと	比較内分泌学	2023.01
3) 川辺淳一、箕島暁帆	動脈硬化における微小血管 vasa vasorum の重要性	日本臨床	2022.02
4) 川辺淳一、堀内 至	新生血管成熟化分子 Ninjurin1 の役割—微小血管を標的とした新しい動脈硬化治療の可能性	医学のあゆみ	2022.10



#### IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Mukai K, Hara S, Sakima K, Nozu R, Yazawa T, Kitano T.	Oxidative Stress Causes Masculinization of Genetically Female Medaka Without Elevating Cortisol	Front Endocrinol	2022.06
2) Matsuo R, Kishibe M, Horiuchi K, Kano K, Tatsukawa T, Hayasaka T, Kabara M, Inuma S, Eguchi R, Igawa S, Hasebe N, Ishida-Yamamoto A, Kawabe JI.	Ninjurin1 Deletion in NG2-Positive Pericytes Prevents Microvessel Maturation and Delays Wound Healing	JID Innovations	2022.07
3) Kazuo Yamasaki, Takashi Daiho, Satoshi Yasuda, Stefania Danko, Junichi Kawabe, Hiroshi Suzuk	Electrostatic interactions between single arginine and phospholipids modulate physiological properties of sarcoplasmic reticulum Ca <sup>2+</sup> -ATPase	Scientific Reports	2022.07
4) Yazawa T, Sato T, Ida T	11-Ketotestosterone is One of the Major Androgens in Pigs	Journal of the Endocrine Society	2022.11
5) Inaba H, Iwata Y, Suzuki T, Horiuchi M, Surugaya R, Ijiri S, Uchiyama A, Takano R, Hara S, Yazawa T, Kitano T.	Soy Isoflavones Induce Feminization of Japanese Eel ( <i>Anguilla japonica</i> )	Int J Mol Sci	2022.12
6) Kanno T, Nakagawa N, Aonuma T, Kawabe JI, Yuhki KI, Takehara N, Hasebe N	Prostaglandin E(2) mediates the late phase of ischemic preconditioning in the heart via its receptor subtype EP(4)	<i>Heart and vessels.</i>	2022.12
7) Sano T, Nakajima T, Senda KA, Nakano S, Yamato M, Ikeda Y, Zeng H, Kawabe JI and Matsunaga YT.	Image-based crosstalk analysis of cell-cell interactions during sprouting angiogenesis using blood-vessel-on-a-chip.	<i>Stem Cell Res Ther.</i>	2022.12

8)	Yazawa T, Imamichi Y, Kitano T, Islam MS, Khan MRI, Takahashi S, Sekiguchi T, Suzuki N, Umezawa A, Uwada J.	Expression of Chrna9 is regulated by Tbx3 in undifferentiated pluripotent stem cells	Scientific Reports	2023.01
9)	Yazawa T, Islam MS, Imamichi Y, Watanabe H, Yaegashi K, Ida T, Sato T, Kitano T, Matsuzaki S, Umezawa A, Muranishi Y.	Comparison of Placental HSD17B1 Expression and Its Regulation in Various Mammalian Species	Animals	2023.02
10)	Uwada J, Nakazawa H, Muramatsu I, Masuoka T, Yazawa T	Role of Muscarinic Acetylcholine Receptors in Intestinal Epithelial Homeostasis: Insights for the Treatment of Inflammatory Bowel Disease	Int J Mol Sci	2023.03

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

---

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 矢澤隆志、佐藤貴弘、根本崇宏、永田さやか、井田隆徳	ブタにおける 11-ケトテストステロン産生と機能解析	第 95 回日本内分泌学会 学術集会	2022.06
2) Yazawa T, Sato T, Ida T	11-Ketotestosterone is One of the Major Androgens in Pigs	Endo 2022	2022.06
3) 松尾梨沙、堀内至、鹿野耕平、竜川貴光、富田唯、飯沼晋、鹿原真樹、江口良二、岸部麻里、山本明美、川辺淳一	新規血管成熟分子 Ninjurin1 は、再生組織内の機能的血管形成により創傷治癒を促進する	第 51 回 日本心脈管作動物質学会	2022.07

4)	竜川貴光、鹿野耕平、中島恵一、矢澤隆志、鹿原真樹、江口良二、東信良、川辺淳一	NG2 陽性周細胞は筋幹細胞として遅筋線維の維持に寄与している	第 51 回 日本心脈管作動物質学会	2022.07
5)	大保貴嗣	筋小胞体 Ca ポンプのヘリック M2 と M6 のカルシウム輸送における役割	第 17 回トランスポーター研究会年会	2022.07
6)	中島恵一、竜川貴光、鹿野耕平、川辺淳一	毛細血管を構成する周皮細胞は骨格筋の維持に寄与する	第 59 回 日本生化学会北海道支部例会	2022.07
7)	矢澤隆志	幹細胞の多能性維持と分化におけるニコチン受容体の役割	令和 3 年度喫煙科学財団報告会	2022.07
8)	佐野貴規、川辺淳一、松永行子	間葉系幹細胞とのクロストークによる血管成熟化の時空間解析	第 33 回日本バイオマテリアル学会	2022.08
9)	井田隆徳、佐藤貴弘、矢澤隆志	モデル生物を用いた新規生理活性ペプチドの探索と応用	第 165 回日本獣医学会学術集会	2022.09
10)	Kazuo Yamasaki, Takashi Daiho, Satoshi Yasuda, Stefania Danko, Jun-ichi Kawabe and Hiroshi Suzuki	Roles of Intra-Protein and Protein-Lipids Interactions Including Arg324 of Sarcoplasmic Reticulum Ca <sup>2+</sup> -ATPase.	16th International Conference on Na,K-ATPase and Related Transport ATPases: P-Type ATPases in Health and Disease	2022.09
11)	Takashi Daiho, Kazuo Yamasaki	Role of M2 and M6 Helices of Sarcoplasmic Reticulum Ca Pump in Ca Transport.	16th International Conference on Na,K-ATPase and Related Transport ATPases: P-Type ATPases in Health and Disease	2022.09
12)	矢澤隆志、佐藤貴弘、井田隆徳	ヒトとウナギの血中アンドロゲンと産生経路の比較	第 93 回日本動物学会	2022.09
13)	Takashi Daiho	Role of M2/M6 helices of sarcoplasmic reticulum Ca pump in Ca transport	第 60 回 日本生物物理学会年会	2022.09
14)	竜川貴光、鹿野耕平、中島恵一、矢澤隆志、鹿原真樹、江口良二、東信良、川辺淳一	G2 陽性周皮細胞は筋核供給を介して骨格筋—遅筋線維の維持に寄与している	第 45 回 日本分子生物学会年会	2022.11

15) 山崎和生, 安田哲, 大保貴嗣, 川辺淳一	混合脂質環境における筋小胞体 Ca <sup>2+</sup> -ATPase の特性の変化について	第 95 回 日本生化学会 大会	2022.11
16) 大保 貴嗣, 山崎 和生, 安田 哲, 川辺 淳一	筋小胞体 Ca ポンプのヘリック ス M2/M6 の Ca 輸送における 役割	第 95 回 日本生化学会 大会	2022.11
17) 矢澤隆志	ウナギからヤツメウナギへ	第 13 回ペプチド・ホル モン研究会	2022.11
18) 松尾梨沙、堀内至、鹿野耕平、竜川貴光、富田唯、飯沼晋、鹿原真樹、江口良二、岸部麻里、山本明美、川辺淳一	周細胞に発現する新規血管成熟分子 Ninjurin1 の創傷治癒における役割	第 30 回日本血管生物医学学会学術集会	2022.12
19) 竜川貴光、鹿野耕平、中島恵一、矢澤隆志、鹿原真樹、江口良二、東信良、川辺淳一	NG2 陽性周細胞は筋幹細胞として遅筋線維の維持に寄与している	第 30 回日本血管生物医学学会学術集会	2022.12
20) 大保 貴嗣, 山崎 和生, 安田 哲, 川辺 淳一	筋小胞体 Ca ポンプのヘリック ス M2/M6 相互作用のエネルギー共役における役割	日本生体エネルギー研究会第 48 回討論会	2022.12
21) 山崎 和生、安田 哲、大保 貴嗣、川辺 淳一	混合脂質環境における筋小胞体 Ca <sup>2+</sup> -ATPase の特性の変化について	日本生体エネルギー研究会第 48 回討論会	2022.12
22) 矢澤隆志、佐藤貴弘、井田隆徳	ブタ副腎における 11-ケトテストステロン産生経路の解明	第 27 回日本生殖内分泌学会学術集会	2022.12

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
1) 竜川貴光	Young Investigator Award, 優秀賞	第 30 回日本血管生物医学学会学術集会	2022.12

# 薬理学講座

Department of Pharmacology

## I. 所属教員等

### 薬理学講座

教 授 中山 恒  
准教授 結城 幸一  
助 教 谷内 秀輔  
小林 之乃

## II. 研究業績紹介

私たちの研究室では「低酸素」に焦点を当てた研究を進めています。空気中の酸素濃度(21%)と比べて、体内は一般に低酸素状態にあります。さらに、心筋梗塞・脳梗塞・がんなどの疾患では、時に無酸素に近い厳しい低酸素環境にさらされます。私たちは特にがんに着目した研究を展開しています。がんはそれ自身が高い増殖能を保持しているのみならず、がんを取り巻く体内微小環境に適応し、それを巧みに利用しながら、自身の生存・増殖に利用しています。がんが低酸素環境に応答する時には、さまざまな遺伝子の発現が上昇します。この時に、中心的な働きをするのが転写因子 Hypoxia-Inducible Factor (HIF) です。さらに遺伝子発現が変化するときには、クロマチンの構造が変化することも知られています。そこで私たちは、低酸素応答時の遺伝子発現にもクロマチン構造変化が関与するのかを検証しました。乳がん細胞株を低酸素環境で培養する前後で、遺伝子が核内のどの場所に存在しているのかを、新しい実験手法 HIPMap 法\*を用いて大規模に解析したところ、低酸素に応答して多数の遺伝子が核内での位置を変化させることが明らかになりました。遺伝子の位置変化は、核の内側方向と外側方向に移動するものの2タイプに分けられ、その移動距離は遺伝子によって異なっていました。核内の遺伝子の位置変化は、クロマチン構造の変化を反映するものであることから、低酸素環境ではダイナミックなクロマチン構造変化が起きていることが明らかになりました(論文1)。本研究成果は、がんの遺伝子発現を調節する分子メカニズムの一つを、低酸素環境に焦点を当てて明らかにしたものです。今後、核内での遺伝子配置の変化を抑制することで、遺伝子発現様式を書き換えて、がんを抑制する手法を確立することをめざし、研究を進めていきます。

\*HIPMap 法：High-throughput imaging position mapping の略。蛍光プローブを用いて核内の遺伝子配置を可視化し、解析する手法。

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 中山 恒	酸素環境を感知して低酸素応答を制御する分子メカニズム	細胞	2022.06
2) 中山 恒	新研究室立ち上げのご報告 —日本最北の医学部より—	生化学	2022.05

#### IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Koh Nakayama, Sigal Shachar, Elizabeth H Finn, Hiroyuki Sato, Akihiro Hirakawa, Tom Misteli	Large-scale mapping of positional changes of hypoxia-responsive genes upon activation	Molecular Biology of the Cell	2022.04

#### V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

#### VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 小林之乃, 中山恒	乳がんの腫瘍形成におけるピルビン酸デヒドロゲナーゼ-E1 $\beta$ (PDH-E1 $\beta$ の機能解明	第 73 回日本薬理学北部会	2022.09
2) 谷内秀輔,小迫英尊,津川和江,親泊美帆,中山 恒,親泊政一	小胞体ストレスセンサー PERK の活性化によるリン酸化を介した HMGB1 の分泌機構	第 16 回日本臨床ストレス応答学会大会	2022.11
3) 谷内秀輔、中山 恒	低酸素環境で誘導される小胞体ストレス応答のタンパク質分解による制御機構	日本生化学会 第 95 回日本生化学会大会	2022.11
4) 中山 恒	Gene regulation during early and late phase of hypoxic response in cancer cells	第 96 回日本薬理学会年会	2022.11
5) 中山 恒	Regulatory mechanism of gene expression during early and late phase of hypoxic response	第 45 回日本分子生物学会年会	2022.11

#### VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
1) 中山 恒、結城幸一、谷内秀輔、小林之乃	ひらめき☆ときめきサイエンス実験講座 「作って、観て、比べよう！細胞と機械の酸素センサーが働くしくみ」	2022.7

## Ⅷ. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
1) 谷内 秀輔	第 16 回日本臨床ストレス応答学会若 手研究奨励賞	日本臨床ストレス 応答学会	2022.11



病理学講座  
(腫瘍病理分野)

Department of Pathology  
(Tumor Pathology)

## I. 所属教員等

### 病理学講座（腫瘍病理分野）

助 教 後藤 正憲  
藤井 裕美子  
田中 宏樹

## II. 研究業績紹介

腫瘍病理分野では、主に肝臓をテーマにした研究を進めています。西川 祐司教授指導の下、後藤、藤井、田中の助教3名が中心となり、肝臓治療法開発、肝再生や肝発癌メカニズムの解明のための研究を行い、論文または学会で報告しました。2022年度、当研究室からは論文が5報、学会発表が計10回行っています。論文では後藤が筆頭著者として、プロリン代謝酵素の発現低下が肝再生や肝がんの増殖に寄与している可能性があることを *Biochim Biophys Acta Mol Basis Dis* 誌に報告しました。また、田中が他講座との共同研究により、凍傷における皮膚の再生過程に低酸素が誘導する $\beta$ -カテニンの活性化が重要であること (*BBA - Molecular Basis of Disease* 1868 (2022) 166385)、プロバイオティクス由来のヘプテリジン酸が、腸管を介して皮膚に移植されたメラノーマ細胞に到達して抗腫瘍効果を示すこと (*BMC Microbiol.* 2022 Apr 22;22(1):110.)、急性コルヒチン中毒によって死亡した法医解剖例の検査方法 (*Leg Med (Tokyo).* 2022 Sep;58:102092.) に関する論文を報告しました。学会においては、日本病理学総会、肝細胞研究会、日本癌学会学術総会、北海道病理談話会例会、北海道癌談話会例会にて口頭またはポスターで発表を行いました。各助教が筆頭演者として、プロリン代謝酵素の変化や癌遺伝子の Myc ファミリーが肝腫瘍に及ぼす影響、胆管癌におけるリン脂質脱リン酸化酵素が核内で果たす役割の機序、癌と血小板の相互作用に着目した新規治療法、慢性肝傷害から発生する肝発癌におけるエピゲノムの異常に関する研究などの成果について発表しています。

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

## IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Shotaro Isozaki, Hiroaki Konishi, Hiroki Tanaka, Chikage Yamamura, Kentaro Moriichi, Naoki Ogawa & Mikihiro Fujiya	Probiotic-derived heptelidic acid exerts antitumor effects on extraintestinal melanoma through glyceraldehyde-3-phosphate dehydrogenase activity control.	BMC microbiology	2022.04

- |    |   |  |  |         |
|----|---|--|--|---------|
| 2) | Shotaro Isozaki , Hiroki Tanaka , Kie Horioka , Hiroaki Konishi , Shin Kashima , Shuheii Takauji , Mikihiro Fujiya , Henrik Druid   | Hypoxia-induced nuclear translocation of $\beta$ -catenin in the healing process of frostbite.   | Biochimica et biophysica acta. Molecular basis of disease        | 2022.06 |
| 3) | Yuji Uno , Hiroki Tanaka , Keita Miyakawa , Naoko Akiyama , Yuki Kamikokura , Sayaka Yuzawa , Masahiro Kitada , Hidehiro Takei , Mishie Tanino  | Subcellular localization of hTERT in breast cancer: insights into its tumorigenesis and drug resistance mechanisms in HER2-immunopositive breast cancer. | Human pathology  | 2022.12 |
| 4) | Masanori Goto, Takako Ooshio, Masahiro Yamamoto, Hiroki Tanaka, Yumiko Fujii, Lingtong Meng, Yuki Kamikokura, Yoko Okada, Yuji Nishikawa  | High levels of Myc expression are required for the robust proliferation of hepatocytes, but not for the sustained weak proliferation                     | Biochimica et Biophysica Acta (BBA) - Molecular Basis of Disease | 2023.01 |
| 5) | Kie Horioka , Hiroki Tanaka , Keisuke Okaba , Shinnosuke Yamada , Akira Hayakawa , Namiko Ishii , Ayumi Motomura , Hiroyuki Inoue , Shuheii Takauji , Shotaro Isozaki , Katsuhiko Ogawa , Daisuke Yajima , Henrik Druid , Lasse Pakanen , Katja Porvari | Bioprotective role of platelet-derived microvesicles in hypothermia: Insight into the differential characteristics of peripheral and splenic platelets   | Thrombosis Research  | 2023.03 |

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

---

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 田中 宏樹、堀岡 希衣、後藤 正憲、上小倉 佑機、西川 祐司	血小板肝細胞相互作用：ラット肝細胞による血小板由来微小胞の取り込み	第111回日本病理学会総会	2022.04
2) 後藤 正憲、田中 宏樹、藤井 裕美子、上小倉 佑機、岡田 陽子、西川 祐司	活性型 AKT と YAP で誘導したマウス胆管癌表現型に対する Myc または Mycn の影響	第111回日本病理学会総会	2022.04
3) 藤井 裕美子、上小倉 佑機、後藤 正憲、人見 淳一、田中 宏樹、岡田 陽子、西川 祐司	肝内胆管細胞における脂質ホスファターゼ SHIP2 の細胞核への集積	第111回日本病理学会総会	2022.04
4) 後藤正憲、田中宏樹、藤井裕美子、上小倉佑機、岡田陽子、西川祐司	肝細胞がんにおけるがん遺伝子 Myc とプロリン代謝酵素 PRODH の関連	第 29 回肝細胞研究会	2022.08
5) 田中宏樹、上小倉佑機、後藤正憲、藤井裕美子、西川祐司	血小板由来微小胞による肝腫瘍細胞の生存能促進	第 29 回肝細胞研究会	2022.08
6) 田中宏樹、上小倉佑機、後藤正憲、藤井裕美子、西川祐司	血小板由来微小胞による肝腫瘍細胞の生存能促進	第 55 回北海道病理談話会	2022.09
7) Masanori Goto, Hiroki Tanaka, Yumiko Fujii, Yuki Kamikokura, Yoko Okada, and Yuji Nishikawa	マウス肝腫瘍の Notch 経路の活性化と胆管癌表現型に対する Myc と Mycn の影響	第 81 回日本癌学会 学術総会	2022.09
8) Hiroki Tanaka, Masanori Goto, Yumiko Fujii, Yuki Kamikokura, Yuji Nishikawa	慢性肝障害から発生する肝発癌におけるエピゲノム異常	第 81 回日本癌学会 学術総会	2022.09

- |     |                                 |   |                  |         |
|-----|---------------------------------|---|------------------|---------|
| 9)  | 後藤正憲、田中宏樹、藤井裕美子、上小倉佑機、岡田陽子、西川祐司 | 活性化型 AKT と YAP で誘導したマウス混合型肝癌における Myc と Mycn の役割 | 第 125 回北海道癌談話会例会 | 2022.10 |
| 10) | 藤井裕美子、後藤正憲、田中宏樹、上小倉佑機、岡田陽子、西川祐司 | 肝内胆管細胞におけるリン脂質ホスファターゼ SHIP2 の細胞核内機能と発がんへの関与     | 第 125 回北海道癌談話会例会 | 2022.10 |

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

---

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

---

病理学講座  
(免疫病理分野)

Department of Pathology  
(Immunology)

## I. 所属教員等

### 病理学講座（免疫病理分野）

教 授 小林 博也  
准 教 授 大栗 敬幸  
講 師 長門 利純  
小坂 朱

## II. 研究業績紹介

### III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 大栗敬幸、小坂朱、 小林博也	CD47 遮断は、食細胞を活性化することにより、腫瘍内 STING ターゲッティング療法の有効性を高める	月刊 臨床免疫・アレルギー科	2022
2) 大栗敬幸、小坂朱、 小林博也	STING リガンドと抗 CD47 抗体の併用によるがん免疫療法	週刊 医学のあゆみ	2022.05
3) 大栗敬幸、小坂朱、 小林博也	STING リガンドと抗 CD47 抗体の併用によるがん免疫療法	週刊 医学のあゆみ	2022.05
4) 大栗敬幸、小坂朱、 小林博也	がんの免疫逃避を打破する治療法の開発	バイオサイエンスとインダストリー	2022.07
5) 大栗敬幸、小坂 朱、小林博也	CD47 遮断は、食細胞を活性化することにより、腫瘍内 STING ターゲッティング療法の有効性を高める	臨床免疫・アレルギー科	2022.12

### IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Kubota A, Ishida Y, Hashiguchi J, Sato R, Wada T, Bando N, Sato K, Kobayashi H, Nishihara H, Harabuchi Y.	A case of primary histiocytic sarcoma arising from a neck lymph node.	Ear Nose Throat J.	2022.04
2) Sakurai Y, Toriumi N, Sarashina T, Ishioka T, Nagata M, Kobayashi H, Azuma H.	An infantile case of hereditary folate malabsorption with sudden development of pulmonary hemorrhage: a case report.	J Med Case Rep.	2022.06
3) Xiang H, Toyoshima Y, Shen W, Wang X, Okada	IFN- $\alpha/\beta$ -mediated NK2R expression is related to the	Cancer Sci.	2022.08

- N, Kii S, Sugiyama K, Nagato T, Kobayashi H, Ikeo K, Hashimoto S, Tanino M, Taketomi A, Kitamura H. malignancy of colon cancer cells.
- 4) Yajima Y, Kosaka A, Ishibashi K, Yasuda S, Komatsuda H, Nagato T, Oikawa K, Kitada M, Takekawa M, Kumai T, Ohara K, Ohkuri T, Kobayashi H. A tumor metastasis-associated molecule TWIST1 is a favorable target for cancer immunotherapy due to its immunogenicity. Cancer Sci. 2022.08
- 5) Komatsuda H, Wakisaka R, Kono M, Kumai T, Hayashi R, Yamaki H, Sato R, Nagato T, Ohkuri T, Kosaka A, Ohara K, Takahara M, Katada A, Kobayashi H. Mitogen-activated protein kinase inhibition augments the T cell response against HOXB7-expressing tumor through human leukocyte antigen upregulation. Cancer Science 2023.02
- 6) Kosaka A, Yajima Y, Yasuda S, Komatsuda H, Nagato T, Oikawa K, Kobayashi H, Ohkuri T. Celecoxib promotes the efficacy of STING-targeted therapy by increasing antitumor CD8+ T-cell functions via modulating glucose metabolism of CD11b+Ly6G+ cells. Int J Cancer 2023.02
- 7) Nagato T, Komatsuda H, Hayashi R, Takahara M, Kishibe K, Yasuda S, Yajima Y, Kosaka A, Ohkuri T, Oikawa K, Harabuchi S, Kono M, Yamaki H, Wakisaka R, Hirata-Nozaki Y, Ohara K, Kumai T, Katada A, Hayashi T, Harabuchi Y, Kobayashi H. Expression of soluble CD27 in extranodal natural killer/T-cell lymphoma, nasal type: potential as a biomarker for diagnosis and CD27/CD70-targeted therapy. Cancer Immunol Immunother 2023.02



## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 大栗敬幸、小坂朱、矢島優己、安田俊輔、永田真莉乃、小松田浩樹、長門利純、及川賢輔、小林博也	GAMP の腫瘍内投与後に所属リンパ節で認められる CD11b+Ly6Chigh 細胞の解析	第 111 回日本病理学会総会	2022.04
2) 安田俊輔、小松田浩樹、矢島優己、永田真莉乃、小坂 朱、長門利純、大栗敬幸、及川賢輔、小林博也	コルヒチン腫瘍内投与による I 型 IFN を介した抗腫瘍免疫についての検討	第 111 回 日本病理学会総会	2022.04
3) 小松田浩樹、長門利純、河野通久、山木英聖、脇坂理紗、熊井琢美、岸部 幹、高原 幹、片田彰博、林 達哉、小林博也、原渕保明	頭頸部癌における PEG10 を標的としたペプチドワクチン療法の開発	第 2 回 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会	2022.04
4) 矢島優己、大栗敬幸、小坂 朱、安田俊輔、永田真莉乃、小松田浩樹、長門利純、及川賢輔、竹川政範、小林博也	マウス扁平上皮癌モデルを用いたバイオマーカーとしての FXYD3 の有用性の評価	第 111 回 日本病理学会総会	2022.04
5) 小坂 朱、大栗敬幸、矢島優己、安田俊輔、小松田浩樹、永田真莉乃、長門利純、及川賢輔、小林博也	CD47 発現は乳がん組織における CD8+および CD68 陽性細胞の浸潤と正に相関する	第 111 回 日本病理学会総会	2022.04

- |     |   |  |                          |         |
|-----|---|--|--------------------------|---------|
| 6)  | 長門利純、小松田浩樹、安田俊輔、矢島優己、永田真莉乃、小坂 朱、大栗敬幸、及川賢輔、原渕保明、小林博也 | 頭頸部癌に対する PEG10 を標的としたヘルパーペプチドワクチンの基礎的解析            | 第 111 回 日本病理学会総会         | 2022.04 |
| 7)  | 大栗敬幸、小坂 朱、矢島優己、安田俊輔、永田真莉乃、小松田浩樹、長門利純、及川賢輔、小林博也      | cGAMP の腫瘍内投与後に所属リンパ節で認められる CD11bmidLy6Chigh 細胞の解析  | 第 111 回 日本病理学会総会         | 2022.04 |
| 8)  | 大栗敬幸  | がん免疫サイクルの駆動力となる自然免疫                                | 第 26 回 日本がん免疫学会総会        | 2022.07 |
| 9)  | 安田俊輔、大栗敬幸、矢島優己、小松田浩樹、小坂 朱、長門利純、及川賢輔、小林博也            | コルヒチンの腫瘍血管破壊による抗腫瘍免疫応答の誘導                          | 第 26 回 日本がん免疫学会総会        | 2022.07 |
| 10) | 大栗敬幸  | 自然免疫が主導する組織炎症と獲得免疫の誘導                              | 第 124 回 北海道癌談話会 春季シンポジウム | 2022.08 |
| 11) | 安田俊輔、小松田浩樹、矢島優己、小坂 朱、長門利純、大栗敬幸、及川賢輔、小林博也            | 微小管阻害薬の作用の違いによる抗腫瘍効果のメカニズムおよび抗腫瘍免疫応答の比較検討          | 第 55 回 北海道病理談話会          | 2022.09 |
| 12) | 矢島優己、大栗敬幸、小坂 朱、安田俊輔、小松田浩樹、長門利純、及川賢輔、廣橋良彦、鳥越俊彦、小林博也  | SARS-CoV2 に対するヘルパーT細胞活性化ペプチドワクチンの開発研究              | 第 55 回 北海道病理談話会          | 2022.09 |
| 13) | 長門利純、小松田浩樹、安田俊輔、矢島優己、小坂 朱、大栗敬幸、及川賢輔、原渕保明、小林博也       | 頭頸部癌における PEG10 の発現および PEG10 特異的ヘルパーT細胞の抗腫瘍効果に関する検討 | 第 55 回 北海道病理談話会          | 2022.09 |

14)	2. 大栗敬幸、小坂朱、矢島優己、安田俊輔、小松田浩樹、長門利純、及川賢輔、小林博也	STING アゴニストの腫瘍内投与後に所属リンパ節で増加する骨髄球系細胞の解析	第 55 回 北海道病理 談話会	2022.09
15)	長門利純、小松田浩樹、安田俊輔、矢島優己、小坂 朱、大栗敬幸、及川賢輔、原淵保明、小林博也	頭頸部癌における PEG10 の発現および PEG10 特異的ヘルパーT細胞の抗腫瘍効果に関する検討	第 55 回北海道病理 談話会	2022.09
16)	大栗敬幸、小坂朱、矢島優己、安田俊輔、小松田浩樹、長門利純、及川賢輔、小林博也	Evaluation of myeloid cells increased in tumor-draining lymph nodes after intratumoral STING activation	第 55 回北海道病理 談話会	2022.09
17)	大栗敬幸、小坂朱、矢島優己、安田俊輔、永田真莉乃、小松田浩樹、長門利純、及川賢輔、小林博也	STING アゴニストの腫瘍内投与後に所属リンパ節で増加する骨髄球系細胞の解析	第 81 回 日本癌学会 学術総会	2022.09
18)	安田俊輔、小松田浩樹、矢島優己、小坂朱、長門利純、大栗敬幸、及川賢輔、北田正博、小林博也	コルヒチンの腫瘍内投与は I 型インターフェロンによる抗腫瘍免疫を誘導する	第 81 回 日本癌学会 学術総会	2022.09
19)	小松田浩樹、熊井琢美、大原賢三、長門利純、小坂 朱、大栗敬幸、小林博也	HOXB7 を標的としたペプチドワクチン療法における MAPK 阻害の併用効果の検討	第 81 回 日本癌学会 学術総会	2022.09
20)	矢島優己、大栗敬幸、小坂 朱、安田俊輔、小松田浩樹、長門利純、及川賢輔、小林博也	口腔扁平上皮癌における FXYD3 のバイオマーカーとしての意義をシグナル経路から検証する	第 81 回 日本癌学会 学術総会	2022.09
21)	小坂 朱、大栗敬幸、矢島優己、安田俊輔、小松田浩樹、	腫瘍微小環境における I 型 IFN 誘導能の検討	第 81 回 日本癌学会 学術総会	2022.09

長門利純、及川賢  
輔、小林博也

- 22) 長門利純、林 隆 頭頸部扁平上皮癌における 第 81 回 日本癌学会 2022.09  
介、熊井琢美、大原 PLAC1 の発現および PLAC1 特 学術総会  
賢三、大栗敬幸、野 異的ヘルパーT 細胞の抗腫瘍効  
崎 結、原淵翔平、 果に関する検討  
小坂 朱、矢島優  
己、安田俊輔、及川  
賢輔、河野通久、岸  
部 幹、高原 幹、  
原淵保明、小林博也
- 23) 大栗敬幸、小坂 STING アゴニストの腫瘍内投与 第 81 回 日本癌学会 2022.09  
朱、矢島優己、安田 後に所属リンパ節で増加する骨 学術総会  
俊輔、小松田浩樹、 髓求系細胞の解析  
長門利純、及川賢  
輔、小林博也

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
1) 大栗敬幸	北海道科学技術奨励賞	北海道	2022.12

感染症学講座  
(微生物学分野)

Department of Infectious Diseases  
(Microbiology and Immunochemistry)

## I. 所属教員等

### 感染症学講座（微生物学分野）

教 授 原 英樹  
助 教 松田 泰幸  
山内 肇

## II. 研究業績紹介

2022年の感染症学講座微生物学分野における研究業績は以下の3つとなる。主力である病原細菌の外毒素による新たな病原機構が英文雑誌に掲載されたほか、当研究室のテーマとなる自然免疫応答インフラマソームが新型コロナウイルス感染症や通風疾患などに与える影響を日本語で紹介した。

1. Tanishita Y, Sekiya H, Inohara N, Tsuchiya K, Mitsuyama M, Núñez G, Hara H. Listeria Toxin Promotes Phosphorylation of the Inflammasome Adaptor ASC through Lyn and Syk to Exacerbate Pathogen Expansion. Cell Reports 2022, 38, 110414.
2. 原 英樹. 尿酸結晶とインフラマソーム. 「リウマチ科」、2022年、Vol.68、412-420.
3. 原 英樹. SARS-CoV-2 感染とインフラマソーム応答. 「炎症と免疫」、2022年、Vol.30、14-17.

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

## IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) 1. Tanishita Y, Sekiya H, Inohara N, Tsuchiya K, Mitsuyama M, Núñez G, Hara H	Listeria Toxin Promotes Phosphorylation of the Inflammasome Adaptor ASC through Lyn and Syk to Exacerbate Pathogen Expansion	Cell Reports	2022.12

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 原 英樹	尿酸結晶とインフラマソーム	「リウマチ科」	2022

2) 原 英樹                      新型コロナウイルスの感染とインフラ      炎症と免疫                      2022  
マソーム

#### VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の 名称	発表年月
-------	----	------------------	------

---

#### VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

---

#### VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
1) 原 英樹	奨励賞	日本サイトカイン・イン ターフェロン学会	2022.07

感染症学講座  
(寄生虫学分野)

Department of Infectious Diseases  
(Parasitology)



## I. 所属教員等

### 感染症学講座（寄生虫学分野）

教授 迫 康仁

准教授 伴戸 寛徳

## II. 研究業績紹介

### 伴戸 寛徳

2022年度には、3報の論文の作成に携わった。クリプトスポリジウムを標的とした研究では、小腸上皮細胞への感染メカニズムの解明と新規創薬スクリーニングを行い、これらの成果は PLOS Neglected Tropical Diseases と Scientific Reports に掲載された。また、テトラヒメナをモデルとして用いて有性生殖のメカニズムの解明も行い、この成果は Microorganisms に掲載された。そして、これらの成果を、学会等で報告することに加え、専門家に向けた講演会や、一般の方や高校生に向けた講演会を行うことで社会に広く発信した。

フィールド研究では、フィリピンに2回訪れ、コウモリや蚊などの病原体媒介生物がどのような寄生虫を保有しているかを調査した。さらに、2022年11月には、トキソプラズマに関する研究に対して、一般財団法人東京顕微鏡院より遠山椿吉記念第8回食と環境の科学賞 山田和江賞を受賞した。

### 迫 康仁

1. ヒトの寄生虫症（条虫症：裂頭条虫症およびテニア症）の鑑別診断を臨床現場あるいは流行現場で行うために、特殊な装置を使用せずに実施でき複数の寄生虫を同時に鑑別診断できる DNA 検出に基づいた検出方法の基盤を構築している。

（科研費基盤 C 研究課題「裂頭条虫症とテニア症の革新的な鑑別診断法の開発」）

2. 住血吸虫の撲滅戦略策定のために必要な環境中の病原体汚染度の監視システムの構築を目的として、環境検体（水や土壌など）から日本住血吸虫ならびにその中間宿主であるオンコメラニア属の DNA を検出する方法を開発し、その評価をフィリピンのレイテ島で実施している。

（e-ASIA 共同研究プログラム「アジアの住血吸虫症撲滅を目指した革新的ポイント・オブ・ケア検査法ならびに環境汚染監視ツールの開発」）

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

#### IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Kabir MHB, Recuenco FC, Zin NKM, Watanabe N, Fukuda Y, Bando H, Watanabe K, Bochimoto H, Xuan X, Kato K.	Identification of potent anti- Cryptosporidium new drug leads by screening traditional Chinese medicines.	PLOS Neglected Tropical Diseases	2022.11
2) Fukuda Y, Akematsu T, Bando H, Kato K.	Snf2 Proteins Are Required to Generate Gamete Pronuclei in Tetrahymena thermophila.	Microorganisms	2022.12
3) Watanabe N, Bando H, Murakoshi F, Sakurai R, Kabir MHB, Fukuda Y, Kato K.	The role of atypical MAP kinase 4 in the host interaction with Cryptosporidium parvum.	Scientific Reports	2023.01
4) Kubo K, Kato M, Sako Y.	<i>Dibothriocephalus</i> <i>nihonkaiensis</i> incidentally detected at colonoscopy.	Clin Gastroenterol Hepatol	2022.07

#### V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

#### VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等 の名称	発表年月
1) 伴戸 寛徳、福 田 康弘、渡邊 仁奈、加藤 健 太郎	ヒト iPS 由来神経細胞におけるト キソプラズマの潜伏感染虫体形成 メカニズムの解明	第 91 回日本寄生虫学 会大会	2022.05
2) 伴戸 寛徳	エキノкокクスはなぜ宿主の体内 で長期間生存できるのか？	第 28 回 分子寄生虫 学ワークショップ 第 18 回 分子寄生虫・	2022.08

3)	Marcello Otake Sato, サトウ 恵、迫 康仁	Environmental DNA and risk mapping in schistosomiasis	マラリア研究フォー ラム合同大会 国際寄生虫学会	2022.08
4)	伴戸 寛徳, 福 田 康弘, 渡邊 仁奈, 加藤 健 太郎	神経細胞内におけるグルタミンの 枯渴がトキソプラズマのステージ 変換に及ぼす影響の解明	第 165 回日本獣医学 会学術集会	2022.09
5)	Maecello Otake Sato, サトウ 恵、迫 康仁	Next steps of eDNA towards the control of schistosomiasis	国際熱帯医学・マラ リア学学会	2022.10
6)	Hironori Bando, Yasuhiro Fukuda, Nina Watanabe, Kentaro Kato	Depletion of intracellular glutamine pools triggers Toxoplasma gondii stage conversion in human neurons	第 45 回日本分子生物 学会年会 日本生物 物理学会 共催	2022.12
7)	伴戸 寛徳	食品媒介性原虫の潜伏感染メカニ ズムの解明と制御技術の新規開発	遠山椿吉記念 第 8 回 食と環境の科学賞 山 田和江賞 記念講演会	2023.02
8)	伴戸 寛徳、迫 康仁、福 田康 弘、加藤 健太 郎	ヒトの iPS 由来神経細胞内におけ るトキソプラズマのステージ変換 機構の解明	第 92 回日本寄生虫学 会大会	2023.03

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
1) 伴戸 寛徳	フィリピン マニラ	2022.11
2) 伴戸 寛徳	フィリピン・マスンジ保護地区	2023.03
3) 迫 康仁	獨協医科大学との共同研究・実験	2022.07
4) 迫 康仁	インドネシア バリ島でのフィールド調査	2022.09
5) 迫 康仁	フィリピン レイテ島でのフィールド調査	2022.09
6) 迫 康仁	タイ バンコク (マヒドン大学) での共同研究・実験	2022.12

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
1) 伴戸寛徳	遠山椿吉記念 第 8 回 食と環境の科学賞 山田和江賞	一般財団法人 東京顕 微鏡院	2022.11

# 社会医学講座

Department of Social Medicine

## I. 所属教員等

### 社会医学講座

教 授 西條 泰明  
准 教 授 吉岡 英治  
講 師 神田 浩路  
講師（学内）佐藤 遊洋  
助 教 金谷 智子  
九里 優輝

## II. 研究業績紹介

本講座の研究は疫学手法を用いる研究を中心としており、公衆衛生、産業医学、環境医学、国際保健、臨床疫学が該当する。全国規模の出生コホートである環境省「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」では北海道ユニット内の旭川サブユニットセンターの運営を行い、全国データを用いた研究成果発表を行っている。その他、職域での循環器疾患の疫学研究、職業ストレスやメンタルヘルス、自殺予防のための研究、小児の環境曝露に関する疫学調査、地域医療、国際保健などの研究を実施している。

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

## IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Kanda K, Jayasinghe A, Jayasinghe C, Yoshida T	A Regional Analysis of the Progress of Current Dog-Mediated Rabies Control and Prevention	Pathogens	2022.09
2) Yuki Kunori, Yasuaki Saijo, Eiji Yoshioka, Yukihiro Sato, Tomoko Kanaya, Kentaro Nakanishi, Yasuhito Kato, Ken Nagaya, Satoru Takahashi, Yoshiya Ito, Sachiko Itoh, Sumitaka Kobayashi, Chihiro Miyashita, Atsuko Ikeda-Araki, Reiko Kishi, Japan	Evaluating association of smoking status during pregnancy with adverse birth outcomes using urinary cotinine concentration: The Japan environment and Children's study (JECS)	Environmental Research	2022.9

Environment and  
Children's Study  
(JECS) Group

- |    |   |  |                             |         |
|----|---|--|-----------------------------|---------|
| 3) | 神田浩路, 伊藤俊弘, 藤井智子, 塩川幸子, 吉田貴彦  | JICA 課題別研修におけるアフリカ地域保健人材を対象とした遠隔研修の実施  | 国際保健医療                      | 2022.12 |
| 4) | 神田浩路, 伊藤俊弘, 藤井智子, 塩川幸子, 吉田貴彦  | 北海道内におけるアフリカ地域保健人材育成のための遠隔研修：2年目の成果と教訓   | 北海道公衆衛生学雑誌                  | 2023.03 |
| 5) | Kobayashi S, Itoh S, Miyashita C, Ait Bamai Y, Yamaguchi T, Masuda H, Itoh M, Yamazaki K, Tamura N, Hanley SJB, Ikeda-Araki A, Saijo Y, Ito Y, Iwai-Shimada M, Yamazaki S, Kamijima M, Kishi R; Japan Environment, Children's Study JECS Group. | Impact of prenatal exposure to mercury and selenium on neurodevelopmental delay in children in the Japan environment and Children's study using the ASQ-3 questionnaire: A prospective birth cohort. | Environ Int.                | 2022.10 |
| 6) | Ise H, Ushioda R, Kanda H, Kimura F, Saijo Y, Akhyari P, Lichtenberg A, Kamiya H.   | Recombinant Activated Factor VII in Aortic Surgery for Patients Under Hypothermic Circulatory Arrest.  | Ther Clin Risk Manag        | 2022.04 |
| 7) | Eiji Yoshioka, Sharon J B Hanley, Yukihiro Sato, Yasuaki Saijo.   | Impact of the COVID-19 pandemic on suicide rates in Japan through December 2021: An interrupted time series analysis.  | Lancet Reg Health West Pac. | 2022.05 |
| 8) | Saito Y, Kobayashi S, Ikeda-Araki A, Ito S, Miyashita C, Kimura T, Hirata T, Tamakoshi A, Mayama M, Noshiro K, Nakagawa K, Umazume T, Chiba K,  | Association between pre-pregnancy body mass index and gestational weight gain and perinatal outcomes in pregnant women diagnosed with gestational diabetes mellitus: The Japan                       | J Diabetes Investig         | 2022.05 |

- Kawaguchi S, Morikawa M, Cho K, Watari H, Ito Y, Saijo Y, Kishi R; Japan Environment and Children's Study (JECS) group
- Environment and Children's Study.
- 9) Yukihiro Sato, Eiji Yoshioka, Yasuaki Saijo, Toshinobu Miyamoto, Hiroshi Azuma, Yusuke Tanahashi, Yoshiya Ito, Sumitaka Kobayashi, Machiko Minatoya, Yu Ait Bamai, Keiko Yamazaki, Sachiko Itoh, Chihiro Miyashita, Atsuko Ikeda-Araki, Reiko Kishi, The Japan Environment and Children's Study (JECS) Group
- Lower Respiratory Tract Infections and Orofacial Clefts: A Prospective Cohort Study From the Japan Environment and Children's Study
- Journal of Epidemiology
- 2022.06
- 10) Yukihiro Sato, Eiji Yoshioka, Masanori Takekawa, Yasuaki Saijo.
- Cross-sectional associations between effort-reward imbalance at work and oral diseases in Japan.
- PeerJ
- 2022.07
- 11) Cho K, Kobayashi S, Araki A, Miyashita C, Itoh S, Saijo Y, Ito Y, Sengoku K, Baba T, Minakami H, Nakamura Y, Kishi R; Japan Environment and Children's Study Group.
- Prenatal alcohol exposure and adverse fetal growth restriction: findings from the Japan Environment and Children's Study.
- Pediatr Res.
- 2022.07

- |     |  |   |  |         |
|-----|--|---|--|---------|
| 12) | Eiji Yoshioka, Sharon Hanley, Yukihiro Sato, Yasuaki Saijo.  | Associations between social fragmentation, socioeconomic deprivation and suicide risk across 1887 municipalities in Japan, 2009-2017: a spatial analysis using the Bayesian hierarchical model. | BMJ Open   | 2022.08 |
| 13) | Nishihara S, Kobayashi S, Ikeda-Araki A, Miyashita C, Itoh S, Yamazaki K, Bamai YA, Tamura N, Masuda H, Itoh M, Saijo Y, Ito Y, Kishi R; Japan Environment and Children's Study Group.                     | Association between maternal caffeine intake during pregnancy and child development at 6 and 12 months: The Japan Environment and Children's Study.   | Early Hum Dev.                                   | 2022.08 |
| 14) | Masuda H, Kobayashi S, Miyashita C, Itoh S, Bamai YA, Saijo Y, Ito Y, Kishi R, Ikeda-Araki A; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group  | Maternal dietary folate intake with folic acid supplements and wheeze and eczema in children aged 2 years in the Japan Environment and Children's Study   | PLoS One   | 2022.08 |
| 15) | Sato Y, Yoshioka E, Saijo Y, Kato Y, Nagaya K, Takahashi S, Ito Y, Kobayashi S, Ait Bamai Y, Yamazaki K, Itoh S, Miyashita C, Ikeda-Araki A, Kishi R; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. | Null Association Between Isolated Orofacial Clefts and Sleep Duration: A Cohort Study From the Japan Environment and Children's Study.  | Cleft Palate Craniofac J.                        | 2022.09 |
| 16) | Sato Y, Yatsuya H, Saijo Y, Yoshioka E, Tabuchi T.   | Psychological Distress During the Coronavirus Disease 2019 Pandemic and Associated Factors Among Undergraduate Students in Japan.   | Disaster Medicine and Public Health Preparedness | 2022.12 |



17)	Saito Y, Kobayashi S, Ito S, Miyashita C, Umazume T, Cho K, Watari H, Ito Y, Saijo Y, Kishi R	Japan Environment and Children's Study group. Neurodevelopmental delay up to the age of 4 years in infants born to women with gestational diabetes mellitus: The Japan Environment and Children's Study.	J Diabetes Investig	2022.12
18)	Saijo Y, Yoshioka E, Sato Y, Kunori Y.	Factors related to Japanese internal medicine doctors' retention or migration to rural areas: a nationwide retrospective cohort study.	Environmental Health and Preventive Medicine	2023.2
19)	Sato Y, Yoshioka E, Saijo Y, Kato Y, Nagaya K, Takahashi S, Ito Y, Kobayashi S, Ait Bamai Y, Yamazaki K, Itoh S, Miyashita C, Ikeda-Araki A, Kishi R; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group.	Associated congenital anomalies and syndromes of 248 infants with orofacial clefts born between 2011 and 2014 in the Japan environment and children's study.	Congenit Anom (Kyoto)	2023.01
20)	Yasuaki Saijo , Eiji Yoshioka, Yukihiro Sato, Yuki Kunori	Factors related to Japanese internal medicine doctors' retention or migration to rural areas: a nationwide retrospective cohort study	Environmental Health and Preventive Medicine	2023.02
21)	Saijo Y, Yoshioka E, Sato Y, Kunori Y	Factors related to Japanese internal medicine doctors' retention or migration to rural areas: a nationwide retrospective cohort study.	Environ Health Prev Med	2023.02
22)	Nakanishi K, Saijo Y, Yoshioka E, Sato Y, Kato Y, Nagaya K, Takahashi S, Ito Y, Kobayashi S, Miyashita C, Ikeda-	Association between maternal multimorbidity and preterm birth, low birth weight and small for gestational age: a prospective birth cohort study	BMJ Open.	2023.03

Araki A, Kishi R; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group.	from the Japan Environment and Children's Study.		
23) Kentaro Nakanishi, Yasuaki Saijo, Eiji Yoshioka, Yukihiro Sato, Yasuhito Kato, Ken Nagaya, Satoru Takahashi, Yoshiya Ito, Sumitaka Kobayashi, Chihiro Miyashita, Atsuko Ikeda-Araki, Reiko Kishi, the Japan Environment and Children's Study (JECS) Group	Association between maternal multimorbidity and preterm birth, low birth weight and small for gestational age: a prospective birth cohort study from the Japan Environment and Children's Study	BMJ Open	2023.03

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 神田浩路, 遠見里子, 飛島優也, 若田部一輝, 金谷智子, 吉田貴彦	アフリカ地域における健康リスク情報収集システムの構築に向けた現状分析 (第2報)	第81回日本公衆衛生学会	2022.10
2) 塩川幸子, 藤井智子, 水口和香子, 神戸愛, 神田浩路, 山下千絵子	地域ケア会議ロールプレイの評価 (第三報) -会議のリアリティを体験した保健師学生の学び-	第74回北海道公衆衛生学会	2022.10
3) 神田浩路, 伊藤俊弘, 藤井智子, 塩川幸子, 吉田貴彦	アフリカ地域保健人材育成のためのオンライン研修: 2年目の成果	第37回日本国際保健医療学会	2022.11
4) 九里優輝, 西條泰明, 吉岡英治, 佐藤遊洋, 金谷智子, 中西研太郎, 加藤育民, 長屋建, 高橋悟, 伊	尿中コチニン濃度に基づく妊婦の喫煙状況と出生児アウトカムの関係 (エコチル調査)	第93回日本衛生学会学術総会	2023.03

藤善也, 伊藤佐智子, 小林澄貴, 宮下ちひろ, 池田敦子, 岸玲子

- |     |   |   |                   |         |
|-----|---|---|-------------------|---------|
| 5)  | 西條泰明  | シンポジウム 4. 社会医学系専門医における連携と協働. 大学における専攻医育成と連携.        | 第32回日本産業衛生学会全国協議会 | 2022.09 |
| 6)  | 西條泰明  | 社会医学系専門医制度必修プログラム共通講習. 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理と利益相反 | 第32回日本産業衛生学会全国協議会 | 2022.09 |
| 7)  | 西條泰明、佐藤遊洋、吉岡英治、伊藤善也、小林澄貴、湊屋街子、岸玲子.  | 妊婦の心理的苦痛、教育歴、世帯収入と児の先天性心疾患との関連：エコチル調査より.            | 第81回日本公衆衛生学会総会    | 2022.10 |
| 8)  | 湊屋街子、小林澄貴、西條泰明、佐藤遊洋、伊藤善也、岸玲子  | 乳幼児期における家庭での犬の飼育と子どもの発達の関連：エコチル調査より                 | 第81回日本公衆衛生学会総会    | 2022.10 |
| 9)  | 吉岡英治、ハンリー・シャロン、佐藤遊洋、西條泰明  | 日本の市町村における自殺リスクと関連する社会経済的要因                         | 第33回日本疫学会総会       | 2023.02 |
| 10) | 西條泰明、九里優輝、佐藤遊洋、吉岡英治   | 内科医が地方に勤務する要因：医師・歯科医師・薬剤師調査データを用いた縦断研究              | 第93回日本衛生学会学術総会    | 2023.03 |
| 11) | 吉岡英治、ハンリー・シャロン、佐藤遊洋、西條泰明  | 日本の市町村における自殺リスクと関連する社会経済的要因                         | 第93回日本衛生学会学術総会    | 2023.03 |
| 12) | 佐藤遊洋、西條泰明、吉岡英治、加藤育民、長屋建、高橋悟、伊藤善也、小林澄貴、アイツバマイゆふ、山崎圭子、伊藤佐智子、宮下ちひろ、池田敦子、岸玲子. | 口唇口蓋裂を有した児の睡眠時間に関する研究：エコチル調査より                      | 第93回日本衛生学会学術総会    | 2023.03 |
| 13) | 九里優輝、西條泰明、吉岡英治、佐藤遊洋、金谷智子、中西研太郎、加藤育民、長屋健、高橋悟、伊藤善                           | 尿中コチニン濃度に基づく妊婦の喫煙状況と出生児アウトカムの関係（エコチル調査）             | 第93回日本衛生学会学術総会    | 2023.03 |

也、伊藤佐智子、小林澄貴、宮下ちひろ、池田（荒木）敦子、岸玲子。

- 14) 小林澄貴、伊藤佐智子、宮下ちひろ、アイツバマイゆふ、山口健史、増田秀幸、伊藤真利子、山崎圭子、田村菜穂美、ハンリーシャロン、池田敦子、西條泰明、伊藤善也、岸玲子
- 妊婦の母体血中水銀・セレン濃度と4歳までの児の神経発達との関連：エコチル調査
- 第93回日本衛生学会学術総会
- 2023.03

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
1) 神田 浩路	JICA 中小企業・SDGs ビジネス支援事業「急性期疾患の救命率を向上させる遠隔診断医療ネットワークシステムの普及・実証・ビジネス化事業」	2022.06
2) 神田 浩路	2022 年度 JICA 課題別研修「アフリカ地域 地域保健担当官のための保健行政」	2022.07
3) 神田 浩路	JICA 課題別研修フォローアップ及び環境保健研究（ケニア、セネガル、タンザニア）	2023.02

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

# 法医学講座

Department of Legal Medicine

## I. 所属教員等

### 法医学講座

教 授	清水	恵子
准 教 授	浅利	優
講師 (学内)	奥田	勝博
助 教	高橋	悠太
客員教授	塩野	寛

## II. 研究業績紹介

解剖事案や薬物鑑定など法医実務に関する事例報告や法医実務への応用を目指した中毒学的、遺伝学的な研究などを行った。薬毒物に関する研究では、イヌサフランの誤食による中毒死が相次いでいるコルヒチン中毒に着目し、中毒死事例におけるコルヒチンの組織分布や病理組織学的診断、消化管内容物の DNA 鑑定による摂食植物の同定など詳細な検討を行った。デートレイプ事件の捜査協力として、数か月前に摂取させられた睡眠薬を毛髪から検出し、その摂取時期を推定することによって、実際に犯人逮捕や起訴につながった事例の報告も行った。

基礎的研究においては、危険ドラッグの一つであるジフェニジンとその誘導体の神経毒性発現メカニズムを解明する目的で、ラットブレインマイクロダイアリシスによる薬物投与時のカテコールアミンの部位別変動や各種トランスポーターの関与を検討した。また、DNA のメチル化に着目した研究では、口腔内細胞を用いた日本人集団に有用な年齢推定法の開発を行った。実年齢と相関が高いメチル化部位を複数組み合わせることで、推定誤差が 4 歳程度と精度の高い年齢推定法を構築した。また、法医学領域で扱うことの多い微量な試料において年齢推定の精度は低下するものの、人工核酸 LNA を導入したプライマーを用いて PCR 増幅を行うことで検出感度は上昇し、推定精度が改善されることを明らかにした。

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

## IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) 奥田勝博, 浅利 優, 高橋悠太, 森 香苗, 難波 亮, 清水恵子	毛髪分析によって薬物の摂取時期を推定した 2 事例	法医学の実際と研究	2022
2) Y. Takahashi, M. Asari, S. Isozaki, C. Hoshina, K. Okuda, K. Mori, R.	Age prediction by methylation analysis of small amounts of DNA using locked nucleic acids	J Forensic Sci	2022

- Namba, W Ochiai, K.  
Shimizu
- 3) Okuda K, Isozaki S, Asari M, Tanaka H, Horioka K, Takahashi Y, Hoshina C, Yamada H, Mori K, Namba R, Shiono H, Ogawa K, Shimizu K. Multidirectional analysis for a colchicine poisoning case revealed detail cause of death and its mechanism Leg Med (Tokyo) 2022.05
- 4) Y, Takahashi, M. Asari, S. Isozaki, C. Hoshina, K. Okuda, K. Mori, R. Namba, W. Ochiai, K. Shimizu Age prediction by methylation analysis of small amounts of DNA using locked nucleic acids Journal of Forensic Sciences 2023
- 5) Yuta Takahashi, Masaru Asari, Shotaro Isozaki, Chisato Hoshina, Katsuhiko Okuda, Kanae Mori, Ryo Namba, Wataru Ochiai, Keiko Shimizu Age prediction by methylation analysis of small amounts of DNA using locked nucleic acids Journal of Forensic Sciences 2023.01

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 清水恵子, 池田典昭・木下博之編	標準法医学第8版	医学書院	2022.9

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発行年月
1) 高橋悠太, 浅利優, 奥田勝博, 志賀美紘, 保科千里, 難波亮, 森香苗, 清水恵子	メチル化解析を用いた年齢推定における人工核酸の導入およびDNA量の影響	第106次日本法医学学会学術全国集会	2022.06
2) 保科千里, 奥田勝博, 浅利優, 高橋悠太, 難波亮, 森香苗, 清水恵子	パラコート神経毒性に対するバルプロ酸保護効果の検討	第106次日本法医学学会学術全国集会	2022.06

3)	奥田勝博, 浅利 優, 高橋悠太, 森 香苗, 難波 亮, 清水恵子	解剖中に結果報告可能な迅速簡 易薬毒物分析の実際と成果	第 106 次日本法医学 学会学術全国集会	2022.06
4)	清水恵子	アルコール・薬物と性犯罪	第 57 回日本アルコ ール・アディクショ ン医学会学術総会	2022.09
5)	奥田勝博, 榎野陽介, 浅利 優, 高橋悠太, 森 香苗, 難波 亮, 清水恵子	同時多発的に発生した海水溺水 事例の画像診断	第 22 回 法医画像勉 強会	2022.1
6)	志賀美紘, 浅利 優, 高橋悠太, 難波 亮, 森 香苗, 保科 千里, 奥田勝博, 清 水恵子	DNA のメチル化解析を用いた日 本人集団における年齢推定と DNA 分解による影響	第 23 回日本法医学 会学術北日本地方 集会	2022.1
7)	高橋悠太, 奥田勝 博, 浅利 優, 森 香苗, 難波 亮, 清 水恵子	ジフェニジン誘導体の脳内報酬 系への作用と脳移行における構 造活性相関	第 23 回日本法医学 会学術北日本地方 集会	2022.1
8)	森 香苗, 奥田勝 博, 難波 亮, 保科 千里, 高橋悠太, 浅 利 優, 清水恵子	末梢血採取が困難であり組織血 /末梢血液濃度比から血中濃度 を推定しジフェンヒドラミン (DPH) 中毒の診断に至った一 剖検例	第 23 回日本法医学 会学術北日本地方 集会	2022.1
9)	清水 恵子, 奥田 勝 博, 浅利 優, 高橋 悠 太, 森 香苗, 難波 亮	アルコール感受性遺伝子型と血 中アルコール濃度推定の法医実 務への応用	第 59 回日本犯罪学 会総会	2022.11
10)	奥田勝博, 浅利 優, 高橋悠太, 森 香苗, 難波 亮, 清水恵子	毛髪中の薬物分析によるデータ レイプ事件への捜査協力	日本法中毒学会第 41 年会	2022.06
11)	齊藤久子, 中久木康一, 飯田哲也, 岡崎雄一郎, 水野聡美, 小林 漸, 石 井名実子, 奥田勝博, 中 川貴美子, 藤田紗英子, 大平 寛, 山本伊佐夫, 長谷川 巖, 山田良広, 岩瀬博太郎, 清水恵子	遺体の歯科所見採取における口 腔内スキャナーの有用性の検討	第 91 回日本法医学 会学術関東地方集 会	2022.10



12) 奥田勝博,浅利 優,高橋悠太,森 香苗,難波 亮,清水恵子	服用後 2 時間程度で死亡したトルフェンピラド中毒死の一例	第 36 回日本中毒学会・東日本地方会	2023.1
13) 齊藤久子,中久木康一,飯田哲也,岡崎雄一郎,水野聡美,小林 漸,石井名実子,奥田勝博,中川貴美子,藤田紗英子,大平 寛,山本伊佐夫,長谷川 巖,山田良広,岩瀬博太郎,清水恵子	遺体の歯科所見採取における口腔内スキャナーの有用性の検討	第 28 回日本災害医学会総会・学術集会	2023.3

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
1) 清水 恵子	埼玉県警察本部刑事部捜査第一課長感謝状	埼玉県警本部	2022.05
2) 清水 恵子	日本法医病理学会感謝状	日本法医病理学会	2022.09

# 先端医科学講座

Department of Advanced Medical Science

## I. 所属教員等

### 先端医科学講座

教授	船越	洋
准教授	上田	潤
講師（学内）	橋本	理尋
助教	南	竜之介
客員助教	島田	若菜
客員助教	金井	将昭

## II. 研究業績紹介

先端医科学講座は医学部医学科の基礎医学講座の1つです。スタッフは、教授1名、准教授1名、講師（学内）1名、助教1名、客員助教2名と秘書（事務補助員）1名で、それぞれ船越洋、上田潤、橋本理尋、南竜之介、金井将昭、島田若菜先生と瀬川さんです。大学院生として小児科医である川田友美先生が研究を行っています。

研究目標は、基礎研究を基盤として現在治療法に難渋している疾患に対する新しい治療法を開発し臨床応用につなげることです。テーマの1つは、島田先生らと船越が進めてきたHGFによる神経再生治療研究です。具体的には再生因子としてのHGFの神経疾患治療応用研究を進めてきました。ALS、脊髄損傷をはじめとして各種神経疾患への治療応用研究です。この中で脊髄損傷への治療応用研究は慶應義塾大学整形外科の中村雅也教授により第3相試験にまで発展、研究が進んでいる状況です。

この研究に加えて、先端医科学講座では、上田准教授、橋本先生、南先生ら教室のスタッフにより新しい研究方法を取り入れた研究も進めています。1つは、エピゲノム編集法を用いた神経難病への治療応用研究です。このプロジェクトは上田准教授、北里大学の山崎大賀先生との共同研究で進めてきました。現在動物レベルでのPOC取得に向けて解析が進んでいる段階です。客員助教の金井先生とはトリプトファン代謝異常を伴う遺伝性疾患の原因遺伝子の同定に成功しました。その後その原因遺伝子変異をゲノム編集法を用いてマウスに導入した遺伝子改変マウス（ノックインマウス）の開発に成功しました。現在このマウスを疾患モデル動物と位置付け解析を進めています。また、免疫疾患を惹起することが知られるSKGマウスを用いて、その疼痛機序の解明と治療をめざした研究も行っています。

講義面では、学部学生には分子生物学・基礎医学特論、医学研究特論（研究室配属）、大学院生には、船越&上田先生で先端医学特論と基礎医学特論の一部の講義を行っています。また、船越は昨年の医学科第3学年の学年担任に続き、R5年度は医学科第4学年の学年担任を担ってきました。R5年度には、旭川医科大学におけるCBT部会長を務めました。これらの教育・研究の実績をもとに、先端医科学講座では今後これまで以上に発展ができるよう努力していけたらと考えています。皆様のご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

### Ⅲ. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

### Ⅳ. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Ryusuke Sin, Naoki Sotogaku, Yoshinori N. Ohnishi, Takahide Shuto, Mahomi Kuroiwa, Yukie Kawahara, Keita Sugiyama, Yuki Murakami, Masaaki Kanai, Hiroshi Funakoshi, Ayanabha Chakraborti, James A Bibb, Akinori Nishi	Inhibition of STAT-mediated cytokine responses to chemically-induced colitis prevents inflammation-associated neurobehavioral impairments.	Brain Behavior and Immunity	2023
2) Jun Ueda, Taiga Yamazaki, and Hiroshi Funakoshi	Toward the Development of Epigenome Editing-Based Therapeutics: Potentials and Challenges	International journal of Molecular Sciences	2023.01

### Ⅴ. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

### Ⅵ. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) Ayumi Goto, Yuki Endo, Michihiro Hashimoto, Misa Uno, Hitoshi Yamashita	CREG1 enhances glucose uptake via AMPK in C2C12 myotube	第45回日本基礎老化学会大会	2022.07

### Ⅶ. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
上田潤	公益社団法人日本実験動物学会 動物実験に関する外部	R4~5年度

---

	検証事業専門員	
上田潤	公益社団法人日本実験動物学会 評議員	R4~5 年度
上田潤	文部科学省科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター(NISTEP) 専門調査員	2015.4~
橋本理尋	文部科学省科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター(NISTEP) 専門調査員	2020.4~

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

---

# 内科学講座

(循環・呼吸・神経病態内科学分野)

Department of Internal Medicine

(Division of Cardiology, Nephrology,  
Pulmonology and Neurology)

## I. 所属教員等

### 内科学講座（循環・呼吸・神経病態内科学分野）

准教授	中川 直樹
特任教授	長内 忍（地域医療再生フロンティア研究室）
講師（学内）	田邊 康子
助教	木谷 祐也
特任助教	佐久間 寛史（地域医療再生フロンティア研究室）
	志垣 涼太（地域医療再生フロンティア研究室）

### 第一内科

教授	川村 祐一郎（保健管理センター）
	佐藤 伸之（教育センター兼務）
講師	竹内 利治
	澤田 潤
講師（学内）	蓑島 暁帆
	南 幸範（呼吸器センター兼務）
	佐々木 高明（呼吸器センター兼務）
	奥村 俊介（呼吸器センター兼務）
	松木 孝樹（透析センター）
助教	青沼 達也
	伊達 歩（リハビリテーション科兼務）
診療助教	菊地 史織
	徳野 翔太

## II. 研究業績紹介

循環・呼吸・神経内科学分野は、循環器内科、呼吸器内科、脳神経内科、腎臓内科の各グループが精力的に学会発表および論文発表を行っている。

循環器内科では、竹内利治講師を中心に若手医師による学会発表を精力的に行い、青沼達也助教が 1) MiR-150 は、ロングノンコーディング RNA MIAT が介在する不適応な心臓リモデリングを抑制し、プロフィブロティック Hoxa4 を直接抑制する (Circ Heart Fail. 15:e008686)、2) MiR-150 は、 $\beta$ 1-アドレナリン受容体/ $\beta$ -アレスチンシグナル伝達を失った心筋細胞の心機能障害を抑制し、ユニークなトランスクリプトームを制御する (Cell Death Discov. 8:504, 2022)、等の留学中の仕事を報告した。

呼吸器内科では、佐々木高明学内講師を中心に、咯血を呈する右冠動脈からの気管支動脈起始異常に対し気管支動脈塞栓術を施行した 1 例、化学療法中に慢性骨髄性白血病を発症した肺腺癌の 1 例の症例報告がされた。

神経内科では、澤田潤講師を中心に、悪性腫瘍に合併した脳血管障害の臨床的特徴、当院で経験した血管内リンパ腫 3 症例の臨床的検討、当院で経験した封入体筋炎 6 症例に関する

る臨床的検討を報告した。

腎臓内科では、中川直樹准教授を中心に、ファブリー病やネフローゼ症候群に関する報告を行っている。ファブリー病における効率的なスクリーニング方法や尿中のアルブミン排泄量が正常でも尿中の桑の実細胞がみられるという2例の姉妹のケースを報告し、尿沈渣検査の重要性を報告した (Mol Genet Metab Rep. 31:100874, 2022)。また、COVID-19 ワクチン後に発症または再発するネフローゼ症候群に関する全国調査を行い、COVID-19 ワクチン接種後にネフローゼ症候群が生じる可能性を報告した (Clin Exp Nephrol. 26:909-916, 2022)。

### Ⅲ. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 中川直樹	効率の良いファブリー病スクリーニング	臨床透析	2022.12
2) 中川直樹	COVID-19 ワクチン後のネフローゼ症候群	臨床免疫・アレルギー科	2023.01
3) 中川直樹	DKD 進行予防の観点からの他科連携, 多職種連携の必要性	Progress in Medicine	2023.02
4) 中川直樹	MPGN,C3 腎症	日本腎臓学会誌	2022.10

### Ⅳ. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等名称	発行年月
1) Nakagawa N	Prognostic value of target organ damage in patients with cardiovascular risks	Hypertension research	2022.06
2) Yamada N, Sakuma H, Yanai M, Suzuki A, Maruyama K, Matsuki M, Nakagawa N	Unexpectedly high renal pathological scores of two female siblings with Fabry disease presenting with urinary mulberry cells without microalbuminuria	Molecular Genetics and Metabolism Reports	2022.06
3) Nakagawa N, Maruyama S, Kashihara N, Narita I, Isaka Y	New-onset and relapse of nephrotic syndrome following COVID-19 vaccination: a questionnaire survey in Japan	Clinical and experimental nephrology	2022.09
4) Ikeuchi H, Sugiyama H, Sato H, Yokoyama H, Maruyama S, Mukoyama M, Hayashi H, Tsukamoto T,	A nationwide analysis of renal and patient outcomes for adults with lupus nephritis in Japan	Clinical and experimental nephrology	2022.09



- Fukuda M, Yamagata K, Ishikawa E, Uchida K, Kamijo Y, Nakagawa N, Tsuruya K, Nojima Y, Hiromura K
- 5) Mase K, Saito C, Usui J, Arimura Y, Nitta K, Wada T, Makino H, Muso E, Hirawa N, Kobayashi M, Yumura W, Fujimoto S, Nakagawa N, Ito T, Yuzawa Y, Matsuo S, Yamagata K      The efficacy and safety of mizoribine for maintenance therapy in patients with myeloperoxidase anti-neutrophil cytoplasmic antibody (MPO-ANCA)-associated vasculitis: the usefulness of serum mizoribine monitoring      Clinical and experimental nephrology      2022.11
- 6) Nakagawa N, Nishio S      Knowledge of chronic kidney disease among the general population: A questionnaire survey in Hokkaido prefecture, Japan      Journal of Personalized Medicine      2022.11
- 7) Nasu M, Nakagawa N, Hara S, Yano J, Kurokawa Y, Nakamura N, Yokoyama H, Shimizu A, Sugiyama H, Sato H, Fukami K      A nationwide cross-sectional analysis of biopsy-proven Fabry nephropathy: the Japan Renal Biopsy Registry      Clinical and experimental nephrology      2023.02
- 8) Kario K, Hoshide S, Tomitani N, Nishizawa M, Yoshida T, Kabutoya T, Fujiwara T, Mizuno H, Narita K, Komori T, Ogata Y, Suzuki D, Ogoyama Y, Ono A, Yamagiwa K, Abe Y, Nakazato J, Nakagawa N,      Inconsistent control status of office, home, and ambulatory blood pressure all taken using the same device: The HI-JAMP study baseline data      American journal of hypertension      2023.02

Katsuya T, Harada N,  
Kanegae H; HI-JAMP  
Study Group.

- |     |   |  |                                |         |
|-----|---|--|--------------------------------|---------|
| 9)  | Hidemi Hayashi, Koji Sawada, Jun Sawada, et al.   | A Successful Case of Hepatocellular Carcinoma Treated with Atezolizumab Plus Bevacizumab with Multisystem Immune-related Adverse Events                              | Internal<br>Medicine           | 2022.12 |
| 10) | Moukette B, Kawaguchi S, Sepulveda MN, Hayasaka T, Aonuma T, Liangpunsakul S, Yang L, Dharmakumar R, Conway SJ, Kim IM.                       | MiR-150 blunts cardiac dysfunction in mice with cardiomyocyte loss of $\beta$ 1-adrenergic receptor/ $\beta$ -arrestin signaling and controls a unique transcriptome | Cell Death<br>Discovery        | 2022.12 |
| 11) | Hiroki Komatsuda, Takumi Kumai, Kan Kishibe, Jun Sawada, Takeshi Kanaya   | Sensory trick in patients with opsoclonus-myoclonus syndrome   | Acta<br>Neurologica<br>Belgica | 2023.01 |
| 12) | Hayashi H, Sawada K, Hasebe T, Nakajima S, Sawada J, Takiyama Y, Takiyama Y, Okumura T, Fujiya M  | A Successful Case of Hepatocellular Carcinoma Treated with Atezolizumab Plus Bevacizumab with  | Intern Med                     | 2022.04 |
| 13) | Aonuma T, Moukette B, Kawaguchi S, Barupala NP, Sepúlveda MN, Frick K, Tang Y, Guglin M, Raman SV, Cai C, Liangpunsakul S, Nakagawa S, Kim IM | MiR-150 Attenuates Maladaptive Cardiac Remodeling Mediated by Long Noncoding RNA MIAT and Directly Represses Profibrotic Hoxa4.                                      | Circ Heart Fail                | 2022.04 |

- 14) Shibagaki K, Shirasaka T, Sawada J, Saijo Y, Kunioka S, Kikuchi Y, Kamiya H  
Silent cerebral ischemia detected by magnetic resonance imaging can predict postoperative delirium after total arch replacement for aneurysm JTCVS Open 2022.06

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 中川直樹	腎疾患・透析 最新の治療 2023-2025 A. 一次性糸球体疾患 2. 微小変化型ネフローゼ症候群：成人	南江堂	2023.01

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) Nakagawa N, Matsuo Y, Hasebe N	Dietary salt intake assessed by spot urinary sodium excretion from child to adulthood in a Japanese town	The 29th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension	2022.1
2) 林 望美, 倉 麻里香, 山田 一紀, 松元 慈, 山田 夏生, 松木 孝樹, 高橋 直生, 岩野 正之, 中川 直樹	Fanconi 症候群と高 IgM 血症から診断に至った IgM 陽性形質細胞浸潤を主体とする尿細管間質性腎炎 (IgMPC-TIN) の一例	第 52 回日本腎臓学会東部学術大会	2022.1
3) 中川 直樹	腎臓学の進歩 2022：腎炎・ネフローゼ症候群	第 52 回日本腎臓学会東部学術大会	2022.1
4) Kuroda S, Sakuma H, Matsuki M, Hasebe N, Nakagawa N	Trends of antihypertensive drug prescription and blood pressure changes by prefecture using national database of health insurance claims of Japan	The 29th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension	2022.1
5) Sakuma H, Matsuki M, Hasebe N, Nakagawa N	Real-world data of blood pressure in dialysis patients with and without diabetes in Japan using the web-based database	The 29th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension	2022.1

6)	Sakuma H, Matsuki M, Hasebe N, Nakagawa N	The real world trends in blood pressure of dialysis patients in Japan using the web-based database	The 29th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension	2022.1
7)	松木孝樹, 本間祐平, 成田孝行, 中川直樹	クライオフィルトレーションが著効したクリオグロブリン血症性糸球体腎炎の一例	第 43 回日本アフェレシス学会	2022.11
8)	Sawada Jun, Kamiya Hikaru, Nakagawa Naoki, et al.	Basilar artery changes in adult Japanese patients with Fabry disease	第 63 回 日本神経学会学術大会	2022.05
9)	澤田潤, 菊地史織, 木下学, 他	悪性腫瘍に合併した脳血管障害の臨床的特徴	第 48 回日本脳卒中学会学術集会	2023.03
10)	竹内健汰, 坂本 央, 木谷祐也, 蓑島暁帆, 小北直宏, 紙谷寛之, 池田義彦, 畠山金太, 竹内利治, 長谷部直幸	IMPELLA 補助循環下のステロイドパルス療法が著効した COVID-19 重症心筋炎の一例	第 119 回日本内科学会総会 医学生研修医の日本内科学会ことはじめ	2022.04
11)	紙谷ひかる, 阿部良奎, 菊地史織, 鹿野耕平, 齋藤 司, 澤田潤	当院で経験した血管内リンパ腫 3 症例の臨床的検討	第 63 回日本神経学会学術大会	2022.05
12)	阿部良奎, 紙谷ひかる, 菊地史織, 鹿野耕平, 齋藤 司, 澤田潤, 山下 賢, 西野一三	当院で経験した封入体筋炎 6 症例に関する臨床的検討	第 63 回日本神経学会学術大会	2022.05
13)	Sawada J, Kamiya H, Abe R, Kikuchi S, Kano K, Saito T, Sawada T, Nakamura K, Nakagawa N	Basilar artery changes in adult Japanese patients with Fabry disease	第 63 回日本神経学会学術大会	2022.05
14)	松島理明, 佐久嶋研, 金谷泰宏, 西本尚樹, 澤田潤, 松岡 健, 久原 真, 上杉春雄, 南尚哉, 佐光一也, 武井	Epidemiological study of multiple system atrophy in Hokkaido: data from HoRC-MSA project 2014-2021	第 63 回日本神経学会学術大会	2022.05

麻子, 玉腰暁子, 佐藤  
典宏, 佐々木秀直

- |     |  |  |                               |         |
|-----|--|--|-------------------------------|---------|
| 15) | 高橋理乃, 島田真実,<br>中山克明, 本間祐平,<br>本吉宣也, 南谷克明,<br>山崎大輔, 成田孝行,<br>宗万孝次, 松木孝樹,<br>中川直樹, 松野直徒                              | 当院における ABO 血液型不適合<br>腎移植に対するアフェレシス療<br>法                                   | 日本医工学治療学会<br>第 38 回学術大会       | 2022.05 |
| 16) | 坂本 央, 蓑島暁帆,<br>田邊康子, 竹内利治,<br>佐藤伸之, 川村祐一<br>郎  | タファミジス治療後にペースメ<br>ーカを必要とし、経時的に右室<br>波高が低下したトランスサイレ<br>チン心アミロイドーシス症例の<br>検討 | 第 2 回日本不整脈心<br>電学会北海道支地方<br>会 | 2022.05 |
| 17) | 徳野翔太, 宮本憲次<br>郎, 白井隆一  | 潜因性脳梗塞および失神疑い患<br>者への植込み型心臓モニター解<br>析の検討                                   | 第 2 回日本不整脈心<br>電学会北海道支地方<br>会 | 2022.05 |
| 18) | 佐久間寛史, 松木孝<br>樹, 和田篤志, 中川直<br>樹  | 推定透析見合わせ数・割合の経<br>年的推移に関する検討   | 第 65 回日本腎臓学<br>会学術総会          | 2022.06 |
| 19) | 黒田紳之亮, 中川直<br>樹, 長谷部直幸   | NDB オープンデータを用いた都<br>道府県別の降圧薬処方動向と血<br>圧変化                                  | 第 10 回臨床高血圧<br>フォーラム          | 2022.06 |
| 20) | 伊與部拳太, 河端奈<br>穂子, 秋田滉一, 北川<br>拓, 小林祐也, 早坂太<br>希, 木谷祐也、伊達<br>歩, 蓑島暁帆, 坂本<br>央, 田邊康子, 赤坂和<br>美, 竹内利治, 池田善<br>彦, 畠山金太 | がん治療関連心筋障害による重<br>症心不全に MitraClip 治療が奏<br>功した 1 例                          | 第 127 回日本循環器<br>学会北海道地方会      | 2022.06 |
| 21) | 倉 麻里香, 林 望美,<br>末次令奈, 松木孝樹,<br>中川直樹  | 単純及び選択的血漿交換の混合<br>療法とリツキシマブによる集約<br>的治療を行った抗 GBM 抗体型<br>糸球体腎炎の 1 例         | 第 67 回日本透析医<br>学会学術集会・総会      | 2022.07 |
| 22) | 藤野貴行, 山田一紀,<br>倉 麻里香, 堂野隆史,<br>窪田将司, 中川直樹,<br>石井良直   | 透析心における心電図左室電位<br>の経時的変化と心エコーパラメ<br>ーターの関連                                 | 第 67 回日本透析医<br>学会学術集会・総会      | 2022.07 |

23)	浅野目 晃, 鈴木孝英, 小泉雄人, 柴山佳一 郎, 平井俊浩, 貴田岡 享, 小川裕二, 秋田滉 一, 木谷祐也, 蓑島暁 帆, 竹内利治	DAPT 期間中にステント血栓症 を発症した若年男性の一例	第 30 回日本心血管 インターベンション 治療学会学術集会	2022.07
24)	佐藤朱夏, 木谷祐也, 河端奈穂子, 伊達 歩, 蓑島暁帆, 坂本 央, 田邊康子, 竹内利治, 赤坂和美, 佐藤伸之	心房中隔欠損症による繰り返す 慢性心不全増悪に対して経皮的 心房中隔欠損閉鎖術が有効であ った超高齢女性の 1 例	日本老年医学会第 33 回北海道地方会	2022.07
25)	松田正大, 中川直樹, 平山智也, 和田篤志, 長谷部直幸	高齢維持透析患者では低垂鉛血 症のリスクは増大するか?	日本老年医学会第 33 回北海道地方会	2022.07
26)	澤田 潤, 鈴木奈々, 植村友裕, 菊地史織, 鹿野耕平, 齋藤 司, 木下 学, 中川直樹	癌関連血栓症による脳梗塞の臨 床的特徴	日本老年医学会第 33 回北海道地方会	2022.07
27)	澤田 潤	癌関連血栓症による脳梗塞の臨 床的特徴	第 54 回北海道脳卒 中研究会	2022.07
28)	上野裕生、長内忍、 田中友規、朝倉舞 実、臼井瑛美、川口 菜々子、黒田紳之 亮、玉越明日花、中 村諒、二階堂龍雅、 西川瑛亮、野口航太 郎、藤原和美、松田 奈々、三井沙耶、美 馬明日香、渡邊由 桂、和田悠里	医学部学生による高齢者を対象 としたラジオ番組を通じたフレ イル予防効果の検討	第 54 回日本医学教 育学会大会	2022.08
29)	青沼達也、小林祐 也、中川直樹	高齢者における循環器疾患に対 する応用薬理 miR-150 は long noncoding RNA MIAT による不 適応の心モデリングを抑制して 心保護に寄与する	第 23 回応用薬理シ ンポジウム	2022.09
30)	中川直樹	ファブリー病ハイリスクスクリ ーニングの効果	第 70 回日本心臓病 学会学術集会	2022.09

- |     |  |   |                                |         |
|-----|--|---|--------------------------------|---------|
| 31) | 相馬純、桑原史朗、<br>紙谷ひかる、阿部良<br>奎、鹿野耕平、齋藤<br>司、澤田潤   | レゴラフェニブ内服後に可逆性<br>後頭葉白質脳症を呈した1例   | 第110回日本神経学<br>会北海道地方会          | 2022.09 |
| 32) | 紙谷ひかる、阿部良<br>奎、鹿野耕平、齋藤<br>司、澤田潤、長谷部<br>直幸  | 子宮体癌の転移により髄癌腫症<br>と多発脳神経麻痺をきたした1<br>例   | 第110回日本神経学<br>会北海道地方会          | 2022.09 |
| 33) | 志垣涼太、奈良岡妙<br>佳、佐藤朱夏、天満<br>紀之、徳野翔太、木<br>田涼太郎、上條那緒<br>子、梅影泰寛、森千<br>恵、吉田遼平、石戸<br>谷俊太、南幸範、奥<br>村俊介、佐々木高<br>明、長内忍 | 喀血を呈する右冠動脈からの気<br>管支動脈起始異常に対し気管支<br>動脈塞栓術を施行した1例                                  | 第124回日本呼吸器<br>学会北海道地方会         | 2022.09 |
| 34) | 久保靖憲、松野直<br>徒、中川直樹、内田<br>大貴、玉木岳、高橋<br>裕之、黒坂友里恵、<br>安藤伸、谷野美智<br>枝、柿崎秀宏、横尾<br>英樹、東信良、田崎<br>嘉一                  | Tacrolimus 徐放製剤を服用中に<br>腎毒性を示した腎移植症例にお<br>ける CYP3A5 遺伝子*1 allele と<br>肥満サルコペニアの意義 | 移植                             | 2022.10 |
| 35) | 才田良幸、呂隆徳、<br>中川直樹、高橋裕<br>之、松野直徒、横尾<br>英樹、大田哲生  | 腎移植前後の運動療法が身体機<br>能向上に奏効したサルコペニア<br>を有する腎移植患者の1例                                  | 第58回日本移植学<br>会総会               | 2022.10 |
| 36) | 橘内博哉、滝山由<br>美、中川直樹、沖崎<br>貴琢、羽田勝計   | MRI 拡散強調画像法を用いた新<br>規糖尿病腎症診断法   | 第37回日本糖尿病<br>合併症学会             | 2022.10 |
| 37) | 齊藤江里香、青沼達<br>也、河端奈穂子、長<br>多真美、中森理江、<br>田丸奈津子、赤坂和<br>美、白坂知識、紙谷<br>寛之  | 複数の欠損孔を認めた心房中隔<br>欠損症の一例  | 日本超音波医学会第<br>52回北海道地方会<br>学術集会 | 2022.10 |

38)	青沼達也、長多真美、中森理江、田丸奈津子、河端奈穂子、伊達歩、齊藤江里香、赤坂和美	SAM による左室流出路狭窄と重症僧帽弁逆流の主因が余剰な僧帽弁尖と考えられた非肥大型心筋症の 1 例	日本超音波医学会第 52 回北海道地方会 学術集会	2022.10
39)	永末一徳、木田涼太郎、奈良岡妙佳、志垣涼太、天満紀之、梅影泰寛、森千恵、吉田遼平、南幸範、奥村俊介、佐々木高明、長内忍	化学療法中に慢性骨髄性白血病を発症した肺腺癌の 1 例	第 48 回日本肺癌学会北海道支部会	2022.10
40)	赤坂和美、河端奈穂子	超音波検査で孤立性総腸骨動脈解離が疑われた 2 例	第 69 回日本臨床検査医学会学術集会	2022.11
41)	赤坂和美、河端奈穂子	超音波検査における緊急に対応すべき異常所見について	第 69 回日本臨床検査医学会学術集会	2022.11
42)	西口裕貴、高橋文彦、相原宏紀、富田賢剛、細口翔平、林望美、中川直樹、船山拓也	高度房室ブロックとネフローゼ症候群を合併した AL アミロイドシスの 1 例	第 297 回北海道地方会	2023.02
43)	稲邊まや、木田涼太郎、南幸範、奥村俊介、佐々木高明、長内忍、谷野美智枝	抗 GM-CSF 抗体高値であった特発性器質化肺炎の 1 例	第 297 回北海道地方会	2023.2
44)	Kawabata N, Sakamoto N, Iyobe K, Kitani Y, Date A, Minoshima A, Tanabe Y, Akasaka K, Sato N, Takeuchi T, Nakagawa N, Ikeda Y, Hatakeyama K	Cancer Therapeutics-related Cardiac Dysfunction in Which a Transcatheter Edge-to-Edge Repair of the Mitral Valve was Effective for Reverse Remodeling	第 87 回日本循環器学会学術集会	2023.03
45)	佐藤朱夏、伊達歩、高田舞、藤保洋祐、國兼祐樹、徳野翔太、木谷祐也、河端奈穂子、蓑島暁帆、	A Case of Acute Tuberculous Pericarditis Showing Significant Preoperative PET-CT Uptake and Positive Postoperative T-SPOT Test	第 87 回日本循環器学会学術集会	2023.03



坂本央、田邊康子、  
竹内利治、中川直  
樹、鈴木文隆、紙谷  
寛之

- 46) 紙谷ひかる、鈴木 多発性硬化症（MS）の発症に 第 111 回日本神経学 2023.3  
奈々、植村友裕、菊 human herpes virus6（HHV- 会北海道地方会  
地史織、齋藤司、澤 6）の関与が考えられた 1 例  
田潤、中川直樹

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

---

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

---

# 内科学講座

(病態代謝・消化器・血液腫瘍制御内科学分野)

Department of Internal Medicine

(Division of Metabolism and Biosystemic Science,  
Gastroenterology and Hematology/Oncology)

## I. 所属教員等

### 内科学講座（病態代謝・消化器・血液腫瘍制御内科学分野）

准教授 滝山 由美  
講師 岡本 健作  
岡田 充巧  
北野 陽平

### 内科（代謝・免疫・消化器・血液）

准教授 麻生 和信  
助教 高橋 賢治  
岩本 英孝  
橘内 博哉  
診療助教 藤代 大介

### 内科学講座（病態代謝・消化器・血液腫瘍制御内科学分野）

教授 奥村 利勝  
藤谷 幹浩  
水上 裕輔  
准教授 盛一 健太郎  
助教 河端 秀賢  
高橋 慶太郎  
特任助教 山本 幸司  
小西 弘晃  
客員講師 小野 裕介

### 内科（代謝・免疫・消化器・血液）

講師 進藤 基博  
澤田 康司  
講師（学内） 嘉島 伸  
助教 安藤 勝祥  
長谷部 拓夢

### 寄附講座（地域医療支援および専門医育成推進講座）

特任助教 土岐 康通

### 寄附講座（消化器疾患病態学講座）

特任講師 上野 伸展  
特任助教 坂谷 慧

### 共同研究講座（消化器先端医学講座）

特任助教 山本 幸司

## II. 研究業績紹介

2022年度は講座全体で英語論文41編であり十分に研究成果を公表できた。特に消化器病学の分野での研究成果が充実している。また、全国学会での学会賞の受賞も延べ5人が受賞し、研究成果は国内の学会でも高く評価されている。コロナ禍の最中であつたが、リモート発表も利用して積極的に学会発表も行った。今後は基礎及び臨床研究の益々の発展を目指すとともに、更なる学位論文の生産性を向上させることを目指す。

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 滝山 由美	最新の糖尿病診療と今後の展開 「ステロイド糖尿病」	内科	2022.05

## IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等名称	発行年月
1) Ando K, Uehara K, Sugiyama Y, Kobayashi Y, Murakami Y, Sato H, Kunogi T, Sasaki T, Takahashi K, Ueno N, Kashima S, Moriichi K, Tanabe H, Okumura T, Fujiya M.	Correlation among body composition parameters and long-term outcomes in Crohn's disease after anti-TNF therapy.	Frontiers in Nutrition	2022.04
2) Ono M, Ono Y, Nakamura T, Tsuchikawa T, Kuraya T, Kuwabara S, Nakanishi Y, Asano T, Matsui A, Tanaka K, Ebihara Y, Kurashima Y, Noji T, Murakami S, Shichinohe T, Mitsuhashi T, Omori Y, Furukawa T, Taniue K, Suzuki M, Sugitani A, Karasaki H, Mizukami Y, Hirano S.	Predictors of Long-Term Survival in Pancreatic Ductal Adenocarcinoma after Pancreatectomy: TP53 and SMAD4 Mutation Scoring in Combination with CA19-9.	Ann Surg Oncol	2022.04
3) Isozaki S, Konishi H, Tanaka H, Yamamura	Probiotic-derived heptelidic acid exerts antitumor effects	BMC Microbiol	2022.04

- C, Moriichi K, Ogawa N, Fujiya M. on extraintestinal melanoma through glyceraldehyde-3-phosphate dehydrogenase activity control.
- 4) Murakami Y, Konishi H, Fujiya M, Takahashi K, Ando K, Ueno N, Kashima S, Moriichi K, Tanabe H, Okumura T Testis-specific hnRNP is expressed in colorectal cancer cells and accelerates cell growth mediating ZDHHC11 mRNA stabilization Cancer Med 2022.04
- 5) Kashima S, Sawada K, Moriichi K, Fujiya M A case report of drug-induced liver injury due to the infliximab biosimilar CT-P13 on switching from original infliximab in a patient with Crohn's disease. Therapeutic Advances in Drug Safety 2022.05
- 6) Saito S, Ueno N, Kamikokura Y, Sugiyama Y, Kobayashi Y, Murakami Y, Kunogi T, Sasaki T, Takahashi K, Ando K, Kashima S, Moriichi K, Tanabe H, Tanino M, Okumura T, Fujiya M Gastro-colic Fistula-associated Hypersplenism Causes Pancytopenia in a Patient with Crohn's Disease Internal Medicine 2022.05
- 7) Yamamoto M, Shindo M, Funayama T, Sumi C, Saito T, Toki Y, Hatayama M, Imadome KI, Mizukami Y, Okumura T. Late-onset posttransplant Epstein-Barr virusrelated lymphoproliferative disease after cord blood transplantation for chronic active Epstein Barr virus infection: A case report. Medicine (Baltimore) 2022.05
- 8) Kawabata H, Ono Y, Tamamura N, Oyama K, Ueda J, Sato H, Takahashi K, Taniue K, Okada T, Fujibayashi S, Hayashi A, Goto T, Enomoto K, Oncogenic GNAS induces unique mucin profiles and suppresses invasive property via Notch signaling in the human intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas. J Gastroenterol. 2022.05

Konishi H, Fujiya M,  
Miyakawa K, Tanino  
M, Nishikawa Y, Koga  
D, Watanabe T, Maeda  
C, Karasaki H, Patra  
KC, Liss AS, Bardeesy  
N, Mizukami<sup>1</sup> Y,  
Okumura T.

- |     |  |  |                                       |         |
|-----|--|--|---------------------------------------|---------|
| 9)  | Takumu Hasebe, Koji<br>Sawada, Mikihiro<br>Fujiya  | Submarine volcanic eruption of<br>esophageal varices induced by<br>failed variceal ligation and<br>identified by the gel immersion<br>method   | Digestive<br>Endoscopy                | 2022.05 |
| 10) | Tanaka, Hiroki;<br>Horioka, Kie; Hasebe,<br>Takumu; Sawada, Koji;<br>Nakajima, Shunsuke;<br>Konishi, Hiroaki;<br>Isozaki, Shotaro; Goto,<br>Masanori; Fujii,<br>Yumiko; Kamikokura,<br>Yuki; Ogawa,<br>Katsuhiko; Nishikawa,<br>Yuji | Treatment of hepatocellular<br>carcinoma with autologous<br>platelets encapsulating<br>sorafenib or lenvatinib: a novel<br>therapy exploiting tumor-<br>platelet interactions              | International<br>Journal of<br>Cancer | 2022.05 |
| 11) | Kumei S, Ishioh M,<br>Murakami Y, Ando K,<br>Nozu T, Okumura T.  | A patient with familial<br>Mediterranean fever mimicking<br>diarrhea-dominant irritable<br>bowel syndrome who<br>successfully responded to<br>treatment with colchicine: a<br>case report. | J Med Case Rep.                       | 2022.06 |
| 12) | Isozaki S, Tanaka H,<br>Horioka K, Konishi H,<br>Kashima S, Takauji S,<br>Fujiya M, Druid H.   | Hypoxia-induced nuclear<br>translocation of $\beta$ -catenin in<br>the healing process of<br>frostbite.  | BBA - Molecular<br>Basis of Disease   | 2022.06 |
| 13) | Nakamura A,<br>Yamamoto K (equally<br>first author), Takeda<br>R, Yamada R, Kubo A,  | The potential of soluble CD14<br>in discriminating nonalcoholic<br>steatohepatitis from<br>nonalcoholic fatty liver disease.   | Hepatol Res.                          | 2022.06 |

Morikawa K, Ando S,  
 Shimazaki T, Izumi T,  
 Umemura M,  
 Kitagataya T,  
 Shigesawa T, Suzuki  
 K, Kimura M, Nakai M,  
 Sho T, Suda G,  
 Natsuizaka M, Ogawa  
 K, Ohnishi S,  
 Sugiyama T, Takeda  
 H, Sakamoto N.

- |     |  |  |                       |         |
|-----|--|--|-----------------------|---------|
| 14) | Takiyama T, Sera T,<br>Nakamura M, Hoshino<br>M, Uesugi K, Horike<br>SI, Meguro-Horike M,<br>Bessho R, Takiyama Y,<br>Kitsunai H, Takeda Y,<br>Sawamoto K, Yagi N,<br>Nishikawa Y,<br>Takiyama Y.    | A maternal high-fat diet<br>induces fetal origins of NASH-<br>HCC in mice  | Scientific<br>Reports | 2022.07 |
| 15) | 2. Takamiya S,<br>Kawabori M, Yamazaki<br>M, Yamaguchi S,<br>Tanimori A, Yamamoto<br>K, Ohnishi S, Seki T,<br>Konno K, Tha KK,<br>Hashimoto D,<br>Watanabe M, Houkin<br>K, Fujimura M.               | Intravenous transplantation of<br>amnion-derived mesenchymal<br>stem cells promotes functional<br>recovery and alleviates<br>intestinal dysfunction after<br>spinal cord injury. | PLoS One.             | 2022.07 |
| 16) | Sugiyama Y, Tanabe<br>H, Matsuya T,<br>Kobayashi Y,<br>Murakami Y, Sasaki T,<br>Kunogi T, Takahashi<br>K, Ando K, Ueno N,<br>Kashima S, Moriichi K,<br>Tanino M, Mizukami Y,<br>Fujiya M, Okumura T. | Severe immune checkpoint<br>inhibitor-associated gastritis: A<br>case series and literature<br>review.   | Endosc Int Open.      | 2022.07 |

- |     |  |   |                             |         |
|-----|--|---|-----------------------------|---------|
| 17) | Kobayashi Y, Ando K, Sasaki T, Ueno N, Kashima S, Moriichi K, Fujiya M.  | Usefulness of endoscopic band ligation with gel immersion endoscopy for colonic diverticular bleeding and hemorrhoidal bleeding                             | Endoscopy                   | 2022.07 |
| 18) | Sekiguchi M, Hotta K, Takeuchi Y, Tanaka S, Yamamoto H, Shinmura K, Harada K, Uraoka T, Hisabe T, Sano Y, Kondo H, Horimatsu T, Kikuchi H, Kawamura T, Nagata S, Yamamoto K, Tajika M, Tsuji S, Kusaka T, Okuyama Y, Yoshida N, Moriyama T, Hasebe A, So S, Kobara H, Kashida H, Miyanaga R, Kato S, Hayashi Y, Sada M, Fukuzawa M, Kato H, Takayama T, Konishi J, Matsushita HO, Narasaka T, Ohata K, Togashi K, Nakamura H, Moriichi K, Oda Y, Kanda N, Kuwai T, Terai S, Sanomura M, Kitamura S, Miyamoto H, Kiriya S, Mizuno C, Saito Y, Sekine S, Ito S, Nakahira H, Oka S, Hayashi Y, Yoshimura K, Ishikawa H, Matsuda T | Characteristics of colorectal neuroendocrine tumors in patients prospectively enrolled in a Japanese multicenter study: a first report from the C-NET STUDY | Journal of Gastroenterology | 2022.08 |
| 19) | 『Satoshi Kobayashi』<br>他   | Comparing the Efficacy and Safety of Gemcitabine plus Nab-Paclitaxel versus   | The Oncologist              | 2022.08 |



	Gemcitabine Alone in Older Adults with Unresectable Pancreatic Cancer		
20)	Yamada R, Morikawa K, Hotta K, Iwami D, Tanabe T, Murai S, Shinohara N, Yoshida S, Hosoda S, Kubo A, Tokuchi Y, Kitagataya T, Kimura M, Yamamoto K, Nakai M, Sho T, Suda G, Natsuizaka M, Ogawa K, Sakamoto N.	Incidence of hepatitis B virus reactivation in kidney transplant patients with resolved hepatitis B virus infection.	Journal of Virus Hepatitis 2022.08
21)	Otagiri S, Ohnishi S, Ohara M, Fu Q, Yamamoto K, Yamamoto K, Katsurada T, Sakamoto N.	Oleoylethanolamide Ameliorates Dextran Sulfate Sodium-Induced Colitis in Rats.	Front Pharmacol. 2022.08
22)	Sato K, Igarashi S, Tsukada N, Inamura J, Yamamoto M, Shindo M, Moriichi K, Mizukami Y, Fujiya M, Torimoto Y.	Cytomegalovirus infection in patients with malignant lymphomas who have not received hematopoietic stem cell transplantation.	BMC Cancer 2022.09
23)	Yu Ota, Kazunobu Aso, Shin Otake, Mitsuyoshi Okada, Konosuke Shukuda, Koji Sawada, Hideki Yokoo, Mishie Tanino, Mikihiro Fujiya, Toshikatsu Okumura	Contrast-enhanced ultrasonography for the diagnosis of spontaneous necrosis of hepatocellular carcinoma: A report of two cases	Radiology Case Reports 2022.11
24)	Fujiya M, Kawaguchi T, Arai S, Isogawa N, Hiro S, Matsumoto F, Yamaguchi S, Yoshii	Real-world Insurance Claims Analysis of Venous Thromboembolism in Japanese Patients with Inflammatory Bowel Disease.	Dig Dis Sci 2022.11

- N, Nakamura M,  
Matsuoka K.
- 25) Hidemi Hayashi, Koji Sawada, Takumu Hasebe, Shunsuke Nakajima, Jun Sawada, Yuri Takiyama, Yumi Takiyama, Toshikatsu Okumura, Mikihiro Fujiya
- A Successful Case of Hepatocellular Carcinoma Treated with Atezolizumab Plus Bevacizumab with Multisystem Immune-related Adverse Events
- Internal Medicine
- 2022.12
- 26) Yuya Seko, Miwa Kawanaka, Hideki Fujii, Michihiro Iwaki, Hideki Hayashi, Hidenori Toyoda, Satoshi Oeda, Hideyuki Hyogo, Asahiro Morishita, Kensuke Munekage, Kazuhito Kawata, Sakura Yamamura, Koji Sawada, Tatsuji Maeshiro, Hiroshi Tobita, Yuichi Yoshida, Masafumi Naito, Asuka Araki, Shingo Arakaki, Takumi Kawaguchi, Hidenao Noritake, Masafumi Ono, Tsutomu Masaki, Satoshi Yasuda, Eiichi Tomita, Masato Yoneda, Akihiro Tokushige, Yoshihiro Kamada, Hirokazu Takahashi, Shinichiro Ueda, Shinichi Aishima, Yoshio
- Age-dependent effects of diabetes and obesity on liver-related events in nonalcoholic fatty liver disease: Subanalysis of CLIONE in Asia
- Journal of Gastroenterology and Hepatology
- 2022.12

Sumida, Takeshi  
 Okanoue, Yoshito Itoh,  
 and Atsushi Nakajima,  
 Japan Study Group of  
 Nonalcoholic Fatty  
 Liver Disease (JSG-  
 NAFLD)

- |     |   |   |                  |         |
|-----|---|---|------------------|---------|
| 27) | Nakase H, Wagatsuma K, Nojima M, Matsumoto T, Matsuura M, Iijima H, Matsuoka K, Ohmiya N, Ishihara S, Hirai F, Takeuchi K, Tamura S, Kinjo F, Ueno N, Naganuma M, Watanabe K, Moroi R, Nishimata N, Motoya S, Kurahara K, Takahashi S, Maemoto A, Sakuraba H, Saruta M, Tominaga K, Hisabe T, Tanaka H, Terai S, Hiraoka S, Takedomi H, Narimatsu K, Endo K, Nakamura M, Hisamatsu T. | Anxiety and behavioral changes in Japanese patients with inflammatory bowel disease due to COVID-19 pandemic: a national survey.  | J Gastroenterol. | 2023.01 |
| 28) | Ueno N, Sugiyama Y, Kobayashi Y, Murakami Y, Iwama T, Sasaki T, Kunogi T, Sakatani A, Takahashi K, Tanaka K, Serikawa S, Ando K, Kashima S, Muto M, Inaba Y, Moriichi K, Tanabe H, Okumura T, Fujiya M.   | Concomitant pharmacologic medications influence the clinical outcomes of granulocyte and monocyte adsorptive apheresis in patients with ulcerative colitis: A multicenter retrospective cohort study. | J Clin Apher.    | 2023.01 |

- |     |  |   |  |         |
|-----|--|---|--|---------|
| 29) | Kokumai T, Omori Y, Ishida M, Ohtsuka H, Mizuma M, Nakmagawa K, Maeda C, Ono Y, Mizukami Y, Miura S, Kume K, Masamune A, Morikawa T, Unno M, Furukawa T.   | GATA6 and CK5 Stratify the Survival of Patients With Pancreatic Cancer Undergoing Neoadjuvant Chemotherapy.   | Modern Pathology                           | 2023.01 |
| 30) | Murakami Y, Tanabe H, Ono Y, Sugiyama Y, Kobayashi Y, Kunogi T, Sasaki T, Takahashi K, Ando K, Ueno N, Kashima S, Yuzawa S, Moriichi K, Mizukami Y, Fujiya M, Okumura T.   | Local recurrence after successful endoscopic submucosal dissection for rectal mucinous mucosal adenocarcinoma: A case report.                                 | World Journal of Gastrointestinal Oncology | 2023.01 |
| 31) | Hideki Fujii, Makoto Fujii, Michihiro Iwaki, Hideki Hayashi, Hidenori Toyoda, Satoshi Oeda, Hideyuki Hyogo, Miwa Kawanaka Asahiro Morishita, Kensuke Munekage, Kazuhito Kawata, Tsubasa Tsutsumi, Koji Sawada, Tatsuji Maeshiro, Hiroshi Tobita, Yuichi Yoshida, Masafumi Naito, Asuka Araki, Shingo Arakaki, Takumi Kawaguchi, Hidenao Noritake, Masafumi Ono, Tsutomu Masaki, Satoshi Yasuda, Eiichi | Multicenter, retrospective, cohort study shows platelet counts predict hepatocellular carcinoma development in patients with nonalcoholic fatty liver disease | Hepatology Research                        | 2023.01 |

Tomita, Masato  
 Yoneda, Norifumi  
 Kawada, Akihiro  
 Tokushige, Yoshihiro  
 Kamada, Hirokazu  
 Takahashi, Shinichiro  
 Ueda, Shinichi  
 Aishima, Yoshio  
 Sumida, Atsushi  
 Nakajima, Takeshi  
 Okanoue; Japan Study  
 Group of Nonalcoholic  
 Fatty Liver Disease  
 (JSG-NAFLD)

- |     |   |   |  |         |
|-----|---|---|--|---------|
| 32) | Moriichi K, Fujiya M.   | Cancer Research in<br>Adenocarcinoma, Adenoma,<br>Adenomatous Polyposis Coli,<br>and Colitis-Associated<br>Neoplasm: A Special Issue                                    | Cancers  | 2023.02 |
| 33) | Hiroshi Ishiba, Yoshio<br>Sumida, Yoshihiro<br>Kamada, Hideki Fujii,<br>Michihiro Iwaki, Hideki<br>Hayashi, Hidenori<br>Toyoda, Satoshi Oeda,<br>Hideyuki Hyogo, Miwa<br>Kawanaka, Asahiro<br>Morishita, Kensuke<br>Munekage, Kazuhito<br>Kawata, Tsubasa<br>Tsutsumi, Koji<br>Sawada, Tatsuji<br>Maeshiro, Hiroshi<br>Tobita, Yuichi Yoshida,<br>Masafumi Naito,<br>Asuka Araki, Shingo<br>Arakaki, Takumi<br>Kawaguchi, Hidenao<br>Noritake, Masafumi | Noninvasive tests predict liver-<br>related events and mortality in<br>patients with non-alcoholic<br>fatty liver disease: sub-<br>analysis of the CLIONE-Asia<br>study | Journal of<br>Gastroenterology<br>and Hepatology | 2023.02 |

Ono, Tsutomu Masaki,  
 Satoshi Yasuda, Eiichi  
 Tomita, Masato  
 Yoneda, Akihiro  
 Tokushige, Hirokazu  
 Takahashi, Shinichiro  
 Ueda, Shinichi  
 Aishima, Atsushi  
 Nakajima, Takeshi  
 Okanoue; Japan Study  
 Group of Nonalcoholic  
 Fatty Liver Disease  
 (JSG-NAFLD)

- |     |  |   |                 |         |
|-----|--|---|-----------------|---------|
| 34) | Hirose K, Omori Y,<br>Ono Y, Mizukami Y,<br>Kaneko Y, Maruyama<br>T, Ohtani H, Furukawa<br>T.  | Molecular comparison of<br>concurrent components of<br>high-grade dysplasia,<br>adenocarcinoma, and<br>sarcomatoid carcinoma in a<br>case of sarcomatoid carcinoma<br>of the gallbladder. | Virchows Archiv | 2023.03 |
| 35) | Maeda C, Ono Y,<br>Hayashi A, Takahashi<br>K, Taniue K, Kakisaka<br>E, Mori M, Ishii T, Sato<br>H, Okada T, Kawabata<br>H, Goto T, Tamamura<br>N, Omori Y, Takahashi<br>K, Katanuma A,<br>Karasaki H, Liss A,<br>Mizukami Y. | Multiplex digital PCR assay<br>to capture multiple KRAS and<br>GNAS mutations associated<br>with pancreatic carcinogenesis<br>from minimal specimen<br>amounts                            | J Mol Diagn.    | 2023.03 |
| 36) | Takahashi K,<br>Murakami Y, Sasaki T,<br>Ueno N, Tachibana S,<br>Ikeda J, Ishigaki K,<br>Horiuchi M, Yoshida<br>M, Uehara K,<br>Kobayashi Y,<br>Sugiyama Y, Kunogi T,<br>Muto M, Ando K, Muto                                | Nasal breathing is superior to<br>oral breathing in in patients<br>undergoing transnasal<br>endoscopy: a prospective<br>randomized controlled trial.                                      | Endoscopy       | 2023.03 |

M, Kashima S,  
Moriichi K, Tanabe H,  
Yanagawa N, Harada  
K, Okumura T, Fujiya  
M.

- 37) Kishibe M, Takeda K, Honma M, Makino Y, Ishida-Yamamoto A. Effectiveness of anti-interleukin-17-receptor antibody for hydroxychloroquine-induced generalized pustular psoriasis in a patient with systemic lupus erythematosus J Dermatol 2022

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 河端秀賢、高橋賢治、水上裕輔	「膵癌・胆道癌 2023 上 膵癌編」各論 1. 上皮性腫瘍 (2) 嚢胞性膵腫瘍 1) 膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN) f. 診断 (b) 由来癌と併存癌	日本臨牀	2023.03
2) 滝沢耕平, 濱本英剛, 市原真/編	上部消化管内視鏡診断の基本とコツ	羊土社	2023.03
3) 牧野雄一	内科学 第12版 「Weber-Christian 病」	朝倉書店	2022
4) 上野伸展、藤谷幹浩	紹介のタイミングと病診連携について	日本メディカルセンター	2022
5) 上野伸展、藤谷幹浩	免疫調節薬と抗 TNF $\alpha$ 抗体製剤(併用)で長期寛解維持中の潰瘍性大腸炎患者、止めるならどちらか?免疫調節薬 or 抗 TNF $\alpha$ 抗体製剤 抗 TNF $\alpha$ 抗体製剤の立場から	先端医学社	2022
6) 上野伸展、藤谷幹浩	紹介のタイミングと病診連携について	日本メディカルセンター	2022
7) 上野伸展、藤谷幹浩	免疫調節薬と抗 TNF $\alpha$ 抗体製剤(併用)で長期寛解維持中の潰瘍性大腸炎患者、止めるならどちらか?免疫調節薬 or 抗 TNF $\alpha$ 抗体製剤 抗 TNF $\alpha$ 抗体製剤の立場から	先端医学社	2022

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) Katsuyoshi Ando, Mikihiro Fujiya, Nobuhiro Ueno, Satoshi Motoya, Masanao Nasuno, Hiroki Tanaka, Takahiro Ito, Atsuo Maemoto, Kensuke Sakurai, Takehiko Katsurada, Fumika Orii, Toshifumi Ashida, Daisuke Hirayama, Hiroshi Nakase	Clinical effectiveness and safety of Ustekinumab for Ulcerative Colitis: Real- world data from Japan- based multicenter cohort (Phoenix cohort)	The 10th Annual Meeting of AOCC	2022.04
2) 高橋賢治、林 明 宏、水上裕輔	ワークショップ「胆膵 疾患の遺伝子解析による 病態解明・臨床展開」十二 指腸液由来遊離核酸を用 いた膵癌リキッドバイオ プシーの有用性	第 108 回日本消化器病学会 総会	2022.04
3) 安藤 勝祥, 小林 裕, 杉 山 雄哉, 村上 雄紀, 佐々木 貴弘, 久野木 健仁, 高橋 慶太郎, 上 野 伸展, 嘉島 伸, 盛一 健太郎, 田邊 裕貴, 奥 村 利勝, 藤谷 幹浩	骨格筋と内臓脂肪が抗 TNF- $\alpha$ 抗体投与後のク ローン病に与える影響	第 108 回日本消化器病学会 総会	2022.04
4) 高橋 賢治、林 明宏、 水上 裕輔	ワークショップ 16:胆膵 疾患の遺伝子解析による 病態解明・臨床展開 WS16-9 十二指腸液由 来遊離核酸を用いた膵癌 リキッドバイオプシーの 有用性	第 108 回日本消化器病学会 総会	2022.04
5) 菊地順子、大原克 仁、天野虎次、矢部	一般演題(ポスターセッ ション)145 進行固形が	第 119 回日本内科学会総 会・講演会	2022.04



	一郎、小松嘉人、松野吉宏、石黒 敦、水上裕輔、櫻井 晃洋、木下一郎	ん患者に対する保険診療による包括的がんゲノムプロファイリング検査の実施時期についての検討		
6)	澤田康司、長谷部拓夢、藤谷幹浩	高齢肝癌患者における内臓脂肪と予後の関係	第 108 回日本消化器病学会総会	2022.04
7)	武藤麻理子、小野裕介、山川けいこ、水津太、葉娟娟、水上裕輔、松田陽子	病理解剖例における膵前癌病変の遺伝子解析	第 111 回 日本病理学会総会	2022.04
8)	Katsuyoshi Ando, Mikihiro Fujiya, Nobuhiro Ueno, Satoshi Motoya, Masanao Nasuno, Hiroki Tanaka, Takahiro Ito, Atsuo Maemoto, Kensuke Sakurai, Takehiko Katsurada, Fumika Orii, Toshifumi Ashida, Daisuke Hirayama, Hiroshi Nakase	Clinical outcomes and predictive factors accounting for short- to medium-term effectiveness of Ustekinumab in treating ulcerative colitis: A Japan-based study	DDW2022	2022.05
9)	麻生和信	ハンズオンセミナー A コース「スクリーニング、見落としを避けるコツ」	第 58 回日本肝癌研究会	2022.05
10)	安藤 勝祥, 盛一 健太郎, 藤谷 幹浩	寛解期潰瘍性大腸炎における通常・拡大内視鏡による再燃予測と治療適正化	第 103 回日本消化器内視鏡学会総会	2022.05
11)	嘉島伸、他	小児消化管内視鏡の有効性およびその影響因子の解析	第 103 回日本消化器内視鏡学会総会	2022.05
12)	滝山 由美、別所 瞭一、滝山 侑里、滝山 貴央、佐々木 彩	2 型糖尿病モデル db/db マウスに対する Glucoraphanin の腎作用	第 65 回日本糖尿病学会年次学術集会	2022.05

- 華, 佐藤 茉央、橘内  
博哉、竹田安孝
- 13) 滝山 侑里、滝山 貴央, 佐々木 彩華, 別所 瞭一, 佐藤 茉央、橘内 博哉、竹田安孝、坂上 英充、滝山 由美 2 型糖尿病合併非アルコール性脂肪肝疾患に対するトログリフロジンの有用性の検討 第 65 回日本糖尿病学会年次学術集会 2022.05
- 14) Hidemasa Kawabata, Yusuke Ono, Nobue Tamamura, Hiroki Sato, Kenji Takahashi, Kenzui Taniue, Tetsuhiro Okada, Syugo Fujibayashi, Akihiro Hayashi, Takuma Goto, Hiroaki Konishi, Mikihiro Fujiya, Hidenori Karasaki, Andrew S. Liss, Yusuke Mizukami, Toshikatsu Okumura Session Title: Pancreatic and Biliary Disorders, Endoscopy and Imaging Tumor-suppressive effect of mutant GNAS through the restriction of tumor aggressiveness in established pancreatic cancer. DDW2022/AGA2022 2022.05
- 15) 別所 瞭一、滝山 侑里、滝山 貴央, Promsuwan Suratsawadee, 佐藤 茉欧, 澤本 一樹, 橘内 博哉, 竹田 安孝, 滝山 由美 グルコラファニンは糖尿病腎組織において SGLT2 発現を減少させる 第 65 回日本糖尿病学会年次学術集会 2022.05
- 16) 滝山貴央、世良俊博、星野真人、上杉健太郎、中村匡徳、滝山侑里、別所瞭一、Suratsawadee Promsuwan、佐々木彩華、佐藤茉欧、澤
- 胎生期過栄養による腎低酸素応答について 第 65 回日本糖尿病学会年次学術集会 2022.05

	本一樹、橘内博哉、 竹田安孝、滝山由美			
17)	嘉島伸、他	PET-CT による悪性リンパ腫の消化管病変診断能の解析	第 61 回日本消化器がん検診学会総会	2022.06
18)	萩尾 加奈子、菊地 順子、高田 弘一、田邊 裕貴、杉山 未奈子、大原 克仁、天野 虎次、畑中 佳奈子、畑中 豊、高橋 将人、矢部 一郎、松野 吉宏、櫻井 晃洋、石黒 敦、水上 裕輔、秋田 弘俊、木下 一郎	EP-7 遺伝子パネル検査 / リキッドバイオプシー乳癌診療における包括的がんゲノムプロファイリング検査の現状と実施時期についての検討	第 30 回日本乳癌学会学術総会	2022.06
19)	及川 貴允, 澤田康司、野村 奈津子, 菊池 しのぶ	HCV 抗体陽性者への受診勧奨の効率化を目指して	第 58 回肝臓学会総会	2022.06
20)	澤田康司、室和希、林秀美、長谷拓夢、中嶋駿介、藤谷幹浩、奥村利勝	慢性肝疾患患者における血清亜鉛濃度と骨格筋量の関係	第 58 回肝臓学会総会	2022.06
21)	Yusuke Ono, Kenji Takahashi, Hidenori Karasaki, Yusuke Mizukami, Akihiro Hayashi, Toru Kawamoto, Tetsuhiro Okada, Keisuke Kimura, Nobuyuki Yanagawa, Hirotoishi Iwano, Kuniyuki Takahashi, Yusuke Mizukami	Molecular barcode sequencing using duodenal fluid for profiling genomic alterations in pancreatic neoplasms	The 26th International Association of Pancreatology (IAP) & The 53rd Annual Meeting of Japan Pancreas Society (JPS) 2022	2022.07
22)	Kenji Takahashi, Hiroki Sato, Shugo Fujibayashi, Akihiro Hayashi, Hidemasa Kawabata, Hidetaka	The application of EV RNA panel as liquid biopsy for pancreatic ductal adenocarcinoma	The 26th International Association of Pancreatology (IAP) & The 53rd Annual Meeting of	2022.07

	Iwamoto, Takuma Goto, Yohei Kitano, Yusuke Mizukami, Toshikatsu Okumura		Japan Pancreats Society (JPS) 2022	
23)	Hidemasa Kawabata, Yusuke Ono, Hiroki Sato, Shugo Fujibayashi, Akihiro Hayashi, Hidetaka Iwamoto, Takuma Goto, Kenji Takahashi, Yohei Kitano, Mikihiro Fujiya, Toshikatsu Okumura, Yusuke Mizukami	Tumor-suppressive effect of mutant GNAS through the restriction of tumor aggressiveness in established pancreatic cancer	The 26th International Association of Pancreatology (IAP) & The 53rd Annual Meeting of Japan Pancreats Society (JPS) 2022	2022.07
24)	林 秀美、澤田 康 司、藤谷 幹浩	Heat-killed Lactobacillus brevis SBC8803 は選択的イン スリン抵抗性を改善させ ることで NAFLD 病態を 改善する	第 59 回日本消化器免疫学 会総会	2022.07
25)	Yuko Omori, Yusuke Ono, Takanori Morikawa, Fumiko Date, Ryota Higuchi, Goro Honda, Hidenori Karasaki, Yusuke Mizukami, Michiaki Unno, Toru Furukawa.	Oral 27 IPMN(Basic Research) O27-1. Molecular Phenotypic Risk Stratification of Intraductal Papillary Mucinous Neoplasms	第 53 回日本膵臓学会大会? 第 26 回国際膵臓学会 2022IAP&JSP meeting	2022.07
26)	Hidemasa Kawabata, Yusuke Ono, Hiroki Sato, Kenji Takahashi, Tetsuhiro Okada, Syugo Fujibayashi, Akihiro Hayashi, Takuma Goto, Mikihiro Fujiya,	Oral 27 IPMN(Basic Research) O27-3. Mutant GNAS limits tumor aggressiveness in established pancreatic cancer via antagonizing the KRAS-pathway	第 53 回日本膵臓学会大会 第 26 回国際膵臓学会 2022IAP&JSP meeting	2022.07

	Yusuke Mizukami, Toshikitsu Okumura.			
27)	Yuko Omori, Yusuke Ono, Taito Itoh, Fumiko Date, Takanori Morikawa, Fuyuhiko Motoi, Ryota Higuchi, Goro Honda, Hidenori Karasaki, Yusuke Mizukami, Michiaki Unno, Toru Furukawa.	Oral 27 IPMN(Basic Research) O27-4. STK11-altered intraductal papillary mucinous neoplasms develop characteristic clinico-patho-biology	第 53 回日本膵臓学会大会 第 26 回国際膵臓学会 2022IAP&JSP meeting	2022.07
28)	Yusuke Ono, Kenji Takahashi, Akihiro Hayashi, Toru Kawamoto, Tetsuhiro Okada, Keisuke Kimura, Nobuyuki Yanagawa, Hiroto Iwano, Kuniyuki Takahashi, Hidenori Karasaki, Yusuke Mizukami	Panel Discussion 4 Quest for early diagnosis of pancreatic cancer PD4-5. Molecular barcode sequencing using duodenal fluid for profiling genomic alterations in pancreatic neoplasms	第 53 回日本膵臓学会大会 第 26 回国際膵臓学会 2022IAP&JSP meeting	2022.07
29)	鈴木修司、大森優子、廣瀬勝也、小野裕介、唐崎秀則、下田貢、永川裕一、土田明彦、水上裕輔、古川徹.	Reports of JPS clinical research 膵疾患臨床試験結果報告	第 53 回日本膵臓学会大会 第 26 回国際膵臓学会 2022IAP&JSP meeting	2022.07
30)	Shuji Suzuki, Yuko Omori, Katsuya Hirose, Yusuke Ono, Hidenori Karasaki, Mitsugi Shimoda, Yuichi Nagakawa, Akihiko Tsuchida, Yusuke Mizukami, Toru Furukawa.	Symposium 1 Advances in genomics for pancreatic neoplasms SY1-6. Three molecular development pathways of remnant pancreatic cancer impact survival after resection	第 53 回日本膵臓学会大会 第 26 回国際膵臓学会 2022IAP&JSP meeting	2022.07

31) Kenji Takahashi, Hiroki Sato, Shugo Fujibayashi, Akihiro Hayashi, Hidemasa Kawabata, Hidetaka Iwamoto, Takuma Goto, Yohei Kitano, Yusuke Mizukami, Toshikatsu Okumura.	Symposium 5 Molecular profiling of pancreatic cancer and application of liquid biopsy to clinical practice SY5-3. The application of EV RNA panel as liquid biopsy for pancreatic ductal adenocarcinoma	第 53 回日本膵臓学会大会 第 26 回国際膵臓学会 2022IAP&JSP meeting	2022.07
32) Hidemasa Kawabata 他	The 26th International Association of Pancreatology (IAP) & The 53rd Annual Meeting of Japan Pancreats Society (JPS) 2022	The 26th International Association of Pancreatology (IAP) & The 53rd Annual Meeting of Japan Pancreats Society (JPS) 2022	2022.07
33) Kenji Takahashi 他	The application of EV RNA panel as liquid biopsy for pancreatic ductal adenocarcinoma	The 26th International Association of Pancreatology (IAP) & The 53rd Annual Meeting of Japan Pancreats Society (JPS) 2022	2022.07
34) 河端 秀賢, 小野 裕介, 高橋 賢治, 谷上 賢瑞, 唐崎 秀則, 水上裕輔	GNAS 変異は KRAS 経路に拮抗することにより、膵癌の悪性度を抑える	第 81 回日本癌学会学術総会	2022.09
35) Yusuke Ono , Chiho Maeda, Kenji Takahashi, Hidenori Karasaki, Yusuke Mizukami	High-sensitive mutation detection in liquid biopsy with duodenal fluid captures genetic mutations associated with pancreatic carcinogenesis.	AACR Special Conference on Pancreatic Cancer	2022.09
36) 長谷川 千紘, 安藤 勝祥, 小林 裕, 杉山 雄哉, 久野木 健仁, 佐々木 貴弘, 坂谷 慧, 高橋 慶太郎, 上野 伸展, 嘉島 伸, 盛一 健太郎, 田邊 裕貴, 鈴木 康秋, 林 真	胆摘時の腹腔内落下胆石が原因で発症した後腹膜炎性偽腫瘍の 1 例	第 131 回日本消化器病学会 北海道支部例会	2022.09

奈美, 湯澤 明夏, 谷野  
美知枝, 奥村 利勝, 藤  
谷 幹浩

- |     |  |   |   |         |
|-----|--|---|---|---------|
| 37) | Yusuke Ono, Kenji<br>Takahashi, Hidenori<br>Karasaki, Yusuke<br>Mizukami   | High sensitive mutation<br>detection in liquid<br>biopsy with duodenal<br>fluid captures genetic<br>mutations associated<br>with pancreatic<br>carcinogenesis                     | AACR Special Conference:<br>Pancreatic Cancer | 2022.09 |
| 38) | 岩田浩義、唐崎秀<br>則、西越崇博、浅井<br>慶子、橋本道紀、稲<br>葉聡、谷野美智枝、<br>水上裕輔  | IgG4 関連胆管炎に合併<br>した浸潤性胆管癌の 1 例  | 第 111 回北海道外科学会                                | 2022.09 |
| 39) | Hidemasa Kawabata,<br>Yusuke Ono, Kenji<br>Takahashi, Kenzui<br>Taniue, Hidenori<br>Karasaki, Yusuke<br>Mizukami | P14-37 Pancreatic<br>Cancer(2)/膵がん(2)<br>GNAS 変異は KRAS 経路<br>に拮抗することにより、<br>膵癌の悪性度を抑える  | 第 81 回日本癌学会学術総<br>会                           | 2022.09 |
| 40) | Yusuke Ono, Chiho<br>Maeda , Kenji<br>Takahashi, Hidenori<br>Karasaki, Yusuke<br>Mizukami                        | P15-12 リキッドバイオ<br>プシー (新規技術)<br>/Liquid biopsy<br>(emerging technology)<br>消化液に存在する膵癌由<br>来の遺伝子変異検出を目<br>指したリキッドバイオブ<br>シー  | 第 81 回日本癌学会学術総<br>会                           | 2022.09 |
| 41) | Kenzui Taniue,<br>Yusuke Mizukami,<br>Nobuyoshi Akimitsu   | RNA exosome<br>component EXOSC4<br>amplified in multiple<br>cancer types is required<br>for the pancreatic<br>cancer cell survival via<br>the regulation of BIK<br>and SESN2 mRNA | AACR Special Conference:<br>Pancreatic Cancer | 2022.09 |
| 42) | 久保田寛之 他  | 経乳頭的ドレナージが困<br>難な急性閉塞性化膿性膵  | 第 125 回日本消化器内視鏡<br>学会北海道支部例会                  | 2022.09 |

		管炎に対し, EUS-PD により化学療法を継続し得た膵頭部癌の一例		
43)	久保田寛之、河端 秀賢、梶浦 麻未、小杉英史、佐藤 裕基、藤林 周吾、岩本 英孝、高橋 賢治、北野 陽平、齋藤 敦、藤谷 幹浩、水上 裕輔、奥村 利勝	消化器病?消化器内視鏡合同分科会 (第 131 回日本消化器病学会北海道支部例会) (第 125 回日本消化器内視鏡学会北海道支部例会) 経乳頭的ドレナージが困難な急性閉塞性化膿性膵管炎に対し、EUS-PD により化学療法を継続し得た 膵頭部癌の 1 例	第 102 回北海道医学大会	2022.09
44)	水上奨一郎、今井浩二、高橋裕之、松野直徒、横尾英樹、角泰雄、河端秀賢、水上裕輔、谷野美智枝.	消化器病消化器内視鏡合同分科会 (第 131 回日本消化器病学会北海道支部例会) (第 125 回日本消化器内視鏡学会北海道支部例会) 術前診断が困難であったリンパ形質細胞性硬化性膵炎の 1 例	第 102 回北海道医学大会	2022.09
45)	小杉 英史、河端 秀賢、久保田寛之、梶浦 麻未、佐藤 裕基、藤林 周吾、岩本 英孝、後藤 拓磨、高橋 賢治、北野 陽平、藤谷 幹浩、水上 裕輔、奥村 利勝	消化器病消化器内視鏡合同分科会 (第 131 回日本消化器病学会北海道支部例会) (第 125 回日本消化器内視鏡学会北海道支部例会)	第 102 回北海道医学大会	2022.09
46)	小杉英史 他	新規バスケットカテーテルと EHL プローブを用いた内視鏡的膵石治療の経験	第 125 回日本消化器内視鏡学会北海道支部例会	2022.09
47)	Yuta Shimizu, Kenji Takahashi, Fumi Asai, Tatsutoshi Inuzuka	Development of the diagnostic method for pancreatic cancer using novel isolation	AACR Special Conference on Precision Prevention, Early Detection, and Interception of Cancer	2022.11



		technology of extracellular vesicles		
48)	安藤 勝祥, 上野 伸展, 藤谷 幹浩	炎症性腸疾患における動脈血栓塞栓症の重症化・死亡頻度に関する全国多施設調査	JDDW2022	2022.11
49)	上野 伸展, 安藤 勝祥, 田中 一之, 稲場 勇平, 藤谷 幹浩	消化器疾患領域 便中カルプロテクチンは顆粒球吸着除去療法(GMA)の臨床効果予測に有用なバイオマーカーである	第 43 回日本アフェレーション学会学術大会	2022.11
50)	岩間 琢哉, 上野 伸展, 田中 一之, 安藤 勝祥, 芹川 真哉, 武藤 桃太郎, 嘉島 伸一, 盛一 健太郎, 奥村 利勝, 藤谷 幹浩	併用する薬物療法が顆粒球吸着除去療法(GMA)の臨床効果に与える影響に関する検討	JDDW2022	2022.11
51)	Koji Sawada, Hiroki Sato, Kazuki Muro, Hidemi Hayashi, Takumu Hasebe, Shunsuke Nakajima, Toshikatsu Okumura, Mikihiro Fujiya	Long-term L-carnitine supplementation suppresses skeletal muscle loss in patients with hepatocellular carcinoma	AASLD 2022	2022.11
52)	室和希・澤田康司・林秀美・中嶋駿介・長谷部拓夢・大竹晋・太田雄・岡田充巧・麻生和信・高橋裕之・今井浩二・横尾英樹・藤谷幹浩・奥村利勝	骨転移再発を契機に診断された肝原発 MiNEN の 1 例	第 44 回肝臓学会東部会	2022.11
53)	上野伸展, 安藤勝祥, 田中一之, 稲場勇平, 藤谷幹浩	便中カルプロテクチンは顆粒球吸着除去療法(GMA)の臨床効果予測に有用なバイオマーカーである	第 43 回日本アフェレーション学会学術集会	2022.11

- |     |   |   |                         |         |
|-----|---|---|-------------------------|---------|
| 54) | 河端秀賢、高橋賢治、梶浦麻未、小杉英史、佐藤裕基、岡田哲弘、藤林周吾、岩本 英孝、北野 陽平、小野裕介、藤谷幹浩、水上裕輔、奥村利勝  | IPMN 関連膵癌における PKA-GNAS 経路による悪性度制御   | 第 7 回 Gastro-PLUS       | 2022.12 |
| 55) | 別所瞭一、滝山侑里、Suratsawadee Promsuwan、滝山貴央、澤本一樹、橘内博哉、竹田安孝、滝山由美   | Nrf2 欠損マウスにおける glucoraphanin の腎保護効果   | 第 33 回日本糖尿病性腎症研究会       | 2022.12 |
| 56) | Masafumi Ikeda, Naoya Kato, Tatehiro Kagawa, Tatsuya Yamashita, Michihisa Moriguchi, Shinichiro Nakamura, Koji Sawada, Hiroko Iijima, Toshiro Kamoshida, Kazuhiko Nakao, Kazuyoshi Ohkawa, Rie Sugimoto, Tetsuo Takehara, Masaru Harada, Yoshiya Yamamoto, Takanori Ito, Masatoshi Kudo, Norihiro Kokudo, Koji Yamamoto, Junji Furuse | Safety and efficacy of atezolizumab (Atezo) + bevacizumab (Bev) in Japanese patients (pts) with unresectable hepatocellular carcinoma (uHCC): a prospective, multicenter, observational study (ELIXIR) - A preliminary analysis ? | ESMO ASIA CONGRESS 2022 | 2022.12 |
| 57) | 藤井 尚三郎、河端 秀賢、高橋 賢治、藤林周吾、岩本 英孝、北野 陽平、藤谷 幹浩、水上 裕輔、奥村 利勝   | 膵腫瘍の経過観察中に低血糖を契機に診断に至ったインスリ ノーマの 1 例  | 第 297 回日本内科学会北海道地方会     | 2023.02 |

58)	Yuko Omori, Yusuke Ono, Takashi Kokumai, Fumiko Date, Ryota Higuchi, Goro Honda, Yusuke Mizukami, Takanori Morikawa, Michiaki Unno, Toru Furukawa.	USACAP 112TH ANNUAL MEETING Molecular Phenotyping and the Combinatorial System by the Number of Accumulated Gene Alterations of Intraductal Papillary Mucinous Neoplasms Stratifies the Risk of Invasion and Outcome: New Insight for Management Strategy	UNITED STATES AND CANADIAN ACADEMY OF PATHOLOGY	2023.03
59)	荻野久美子, 藤代大介, 池知佑太, 川幡智樹, 田中来, 福浦愛, 小林厚志, 岡本健作, 牧野雄一	シェーグレン症候群、関節リウマチに合併した血栓性血小板減少性紫斑病の一例	第 31 回 日本リウマチ学会 北海道支部学術集会	2022.01
60)	藤代大介, 荻野久美子, 池知佑太, 田中来, 川幡智樹, 福浦愛, 江口耕平, 小林厚志, 岡本健作, 牧野雄一	両手足の皮疹と足趾の爪肥厚を呈したシェーグレン症候群の一例	第 20 回 関節疾患カンファランス	2022.01
61)	藤代大介, 荻野久美子, 池知佑太, 福浦愛, 田中来, 川幡智樹, 江口耕平, 小林厚志, 岡本健作, 牧野雄一	自然軽快した間質性肺炎の一例	第 13 回 道北臨床リウマチ研究会	2022.02
62)	福浦愛, 荻野久美子, 池知佑太, 川幡智樹, 田中来, 藤代大介, 小林厚志, 岡本健作, 牧野雄一	発熱, 咽頭痛, 両下腿浮腫を主訴にリウマチ・膠原病内科を受診した一例	第 64 回 北海道リウマチ膠原病談話会	2022.02
63)	藤代大介, 荻野久美子, 池知佑太, 福浦愛, 田中来, 川幡智樹, 江口耕平, 小林厚志, 岡本健作, 牧野雄一	扁平苔癬を合併したシェーグレン症候群の一例	第 46 回 北海道リウマチ研究会	2022.03

64)	荻野久美子, 藤代大介, 池知佑太, 川幡智樹, 田中来, 福浦愛, 小林厚志, 岡本健作, 牧野雄一	シェーグレン症候群との関連が疑われた血栓性血小板減少性紫斑病の一例	第 46 回 北海道リウマチ研究会	2022.03
65)	福浦愛, 岡本健作, 荻野久美子, 池知佑太, 川幡智樹, 田中来, 江口耕平, 藤代大介, 小林厚志, 牧野雄一	関節リウマチに対する TNF 阻害薬投与中に発症したリウマチ性髄膜炎の一例	第 66 回 日本リウマチ学会総会・学術集会	2022.04
66)	小林厚志, 岡本健作, 牧野雄一	緊急輸血、心嚢ドレナージ後に血圧低下を認めた粘液水腫性昏睡の一例	第 95 回 日本内分泌学会学術総会	2022.06
67)	江口耕平, 大野翼, 荻野久美子, 池知佑太, 川幡智樹, 田中来, 福浦愛, 藤代大介, 小林厚志, 岡本健作, 牧野雄一	網膜中心動脈閉塞症 (CRAO) と来した顕微鏡的多発血管炎の一例	第 32 回 日本リウマチ学会 北海道・東北支部学術集会	2022.09
68)	大野翼, 藤代大介, 荻野久美子, 池知佑太, 川幡智樹, 田中来, 福浦愛, 江口耕平, 小林厚志, 岡本健作, 牧野雄一	筋限局型結節性多発動脈炎 (M-PAN) の一例	第 32 回 日本リウマチ学会 北海道・東北支部学術集会	2022.09
69)	藤代大介, 大野翼, 荻野久美子, 池知佑太, 福浦愛, 田中来, 川幡智樹, 江口耕平, 柴田宏明, 小林厚志, 丹代晋, 岡本健作, 谷野美智枝, 伊藤浩, 牧野雄一	破壊性関節炎が疑われ紹介となった原発性骨・軟部腫瘍の一例	第 21 回 旭川関節疾患カンファランス	2023.01
70)	大野翼, 岡本健作, 荻野久美子, 池知佑太, 川幡智樹, 田中来, 福浦愛, 江口耕平, 藤代大介, 小林厚志, 牧野雄一	COVID-19 罹患後に巨細胞性動脈炎を発症した関節リウマチの一例	第 14 回 道北臨床リウマチ研究会	2023.02

71)	江口耕平, 荻野久美子, 池知佑太, 川幡智樹, 田中来, 福浦愛, 藤代大介, 小林厚志, 岡本健作, 牧野雄一	Stauffer 症候群との鑑別に難渋した成人 Still 病の一例	第 47 回 北海道リウマチ研究会	2023.03
72)	鷺見千紘、土岐康通、船山拓也、齋藤豪志、畑山真弓、山本昌代、進藤基博、湯澤明夏、谷野美智枝、奥村利勝	治療に難渋した TAFRO 症候群の一例	第 57 回日本血液学会春季北海道地方会	2022.04
73)	五十嵐将、野津司、石王応知、船山拓也、進藤基博、奥村利勝	Ghrelin は脳に作用し迷走神経を介して敗血症死を阻止する	第 24 回日本神経消化器病学会	2022.09
74)	船山拓也、野津司、五十嵐将、石王応知、進藤基博、奥村利勝	脳内 Oxytocin は Cannabinoid シグナル、迷走神経を介して Leaky gut を改善する	第 25 回日本神経消化器病学会	2022.09
75)	齋藤豪志、上野伸展、船山拓也、鷺見千紘、畑山真弓、山本昌代、土岐康通、進藤基博、奥村利勝	下痢型過敏性腸症候群として紹介されたアミロイドニューロパチーの一例	第 24 回日本神経消化器病学会	2022.09
76)	鷺見千紘、山本昌代、船山拓也、齋藤豪志、畑山真弓、土岐康通、進藤基博、湯澤明夏、谷野美智枝、奥村利勝	緩徐に進行し診断に難渋した Hepatosplenic T-cell lymphoma の一例	第 64 回日本血液学会秋季北海道地方会	2022.09
77)	船山拓也、山本昌代、鷺見千紘、齋藤豪志、畑山真弓、土岐康通、進藤基博、奥村利勝	A case of atypical chronic myeloid leukemia results from donor-derived leukemia	第 84 回日本血液学会学術集会	2022.10
78)	山本昌代、進藤基博、船山拓也、鷺見千紘、齋藤豪志、畑山真弓、土岐康通、	Liquid biopsy with cfDNA in plasma could predict disease	第 84 回日本血液学会学術集会	2022.10

	小野裕介、水上裕輔、谷野美智枝、奥村利勝	progression in a case of multiple myeloma		
79)	船山拓也,野津司,石王応知,五十嵐将,鷺見千紘,齋藤豪志,土岐康通,畑山真弓,山本昌代,進藤基博,奥村利勝	脳内 oxytocin シグナルの活性化は leaky gut と内臓知覚過敏を改善させる	第 50 回日本潰瘍学会	2023.02
80)	松田佳樹, 鷺見千紘, 山本昌代, 船山拓也, 齋藤豪志, 畑山真弓, 土岐康通, 進藤基博, 谷野美智枝, 奥村利勝	精査中に副腎皮質機能低下を認めた悪性リンパ腫の一例	日本内科学会北海道支部主催第 297 回北海道地方会	2023.02

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
1) 水上 裕輔	マイナビ Tech+ : Claris 社 医療分野での FileMaker 事例「膵臓がんの早期発見に期待されるリキッドバイオプシー。実現に向けて推進する精密医療 DX とは。」	2023.02

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
1) 安藤 勝祥	第 35 回日本消化器病学会奨励賞	日本消化器病学会	2022.04
2) 安藤 勝祥	第 64 回 日本消化器病学会大会会長賞	日本消化器病学会	2022.11
3) 福浦 愛	第 66 回 日本リウマチ学会総会・学術集会 秀逸ポスター	日本リウマチ学会	2022.04

# 精神医学講座

Department of Psychiatry and Neurology

## I. 所属教員等

### 精神医学講座

教 授	橋岡 禎征
助 教	吉澤 門土
	高崎 英気
	松田 孟士
	吉原 慎佑
	安田 麻美
	市川 香織

## II. 研究業績紹介

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

## IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等名称	発行年月
1) Hashioka S, Inoue K, Otsuki K, Hayashida M, Wake R, Kawano N, Takeshita H, Inagaki M	Contribution of "genuine microglia" to Alzheimer's disease pathology	Frontiers in Aging Neuroscience	2022.04
2) Mihara Y, Otsuki K, Hayashi M, Yamashita S, Nagahama M, Hayashida M, Wake R, Hashioka S, Abe S, Inagaki M	Improvement in both severe obsessive compulsive disorder and refractory tardive dystonia following electroconvulsive therapy	PCN Reports	2022.05
3) Ayato Yamada, Naoki Hattori, Takeshi Matsuda, Norito Nishiyama, Akira Shimatsu	Clearance of macro-TSH from the circulation is slower than TSH	Clinical Chemistry and Laboratory Medicine (CCLM)	2022.05
4) Jaya MA, Hayashida M, Tsuchie K, Jerin SJ, Mamunur R, Miura S, Nagahama	Effect of Ninjin'yoeito on lipopolysaccharide-induced depressive-like behavior and	Shimane Journal of Medical Science	2022.06



	M, Otsuki K, Hashioka S, Wake R, Miyaoka T, Tanra AJ, Horiguchi J, Inagaki M	glial activation in the hippocampus		
5)	Hashioka S, Wu Z, Klegeris A	Glia-driven neuroinflammation and systemic inflammation in Alzheimer's disease	Current Neuropharmacolog y	2022.07
6)	Naoki Hattori, Ayato Yamada, Shunya Nakatsuji, Takeshi Matsuda, Norito Nishiyama, Akira Shimatsu	Telmisartan is the most effective ARB to increase adiponectin via PPAR $\alpha$ in adipocytes	Journal of Molecular Endocrinology	2022.07
7)	橋岡禎征	電気けいれん療法とグリア研 究の融合点	精神科治療学	2022.11
8)	吉田光一、中馬真幸、 田崎嘉一、高崎英気	遅発性ジスキネジアを発症し た多剤併用患者の処方に関 し症状が軽快した1例	北海道病院薬剤師会 誌	2022.11
9)	Norito Nishiyama, Naoki Hattori, Yuji Tani, Takeshi Matsuda, Ayato Yamada, Takanori Saito	A rare case of both macro- TSH and macro-LH: laboratory analysis of the pathogenesis	Clinical Chemistry and Laboratory Medicine (CCLM)	2023
10)	1. Jerin SJ, Hashioka S, Kimura-Kataoka K, Fujihara J, Mamunur R, Ao G, Inagaki M, Haruo Takeshita H	Electroconvulsive treatment ameliorates lipopolysaccharide-induced depressive like behaviour in rats	Shimane Journal of Medical Science	2023.03

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 橋岡禎征, 稲垣 正俊	すぐ見て・すぐわかり・すぐ使える眼科処方	南江堂	2022

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 橋岡禎征	グリアに着目した ECT の治療効果発現メカニズムの解明	第 118 回日本精神神経学会学術総会	2022.06
2) 橋岡禎征	精神・神経疾患におけるグリアの新規治療標的としての可能性	北海道精神神経学会第 141 回例会	2022.07
3) 今西紗緒里, 吉原慎佑, 今健太郎, 市川香織, 安田麻美, 吉澤門土, 高崎英気, 田村義之, 橋岡禎征	病初期にカプグラ症状が認められたレビー小体型認知症の一例	北海道精神神経学会第 142 回例会	2022.12
4) 今健太郎, 高崎英気, 今西紗緒里, 市川香織, 安田麻美, 吉原慎佑, 吉澤門土, 田村義之, 橋岡禎征	統合失調症様の精神症状を呈したてんかん発作後精神病の一例	北海道精神神経学会第 142 回例会	2022.12

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

# 小児科学講座

Department of Pediatrics

## I. 所属教員等

### 小児科学講座

教授	高橋	悟
講師	中右	弘一
助教	田中	亮介
	岡	秀治
	竹口	諒
	櫻井	由香里

### 小児科

講師	長森	恒久
	鈴木	滋
助教	佐藤	雅之
病院助教	石羽澤	映美

## II. 研究業績紹介

研究論文の紹介文（小児科）

小児科では、新生児期から思春期までのあるゆる内科的疾患を対象としています。日常診療は、6つのグループ（感染・免疫、血液・腫瘍、神経、新生児、循環器、内分泌・代謝）に分かれて、専門的医療を提供しながらもお互いに連携しています。このような臨床経験の中から生じた疑問や発想を大切にして、子どもの難病の治療法の進歩に貢献することを願って研究を進めています。世界的な視野で考え、目の前にいる子ども・地域のために働く“Act locally, Think globally”をモットーにして、未だ見ぬ子ども達のためにもいい仕事をしたいと考えています。

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 鈴木 滋	【小児疾患診療のための病態生理 2 改訂第6版】内分泌疾患 Addison 病	小児内科 53 巻増刊	2022.01
2) 鈴木 滋	小児の治療指針, 2 型糖尿病/遺伝 性糖尿病	小児科診療	2023.04

## IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等名称	発行年月
1) 佐藤 雅之 中島 三花 深山 雄大 山田 昌由 北山 浩嗣	出生時の原因不明のショックによる AKI 後、4 ヶ月間におよぶ維持血液 透析管理から離脱し得た乳児例	日本小児 PD・ HD 研究会雑誌	2022.01

- |    |   |  |                               |         |
|----|---|--|-------------------------------|---------|
| 2) | 山本 あゆこ, 若林 伊織, 山村 日向子, 國米 崇秀, 鈴木 滋, 高橋 悟  | 高身長を契機に診断に至った幼児バセドウ病の一例  | 日本成長学会雑誌                      | 2022.05 |
| 3) | Yuya Fukuda, Akira Ishii, Hotaka Kamasaki, Shintaro Fusagawa, Kojiro Terada, Lisa Igarashi, Masaki Kobayashi, Shigeru Suzuki, Takeshi Tsugawa | Long-term sensor-augmented pump therapy for neonatal diabetes mellitus: a case series                                      | Clin Pediatr Endocrinol       | 2022.05 |
| 4) | Takahide Kokumai, Shigeru Suzuki, Noriko Nishikawa, Hinako Yamamura, Tokuo Mukai, Yusuke Tanahashi, Satoru Takahashi                          | Early Diagnosis of Wolfram Syndrome by Ophthalmologic Screening in a Patient with Type 1B Diabetes Mellitus: A Case Report | J Clin Res Pediatr Endocrinol | 2022.08 |
| 5) | Shoma Saito, Hinako Yamamura, Takahide Kokumai, Akiko Furuya, Shigeru Suzuki, Satoru Takahashi  | Impact of small for gestational age on type 2 diabetes in obese siblings   | Pediatrics International      | 2023.02 |
| 6) | Shigeru Suzuki, Kanayo Ochiai, Yuichi Nishikado   | Paternally derived chromosome 6q24 triplication causes neonatal diabetes mellitus  | Horm Res Paediatr             | 2023.02 |
| 7) | Shigeru Suzuki, Takahide Kokumai, Akiko Furuya, Satoru Takahashi  | SGLT2i as a Useful Adjunctive Medication for HNF4A-MODY  | Diabetes Care                 | 2023.03 |
| 8) | 小野田ひかる、島田空知、岡 秀治、中右弘一、高橋 悟  | 腸球菌による尿路感染症に併発し心嚢液貯留で発見された急性心膜炎の幼児例  | 臨床小児医学                        | 2022    |
| 9) | 津田 淳希, 島田空知, 中右弘一, 梶濱あや,  | Timothy 症候群の心外症状を伴わない QT 延長症候群 8 型   | 小児科臨床                         | 2022    |

岡 秀治, 大野聖子,  
東 寛

- 10) Takeguchi R, Kuroda M, Tanaka R, Suzuki N, Akaba Y, Tsujimura K, Itoh M, Takahashi S Structural and functional changes in the brains of patients with Rett syndrome: A multimodal MRI study J Neurol Sci 2022
- 11) Akaba Y, Shiohama T, Komaki Y, Seki F, Ortug A, Sawada D, Uchida W, Kamagata K, Shimoji K, Aoki S, Takahashi S, Suzuki T, Natsume J, Takahashi E, Tsujimura K Comprehensive volumetric analysis of Mecp2-null mouse model for Rett syndrome by T2-weighted 3D magnetic resonance imaging. Front Neurosci 2022
- 12) Tanaka R, Takeguchi R, Kuroda M, Suzuki N, Makita Y, Yanagi K, Kaname T, Takahashi S Novel NARS2 variants causing Leigh syndrome with normal lactate levels. Hum Genome Var 2022
- 13) Nakanishi K, Saijo Y, Yoshioka E, Sato Y, Kato Y, Nagaya K, Takahashi S, Ito Y, Kobayashi S, Miyashita C, Ikeda-Araki A, Kishi R, the Japan Environment and Children's Study (JECS) Group Severity of low pre-pregnancy body mass index and perinatal outcomes: The Japan Environment and Children's Study BMC Pregnancy Childbirth 2022
- 14) Akaba Y, Takeguchi R, Tanaka R, Makita Y, Kimura T, Yanagi K, Kaname T, Nishino I, Takahashi S. Wide spectrum of cardiac phenotype in myofibrillar myopathy associated with a BAG3 mutation: a case report and literature review. J Clin Neuromuscul Dis 2022

- |     |   |  |                                     |      |
|-----|---|--|-------------------------------------|------|
| 15) | Kokumai T, Suzuki S, Nishikawa N, Yamamura H, Mukai T, Tanahashi Y, Takahashi S   | Early diagnosis of Wolfram syndrome by ophthalmologic screening in a patient with type 1B diabetes mellitus: A case report             | J Clin Res<br>Pediatr<br>Endocrinol | 2022 |
| 16) | Takahashi S, Takeguchi R, Tanaka R, Fukuoka M, Koike T, Ohtani H, Inoue K, Fukuda M, Kurahashi H, Nakamura K, Tominaga K, Matsubayashi T, Itoh M, Tanaka T.   | CDKL5 deficiency causes epileptic seizures independent of cellular mosaicism.  | J Neurol Sci                        | 2022 |
| 17) | Oka H, Nakau K, Nakagawa S, Imanishi R, Shimada S, Mikami Y, Fukao K, Iwata K, Takahashi S.   | Liver T1/T2 values with cardiac MRI during respiration.  | Cardiol Young                       | 2022 |
| 18) | 今西梨菜、中右弘一、岡 秀治、島田空知、梶野浩樹、高橋 悟   | 胎児期に診断し、無治療で経過観察できている先天性右心耳瘤の一例  | 日本小児循環器学会雑誌                         | 2022 |
| 19) | Sato Y, Yoshioka E, Saijo Y, Kato Y, Nagaya K, Takahashi S, Ito Y, Kobayashi S, Ait Bamai Y, Yamazaki K, Itoh S, Miyashita C, Ikeda-Araki A, Kishi R; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group | Null Association Between Isolated Orofacial Clefts and Sleep Duration: A Cohort Study From the Japan Environment and Children's Study. | Cleft Palate<br>Craniofac J.        | 2022 |
| 20) | Sato Y, Yoshioka E, Saijo Y, Kato Y,  | Associated congenital anomalies and syndromes of 248 infants with  | Congenit Anom                       | 2022 |

- Nagaya K, Takahashi S, Ito Y, Kobayashi S, Ait Bamai Y, Yamazaki K, Itoh S, Miyashita C, Ikeda-Araki A, Kishi R; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group
- 21) Kunori Y, Saijo Y, Yoshioka E, Sato Y, Kanaya T, Nakanishi K, Kato Y, Nagaya K, Takahashi S, Ito Y, Itoh S, Kobayashi S, Miyashita C, Ikeda-Araki A, Kishi R; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group, Kamijima M, Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Nakamura H, Suganuma N, Kusuhara K, Katoh T
- 22) 若林 伊織、石羽澤 映美、吉田 陽一郎、長森 恒久、石井 大介、宮城 久
- orofacial clefts born between 2011 and 2014 in the Japan Environment and Children's Study
- Evaluating association of smoking status during pregnancy with adverse birth outcomes using urinary cotinine concentration: The Japan environment and Children's study (JECS)
- 多数のネオジム磁石誤飲により多発腸管穿孔を生じた幼児例
- Environ Res 2022
- 日本小児科学会雑誌 2022



之、平澤 雅敏、高橋 悟

- 23) 島田空知、中右弘 一、伊藤啓太、佐々木勇氣、今西梨菜、岡 秀治、高橋 悟 特発性拡張型心筋症の乳児例におけるイバブラジンの有効性と安全性 日本小児科学会 雑誌 2023
- 24) Nakanishi K, Saijo Y, Yoshioka E, Sato Y, Kato Y, Nagaya K, Takahashi S, Ito Y, Kobayashi S, Miyashita C, Ikeda-Araki A, Kishi R, the Japan Environment and Children's Study (JECS) Group Association between maternal multimorbidity and preterm birth, low birth weight, and small for gestational age: a prospective birth cohort study from the Japan Environment Children's Study BMJ Open 2023
- 25) Nabatame S, Tanigawa J, Tominaga K, Kagitani-Shimono K, Yanagihara K, Imai K, Ando T, Tsuyusaki Y, Araya N, Matsufuji M, Natsume J, Yuge K, Bratkovic D, Arai H, Okinaga T, Matsushige T, Azuma Y, Ishihara N, Miyatake S, Kato M, Matsumoto N, Okamoto N, Takahashi S, Hattori S, Ozono K Associations of severity with biochemical parameters in glucose transporter 1 deficiency syndrome Journal of the Neurological Sciences 2023
- 26) Haga S, Takeguchi R, Tanaka R, Satake A, Makita Y, Yanagi K, Kaname T, Takahashi S Clinical characteristics of muscle cramps in hereditary angiopathy with nephropathy, aneurysms, and muscle cramps syndrome associated with a novel COL4A1 Brain and Development 2023

		pathogenic variant: A family case study		
27)	Akaba Y, Takahashi S, Suzuki K, Kosaki K, Tsujimura K	miR-514a promotes neuronal development in human iPSC-derived neurons	Frontiers in Cell and Developmental Biology	2023
28)	Yazawa T, Imamichi Y, Kitano T, Islam MS, Khan MRI, Takahashi S, Sekiguchi T, Suzuki N, Umezawa A, Uwada J	Expression of Chrna9 is regulated by Tbx3 in undifferentiated pluripotent stem cells	Sci Rep	2023
29)	Rina Imanishi, Kouichi Nakau, Sorachi Shimada, Hideharu Oka, Ryo Takeguchi, Ryosuke Tanaka, Tatsutoshi Sugiyama, Mitsumaro Nii, Toshio Okamoto, Ken Nagaya, Yoshio Makita, Kumiko Yanagi, Tadashi Kaname, Satoru Takahashi	A novel HECW2 variant in an infant with congenital long QT syndrome.	Hum Genome Var	2023
30)	Oka H, Nakau K, Shibagaki Y, Ito K, Sasaki Y, Imanishi R, Shimada S, Takahashi S	Liver fibrosis markers represent central venous pressure in post-pubertal patients with congenital heart disease.	Cureus	2023
31)	Hideharu Oka, Sadahiro Nakagawa, Kouichi Nakau, Rina Imanishi, Sorachi Shimada, Yuki	Four-dimensional flow magnetic resonance imaging can visualize a disturbed pattern of blood flow in a patient without a significant pressure gradient after surgical repair of aortic coarctation	Journal of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery	2023.03

Mikami, Kazunori  
 Fukao, Kunihiro  
 Iwata, Satoru  
 Takahashi

- 32) Nagamori T, Ishibazawa E, Yoshida Y, Izumi K, Sato M, Ichimura Y, Okiyama N, Nishino I, Azuma H A Continuous Increase in CXC-Motif Chemokine Ligand 10 in a Case of Anti-Nuclear Matrix Protein-2-Positive Juvenile Dermatomyositis J Med Cases . 2022 Jun;13(6):290-296. doi: 10.14740/jmc3940. Epub 2022 Jun 2. PMID: 35837084 Free PMC article 2022.06
- 33) Shimada S, Uyeda T, Maeda Y, Kobayashi T, Kishiki K, Hamamichi Y, Yazaki S, Wada N, Takahashi Y, Park IS, Yoshikawa T Single-stage arterial switch operation conversion with dextro-transposition of the great arteries and pulmonary arterial hypertension due to baffle leak after a Senning procedure J Cardiol Cases . 2022 Jul 28;26(5):345-347. doi:10.1016/j.jccase.2022.07.008. eCollection 2022 Nov. 2022.07
- 34) Sakurai Y, Toriumi N, Sarashina T, Ishioka T, Nagata M, Kobayashi H, Azuma H An infantile case of hereditary folate malabsorption with sudden development of pulmonary hemorrhage: a case report J Med Case Rep . 2022 Jun 30;16(1):268. doi: 10.1186/s13256-022-03448-x. PMID: 35773682 Free PMC article 2022.06

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 鈴木 滋	小児内分泌疾患の治療 (日本小児内分泌学会[編]) :高身長	診断と治療社	2022.08

- 2) 高橋 悟 初心者が知っておくべきてんかん（自然終息性および薬剤抵抗性）は何でしょうか、Q & A でわかる初心者のための小児てんかん・けいれん 中外医学社 2022.11

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 松浦信夫、横道洋司、伊藤 善也、鈴木滋、望月恵美、母坪智行、北海道内 15 歳未満発症 1 型糖尿病児の長期予後に関する研究班	1959 年から 1996 年に発症した小児期発症 1 型糖尿病糖尿病児の長期予後-北海道における Population-based の調査研究-	第 65 回日本糖尿病学会年次学術集会	2022.05
2) 望月美恵、武者育麻、雨宮伸、小林浩司、鈴木滋、國米崇秀、菅原大輔、小山さとみ、小林基章、松浦信夫、菊池透	グリコアルブミン/ヘモグロビン A1c 比は低血糖発症の予測因子として有用である	第 65 回日本糖尿病学会年次学術集会	2022.05
3) 鈴木 滋、森 千夏、山村 日向子、國米 崇秀、棚橋 祐典	サンドイッチ ELISA 法による小児グルカゴンの基準値と肥満の影響の検討	第 95 回日本内分泌学会学術総会	2022.06
4) 國米 崇秀、山村 日向子、鈴木 滋	インスリン療法で軽快した糖尿病性ケトアシドーシスに合併した著明な高中性脂肪血症の 1 例	第 27 回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会	2022.07
5) Shigeru Suzuki	Neonatal Diabetes: Etiology, Diagnosis and Management	The 12th Biennial Scientific Meeting of the Asia Pacific Paediatric Endocrine Society 2022	2022.1
6) 松浦信夫、横道洋司、伊藤 善也、鈴木滋、望月恵美、母坪智行、北海道内 15 歳	道内発症小児糖尿病児の長期予後調査を終えて—調査で何が分かったか—	日本糖尿病学会 第 56 回北海道地方会	2022.1

未満発症 1 型糖尿病  
 児の長期予後に関する  
 研究班

- |     |  |  |                             |         |
|-----|--|--|-----------------------------|---------|
| 7)  | 鈴木滋  | 新生児糖尿病の理解を深める  | 第 55 回日本小児<br>内分泌学会学術集<br>会 | 2022.11 |
| 8)  | 鈴木 滋、國米 崇秀、<br>古谷 曜子、高橋 悟  | SU 薬の追加治療として SGLT2<br>阻害薬が有効であった HNF4A-<br>MODY の一例                | 第 55 回日本小児<br>内分泌学会学術集<br>会 | 2022.11 |
| 9)  | 松浦信夫、横道洋<br>司、伊藤 善也、鈴木<br>滋、望月恵美、母坪<br>智行、北海道内 15 歳<br>未満発症 1 型糖尿病<br>児の長期予後に関する<br>研究班  | 北海道における小児糖尿病児の長<br>期予後調査-特に死亡例について<br>の解析-                         | 第 55 回日本小児<br>内分泌学会学術集<br>会 | 2022.11 |
| 10) | 柴垣有希、鈴木滋、<br>棚橋祐典、中村英<br>記、平野至規、田中<br>聰、高瀬雅史   | 多様な表現型を呈した乳幼児期発<br>症慢性甲状腺炎の 3 例                                    | 第 55 回日本小児<br>内分泌学会学術集<br>会 | 2022.11 |
| 11) | 齊藤翔真、國米崇秀、<br>古谷曜子、竹田津原野、<br>鈴木滋、高橋悟   | 先天性腎性尿崩症を疑うが、多尿<br>の程度は軽度で AVPR2 および<br>AQP2 に病的変異を認めない 3 歳<br>女児例 | 第 55 回日本小児<br>内分泌学会学術集<br>会 | 2022.11 |
| 12) | 細川真弓、市橋洋<br>輔、長崎啓祐、長谷<br>川行洋、濱島崇、永<br>松扶紗、鈴木滋、沼<br>倉周彦、天野 直子、<br>佐々木悟郎、西垣五<br>月、永原敬子、曾根<br>田瞬、有安大典、井<br>原健二、鎌崎穂高、<br>麻生敬子、長谷川奉<br>延、石井智弘 | 副腎クリーゼの罹患率と危険因子<br>～多施設共同前向き観察研究によ<br>る real world evidence～       | 第 55 回日本小児<br>内分泌学会学術集<br>会 | 2022.11 |
| 13) | 長崎啓祐、高桑聖、<br>八ツ賀秀一、鈴木<br>滋、岡田賢、田久保   | 小児バセドウ病を対象とした抗甲<br>状腺剤単独療法とコレステロール<br>吸収阻害剤併用療法のランダム化<br>比較試験      | 第 55 回日本小児<br>内分泌学会学術集<br>会 | 2022.11 |

憲行、澤田浩武、長谷川行洋

- |     |  |   |  |         |
|-----|--|---|--|---------|
| 14) | 國米崇秀、山村日向子、古谷曜子、鈴木滋、高橋悟                          | 新生児マススクリーニング(NBS)結果判明時に著明な電解質異常を認めた 21 水酸化酵素欠損症(21OHD)の女児例                        | 日本小児科学会北海道地方会第 315 回例会   | 2022.12 |
| 15) | 柴垣有希、鈴木滋、國米崇秀、古谷曜子、高橋悟                           | 刺激型の抗 TSH 受容体抗体 (TSAb) が陽性である Down 症候群に合併した橋本病の 2 例                               | 第 1 回日本小児内分泌学会北海道地方会   | 2023.01 |
| 16) | 中村英記、石若久海子、栗澤未央ジューン、泉健吾、仙波はるか、堀井百祐、平野至規、室野晃一、鈴木滋 | 新生児バセドウ病の治癒後に中枢性甲状腺機能低下症が顕性化した 1 例  | 日本小児科学会北海道地方会第 316 回例会   | 2023.02 |
| 17) | Shigeru Suzuki, Kanayo Ochiai, Yuichi Nishikado  | Paternally derived chromosome 6q24 triplication causes neonatal diabetes mellitus | 11th International Meeting of Pediatric Endocrinology - IMPE2023 | 2023.03 |
| 18) | 岡 秀治、今西梨菜、島田空知、中右弘一、高橋 悟                         | 肝 T1/T2 mapping は呼吸運動による影響が少なく、小児の肝臓評価に有用である                                      | 第 125 回日本小児科学会学術集会   | 2022.04 |
| 19) | 竹口諒、黒田真実、田中亮介、鈴木菜生、高橋悟                           | Rett 症候群の構造的・機能的 MRI 画像解析   | 第 64 回日本小児神経学会学術集会   | 2022.06 |
| 20) | 佐々木勇氣、岡 秀治、伊藤啓太、今西梨菜、島田空知、中右弘一、高橋 悟              | 心臓 MRI による右室心筋性状の定量評価の試み  | 第 58 回日本小児循環器学会総会・学術集会   | 2022.07 |
| 21) | 岡 秀治、伊藤啓太、佐々木勇氣、今西梨菜、島田空知、中右弘一、高橋 悟              | 先天性心疾患術後患者における左房スティブネス評価  | 第 58 回日本小児循環器学会総会・学術集会   | 2022.07 |
| 22) | 伊藤啓太、岡 秀治、佐々木勇氣、今西梨菜、島田空知、中右弘一、高橋 悟              | 先天性心疾患患者における左房うず流の臨床的意義   | 第 58 回日本小児循環器学会総会・学術集会   | 2022.07 |

23)	岡 秀治, 伊藤啓太, 佐々木勇氣, 今西梨菜, 島田空知, 中右弘一, 高橋 悟	大動脈縮窄症術後患者の遠隔期合併症予測における 4D flow MRI の有用性	第 58 回日本小児循環器学会総会・学術集会	2022.07
24)	竹口諒, 田中亮介, 鈴木菜生, 高橋悟	MECP2 重複症候群の臨床症状と早期診断	第 73 回北日本小児科学会	2022.09
25)	岡 秀治, 中右弘一, 今西梨菜, 島田空知, 福井晨介, 櫻井由香里, 鳥海尚久, 更科岳大, 高橋 悟	小児白血病患者の再発イベントによる心機能への影響	第 5 回日本腫瘍循環器学会学術集会	2022.09
26)	柴垣有希, 岡 秀治, 今西梨菜, 島田空知, 中右弘一, 高橋 悟	心臓 MRI 検査における右室容積測定で、乳頭筋への配慮は必要か	第 24 回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会	2023.01
27)	岡 秀治, 柴垣有希, 今西梨菜, 島田空知, 中右弘一, 高橋 悟	先天性心疾患患者の心大血管血流評価における 4D flow MRI の至適条件の検討	第 24 回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会	2023.01
28)	岡 秀治, 中右弘一, 中川貞裕, 柴垣有希, 今西梨菜, 島田空知, 深尾和憲, 岩田邦弘, 高橋 悟	左右短絡疾患の血行動態評価における 4D flow MRI の有用性	第 6 回日本小児心臓 MR 研究会学術集会	2023.02
29)	岡 秀治, 竹田津未生, 今西梨菜, 島田空知, 中西研太郎, 吉澤明希子, 金井麻子, 横浜祐子, 杉山沙織, 名和智裕, 澤田まどか, 高室基樹, 中右弘一	胎児期に診断した Unguarded tricuspid valve の一例	日本胎児心臓病学会第 29 回学術集会	2023.02
30)	竹口諒, 田中亮介, 鈴木菜生, 高橋悟	CDKL5 欠損症患者の脳 MRI および誘発電位所見の検討	第 40 回日本小児神経学会北海道地方会	2023.03

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

## Ⅷ. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
1) 岡 秀治	第 10 回北海道小児循環器研究会賞	北海道小児循環器研究会	2022.04



# 外科学講座

(血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野)

Department of Surgery

(Division of Vascular, Respiratory and Surgical Oncology)

## I. 所属教員等

### 外科学講座（血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野）

教 授	東 信良
講 師	内田 大貴
助 教	鎌田 啓輔
客員准教授	内田 恒
客員助教	平澤 雅敏

### 外科（血管・呼吸・腫瘍）

講 師	宮城 久之
	菊地 信介
助 教	吉田 有里（救急兼務）
	竜川 貴光
	高橋 一輝
	石井 大介
	大平 成真
	伊藤 茜

## II. 研究業績紹介

教室の血管外科部門では、主として末梢動脈疾患の治療に関する臨床研究の成果を欧文誌、和文誌や国内外の学会に報告している。特に末梢動脈疾患の最重症型である包括的高度慢性下肢虚血（CLTI）に対する血行再建術式や術後の潰瘍治癒、歩行機能維持など血行再建のアウトカムに関する臨床研究を行って国際的に認知されてきた。また、3年ほど前から動脈硬化疾患と流血中のエクソソームとの関係を研究しており、重症度や予後が非常に多様な CLTI 患者集団において、術後早期の心血管イベント発生や生命予後の良し悪しを予測するエクソソームの抽出、miRNA の同定を行っている。基礎研究においても、エクソソーム研究を東京医科大学の研究室と共同で進めており、これとは別に血管再生についても学内での連携などを基盤に基礎研究を進めている。加えて、閉塞性動脈疾患や破裂動脈瘤に関する多施設臨床研究をリードし、解析結果を報告してきた。さらに、大動脈緊急症に対する ICT を活用した病院間画像連携の研究も国内最先端の取り組みとして報告している。また、血管外科手術手技について若手外科医教育に注力して、全国のおよび国際的なハンズオンやワークショップなどを行っており、それが評価されてドイツ血管外科学会から表彰された。

小児外科部門でも、小児外科手術の工夫や長期成績に関する臨床での報告に加え、動物モデルでの基礎実験成果も出始めており、学会発表や論文報告を増やしている。

なお、呼吸器外科および乳腺外科の研究業績については、それぞれ呼吸器センター、乳腺疾患センターとして掲載しているので、そちらを参照されたい。

### Ⅲ. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 宮城 久之,石井 大介, 石井 聖也, 元木 恵太	【高位・中間位鎖肛手術術式の成績と問題点アップデート】中間位鎖肛に対する肛門挙筋を切らない Stephens-Smith 手術の長期成績	小児外科	2022.07

### Ⅳ. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等名称	発行年月
1) 久保靖憲,松野直徒,中川直樹,内田大貴,玉木岳,高橋裕之,黒坂友里恵,安藤伸,谷野美智枝,柿崎秀宏,松尾英樹,東信良,田崎嘉一	Tacrolimus 除放製剤を服用中に腎毒性を示した腎移植症例における CYP3A5 遺伝子 *1allele と肥満サルコペニアの意義	『移植』	2022
2) 東 信良	特集 CLTI の足病診療の実際 診る 2 CLTI の診断と分類	Heart View	2022
3) Tetsuro Miyata , Hiraku Kumamaru , Shinsuke Mii , Naoko Kinukawa , Hiroaki Miyata , Kunihiro Shigematsu , Nobuyoshi Azuma , Atsuhisa Ishida , Yuichi Izumi , Yoshinori Inoue , Hisashi Uchida , Takao Ohki , Sosei Kuma , Koji Kurosawa , Akio Kodama , Hiroyoshi Komai , Kimihiro Komori , Takashi Shibuya , Shunya Shindo , Ikuo Sugimoto , Juno Deguchi , Katsuyuki Hoshina , Maeda Hideaki , Hirofumi Midorikawa , Terutoshi Yamaoka , Hiroya Yamashita , Yasuhiro Yunoki	Prediction Models for Two Year Overall Survival and Amputation Free Survival After Revascularisation for Chronic Limb Threatening Ischaemia	European journal of vascular and Endovascular surgery	2022.10

- |    |  |   |  |         |
|----|--|---|--|---------|
| 4) | Naohiro Wakabayashi, Shinsuke Kikuchi, Naoya Kuriyama, Yuta Kikuchi, Masahiro Tsutsui, Hayato Ise, Yuri Yoshida, Daiki Uchida, Atsuhiko Koya, Tomonori Shirasaka, Nobuyoshi Azuma, Hiroyuki Kamiya   | The Impact of Chronic Limb-Threatening Ischemia on Cardiac Surgery  | Frontiers in Surgery                             | 2022.04 |
| 5) | Kazuki Takahashi , Shinsuke Kikuchi , Ai Tochikubo-Suzuki , Yuri Yoshida , Daiki Uchida , Atsuhiko Koya , Kazuya Kato , Nobuyoshi Azuma  | Traumatic Superficial Femoral Arteriovenous Fistula with Pulsatile Mass and Leg Pain 60 Years after Stabbing Injury                                     | Annals of Vascular Diseases                      | 2022.06 |
| 6) | 菊地信介, 若林尚宏, 栗山直也, 菊池悠太, 筒井真博, 伊勢隼人, 吉田有里, 内田大貴, 古屋敦宏, 白坂知識, 東信良, 紙谷寛之  | 包括的高度慢性下肢虚血が開心術に与える影響   | 北海道外科雑誌  | 2022.06 |
| 7) | Masahiko Fujihara , Naoya Kurata , Yuko Yazu , Shinsuke Mori , Yusuke Tomoi , Kazunori Horie , Tatsuya Nakama , Takuya Tsujimura , Aya Nakata , Osamu Iida , Shinjo Sonoda , Sho Torii , Takayuki Ishihara , Nobuyoshi Azuma , Kazushi Urasawa , Takao Ohki , Kimihiro Komori , Kimihiko Kichikawa , Hiroyoshi Yokoi , Masato Nakamura | Clinical expert consensus document on standards for lower extremity artery disease of imaging modality from the Japan Endovascular Treatment Conference | Cardiovascular Intervention and therapeutics     | 2022.07 |
| 8) | Yuki Kimura , Hiroshi Ohtsu , Naohiro Yonemoto , Nobuyoshi Azuma , Kazuhiro Sase   | Endovascular versus open repair in patients with abdominal aortic aneurysm:   | BMJ surgery, interventions,& health technologies | 2022.07 |

		a claims-based data analysis in Japan		
9)	Yohei Ichikawa,Shinsuke Kikuchi, Yuri Yoshida, Daiki Uchida, Atsuhiro Koya, Nobuyoshi Azuma,	Lateral approach to distal peroneal artery without fibular resection	Journal of Vascular Surgery Cases, Innovations and Techniques	2022.09
10)	Shinsuke Kikuchi , Daiki Uchida , Kazuki Takahashi , Yuri Yoshida , Ai Tochikubo-Suzuki , Tomoki Nakatsu , Mineko Higuchi , Nobuyoshi Azuma , Kazuya Kato	Wound Healing on the Cutting Plane of Ankle Bones after Incomplete Revascularization for Chronic Limb-Threatening Ischemia in an Elderly Patient: A Case Report	Annals of vascular diseases	2022.09
11)	Keisuke Miyake , Nobuyoshi Azuma , Chugo Rinoie , Shusaku Maeda , Akima Harada , Liu Li , Itsunari Minami , Shigeru Miyagawa , Yoshiki Sawa	Regenerative Effect of Umbilical Cord-Derived Mesenchymal Stromal Cells in a Rat Model of Established Limb Ischemia	Circulation journal	2023.02
12)	Mitsuyoshi Takahara , Osamu Iida , Norihiko Ohura , Yoshimitsu Soga , Terutoshi Yamaoka , Nobuyoshi Azuma	Social isolation in patients with chronic limb-threatening ischemia: a cross-sectional study	Multicenter Study	2023.02
13)	Mitsuyoshi Takahara , Osamu Iida , Norihiko Ohura , Yoshimitsu Soga , Terutoshi Yamaoka , Nobuyoshi Azuma	Injury Precipitating Tissue Loss and Time to Referral to a Vascular Center in Patients with Chronic Limb-Threatening Ischemia	Multicenter Study	2023.03
14)	Natsuya Ishikawa , Masahiko Narita , Tomonori Shirasaka , Ryouhei Ushioda , Masahiro Tsutsui , Nobuyoshi Azuma , Hiroyuki Kamiya	Role of Helicopter Transfer and Cloud-Type Imaging for Acute Type A Aortic Dissection	The Thoracic and cardiovascular surgeon	2023.03

15) Minato M, Honda S, Miyagi H, Taketomi A.	Functional analysis of OCIAD2 in hepatoblastoma.	Genet. Mol. Res.	2022
16) Fukui S, Miyagi H*, Ishii D, Hirasawa M, Hirano Y.	Huge chest wall tumor detected incidentally owing to upper airway symptoms.	Pediatr Int.	2022
17) 若林 伊織, 石羽澤 映美, 吉田 陽一郎, 長森 恒久, 石井 大介, 宮城 久之, 平澤 雅敏, 高橋 悟	多数のネオジム磁石誤飲により多発腸管穿孔を生じた乳児	日本小児科学会雑誌	2022.09
18) Tomoki Nakatsu, Shinsuke Kikuchi, Hiroyuki Miyamoto, and Fumiaki Kimura	Endovascular Reintervention for Stent-Graft Dislocation after Open Surgical Conversion for Thoracoabdominal Aortic Aneurysm Treated by Thoracic Endovascular Aortic Repair	Vascular Specialist International	2022.12
19) Ono H, Honda S, Miyagi H, Minato M, Ara M, Kondo T, Okumura K, Okada T, Taketomi A.	Management of severe symptomatic abdominal lymphatic malformation complicated by abscess formation, protein-losing gastroenteropathy, and bleeding	Annals of Pediatric Surgery	2022.12
20) 宮城久之, 田中 潔, 澤井利夫, 島 秀樹, 鈴木 完, 中目 和彦, 好沢 克, 坂井幸子, 臼井秀仁, 小林めぐみ, 古川泰三, 星野真由美, 高見澤滋, 今治玲助, 米倉竹夫	「新型コロナウイルス感染症による小児外科診療への影響アンケート調査」報告	日本小児科学会雑誌	2023.02
21) 眞岸克明, 大平成真, 清水紀之, 和泉裕一	骨盤腔内交叉バイパスで人工血管が膀胱を貫通した1例	日本心臓血管外科学会雑誌	2023.03
22) 佐藤七海, 石井大介, 宮城久之, 石井 聖也, 元木 恵太, 竹田津未生, 徳光亜矢, 林 時仲, 本村勅子, 阿部由希子, 佐古澄子, 長森恒久, 下坂佳苗,	重症心身障害児者施設入所者に偶発的に見つかった肺癌に対し多職種カンファレンスを導入して外科的治療を施行した一例	北海道外科雑誌	2022.12

木田涼太郎, 北田正博, 平澤  
雅敏

- 23) 宮城久之, 石井 大介, 石井 直腸肛門奇形（鎖肛）に対す  
聖也, 元木 恵太 ける括約筋群を切らない  
Stephens-Smith 手術 北海道外科雑誌 2022.12

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 倉光泰子、蒔田陽平	PICU 小児集中治療室（上）（下）	扶桑社文庫	2022
2) 東 信良	特集 CLTI の足病診療の実際 診 る 2 CLTI の診断と分類	メジカルビュー 社	2022.07
3) (委員長)東信良、(班 員)菊地信介	重症化予防のための足病診療ガイド ライン	南江堂	2022.09

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演 会等の名称	発表年月
1) 東 信良	Treatment of Ruptured Abdominal Aortic Aneurysm in Japan	第 50 回 日本血 管外科学会学術総 会	2022.05
2) 竜川貴光、東信良	毛細血管を構成する周皮細胞 は骨格筋組織の維持機構に重 要である	第 50 回 日本血 管外科学会学術総 会	2022.05
3) 菊地信介、内田大貴、浦 本孝幸、高橋一輝、大平 成真、竜川貴光、吉田有 里、東信良	神経ブロック下末梢バイパス 術の成績と Global Vascular Guideline を踏まえた適応拡大	第 122 回 日本外 科学会定期学術集 会	2022.04
4) 水上奨一朗、高橋裕之、 松野直徒、内田大貴、玉 木岳、安達雄輝、菊地信 介、萩原正弘、和田直 樹、今井浩二、柿崎秀 宏、東信良、横尾英樹	地域密着型多職種合同チーム による安全確実な生体腎移植 プログラム体制	第 122 回 日本外 科学会定期学術集 会	2022.04
5) 内田大貴、高橋一輝、大 平成真、吉田有里、菊地 信介、東信良	破裂性 AAA と腹部コンパート メント（ACS）～開腹マネジ メント（OAM）の有効性	第 30 回 日本大 動脈外科研究会	2022.04
6) 東 信良	末梢血管疾患に対する open surgery の醍醐味	第 50 回 日本血 管外科学会学術総 会	2022.05

7)	東信良、宮田哲郎、古森公浩	末梢動脈バイパス手術－手術手技の伝承－	第 122 回 日本外科学会定期学術集会	2022.04
8)	Nobuyoshi Azuma	Promoting and Standardizing Distal Bypass Surgery as Vascular Society's Project : Challenges especially in the Era of Pandemics	2022 VASCULAR ANNUAL MEETING(Boston)	2022.06
9)	Nobuyoshi Azuma	Wound-directed Angiosome Revascularization approach to patients with critical limb ischemia- Prospective multicenter observational study-	Japan Endovascular Treatment Conference 2022	2022.06
10)	東 信良	維持期 DOAC の至適容量	Japan Endovascular Treatment Conference 2022	2022.06
11)	浦本孝幸、菊地信介、神野浩史、高橋一輝、吉田有里、内田大貴、東信良、三井宣幸、真田隆広、尾崎博一	右総頸動脈起始部狭窄症に対してカットダウン下逆行性アプローチで総頸動脈ステントを留置した 1 例	第 127 回日本循環器学会北海道地方会	2022.06
12)	吉田有里、菊地信介、神野浩史、浦本孝幸、高橋一輝、大平成真、内田大貴、日野岡蘭子、宮本郁未、徳原教、東信良	遠隔医療モバイル端末を用いた施設間医療連携によって、重症下肢虚血患者の治療を行った 1 例	第 127 回日本循環器学会北海道地方会	2022.06
13)	東 信良	心不全合併 PAD 患者さんにおける周術期管理	第 11 回 十勝 iVT セミナー	2022.06
14)	東 信良	理想の MDC team とは？	Japan Endovascular Treatment Conference 2022	2022.06
15)	Nobuyoshi Azuma	CLTI Treatment in Japan: Role of Distal Bypass Remains Important	SEC2022 第十五届中国南方血管大会	2022.07



16) 東 信良	PADのガイドラインの変遷 および透析患者の包括的高度 慢性下肢虚血における創傷～ 本邦の透析患者の実臨床に適 した診断および治療ガイドの 探求	第 67 回日本透析 医学会学術集会・ 総会	2022.07
17) 大平成真、内田大貴、神 野浩史、横山倫之、浦本 孝幸、高橋一輝、竜川貴 光、吉田有里、菊地信 介、東信良	当院における PAPS 第 1 例目 の経験	第 21 回内視鏡下 静脈疾患治療研究 会	2022.07
18) 東 信良	distal bypass の手技と戦略	日本心臓血管外科 学会 U-40 北海道 支部 Basic Lecture Course (BLC)	2022.08
19) 東 信良	今更聞けない：ALI のコンパ ートメントの適応と減張切開 の方法	第 17 回 Japan Endovascular Symposium	2022.08
20) Nobuyoshi Azuma	Data on the relationship between Wifl staging and important clinical outcomes in patients with CLTI	米国血管外科学会 Web 講演会	2022.09
21) 淵澤京慶、菊地信介、吉 田有里、浦本孝幸、高橋 一輝、内田大貴、東信良	Klippel-Trenanay-Weber 症候 群を背景とした大腿部動静脈 瘻破裂による巨大血腫の切除 経験	第 5 回 北海道外 科関連学会機構合 同学術集会 (HOPES2022) 第 111 回 北海道 外科学会第 106 回 日本胸部外科学会 北海道地方会	2022.09
22) Kazuki Takahashi,Shinsuke Kikuchi,Takayuki Uramoto,Seima Ohira,Takamitsu Tatsukawa,Yuri Yoshida,Daiki	Significance of predicting prognoses of chronic limb- threatening ischemia patients using a prognostic risk calculator	esvs 36TH ANNUAL MEETING	2022.09

Uchida,Nobuyoshi

Azuma

- 23) 高橋一輝、菊地信介、神野浩史、横山倫之、浦本孝幸、大平成真、竜川貴光、吉田有里、内田大貴、東信良  
下肢潰瘍を呈する高位大動脈 - 腸骨動脈閉塞病変 (AIOD) に対して Covered Endovascular Reconstruction of the Aortic Bifurcation(CERAB)technique により救肢しえた 1 例  
第 5 回 北海道外科関連学会機構合同同学 (HOPES2022) 第 111 回 北海道外科学会第 106 回 日本胸部外科学会北海道地方会第 41 回 日本血管外科学会北海道地方会  
2022.09
- 24) 浦本孝幸、内田大貴、神野浩史、横山倫之、高橋一輝、吉田有里、菊地信介、東信良、永田真莉乃、谷野美智枝  
術前コイル塞栓後に外科的瘤切除術を施行した巨大鎖骨下動脈側枝仮性動脈瘤の 1 例  
第 5 回 北海道外科関連学会機構合同同学術集会 (HOPES2022) 第 111 回 北海道外科学会  
2022.09
- 25) 神山藤吾、菊地信介、神野浩史、横山倫之、浦本孝幸、高橋一輝、大平成真、竜川貴光、吉田有里、内田大貴、東信良  
深部静脈血栓症、外腸骨動脈狭瘻をきたした内腸骨動脈静脈瘻に伴う内腸骨静脈瘤の加療経験  
第 5 回 北海道外科関連学会機構合同同学 (HOPES2022 第 111 回 北海道外科学会  
2022.09
- 26) 高橋一輝、浦本孝幸、神野浩史、林利彦、山尾健、西尾卓哉、宮田明久生、宮田夏実  
両側足部動脈病変を合併する CLTI に対して外側足根骨動脈バイパスと遊離広背筋皮移植術を含めた形成外科的治療介入にて救肢できた症例  
第 5 回 北海道外科関連学会機構合同同学 (HOPES2022) 第 111 回 北海道外科学会第 106 回 日本胸部外科学会北海道地方会第 41 回 日本血管外科学会北海道地方会  
2022.09
- 27) 菊地信介、内田大貴、浦本孝幸、横山倫之、神野浩史、大平成真、竜川貴光、吉田有里、東信良  
CLTI に対する末梢バイパスによる血行再建と創傷治療に向けた診療連携  
第 63 回 日本脈管学会総会  
2022.10

28) Azuma Nobuyoshi	Revascularization strategy for CLTI-based on Japanese observational study	30th WORLD CONGRESS International Union of Angiology	2022.10
29) Daiki UCHIDA	Significance of assessing pedal arterial anatomic factors in para/intra-malleolar bypass surgery for CLTI patients	ASVS 2022	2022.1
30) 菊地信介、竜川貴光、高橋一輝、大平成真、栗山直也、吉田有里、内田大貴、吉岡祐亮、落合孝広、東信良	大状在静脈壁構成細胞内のコミュニケーションにおけるエクソソームの関与	第9回 日本細胞外小胞学会	2022.1
31) 栗山直也、吉岡祐亮、菊地信介、東信良、落合孝広	動脈硬化性病変由来細胞外小胞が血管内皮細胞をはじめとした血管構成細胞へ与える影響	第9回 日本細胞外小胞学会	2022.1
32) 東 信良	末梢動脈疾患ガイドラインおよび足病診療ガイドラインのエッセンス	第4回日本フットケア・足病医学会九州・沖縄地方会 学術集会足のオリンピック～100年 足でかよう～	2022.1
33) Nobuyoshi Azuma	Distal Bypass Under Nerve Block without General Anesthesia Improves Results of Bypasses for High risk CLTI patients	49th Veithsymposium	2022.11
34) Nobuyoshi Azuma	Distal Bypasses Under Nerve Block Without General Anesthesia Improves Results Of Bypasses For CLTI	VEITH SYMPOSIUM Connecting The Vascular Community 49th	2022.11
35) 竜川貴光、鹿野耕平、中島恵一、矢澤隆志、鹿原	NG2 陽性周皮細胞は筋核供給を介して骨格筋-遅筋線維の維持に寄与している	第45回 日本分子生物学会年会	2022.11

真樹、江口良二、東信  
良、川辺淳一

- |   |  |  |         |
|---|--|--|---------|
| 36) Nobuyoshi Azuma   | The Japanese SPINACH Registry Shows Why Wifl Wound Severity Helps To Select Open Versus Endovascular Treatment And Predicts Patient Survival | VEITH SYMPOSIUM Connecting The Vascular Community 49 t h | 2022.11 |
| 37) 田丸裕也、菊地信介、浦本孝幸、高橋一輝、鎌田啓輔、吉田有里、内田大貴、稲葉雅史、東信良                         | 重症下肢虚血をきたした Pseudo-Kapoji Sarcoma の一治験例  | 第 128 回 日本循環器学会北海道地方会 (第 102 回北海道医学大会循環器分科会)             | 2022.11 |
| 38) 東 信良  | CLTI に対する下肢動脈血行再建術の現状と課題   | 第 3 回 日本フットケア・足病医学会年次学術集会<br>「New Horizon 足の新時代へ」        | 2023.02 |
| 39) 日野岡蘭子、中村智美、菊地信介、内田大貴、吉田有里、高橋一輝、神野浩史、横山倫之、浦本孝幸、大平成真、西尾卓哉、山尾健、林利彦、東信良 | CLTI の広範囲組織欠損に対する遊離広背筋皮弁術後管理を行った 5 症例  | 第 3 回 日本フットケア・足病医学会年次学術集会<br>「New Horizon 足の新時代へ」        | 2023.02 |
| 40) 内田大貴、菊地信介、鎌田啓輔、神野浩史、高橋一輝、吉田有里、東信良                                   | Pedal branch artery bypass による救肢治療の実際  | 第 3 回 日本フットケア・足病医学会年次学術集会<br>「New Horizon 足の新時代へ」        | 2023.02 |
| 41) 日野岡蘭子、菊地信介、吉田有里、高橋一輝、神野浩史、大平成真、竜川貴光、内田大貴、東信良                        | 医師とのタスクシフト・シェアを実現する特定行為研修修了看護師の実践～血管外科医師と協働～   | 第 3 回 日本フットケア・足病医学会年次学術集会<br>「New Horizon 足の新時代へ」        | 2023.02 |
| 42) 東 信良  | 重症化予防に重点をおいた足病ガイドライン-発刊までの道のりと将来への展望-  | 第 3 回 日本フットケア・足病医学会年次学術集会                                | 2023.02 |

			「New Horizon 足の新時代へ」	
43)	東 信良	Highlights of 2022 JCS/JSVS Clinical Practice for Peripheral Arterial Disease	第 87 回日本循環器学会学術集会	2023.03
44)	竜川貴光、吉田有里、東信良、川辺淳一	NG2 陽性毛細血管周皮細胞は筋幹細胞として骨格筋－遅筋維持に必要である	第 53 回 日本心臓血管外科学会学術総会	2023.03
45)	浦本孝幸、菊地信介、横山倫之、神野浩史、高橋一輝、大平成真、竜川貴光、吉田有里、内田大貴、東信良	ウシ心膜パッチ (Xenosure) は大腿動脈血栓内膜摘除術で自家静脈の代用となるかの検討	第 53 回 日本心臓血管外科学会学術総会	2023.03
46)	東 信良	大動脈緊急症医療体制における ICT 活用 その普及への道のり	第 53 回 日本心臓血管外科学会学術総会	2023.03
47)	吉田有里、菊地信介、内田大貴、東信良	血管外科での地域医療連携と専門医療の在り方－広大な医療圏での包括的治療－	第 53 回 日本心臓血管外科学会学術総会	2023.03
48)	東 信良	循環器病対策基本法 WG 大動脈緊急症に対する医療体制の在り方	第 53 回 日本心臓血管外科学会学術総会	2023.03
49)	内田大貴、菊地信介、神野浩史、高橋一輝、鎌田啓輔、吉田有里、東信良	破裂性腹部大動脈瘤 (r A A) に対する地方型施設における救命への取り組み	第 53 回 日本心臓血管外科学会学術総会	2023.03
50)	栗山直也、菊地信介、吉岡祐亮、高橋一輝、鎌田啓輔、竜川貴光、大平成真、吉田有里、内田大貴、落谷孝広、東信良	末梢動脈疾患における細胞外小胞由来 miRNA のバイオマーカーとしての可能性	第 53 回 日本心臓血管外科学会学術総会	2023.03
51)	浦本孝幸、菊地信介、高橋一輝、大平成真、竜川貴光、吉田有里、内田大貴、東信良	大腿動脈血栓内膜摘除術にウシ心膜パッチ (Xenosure) を用いる有用性の検討	第 122 回 日本外科学会定期学術集会	2022.04
52)	石井大介、宮城久之、石井聖也、元木恵太、平澤雅敏	当科における GERD に対する腹腔鏡下 Thal 法(前方部分ラッピングによる噴門形成術)の実践	第 122 回日本外科学会定期学術集会	2022.04

53)	Miyagi H, Ikeda T, Honda S, Takakuwa E, Ara WM, Ishii D, Ishii S, Motoki D, Hirasawa M	3D histopathological reconstruction in an ARM murine model.	The 59th Annual Meeting of the Japanese Society of Pediatric Surgeons	2022.05
54)	Daisuke Ishii	Evaluation of the efficacy of end-ischemic HOPE using an originally developed machine perfusion device for split-liver transplantation in a porcine model	the 2022 Joint International Congress of ILTS	2022.05
55)	菊地信介, 内田大貴, 浦本孝幸, 高橋一輝, 大平成真, 竜川貴光, 吉田有里, 東信良	The current Japanese situation of chronic limb-threatening ischemia	第 50 回 日本血管外科学会学術総会	2022.05
56)	高橋一輝, 菊地信介, 浦本孝幸, 大平成真, 吉田有里, 内田大貴, 東信良	カリキュレーターによる Chronic limb threatening ischemia 患者の予後予測の意義	第 50 回 日本血管外科学会学術総会	2022.05
57)	石井大介, 松野直徒, 宮城久之, 石井聖也, 元木恵太, 平澤雅敏	分割過小肝グラフトに対する短時間低温酸素化灌流保存法の有効性の検討	第 59 回日本小児外科学会学術集会	2022.05
58)	浦本孝幸, 菊地信介, 高橋一輝, 大平成真, 竜川貴光, 吉田有里, 内田大貴, 東信良	大腿動脈血栓内膜摘除術にウシ心膜パッチ (Xenosure) を用いる有用性の検討	第 50 回日本血管外科学会学術総会	2022.05
59)	宮城久之, 石井大介, 石井聖也, 元木恵太, 平澤雅敏	地域における小児外科・小児救急医療への ICT 活用ー日本最北端小児外科医の試み	第 59 回日本小児外科学会学術集会	2022.05
60)	石井大介, 宮城久之, 石井聖也, 元木恵太, 上野直美, 日野岡蘭子, 平澤雅敏	当科における臍人工肛門造設術の工夫と有用性の検討	第 59 回日本小児外科学会学術集会	2022.05
61)	内田大貴, 菊地信介, 浦本孝幸, 高橋一輝, 大平成真, 吉田有里, 東信良	動脈解剖学的側面から見た足関節動脈バイパスハイリスク例の手術戦略	第 50 回 日本血管外科学会学術総会	2022.05
62)	吉田有里, 菊地信介, 浦本孝幸, 高橋一輝, 大平	包括的高度慢性下肢虚血 (CLTI) の血行再建と包括的	第 50 回 日本血管外科学会学術総会	2022.05

	成真, 竜川貴光, 内田大貴, 東信良	治療－広大な医療圏における救肢への取り組み－		
63)	Miyagi H, Ishii S, Hirasawa M, Miyamoto K	Postoperative Cholangitis and Roux-en-Y Hepaticojejunostomy with Artificial Intestinal Valves (RYHAIV) in patients with Congenital Biliary Dilation (CBD).	The 2nd BARD (Biliary Atresia and Related Diseases) conference	2022.06
64)	吉田有里, 菊地信介, 神野浩史, 浦本孝幸, 高橋一輝, 大平成真, 内田大貴, 日野岡蘭子, 宮本郁未, 徳原教, 東信良	遠隔医療モバイル端末を用いた施設間医療連携によって、重症下肢虚血患者の治療を行った1例	第127回日本循環器学会北海道地方会	2022.06
65)	吉田有里, 菊地信介, 神野浩史, 浦本孝幸, 高橋一輝, 大平成真, 内田大貴, 日野岡蘭子, 宮本郁未, 徳原教, 東信良	遠隔医療モバイル端末を用いた施設間医療連携によって、重症下肢虚血患者の治療を行った1例	第127回日本循環器学会北海道地方会	2022.06
66)	大平成真, 内田大貴, 神野浩史, 横山倫之, 浦本孝幸, 高橋一輝, 竜川貴光, 吉田有里, 菊地信介, 東信良	当院における PAPS 第1例目の経験	第21回内視鏡下静脈疾患治療研究会	2022.07
67)	宮城久之, 石井大介, 石井聖也, 元木恵太, 平澤雅敏	日本最北端の小児外科医による救急医療体制への取り組み	第35回日本小児救急医学会学術集会	2022.07
68)	神野浩史, 内田大貴, 横山倫之, 浦本孝幸, 高橋一輝, 大平成真, 竜川貴光, 吉田有里, 菊地信介, 東信良	腹部大動脈瘤破裂の診断で緊急ステントグラフト挿入術を施行した後に判明した後腹膜腫瘍の一例	第41回日本血管外科学会北海道地方会	2022.09
69)	高橋一輝, 菊地信介, 神野浩史, 横山倫之, 浦本孝幸, 大平成真, 竜川貴光, 吉田有里, 内田大貴, 東信良	下肢潰瘍を呈する高位大動脈-腸骨動脈閉塞病変 (AIOD) に対して Covered Endovascular Reconstruction of the Aortic Bifurcation(CERAB)technique により救肢しえた1例	第5回 北海道外科関連学会機構合同学術集会 (HOPES 2022)	2022.09

70)	高橋一輝, 菊地信介, 神野浩史, 横山倫之, 浦本孝幸, 大平成真, 竜川貴光, 吉田有里, 内田大貴, 東信良	下肢潰瘍を呈する高位大動脈 - 腸骨動脈閉塞病変 (AIOD) に対して Covered Endovascular Reconstruction of the Aortic Bifurcation(CERAB)technique により救肢しえた 1 例	第 5 回 北海道外科関連学会機構合同学術集会	2022.09
71)	浦本孝幸, 内田大貴, 神野浩史, 横山倫之, 高橋一輝, 吉田有里, 菊地信介, 東信良, 永田真莉乃, 谷野美智枝	術前コイル塞栓後に外科的瘤切除術を施行した巨大鎖骨下動脈側枝仮性動脈瘤の 1 例	第 5 回 北海道外科関連学会機構合同学術集会 (HOPES 2022)	2022.09
72)	神山藤吾, 菊地信介, 神野浩史, 横山倫之, 浦本孝幸, 高橋一輝, 大平成真, 竜川貴光, 吉田有里, 内田大貴, 東信良	深部静脈血栓症、外腸骨動脈狭窄をきたした内腸骨動脈静脈瘻に伴う内腸骨静脈瘤の加療経験	第 5 回 北海道外科関連学会機構合同学術集会 (HOPES 2022)	2022.09
73)	神山藤吾, 菊地信介, 神野浩史, 横山倫之, 浦本孝幸, 高橋一輝, 大平成真, 竜川貴光, 吉田有里, 内田大貴, 東信良	深部静脈血栓症、外腸骨動脈狭窄をきたした内腸骨動脈静脈瘻に伴う内腸骨静脈瘤の加療経験	第 41 回 日本血管外科学会北海道地方会	2022.09
74)	神野浩史, 内田大貴, 横山倫之, 浦本孝幸, 高橋一輝, 大平成真, 竜川貴光, 吉田有里, 菊地信介, 東信良	腹部大動脈瘤破裂の診断で緊急ステントグラフト挿入術を施行した後に判明した後腹膜腫瘍の一例	第 122 回 日本臨床外科学会北海道支部例会	2022.09
75)	横山倫之, 菊地信介, 東信良, 内田大貴, 吉田有里, 竜川貴光, 大平成真, 高橋一輝, 浦本孝幸, 神野浩史, 林利彦, 山尾健, 西尾卓哉, 宮田明久生, 宮田夏実	両側足部動脈病変を合併する CLTI に対して外側足根骨動脈バイパスと遊離広背筋皮移植術を含めた形成外科的治療介入にて救肢できた症例	第 5 回 北海道外科関連学会機構合同学術集会	2022.09
76)	横山倫之, 菊地信介, 東信良, 内田大貴, 吉田有里, 竜川貴光, 大平成真, 高橋一輝, 浦本孝幸, 神野浩史, 林利彦, 山尾健, 西尾卓哉, 宮田明久生, 宮田夏実	両側足部動脈病変を合併する CLTI に対して外側足根骨動脈バイパスと遊離広背筋皮移植術を含めた形成外科的治療介入にて救肢できた症例	第 41 回 日本血管外科学会北海道地方会	2022.09



77)	石井大介、平澤雅敏、石井聖也、元木恵太、上野直美、日野岡蘭子、宮城久之	臍部人工肛門閉鎖創の整容性の検討	HOPES2022	2022.09
78)	石井大介、石井聖也、元木恵太、宮城久之	GERD に対する腹腔鏡下 Thal 法(前方部分ラッピングによる噴門形成術)の有用性	PSJM2022	2022.10
79)	宮城 久之	ヒルシュスプルング病の排便管理	NPO 法人手術を受けた子どもの成長支援市民公開講座	2022.1
80)	石井 大介	小腸機械灌流のための基礎検討	第 58 回日本移植学会総会	2022.1
81)	菊地信介、竜川貴光、高橋一輝、大平成真、栗山直也、吉田有里、内田大貴、吉岡祐亮、落合孝広、東信良	大状在静脈壁構成細胞内のコミュニケーションにおけるエクソソームの関与	第 9 回 日本細胞外小胞学会	2022.10
82)	栗山直也、吉岡祐亮、菊地信介、東信良、落合孝広	動脈硬化性病変由来細胞外小胞が血管内皮細胞をはじめとした血管構成細胞へ与える影響	第 9 回日本細胞外小胞学会	2022.10
83)	宮城久之、石井大介、石井聖也、元木恵太、福井晨介、櫻井由香里、鳥海尚久、湯澤明夏、谷野美智枝、更科岳大	乳児腎腫瘍 4 例の検討	第 64 回日本小児血液・がん学会学術集会	2022.11
84)	Shinsuke Kikuchi	Deep Venous Arterialization(DVA)in CLTI	VESSEL The14th Update 2022	2022.12
85)	竜川貴光、鹿野耕平、堀内至、松尾梨沙、中島恵一、矢澤隆志、鹿原真樹、江口良二、東信良、川辺淳一	NG2 陽性周細胞は筋幹細胞として遅筋線維の維持に寄与している	第 30 回日本血管生物医学会学術集会 CVMW2022 心血管代謝週間	2022.12
86)	Shinsuke Kikuchi	Roles of EVT and Bypass in BTK lesions	VESSEL The14th Update 2022	2022.12

87) Shinsuke Kikuchi	Treatment for Acute on Chronic PAD	VESSEL The14th Update 2022	2022.12
88) 瀬戸川友紀、望月伸浩、鈴木文隆、成田昌彦、広藤愛菜、國岡信吾、筒井真博、石川成津矢、菊地信介、紙谷寛之	包括的高度慢性下肢虚血を合併する重症心疾患患者の予後予測に関する検討	第53回 日本心臓血管外科学会学術総会	2023.03
89) 中原里有、石井大介、石井聖也、元木恵太、宮城久之	発熱と咳嗽を主訴に偶然発見された巨大胸壁腫瘍の一例	第5回 北海道外科関連学会機構合同学 (HOPES2022 第111回 北海道外科学会)	2022.09
90) 伊東佳昭、石井大介、平澤雅敏、石井聖也、元木恵太、林時仲、北田正博、宮城久之	重症心身障害者の肺癌に対するACP (Advance Care Planning) の試み	第5回 北海道外科関連学会機構合同学 (HOPES2022 第111回 北海道外科学会)	2022.09
91) 本多昌平、荒桃子、近藤享史、河北一誠、大場豪、山本浩史、浜田弘巳、縫明大、宮城久之、石井大介、武富紹信	北海道における小児外科診療の現状とこれから	第122回 日本外科学会定期学術集会	2022.04
92) 元木恵太、石井大介、石井聖也、宮城久之	Hirschsprung 病術後短腸症候群に対する長期中心静脈カテーテル留置患児に対する工夫	PSJM2022	2022.10
93) 石井聖也、石井大介、元木恵太、宮城久之	胃食道逆流症で紹介され卵巣嚢腫を指摘された重症心身障害者に対する治療計画	PSJM2022	2022.10
94) 宮城久之、石井大介、石井聖也、元木恵太	直腸肛門奇形の発生および解剖に対する Bench-to-Bedside への挑戦	PSJM2022	2022.10

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
1) 東 信良	【報道関係】日経新聞「カラダづくり」脚の動脈硬化に要注意	2022.01

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
1) Nobuyoshi Azuma	Corresponding member of German Society for Vascular Surgery	German Society for Vascular Surgery (ドイツ血管外科学会)	2022.01

# 外科学講座

(心臓大血管外科学分野)

Department of Surgery

(Division of Cardiovascular Surgery)

## I. 所属教員等

### 外科学講座（心臓大血管外科学分野）

教 授	紙谷 寛之
講 師	小山 恭平
助 教	筒井 真博
	菊池 悠太
	國岡 信吾（救急兼務）
	広藤 愛菜
客員教授	山崎 健二
客員助教	横山 博一
	成田 昌彦

### 外科（心臓大血管）

講 師	石川 成津矢
助 教	潮田 亮平
	鈴木 文隆
	大久保 諒

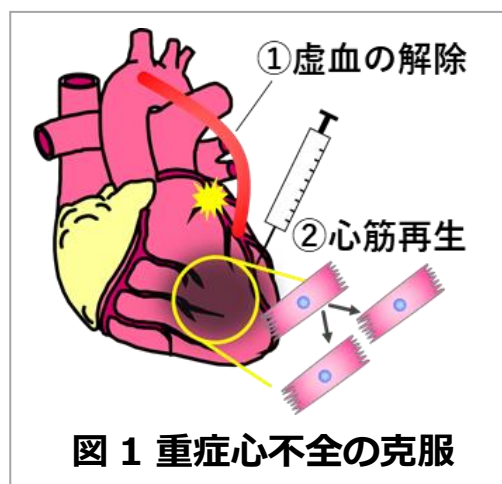
## II. 研究業績紹介

外科学講座 心臓大血管外科学分野 教授 紙谷寛之 講師 小山恭平

外科学講座心臓大血管外科学分野における研究分野は臨床研究部門と基礎研究部門の2つに分かれています。臨床研究部門は紙谷が統括しており、主に低侵襲心臓手術、弓部大動脈外科、開心術後心房細動について多数の論文を発表しています。また、若手研究者の登竜門として症例報告も重要ですが、学会で発表した演題は必ず論文化するように指導しています。継続的な努力の結果、2014年の開講以来、英文論文数は126編となっております。また、当講座での術後出血予防のための新術式に関する國岡助教が執筆した論文は心臓外科領域で世界最高権威とされるアメリカ胸部外科学会の2022年最優秀演題演題に選ばれており、臨床研究においても世界レベルで情報発信を行っております。

基礎研究分野は小山が担当しており、長年シアトルのワシントン大学で研究活動を行った知識と実績を旭川医大で展開しています。その研究の一端を紹介します。

先進国で死亡原因の上位を占める虚血性心疾患では、冠動脈閉塞による心筋虚血とそれに伴う心筋壊死が病態の本質であり、根本的な治療法を確立するためには、①虚血の解除に加えて、②失った心筋の再生が必要です(図1)。外科学講座 心臓大血管外科



学分野では、重症心不全の克服を使命と考え、これら2つの主要テーマに関して2023年度は7つの科研費とJSPS研究費を獲得し研究を行っています。

自家血管を用いた冠動脈バイパス術は、心筋虚血の解除に有効ですが、グラフトの採取に伴う侵襲やグラフト自体の質的量的問題が原因で、治療の制限となることがあります。そこで、我々は生体吸収性ナノファイバー(NF)を用いて、自家血管へと変化する人工血管の作成に取り組んでいます。2023年度、「抗血栓性を付加したNF小口径人工血管の作成方法」と「糖尿病条件下におけるNF小口径人工血管のin vivo機能性」を明らかにし、2名の学位取得者を輩出しました。

一方、血行再建術は確立された治療ですが、心筋壊死を伴う病態において心臓機能を回復させることはできません。その原因は、失った心筋を再生するのに十分な分裂能力を、心筋細胞がもっていないためです。我々は、遺伝子の使い方を決定するエピゲノムの解析から、心筋細胞の分裂制御機構を明らかにし、心筋再生治療へ応用することを目指しています。現在3名の大学院生および5名の医学部生がウイルスベクターや遺伝子改変マウス、iPS由来心筋細胞を用いて、この研究テーマに取り組んでおり、成熟心筋細胞に有糸分裂を誘導できる転写因子を発見しました(投稿準備中)。この成果は第54回日本心臓血管外科学会で最優秀賞を受賞した他、海外のKeystone Symposiaでも高く評価されています。

### Ⅲ. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

### Ⅳ. 論文

著者氏名	題目	掲載誌名称	発行年月
1) Daisuke Takeyoshi, Toshihide Asou, Yuko Takeda, Yasuko Oonakatomi, Hidetsugu Asai, Hideaki Ueda, Hiroyuki Kamiya, Tsuyoshi Tachibana	Impact of the Axillary Approach on Epicardial Pacing Lead Durability in Children	The Annals of Thoracic Surgery	2022.10
2) Daisuke Takeyoshi, Tomonori Shirasaka, Keisuke	Mesenteric Ischemia After Cardiac Surgery in Dialysis Patients: An Overlooked Risk Factor	The Heart Surgery Forum	2022.01

Shibagaki, Ryo  
 Okubo, Shingo  
 Kunioka, Yuta  
 Kikuchi, Hiroyuki  
 Kamiya

- |    |  |   |   |         |
|----|--|---|---|---------|
| 3) | Isa H, Shirasaka T,<br>Kunioka S, Kamiya<br>H  | Hemi-root replacement with<br>diagonal resection of the aortic<br>root preserving the ostium of<br>the left coronary artery and<br>sacrificing the right coronary<br>artery for an infected<br>pseudoaneurysm: a case<br>report | Journal of Surgical<br>Case Reports             | 2022.04 |
| 4) | Ise H, Ushioda R,<br>Kanda H, Kimura<br>F, Saijo Y, Akhyari<br>P, Lichtenberg A,<br>Kamiya H   | Recombinant Activated Factor<br>VII in Aortic Surgery for<br>Patients Under Hypothermic<br>Circulatory Arrest   | Therapeutics and<br>Clinical Risk<br>Management | 2022.04 |
| 5) | Naohiro<br>Wakabayashi,<br>Shinsuke Kikuchi,<br>Naoya Kuriyama,<br>Yuta Kikuchi,<br>Masahiro Tsutsui,<br>Hayato Ise, Yuri<br>Yoshida, Daiki<br>Uchida, Atsuhiko<br>Koya, Tomonori<br>Shirasaka,<br>Nobuyoshi Azuma,<br>Hiroyuki Kamiya | The Impact of Chronic Limb-<br>Threatening Ischemia on<br>Cardiac Surgery   | Frontiers in<br>Surgery                         | 2022.04 |
| 6) | Yuta Kikuchi,<br>Masahiro Tsutsui,<br>Ryohei Ushioda,<br>Tomonori<br>Shirasaka,<br>Hiroyuki Kamiya   | Bail-Out TEVAR through a<br>Branch of Four-Arm Dacron<br>Graft for Misdeployment of a<br>Frozen Elephant Trunk<br>Prosthesis  | International<br>journal of<br>Angiology        | 2022.05 |
| 7) | Suda Y, Sugawara<br>A, Kanao-Kanda   | Awake intubation for thoracic<br>aortic aneurysm causing  | JA Clinical Reports                             | 2022.06 |

	M, Shirasaka T, Kamiya H, Kanda H	esophageal stenosis with food residues and compression of the pulmonary artery and left bronchi: a case report		
8)	Masahiko Narita, Tomonori Shirasaka, Ryohei Ushioda, Hiroyuki Kamiya	Triplex vascular prostheses elongation in postoperative course	Journal of Surgical Case Reports	2022.06
9)	松井拓郎, 白坂知 識, 石堂耕平, 成田 昌彦, 潮田亮平, 菊 池悠太, 筒井真博, 石川成津矢, 紙谷寛 之	人工弁感染に対する大動脈弁置 換術後に左室-右房瘻をきたし た一例	北海道外科雑誌	2022.06
10)	潮田亮平, 成田昌 彦, 石堂浩平, 菊池 悠太, 筒井真博, 白 坂知識, 石川成津 矢, 紙谷寛之	当院における心臓外科主導によ る Impella 5.0 積極的導入の短 期成績	北海道外科雑誌	2022.06
11)	宮本寛之, 宮入聡 嗣, 石堂耕平, 成田 昌彦, 瀬戸川友紀, 広藤愛菜, 若林尚 宏, 中西仙太郎, 石 川成津矢, 紙谷寛之	当院における体外循環式心肺蘇 生法の治療成績	北海道外科雑誌	2022.06
12)	菊地信介, 若林尚 宏, 栗山直也, 菊池 悠太, 筒井真博, 伊 勢隼人, 吉田有里, 内田大貴, 古屋敦 宏, 白坂知識, 東信 良, 紙谷寛之	包括的高度慢性下肢虚血が開心 術に与える影響	北海道外科雑誌	2022.06
13)	白坂知識, 望月伸 治, 瀬戸川友紀, 鈴 木文隆, 成田昌彦, 広藤愛菜, 國岡信 吾, 筒井真博, 石川 成津矢, 紙谷寛之	令和における CABG の術者養成 旭川医大の取り組みと成績	北海道外科雑誌	2022.06



- |     |  |   |   |         |
|-----|--|---|---|---------|
| 14) | Yuta Kikuchi,<br>Kyohei Oyama,<br>Takumi Yoshida,<br>Daisuke Naruse,<br>Masahiro Tsutsui,<br>Shingo Kunioka,<br>Naohiro<br>Wakabayashi,<br>Hiroyuki Kamiya | Insulin therapy maintains the performance of PVA-coated PCL grafts in a diabetic rat model  | Biomaterials<br>Science                           | 2022.09 |
| 15) | Miyahara S, Jenke A, Yazdanyar M, Kistner J, Immohr MB, Sugimura Y, Aubin H, Kamiya H, Okita Y, Lichtenberg A, Akhyari P                                   | The combination approach with Rho-kinase inhibition and mechanical circulatory support in myocardial ischemia-reperfusion injury: Rho-kinase inhibition and ventricular unloading | Asian<br>Cardiovascular<br>and Thoracic<br>Annals | 2022.10 |
| 16) | Tomoki Nakatsu,<br>Tomonori<br>Shirasaka, Aina<br>Hirofuji, Hiroyuki<br>Kamiya   | Mitral valve replacement with papillary muscle tugging approximation in a patient with severely impaired left ventricular function 14 years after initial mitral valve repair     | Journal of Surgical<br>Case Reports               | 2022.08 |
| 17) | Naohiro<br>Wakabayashi,<br>Takumi Yoshida,<br>Kyohei Oyama,<br>Daisuke Naruse,<br>Masahiro Tsutsui,<br>Yuta Kikuchi,<br>Daisuke Koga,<br>Hiroyuki Kamiya   | Polyvinyl alcohol coating prevents platelet adsorption and improves mechanical property of polycaprolactone-based small-caliber vascular graft                                    | Frontiers in<br>Cardiovascular<br>Medicine        | 2022.08 |
| 18) | Hideki Isa,<br>Tomonori<br>Shirasaka, Shingo<br>Kunioka, Hiroyuki<br>Kamiya  | Floating fibrin mass in the left ventricle after fibrin glue use in left ventricular reconstruction: A case report  | JTCVS Techniques                                  | 2022.09 |

19)	Aina Hirofuji, Azusa Furugen, Takeshi Kamada, Kenji Yamazaki, Hiroyuki Kamiya,Hirosato Doi	Giant Coronary Aneurysm with Coronary-Pulmonary Artery Fistula in a Jehovah's Witness	The Thoracic and Cardiovascular Surgeon Reports	2023.02
20)	Masahiko Narita, Tomonori Shirasaka, Ryohei Ushioda, Hiroyuki Kamiya	Internal thoracic artery graft ipsilateral to an arteriovenous fistula for hemodialysis as a sole graft inflow in coronary bypass surgery: A case report	JTCVS Techniques	2022.09
21)	Masahiro Tsutsui, Kouhei Ishidou, Masahiko Narita, Ryohei Usioda, Yuta Kikuchi, Tomonori Shirasaka, Natsuya Ishikawa, Hiroyuki Kamiya	Modified turn-up technique for proximal anastomosis in acute aortic dissection type A has potential to facilitate stable outcomes low-volume early career surgeons	Frontiers in Surgery	2022.09
22)	Tomonori Shirasaka, Kentaro Shirakura, Yuki Setogawa, Hiroyuki Kamiya	A bail-out procedure with a surgical stapler for unsuccessful left atrium appendage clipping in minimally invasive cardiac surgery	JTCVS Techniques	2023.01
23)	Masahiko Narita, Masahiro Tsutsui, Ryouhei Ushioda, Yuta Kikuchi, Tomonori Shirasaka, Natsuya Ishikawa, Hiroyuki Kamiya	Proximal and extended aortic arch replacement in acute DeBakey type I aortic dissection	Frontiers in Surgery	2023.02
24)	Natsuya Ishikawa, Masahiko Narita, Tomonori Shirasaka,	Role of helicopter transfer and cloud-type imaging for acute type A aortic dissection	The Thoracic and Cardiovascular Surgeon	2023.03

Ryouhei Ushioda,  
Masahiro Tsutsui,  
Nobuyoshi Azuma,  
Hiroyuki Kamiya

- |     |  |  |   |         |
|-----|--|--|---|---------|
| 25) | Shingo Kunioka,<br>Naoki Tadokoro,<br>Tomoyuki Fujita,<br>Satsuki<br>Fukushima | Successful exclusion of left<br>main trunk coronary artery<br>aneurysm and concomitant<br>HeartMate 3 implantation in a<br>patient with a history of<br>infective endocarditis: a case<br>report | European Heart<br>Journal - Case<br>Reports | 2023.02 |
|-----|--|--|---|---------|

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 鈴木文隆、白坂知識、石川成津矢、筒井真博、國岡信吾、潮田亮平、広藤愛菜、成田昌彦、瀬戸川友紀、望月伸浩、紙谷寛之	部検にて類白血病性反応が指摘された ECPELLA 治療を行った急性心不全の 1 例	第 127 回 日本循環器学会北海道地方会	2022.06
2) 望月伸浩、瀬戸川友紀、鈴木文隆、成田昌彦、潮田亮平、白坂知識、石川成津矢、紙谷寛之	無冠尖バルサルバ洞内血栓症の 1 例	第 127 回 日本循環器学会北海道地方会	2022.06
3) 成田昌彦、望月伸浩、鈴木文隆、瀬戸川友紀、広藤愛菜、國岡信吾、筒井真博、白坂知識、石川成津矢、紙谷寛之	びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫に起因する炎症性胸腹部大動脈瘤の 1 例	第 5 回 北海道外科関連学会機構合同学術集会 (HOPES2022)	2022.09
4) 福田はな、広藤愛菜、望月伸浩、瀬戸川友紀、鈴木文隆、成田昌彦、國岡信吾、筒井真博、白坂知識、石川成津矢、紙谷寛之	急性心筋梗塞後の oozing rupture, 乳頭筋断裂による僧帽弁閉鎖不全症と左室瘤に対して staged therapy を行った 1 例	第 5 回 北海道外科関連学会機構合同学術集会 (HOPES2022)	2022.09

- |     |  |  |  |         |
|-----|--|--|--|---------|
| 5)  | 丸岡純、広藤愛菜、望月伸浩、瀬戸川友紀、鈴木文隆、成田昌彦、國岡信吾、筒井真博、白坂知識、紙谷寛之        | 狭心症発症を契機に診断された冠動脈肺動脈瘻より発生する 3cm 大の冠動脈瘤に対する 1 手術例                     | 第 5 回 北海道<br>外科関連学会機<br>構合同学術集会<br>(HOPES2022) | 2022.09 |
| 6)  | 橋本侑樹、広藤愛菜、望月伸浩、鈴木文隆、瀬戸川友紀、成田昌彦、國岡信吾、筒井真博、白坂知識、石川成津矢、紙谷寛之 | 重複大動脈弓と心室中隔欠損症に対して二期的に手術治療を行った 1 例                                   | 第 5 回 北海道<br>外科関連学会機<br>構合同学術集会<br>(HOPES2022) | 2022.09 |
| 7)  | 堀元美里、筒井真博、石川成津矢、白坂知識、國岡信吾、広藤愛菜、成田昌彦、鈴木文隆、瀬戸川友紀、望月伸浩、紙谷寛之 | 心原性ショックを伴った急性冠症候群に対しハートチームによる段階的治療と補助循環管理により救命できた一例                  | 第 5 回 北海道<br>外科関連学会機<br>構合同学術集会<br>(HOPES2022) | 2022.09 |
| 8)  | 清水要、広藤愛菜、望月伸浩、瀬戸川友紀、鈴木文隆、成田昌彦、國岡信吾、筒井真博、白坂知識、石川成津矢、紙谷寛之  | 心室細動を契機に診断された右冠動脈起始異常症に対して冠動脈バイパス術を施行した 1 例                          | 第 5 回 北海道<br>外科関連学会機<br>構合同学術集会<br>(HOPES2022) | 2022.09 |
| 9)  | 鈴木文隆、白坂知識、石川成津矢、筒井真博、國岡信吾、潮田亮平、広藤愛菜、成田昌彦、瀬戸川友紀、望月伸浩、紙谷寛之 | 診断に苦慮した結核性心膜炎の 1 例   | 第 5 回 北海道<br>外科関連学会機<br>構合同学術集会<br>(HOPES2022) | 2022.09 |
| 10) | 望月伸浩、鈴木文隆、瀬戸川友紀、成田昌彦、広藤愛菜、國岡信吾、筒井真博、白坂知識、石川成津矢、紙谷寛之      | 切除不能局所進行食道癌患者の大動脈食道瘻に対して姑息的 TEVAR を施行した 1 例                          | 第 5 回 北海道<br>外科関連学会機<br>構合同学術集会<br>(HOPES2022) | 2022.09 |
| 11) | 李廷娥、筒井真博、石川成津矢、白坂知識、國岡信吾、広藤愛菜、成田昌彦、鈴木文隆、瀬戸川友紀、望月伸浩、紙谷寛之  | 著名な心機能低下状態により耐術不可能と思われた大動脈弁狭窄症及び冠動脈 3 枝病変に対しハートチームによる集学的治療により救命できた一例 | 第 5 回 北海道<br>外科関連学会機<br>構合同学術集会<br>(HOPES2022) | 2022.09 |
| 12) | 瀬戸川友紀、國岡信吾、望月伸浩、鈴木文隆、成田昌彦、広藤愛菜、筒井真                       | 肺動脈圧排を伴う未破裂 Valsalva 洞動脈瘤に対し、自                                       | 第 5 回 北海道<br>外科関連学会機                           | 2022.09 |

	博、白坂知識、石川成津矢、紙谷寛之	己弁温存大動脈基部置換術を施行した1例	構合同学術集会 (HOPES2022)	
13)	白坂知識、望月伸治、瀬戸川友紀、成田昌彦、鈴木文隆、広藤愛菜、國岡信吾、筒井真博、石川成津矢、紙谷寛之	ECG-gated helical CTを用いた術前大動脈弁輪径測定により大動脈弁置換術はより安全により迅速化できる	第75回 日本胸部外科学会定期学術総会	2022.10
14)	伊佐秀貴、成田昌彦、國岡信吾、石川成津矢、紙谷寛之	フィブリン糊による心腔内異物形成の経験	第75回 日本胸部外科学会定期学術総会	2022.10
15)	田中彩乃、小山恭平、加藤宏茂、辻田悠希、アンダーソンアレックス 誠治、紙谷寛之	Cold Shock Domain Containing C2(Csdc2)の特性評価	第45回 日本分子生物学会年会	2022.11
16)	望月伸浩、瀬戸川友紀、鈴木文隆、成田昌彦、広藤愛菜、竹吉大輔、國岡信吾、筒井真博、白坂知識、石川成津矢、紙谷寛之	David-I手術後に医原性三尖弁逆流症をきたし三尖弁形成術を施行した一例	第128回 日本循環器学会北海道地方会	2022.11
17)	辻田悠希、小山恭平、広藤愛菜、潮田亮平、紙谷寛之	H3K9me3の脱メチル化によるトランスポゾンの活性化は心筋細胞の遺伝子発現に影響を与える	第45回 日本分子生物学会年会	2022.11
18)	紙谷寛之、小山恭平、筒井真博、國岡信吾、若林尚宏、広藤愛菜、吉田巧、成瀬大輔、竹吉大輔、甲賀大輔	Polycaprolactone ナノファイバー小口径人工血管の機能評価	第60回 日本人工臓器学会大会	2022.11
19)	本間祐平、本吉宣也、佐藤貴彦、天内雅人、南谷克明、宗万孝次、紙谷寛之	St.Thomas2を用いた晶質液心筋保護法と血液心筋保護法の比較：傾向スコアマッチング法を用いた解析	第60回 日本人工臓器学会大会	2022.11
20)	藤保洋祐、伊達歩、佐藤朱夏、伊與部拳太、國兼祐樹、徳野翔太、木谷祐也、河端奈穂子、簗島暁帆、坂本央、田邊康子、竹内利治、紙谷寛之、湯澤明夏	乾癬性関節炎に合併した房室ブロック、重症大動脈弁閉鎖不全症の一例	第128回 日本循環器学会北海道地方会	2022.11

21)	広藤愛菜、小山恭平、河村あさみ、田中彩乃、辻田悠希、潮田亮平、神田恵、紙谷寛之	心筋細胞の細胞周期に対する Myc の特性評価	第 45 回 日本分子生物学会年会	2022.11
22)	白坂知識、望月伸浩、鈴木文隆、瀬戸川友紀、成田昌彦、広藤愛菜、國岡信吾、筒井真博、石川成津矢、紙谷寛之	MICS 時代でも若手が習得すべき AVR は今なお classical AVR である "Asahikawa policy"	第 53 回 日本心臓血管外科学会 学術総会	2023.03
23)	潮田亮平、紙谷寛之、ナタポン アラヤウディクプル、ブンサップ サックブーン、ジャラーン チューインメタシリ	リウマチ性、変性性僧帽弁疾患に対する右小開胸低侵襲僧帽弁手術 短期成績の比較	第 53 回 日本心臓血管外科学会 学術総会	2023.03
24)	成田昌彦、望月伸浩、鈴木文隆、瀬戸川友紀、國岡信吾、筒井真博、石川成津矢、紙谷寛之	開心術後患者における便秘症の発症頻度とその危険因子に関する検討	第 53 回 日本心臓血管外科学会 学術総会	2023.03
25)	鈴木文隆、望月伸浩、瀬戸川友紀、成田昌彦、広藤愛菜、國岡信吾、筒井真博、石川成津矢、紙谷寛之	偽腔閉塞型 Stanford B 型急性大動脈解離の中長期経過の解析	第 53 回 日本心臓血管外科学会 学術総会	2023.03
26)	白坂知識、望月伸浩、鈴木文隆、瀬戸川友紀、成田昌彦、広藤愛菜、國岡信吾、筒井真博、石川成津矢、紙谷寛之	高齢者の僧帽弁手術：どのような患者群が MICS に最適か？	第 53 回 日本心臓血管外科学会 学術総会	2023.03
27)	白坂知識、望月伸浩、鈴木文隆、瀬戸川友紀、成田昌彦、広藤愛菜、國岡信吾、筒井真博、石川成津矢、紙谷寛之	次世代の CABG 術者になる為に：「On pump arrest CABG でまずやらせてみる」旭川医大	第 53 回 日本心臓血管外科学会 学術総会	2023.03
28)	石堂耕平、成田昌彦、潮田亮平、筒井真博、白坂知識、石川成津矢、紙谷寛之	術後の精密な水分管理により術後心房細動は防止できるか	第 53 回 日本心臓血管外科学会 学術総会	2023.03
29)	望月伸浩、瀬戸川友紀、鈴木文隆、成田昌彦、広藤愛菜、國岡信吾、筒井真博、	当院における急性 Stanford B 型大動脈解離に対する TEVAR による治療介入の考察	第 53 回 日本心臓血管外科学会 学術総会	2023.03

白坂知識、石川成津矢、紙谷寛之				
30) 白坂知識、望月伸浩、鈴木文隆、瀬戸川友紀、成田昌彦、広藤愛菜、國岡信吾、筒井真博、石川成津矢、紙谷寛之	当科における僧帽弁 MICS の遠隔成績	第 53 回 日本心臓血管外科学会 学術総会	2023.03	
31) 筒井真博、小山恭平、菊池悠太、國岡信吾、広藤愛菜、吉田巧、紙谷寛之	糖尿病ラットにおけるインスリン治療が生体分解性小口径人工血管与える影響の検討	第 53 回 日本心臓血管外科学会 学術総会	2023.03	
32) 横山博一、菊池悠太、白坂知識、國岡信吾、筒井真博、石川成津矢、紙谷寛之	複数のオーバーラップしたステントグラフトの血管壁に対する密着度の初期検討	第 53 回 日本心臓血管外科学会 学術総会	2023.03	
33) 紙谷寛之、小山恭平、國岡信吾、菊池悠太、吉田巧、成瀬大輔、筒井真博、若林尚宏、甲賀大輔	分解性ナノファイバーを用いた小口径人工血管の機能評価	第 53 回 日本心臓血管外科学会 学術総会	2023.03	
34) 成田昌彦、望月伸浩、鈴木文隆、瀬戸川友紀、國岡信吾、筒井真博、石川成津矢、紙谷寛之	補助循環装置抜去後の創部治癒遅延に関する検討	第 53 回 日本心臓血管外科学会 学術総会	2023.03	
35) 瀬戸川友紀、望月伸浩、鈴木文隆、成田昌彦、広藤愛菜、國岡信吾、筒井真博、白坂知識、石川成津矢、菊地信介、紙谷寛之	包括的高度慢性下肢虚血を合併する重症心疾患患者の予後予測に関する検討	第 53 回 日本心臓血管外科学会 学術総会	2023.03	

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

# 外科学講座

(肝胆膵・移植外科学分野)

Department of Surgery

(Division of Hepato-Biliary-Pancreatic and Transplant Surgery)



## I. 所属教員等

### 外科学講座（肝胆膵・移植外科学分野）

教 授 横尾 英樹  
講 師 今井 浩二  
助 教 高橋 裕之

### 外科（肝胆膵・移植）

助 教 島田 慎吾  
客員講師 萩原 正弘  
客員助教 関 美香子

### 共同研究講座（移植医工学治療開発講座）

特任教授 松野 直徒

## II. 研究業績紹介

外科学講座肝胆膵・移植外科学分野は、旧第二外科開講の頃より臨床、教育、研究の三本柱のうち、特に研究に力を注いできました。旭川医大の名を世界に知らしめた初代水戸迪郎教授による肝細胞を脾臓に移植する研究に始まり、連綿と肝胆膵領域の研究が継続されており、現在は第四代横尾英樹教授のもと、その精神は今も教室員に受け継がれています。また、当講座単独で研究を行うだけでなく、消化器内科との共同研究による複数の科研費の獲得、全国的な多施設共同試験への積極的な参加、学会主導のプロジェクト研究への参加、大学院生を国立がん研究センター研究所や当院の病院病理部へ出向させての共同研究など、多数の基礎、及び臨床研究を行って成果を上げています。また、寄付/共同研究講座である移植医工学治療開発講座では、松野直徒特任教授のもと移植臓器の灌流保存機能再生システムの開発が行われており、国内初の灌流保存装置の臨床応用が行われるとともに、その研究により多数の博士を輩出しています。

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 岩田 浩義, 寺口 博也, 高橋 裕之, 鳥海 飛鳥, 石井 大介, 大谷 将秀, 萩原 正弘, 今井 浩二, 横尾 英樹, 小原 弘道, 松野 直徒	室温機械灌流保存法の現状と今後	Organ Biology	2022.01
2) 松野 直徒, 小原 弘道	臓器保存学を我が国に取り戻すために	Organ Biology	2022.06

#### IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等名称	発行年月
1) 久保 靖憲 松野 直徒 中川 直 樹 内田 大貴 玉木 岳 高橋 裕之 黒坂 友里恵 安藤 伸 谷 野 美智枝 柿崎 秀宏 横尾 英 樹 東 信良 田崎 嘉一	Tacrolimus 徐放製剤を服用中 に腎毒性を示した腎移植症例 における CYP3A5 遺伝子*1 allele と肥満サルコペニアの意 義	移植	2022.01
2) Chuma Makoto, Yokoo Hideki, Hiraoka Atsushi, Ueda Kazuhiko, Yokoyama Takahiro, Tsuji Kunihiro, Shimada Noritomo, Uojima Haruki, Kobayashi Satoshi, Hattori Nobuhiro, Okubo Tomomi, Atsukawa Masanori, Ishikawa Toru, Takaguchi Koichi, Tsutsui Akemi, Toyoda Hidenori, Tada Toshifumi, Saito Yoshinori, Hirose Shunji, Tanaka Takaaki, Takeda Kazuhisa, Otani Masako, Sekikawa Zenjiro, Watanabe Tsunamasa, Hidaka Hisashi, Morimoto Manabu, Numata Kazushi, Kagawa Tatehiro, Sakamoto Michiie, Kumada Takashi, Maeda Shin	Identification of CT Values That Could Be Predictive of Necrosis (N-CTav) in Hepatocellular Carcinoma after Lenvatinib Treatment.	Curr Oncol	2022.05
3) Ota Yu, Aso Kazunobu, Otake Shin, Okada Mitsuyoshi, Shukuda Kounosuke, Sawada Koji, Yokoo Hideki, Tanino Mishie, Fujiya Mikihiro, Okumura Toshikatsu	Contrast-enhanced ultrasonography for the diagnosis of spontaneous necrosis of hepatocellular carcinoma: A report of 2 cases.	Radiol Case Rep	2023.01

4)	Shonaka Tatsuya, Tani Chikayoshi, Takeda Tomohiro, Otani Masahide, Ohara Mizuho, Kita Kengo, Hasegawa Kimiharu, Yokoo Hideki, Matsuno Naoto, Sumi Yasuo	The experience of 100 cases of 8K/two-dimensional laparoscopic colorectal surgery - The evaluation of 8K/two-dimensional laparoscopy and how to use it.	J Minim Access Surg	2023.01
5)	Iwata Hiroyoshi, Matsuno Naoto, Ishii Daisuke, Toriumi Asuka, Otani Masahide, Ohara Mizuho, Obara Hiromichi, Nishikawa Yuji, Yokoo Hideki	Applicability of the histidine-tryptophan-ketoglutarate solution as a machine perfusion solution for marginal liver grafts.	J Gastroenterol Hepatol	2023.02
6)	Shimada Shingo, Shamaa Tayseer, Ivanics Tommy, Kitajima Toshihiro, Collins Kelly, Rizzari Michael, Yoshida Atsushi, Abouljoud Marwan, Moonka Dilip, Lu Mei, Nagai Shunji	Liver Transplant Recipient Characteristics Associated With Worse Post-Transplant Outcomes in Using Elderly Donors.	Transpl Int	2022
7)	Adachi Y, Yokoo H, Hagiwara M, Takahashi H, Iwata H, Takeda T, Yamamoto T, Imai K, Yuzawa S, Tanino M, Matsuno N	Lymphoepithelioma-like cholangiocarcinoma not associated with Epstein-Barr virus or hepatitis virus: case report and literature review of 100 reported cases.	Therapeutic Advances in Medical Oncology	2022
8)	Shamaa Tayseer M, Kitajima Toshihiro, Ivanics Tommy, Shimada Shingo, Yeddula Sirisha, Mohamed Adhnan, Rizzari Michael, Collins Kelly, Yoshida Atsushi, Abouljoud Marwan, Nagai Shunji	Can Weather Be a Factor in Liver Transplant Waitlist and Posttransplant Outcomes? Analysis of United Network for Organ Sharing Registry.	Transplant Proc	2022.01
9)	Nagai Shunji, Ivanics Tommy, Kitajima Toshihiro, Shimada	Disparities in the Effects of Acuity Circle-based Liver Allocation on Waitlist and	Transplant Direct	2022.01

	Shingo, Shamaa Tayseer M, Collins Kelly, Rizzari Michael, Yoshida Atsushi, Moonka Dilip, Abouljoud Marwan	Transplant Practice Between Centers.		
10)	Shimada Shingo, Ivanics Tommy, Kitajima Toshihiro, Shamaa Tayseer, Rizzari Michael, Collins Kelly, Yoshida Atsushi, Abouljoud Marwan, Moonka Dilip, Zhang Jiaqi, Lu Mei, Nagai Shunji	Improvements in liver transplant outcomes in patients with HCV/HIV coinfection after the introduction of direct-acting antiviral therapies.	Transpl Infect Dis	2022.04
11)	Sakamoto Yuzuru, Shimada Shingo, Kamiyama Toshiya, Sugiyama Ko, Asahi Yoh, Nagatsu Akihisa, Orimo Tatsuya, Kakisaka Tatsuhiko, Kamachi Hirofumi, Ito Yoichi M, Taketomi Akinobu	Impact of comorbid renal dysfunction in patients with hepatocellular carcinoma on long-term outcomes after curative resection.	World J Gastrointest Surg	2022.07
12)	Shamaa Tayseer M, Shamaa Omar, Crombez Catherine, Konel Jonathan M, Kitajima Toshihiro, Shimada Shingo, Ivanics Tommy, Mohamed Adhnan, Collins Kelly, Nagai Shunji, Yoshida Atsushi, Abouljoud Marwan, Rizzari Michael	The use of normothermic liver preservation in combined liver and lung transplantation: A single-center experience.	Am J Transplant	2022.09
13)	Ichida Akihiko, Kokudo Takashi, Shimada Shingo, Hatano Etsuro, Kubo Shoji, Kato Yutaro, Ishikawa Yoshiya, Mori Akira, Baba Hideo, Matsuyama Yutaka,	Liver Resection for Hepatocellular Carcinoma with Tumor Thrombus in the Inferior Vena Cava or Right Atrium: A Large-scale	Ann Surg	2023.01

	Endo Itaru, Yamaue Hiroki, Yamamoto Masakazu, Kokudo Norihiro, Hasegawa Kiyoshi	Multicenter Survey Conducted in Japan.		
14)	Shimada Shingo, Abouljoud Marwan, Nagai Shunji	ASO Author Reflections: Pre- transplant Treatments for Patients with Hepatocellular Carcinoma Before Liver Transplantation.	Ann Surg Oncol	2023.03
15)	Shimada Shingo, Shamaa Tayseer, Ivanics Tommy, Kitajima Toshihiro, Adhnan Mohamed, Collins Kelly, Rizzari Michael, Yoshida Atsushi, Abouljoud Marwan, Salgia Reena, Nagai Shunji	ASO Visual Abstract: Multiple Pretransplant Treatments for Patients Without Pathological Complete Response may Worsen Posttransplant Outcomes in Patients With Hepatocellular Carcinoma.	Ann Surg Oncol	2023.03
16)	Shimada Shingo, Shamaa Tayseer, Ivanics Tommy, Miyake Katsunori, Kitajima Toshihiro, Rizzari Michael, Yoshida Atsushi, Abouljoud Marwan, Moonka Dilip, Nagai Shunji	Effects of the implementation of acuity circle policy on waitlist and post-transplant outcomes of liver re- transplantation.	Clin Transplant	2023.03
17)	Fukai Moto, Sakamoto Sodai, Bochimoto Hiroki, Zin Nur Khatijah Mohd, Shibata Kengo, Ishikawa Takahisa, Shimada Shingo, Kawamura Norio, Fujiyoshi Masato, Fujiyoshi Sunao, Nakamura Kosei, Shimamura Tsuyoshi, Taketomi Akinobu	Hypothermic Machine Perfusion with Hydrogen Gas Reduces Focal Injury in Rat Livers but Fails to Restore Organ Function.	Transplant Proc	2023.03
18)	Shimada Shingo, Shamaa Tayseer, Ivanics Tommy, Kitajima Toshihiro, Adhnan Mohamed, Collins Kelly, Rizzari Michael, Yoshida	Multiple Pretransplant Treatments for Patients Without Pathological Complete Response may Worsen Posttransplant	Ann Surg Oncol	2023.03

Atsushi, Abouljoud  
Marwan, Salgia Reena,  
Nagai Shunji

Outcomes in Patients with  
Hepatocellular Carcinoma.

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 島田慎吾, 北嶋俊寛, Shamaa T, Ivanics T, Collins K, Rizzari M, Yoshida A, Abouljoud M, 長井俊志.	肝細胞癌に対する肝移植の至 適タイミングー移植前治療か らみた検討.	第 122 回日本外 科学会定期学術 集会	2022.04
2) 今井浩二、安達雄輝、高橋 裕之、萩原正弘、松野直 徒、横尾英樹	膵切除周術期栄養療法の意義 膵体尾部切除後の食事開始時 期は栄養と合併症に影響を与 えるか?	第 122 回 日本外 科学会定期学術 集会	2022.04
3) Shimada S, Shamaa T, Ivanics T, Kitajima T, Adhnan M, Collins K, Rizzari M, Yoshida A, Abouljoud M, Nagai S.	Post-transplant outcomes and financial burden in donation after cardiac death donor liver transplant after the implementation of acuity circle allocation policy.	American Transplant Congress 2022	2022.06
4) Shimada S, Shamaa T, Ivanics T, Kitajima T, Adhnan M, Collins K, Rizzari M, Yoshida A, Abouljoud M, Nagai S.	Post-transplant outcomes and financial burden in donation after cardiac death donor liver transplant compared to brain-death donor.	第 34 回日本肝 胆膵外科学会学 術集会	2022.06
5) 島田慎吾, 北嶋俊寛, Shamaa T, Ivanics T, Adhnan M, Collins K, Rizzari M, Yoshida A, Abouljoud M, 長井俊志.	肝細胞癌に対する肝移植にお ける移植前治療の移植後予後 への影響.	第 77 回日本消 化器外科学会総 会	2022.07

6)	今井浩二、山本寛大、安達雄輝、高橋裕之、萩原正弘、松野直徒、横尾英樹	臍頭十二指腸切除におけるNo Drain手術の試み	第77回日本消化器外科学会総会	2022.07
7)	今井浩二、水上奨一郎、高橋裕之、松野直徒、角泰雄、横尾英樹	臍体尾部切除後の食事開始時期は術後臍瘻に影響を与えるか？	第49回日本臍切研究会	2022.08
8)	高橋裕之、安達雄輝、山本寛大、萩原正弘、今井浩二、松野直徒、横尾英樹	デジタルポスター：北海道の地方出身者である私の考える地域医療における外科医の重要性	第122回日本外科学会定期学術集会（熊本）	2022.04
9)	萩原正弘、安達雄輝、高橋裕之、今井浩二、井原一樹、堀川大介、水上奨一郎、大谷将秀、大原みずほ、谷誓良、北健吾、庄中達也、長谷川公治、松野直徒、横尾英樹	ワークショップ：当院でのopen abdomen managementの実際と工夫	第122回日本外科学会定期学術集会（熊本）	2022.04
10)	水上奨一郎、高橋裕之、松野直徒、内田大貴、玉木岳、安達雄輝、菊池信介、萩原正弘、和田直樹、今井浩二、柿崎秀宏、東信良、横尾英樹	デジタルポスター：地域密着型多職種合同チームによる安全確実な生体腎移植プログラム体制	第122回日本外科学会定期学術集会（熊本）	2022.04
11)	横尾英樹、高橋裕之、山本寛大、安達雄輝、水上奨一郎、今井浩二、松野直徒	パネルディスカッション：切除不能、境界肝細胞癌の定義と予後向上へ向けた最適な治療を目指して	第58回日本肝癌研究会（東京）	2022.05
12)	高橋裕之、水上奨一郎、今井浩二、松野直徒、横尾英樹	ポスター：巨大肝細胞癌に対するLenvatinib投与後のconversion surgeryの経験	第58回日本肝癌研究会（東京）	2022.05
13)	高橋裕之、水上奨一郎、今井浩二、松野直徒、横尾英樹	サージカルフォーラム：腹腔動脈起始部狭窄を伴うIPNBに対する臍頭アーケード温存臍頭十二指腸切除	第76回手術手技研究会（佐賀）	2022.05
14)	横尾英樹、萩原正弘、高橋裕之、山本寛大、安達雄輝、今井浩二、松野直徒	パネルディスカッション：切除不能、境界肝細胞癌に対する外科治療を見据えた薬物療法を選択をどうするか	第58回日本肝臓学会総会（横浜）	2022.06

15) Hideki Yokoo, Ryotaro Shimazaki, Masahiro Hagiwara, Chikayoshi Tani, Hiroyoshi Iwata, Hiroyuki Takahashi, Marika Fukuyama, Taisuke Matsuya, Koji Imai, Sayaka Yuzawa, Mishie Tanino, Naoto Matsuno	Poster : Successful multidisciplinary treatment with laparoscopic hepatectomy and adjuvant therapy for metachronous solitary hepatic metastasis after excision of a primary anorectal malignant melanoma	第 34 回日本肝胆膵外科学会・学術集会（愛媛）	2022.06
16) Hiroyuki Takahashi, Koji Imai, Shoichiro Mizukami, Naoto Matsuno, and Hideki Yokoo	Poster : A resected case of intraductal papillary neoplasm of the bile duct with severe celiac axis compression syndrome	第 34 回日本肝胆膵外科学会・学術集会（愛媛）	2022.06
17) 山本寛大、今井浩二、安達雄輝、高橋裕之、萩原正弘、松野直徒、横尾英樹	食道癌術後の膵頭部癌に対する胃管 drainage vein を温存した膵頭十二指腸切除の 1 例	第 47 回日本外科系連合学会学術集会（岩手）	2022.06
18) 横尾英樹、高橋裕之、水上奨一朗、今井浩二、松野直徒	一般口演：切除不能、境界肝細胞癌に対するレンバチニブ手術 combination 治療の成績	第 26 回日本肝がん分子標的治療研究会（軽井沢）	2022.06
19) 横尾英樹、萩原正弘、高橋裕之、山本寛大、安達雄輝、今井浩二、松野直徒	ワークショップ：消化器悪性腫瘍オリゴ転移に対する集学的治療としての外科治療のタイミングと有効性	第 77 回 日本消化器外科学会総会（横浜）	2022.07
20) 高橋 裕之、今井 浩二、山本 寛大、安達 雄輝、萩原 正弘、松野 直徒、横尾 英樹	一般演題：膵癌根治手術を受けるサルコペニア患者に対する術後リハビリテーションの重要性	第 77 回 日本消化器外科学会総会（横浜）	2022.07
21) 萩原正弘、山本寛大、安達雄輝、高橋裕之、今井浩二、松野直徒、横尾英樹	一般演題：当科での肝 oligometastasis を伴う切除不能膵癌に対する Conversion surgery 症例の解析	第 77 回 日本消化器外科学会総会（横浜）	2022.07
22) 高橋裕之、水上奨一朗、今井浩二、松野直徒、横尾英樹	症例検討：FP、PIVKA-II が高値であった細胆管細胞癌の一切除例	第 48 回 肝組織を見る会（札幌）	2022.07



23)	安達雄輝、野口 玲、小野拓也、大崎珠理亜、柳原五吉、吉松有紀、横尾英樹、小寺義男、近藤 格	ポスター発表：Fatty Acid-Binding Protein-5 阻害薬により生じた肝細胞癌の分子生物学的変化に関するプロテオーム解析	第 39 回日本プロテオーム学会 (神奈川)	2022.08
24)	高橋 裕之、水上 奨一郎、今井 浩二、松野 直徒、横尾 英樹	ミニオーラル：膵腫瘍との鑑別が困難であった仮性膵嚢胞の切除経験	第 49 回 日本膵切研究会 (滋賀)	2022.08
25)	安達雄輝、水上奨一郎、高橋裕之、今井浩二、松野直徒、横尾英樹	一般演題：右側肝円索を伴う肝細胞癌に対して、腹腔鏡下拡大肝外側区域切除術を施行した 1 例	HOPES2022 北海道外科関連学会機構合同学術集会 (札幌)	2022.09
26)	水上奨一郎、高橋裕之、今井浩二、上子倉佑機、松野直徒、横尾英樹	一般演題：術前診断が困難であったリンパ形質細胞性硬化性膵炎の一例	第 131 回日本消化器病学会北海道支部例会 (札幌)	2022.09
27)	水上奨一郎、高橋裕之、今井浩二、松野直徒、谷野美智枝、横尾英樹	一般演題：慎重な術前肝予備能評価により前区域切除しえた肝細胞癌の 1 例	北海道肝癌治療研究会 (札幌)	2022.10
28)	高橋裕之、松野直徒、内田大貴、和田直樹、今井浩二、柿崎秀宏、東 信良、横尾英樹	一般口演：生体腎移植におけるドナー腎結石に対するバックテーブルでの切石時の工夫	第 58 回日本移植学会総会 (名古屋)	2022.10
29)	横尾英樹、高橋裕之、水上奨一郎、今井浩二、松野直徒	ワークショップ：完全局所制御を目指した薬物療法一外科切除 sequential 治療の試み	第 60 回日本癌治療学会学術集会 (神戸)	2022.10
30)	Hiroyuki Takahashi, Shoichiro Mizukami, Koji Imai, Naoto Matsuno, and Hideki Yokoo	デジタルポスター：Experience and appropriate management of early afferent loop obstruction after pancreaticoduodenectomy	第 60 回日本癌治療学会学術集会 (神戸)	2022.10
31)	高橋裕之、水上奨一郎、今井浩二、松野直徒、横尾英樹	要望演題：ICG 蛍光カメラによって同定可能であった大腸癌肝転移化学療法後の 1 切除例	第 16 回日本肝臓内視鏡外科研究会 (福岡)	2022.11
32)	横尾英樹、高橋裕之、水上奨一郎、今井浩二、松野直徒	シンポジウム (指定)：局所制御を目指した進行肝細胞癌	第 84 回日本臨床外科学会総会 (福岡)	2022.11

	に対する薬物-外科切除 sequential 治療の試み		
33) 萩原正弘、安達雄輝、高橋裕之、今井浩二、井原一樹、堀川大介、水上奨一郎、武田智宏、大谷将秀、大原みずほ、谷 誓良、北健吾、庄中達也、長谷川公治、松野直徒、横尾英樹	一般演題：当院での外傷患者に対する open abdomen management の解析	第 13 回日本 Acute Care Surgery 学会定期学術集会（長崎）	2022.11
34) 横尾英樹、高橋裕之、水上奨一郎、今井浩二、松野直徒	一般演題：ICG 蛍光法と肝静脈ガイドを利用した腹腔鏡下 S7/S8 亜区域切除の定型化	第 35 回日本内視鏡外科学会総会（名古屋）	2022.12
35) 高橋 裕之、水上 奨一郎、今井 浩二、松野 直徒、横尾 英樹	一般演題：化学療法後の小型大腸癌肝転移に対する ICG 蛍光ガイド下内視鏡肝切除	第 35 回日本内視鏡外科学会総会（名古屋）	2022.12
36) 水上奨一郎、高橋裕之、安達雄輝、山本寛大、今井浩二、松野直徒、横尾英樹	一般口演：代償性 C 型肝硬変に伴った切除不能肝細胞癌に対する ABC conversion therapy の試み	第 27 回肝がん分子標的治療研究会（大阪）	2023.01
37) 水上奨一郎、高橋裕之、安達雄輝、山本寛大、今井浩二、松野直徒、横尾英樹	一般口演：術後病理組織診断で明らかとなった GNAS 変異を有する膵 simple mucinous cyst の 1 切除例	第 132 回日本消化器病学会（札幌）	2023.03
38) 高島宏規、高橋裕之、水上奨一郎、今井浩二、松野直徒、横尾英樹	一般演題：先天性胆道拡張症精査時の ERCP で生じた胆管穿孔に対する緊急分流手術の経験	第 59 回日本腹部救急医学会総会（沖縄）	2023.03
39) 武田智宏、大谷将秀、林 成司、紅露大介、水上奨一郎、大原みずほ、谷 誓良、高橋裕之、北 健吾、庄中達也、今井浩二、長谷川公治、松野直徒、横尾英樹、角 泰雄	主題関連口演：腸管虚血に対する OAM の適応について：単施設後方視的研究	第 59 回日本腹部救急医学会総会（沖縄）	2023.03

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

**VIII. 学術関係活動**

受賞者氏名

受賞名

受賞学会

受賞年月

---

外科学講座  
(消化管外科学分野)

Department of Surgery  
(Division of Gastrointestinal Surgery)

## I. 所属教員等

### 外科学講座（消化管外科学分野）

教授 角 泰雄  
講師 庄中 達也  
客員講師 千里 直之  
客員講師 小原 啓  
客員助教 大谷 将秀

### 外科（消化管）

講師 長谷川 公治  
助教 谷 誓良  
北 健吾

## II. 研究業績紹介

食道癌、胃癌、大腸癌中心に論文や研究発表を行っています。一般外科の分野（ヘルニア、腹腔内腫瘍、憩室症、クローン病、潰瘍性大腸炎、教育、栄養など）についても、積極的に論文・研究発表もしています。消化管外科では、スタッフだけではなく、医学生や研修医にも積極的に研究発表をしてもらい、教育にも力を入れています。

今後も医学の発展に貢献できるように研究活動を続けていきます。

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

## IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等名称	発行年月
1) Shoichiro Mizukami , Tatsuya Shonaka , Chikayoshi Tani , Kazuki Ihara , Tomohiro Takeda , Mizuho Ohara , Kimiharu Hasegawa , Mishie Tanino , Koji Sawada , Yasuo Sumi	A case of percutaneous transhepatic stomal varices embolization and partial splenic artery embolization for rectal cancer after CAPOX/BEV chemotherapy: the summary of the stomal varices related to oxaliplatin administration.	Clinical Journal of Gastroenterology	2022.01
2) Tomohiro Takeda , Tatsuya Shonaka , Yuki Adachi , Masahide Otani , Mizuho Ohara ,	The evaluation of the correlation between origami crane training and	Heliyon	2022.11

	Chikayoshi Tani , Kengo Kita , Kimiharu Hasegawa , Yasuo Sumi	Fundamentals of Laparoscopic Surgery (FLS).		
3)	Tatsuya Shonaka , Chikayoshi Tani , Tomohiro Takeda , Masahide Otani , Mizuho Ohara , Kengo Kita , Kimiharu Hasegawa , Hideki Yokoo , Naoto Matsuno , Yasuo Sumi	The experience of 100 cases of 8K/two-dimensional laparoscopic colorectal surgery - The evaluation of 8K/two-dimensional laparoscopy and how to use it.	Journal of minimal access surgery	2023.01
4)	大谷将秀,長谷川公治,北 健吾,谷誓良,庄中達也,角 泰雄	腹腔鏡下胃切除術における脾 静脈走行変異を考慮した脾上 縁郭清	手術	2022
5)	堀川 大介, 萩原 正弘, 高 橋 裕之, 今井 浩二, 大谷 将秀, 谷 誓良, 長谷川 公 治, 松野 直徒, 横尾 英樹	慢性腸間膜虚血の急性増悪に 対して、外科的治療と血管内 治療を併用した Hybrid 治療 で救命した 1 例	Japanese Journal of Acute Care Surgery	2022
6)	Shoichiro Mizukami, Tatsuya Shonaka, Chikayoshi Tani, Kazuki Ihara, Tomohiro Takeda, Mizuho Ohara, Kimiharu Hasegawa, Mishie Tanino, Koji Sawada, Yasuo Sumi	A case of percutaneous transhepatic stomal varices embolization and partial splenic artery embolization for rectal cancer after CAPOX/BEV chemotherapy: the summary of the stomal varices related to oxaliplatin administration.	Clinical Journal of GastroenterologyC linical Journal of Gastroenterology	2022.01

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

---

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会 等の名称	発表年月
-------	----	------------------	------

---

1)	庄中達也、武田智宏、水上 奨一朗、紅露大介、大谷将 秀、大原みずほ、谷誓良、 北健吾、長谷川公治、角泰 雄	CROSS3-4 大腸癌へのステ ント留置後原発巣切除症例 の短期・中期成績	第 97 回大腸癌研究 会	2022.07
2)	谷 誓良	クローン病患者における術 後合併症の予測因子の検討	第 122 回日本外科 学会定期学術集会	2022.04
3)	谷 誓良	脾彎曲結腸癌に対する腹腔 鏡下手術	第 27 回 北海道内 視鏡外科研究会	2022.06
4)	長谷川公治、北健吾、大谷 将秀、紅露大介、林成司、 大原みずほ、谷誓良、庄中 達也、角泰雄	内視鏡ホルダロボット EMARO を用いた腹腔鏡下 胃癌手術の経験	第 95 回日本胃癌学 会総会	2023.02

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

# 整形外科学講座

Department of Orthopaedic Surgery



## I. 所属教員等

### 整形外科学講座

教授	伊藤	浩
講師	小林	徹也
	谷野	弘昌
講師（学内）	妹尾	一誠
	佐々木	祐介
助教	三好	直樹
	柴田	宏明
客員准教授	能地	仁

### 整形外科

講師	阿部	里見
講師（学内）	入江	徹
助教	小原	和宏
	光武	遼

## II. 研究業績紹介

<股関節班> 股関節班の手術はTHA、骨切り術、外傷などを中心に行っておりますが、コロナ禍で減少していた手術件数は右肩上がりに増加し、現在はコロナ以前の手術件数を超える勢いでの手術数となっております。現在の研究は主に、より確実な手技を目指したポータブルナビゲーションシステムの導入、研究を主として行っており、研究は海外論文にも多数アクセプトされております。

<上肢班> 腕神経叢、肩から指先における上肢全般の診療、手術加療を行っておりますが、肩関節に関しましてはこの10年で世界的に普及が進んでまいりましたリバーズ型人工肩関節の治療を、いち早く国内の肩関節の著明な先生への師事や海外留学の経験を活かしてとりいれ、肩板損傷の治療を含め幅広く活躍されております。また、肘関節分野では野球肘などスポーツ外傷の手術治療やスポーツ復帰へのサポート、手指に関しても先天性疾患、外傷、変性疾患など、豊富な知識と経験を活かした専門的な治療を行っております。

<下肢班> 下肢班は海外留学経験を行いながら、臨床から基礎研究まで幅広く活躍されております。臨床では変性疾患、スポーツ障害、外傷、小児先天性疾患における膝や足関節の治療を行っております。基礎研究では関節軟骨の再生と間葉系幹細胞の移植免疫の研究やACLなどの研究を中心に行っております。

<腫瘍班> 整形外科領域の骨軟部腫瘍のほか、転移性骨腫瘍の診断、マネジメントなどを中心に行っておりますが、骨軟部腫瘍や転移性腫瘍を自信をもって診断治療できる医師は整形外科、他科とも旭川市内、道北オホーツク圏内には限られた医師しかおらず、日々いろいろな地域の先生方からコンサルトを受け、忙しく活動しております。研究としては全国規模の他施設研究への参加等を行っており、院内では科横断的な役割を果たして

おります。

<脊椎班> 脊椎班は先代の竹光義治名誉教授が着目し築き上げてきた、脊柱変形の研究が現在世界的にも注視され、30年以上続く当大学の疫学的調査は現在も受け継がれ、研究内容は世界への情報発信源として非常に注目されています。これらの報告・研究はこの数年間、アクセプトされるのがステータスとされる欧米の主要脊椎学会や整形外科学会に採択され、研究成果を海外にて発表しております。また Rush 大学、総合せき損センター、徳島大学など、基礎臨床両面での研鑽をつんでいます。

### Ⅲ. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 小原和宏	バレーボール女子日本代表チームに対するチームドクターとしての医学サポート	北海道整形災害外科学会雑誌	2022
2) 谷野弘昌、光武 遼、高木建一、伊藤 浩	北海道から発信する革新的治療法開発の現状 人工股関節全置換術における新技術の導入 ポータブルナビゲーションシステム	北海道整形災害外科学会雑誌	2022.08

### Ⅳ. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等名称	発行年月
1) 萱場幸太郎、阿部里見、佐々木祐介	前十字靭帯再建術後の脛骨巨大骨嚢腫の 1 例	JOSKAS 誌	2022.04
2) 阿部里見	膝関節周囲の骨棘形成には脛骨近位と遠位アライメントも関与する	JOSKAS 誌	2022.04
3) 市原一矢、阿部里見、佐々木祐介、萱場幸太郎、伊藤 浩	陳旧性 Maisonneuve 骨折に対し suture-button を用いた 1 例	東日本整災会誌	2022.06
4) 阿部里見、佐々木祐介、佐藤剛	距骨骨軟骨傷害に脛骨遠位内果シエブロン型骨切りを用いた自家骨軟骨柱移植術後成績とスポーツ復帰	日本足の外科学会雑誌 Jpm. Soc.Sug.Foot	2022.08
5) 谷野 弘昌, 光武 遼, 高木 健一, 伊藤 浩	北海道から発信する革新的治療法開発の現状 人工股関節全置換術における新技術の導入 ポータブルナビゲーションシステム	北海道整形災害外科学会雑誌	2022.08
6) 西能 渉一, 谷野 弘昌, 光武 遼, 伊藤 浩	人工股関節全置換術後反復性脱臼に対するカップ再置換術の臨床成績	Hip Joint	2022.08

7)	霍田直樹, 阿部里見, 佐々木祐介, 萱場幸太郎, 伊藤浩	遺伝性多発性外骨腫症に対して人工膝関節置換術を施行した一例	日本人工関節学会誌	2023.01
8)	阿部里見, 佐々木祐介, 萱場幸太郎, 伊藤浩	外反型膝変形に対する PS 型 TKA のアプローチの違いによるコンポーネントギャップ	日本人工関節学会誌	2023.01
9)	Mitsutake R, Tanino H, Ito H	The effect of range of motion simulated with a patient-specific three-dimensional simulation analysis on dislocation after total hip arthroplasty	HIP International	2023.03
10)	市原一矢, 阿部里見, 佐々木祐介, 萱場幸太郎, 伊藤浩	陳旧性 Maisonneuve 骨折似たいし suture-button を用いた 1 例	東日本整形災害外科学会誌	2022.06
11)	野崎 尋意, 本間 大, 林 圭, 山本 明美, 谷野 弘昌	【角化症・炎症性角化症】特発性大腿骨頭壊死を生じた乾癬性紅皮症の 1 例	皮膚科の臨床	2022.07
12)	奥原一貴、三好直樹、入江 徹、伊藤 浩	腱板断裂術後 10 年以上の長期成績	肩関節	2022.08
13)	谷野弘昌、光武遼、高木建一、伊藤浩	誌上シンポジウム 北海道から発信する革新的治療法開発の現状 人工股関節全置換術における新技術の導入 ～ポータブルナビゲーションシステム～	北海道整形災害外科学会雑誌	2022.08
14)	西能 渉一, 谷野 弘昌, 光武 遼, 伊藤 浩	人工股関節全置換術術後反復性脱臼に対するカップ再置換術の臨床成績	Hip Joint	2022.08
15)	Kawamata J, Suenaga N, Oizumi N, Hisada Y, Miyoshi N	Risk factors for eccentric glenoid wear after humeral head replacement for cuff tear arthropathy	Journal of shoulder and elbow surgery International	2022.09
16)	Tomofumi Nishino, Kazuhiro Obara, Yusuke Nishida, Hiroshi Yamaguchi, Mitsutoshi Hayashi, Masashi Yamazaki	Large-scale international volleyball competition in "bubble" under the COVID-19 pandemic	Asia-Pacific Journal of Sports Medicine, Arthroscopy, Rehabilitation	2022

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 伊藤 浩	「セメントレスカップ・ステムの表面加工」,人工股関節置換術（日本人工関節学会 編）:106-110	南江堂	2023.02

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 光武遼,谷野弘昌,伊藤浩	各種インプラントにおけるオフセットおよび脚長の再現度の検討	日本整形外科学会学術総会	2022.05
2) Satomi Abe, Yusuke Sasaki, Hiroshi Ito	Examination of appropriate gap balance for good flexion angle and clinical results in PS type TKA	第 95 回日本整形外科学術集会	2022.05
3) 光武遼,谷野弘昌,高木建一,伊藤浩	改良版ステム前捻角の術中測定用角度計の製作と有用性	北海道整形災害外科学会	2022.06
4) 膝蓋大腿関節損傷における自家培養軟骨移植（JACC®）移植術後 MRIT2 値の経時的変化	膝蓋大腿関節損傷における自家培養軟骨移植（JACC®）移植術後 MRIT2 値の経時的変化	JOSKAS-JOSSM 2022	2022.06
5) 萱場幸太郎、阿部里見、佐々木祐介	脛骨遠位端部慢性骨髓炎に対し骨髓内抗菌薬局所持続灌流療法（iMAP）で加療した 1 例	JOSKAS-JOSSM 2022	2022.06
6) 前田陽平、阿部里見、佐藤剛、佐々木祐介	OWHTO 術後の遅発性外側ヒンジ骨折から偽関節手術に至った一例	JOSKAS-JOSSM 2022	2022.06
7) 霍田直樹、阿部里見、佐藤剛、佐々木祐介、萱場幸太郎	陳旧性大腿四頭筋腱断裂の一例	JOSKAS-JOSSM 2022	2022.06
8) 阿部里見、佐々木祐介、前田陽平、霍田直樹	OWHTO と併用術式別の 9 年までの MRI 経時的変化	JOSKAS/JOSSM meeting 2022	2022.06
9) 阿部里見、佐々木祐介、前田陽平、霍田直樹	Coronal Plane Alignment of the Knee (CPAK) 分類を用いた膝内反変形の進行は脛骨遠位内反と骨盤後傾が関与する	JOSKAS/JOSSM meeting 2022	2022.06

10)	前田陽平、阿部里見、 佐々木祐介、伊藤 浩	全人工膝関節置換術(TKA)後に起 きたヘパリン誘発性血小板減少症 の一例	第 141 回北海道 整形災害外科学 会	2022.07
11)	阿部里見、佐々木祐 介、前田陽平、伊藤 浩	小児脛骨顆間隆起骨折の関節鏡下 プルアウト修復術後の ACL と骨 成長の検討	第 141 回北海道 整形災害外科学 会	2022.07
12)	阿部里見、佐々木祐 介、前田陽平、伊藤 浩	膝蓋骨非置換人工膝関節置換術 10 年の治療成績	第 141 回北海道 整形災害外科学 会	2022.07
13)	阿部里見、佐々木祐 介、前田陽平、伊藤 浩	距骨骨軟骨傷害に内果シェブロン 型骨切りを用いた自家骨軟柱骨移 植術の SAFE-Q 評価とスポーツ 復帰	第 141 回北海道 整形災害外科学 会	2022.07
14)	ABE Satomi, NOCHI Hitoshi, ITO Hiroshi	Modified Gap Technique for Total Knee Arthroplasty (TKA) in Rheumatoid Arthritis	ISTA	2022.08
15)	ABE Satomi, NOCHI Hitoshi, ITO Hiroshi	Examination of appropriate gap balance for good flexion angle and clinical results in PS type TKA	ISTA	2022.08
16)	前田陽平、阿部里見、 佐々木祐介	関節鏡手術で診断に至った関節拘 縮の一例	第 59 回北海道 膝研究会	2022.09
17)	前田陽平、阿部里見	大腿骨内側顆骨端線損傷 Saltar- Harris type III の一例	第 71 回東日本 整形災害外科学 会	2022.09
18)	阿部里見、佐々木祐 介、前田陽平、伊藤 浩	膝蓋骨非置換人工関節置換術 10 年の治療成績	第 71 回東日本 整形災害外科	2022.09
19)	阿部里見、佐々木祐 介、前田陽平、伊藤 浩	二重束 ACL 再建術後の中期治療 成績	第 71 回東日本 整形災害外科	2022.09
20)	阿部里見、佐々木祐 介、前田陽平、伊藤 浩	Coronal Plane Alignment of the Knee 分類を用いた膝内反変形の 進行は脛骨遠位内反と骨盤後傾が 関与する 縦断研究より	第 71 回東日本 整形災害外科	2022.09
21)	阿部里見	IBRA Advanced Course 重度外 反母趾に対する治療法 MTP Fusion	IBRA Seminar & Workshop “Management of Severe	2022.09

		Deformities in Foot & Ankle Surgery”	
22) 光武遼,谷野弘昌,高木建一,伊藤浩	旭川医科大学における人工股関節全置換術に対する取り組み・課題	北海道若手股関節を育てる会	2022.1
23) 光武遼,谷野弘昌,高木建一,伊藤浩	改良版ステム前捻角の術中測定用角度計の製作と有用性	日本股関節学会 学術集会	2022.1
24) 前田陽平、阿部里見、佐々木祐介	Anterior impaction pilon 骨折の一例	道北外傷セミナー	2022.11
25) 猪川智博・阿部里見	受傷 4 日目に pilon 骨折に関節再建を併用した O R I F	北海道外傷整形 外科 W E B M E E T I N G	2022.11
26) ABE Satomi	A case treated with guided growth by eight-plate for knee angular deformity of skeletal dysplasia	日本小児整形外科学会	2022.12
27) 宮澤良祐、阿部里見	10 年フォローが終了した BCG (Bacilli Calmette-Guèrin) 骨髄炎の 1 例	第 21 回旭川関節疾患カンファレンス	2023.01
28) 光武遼,谷野弘昌,高木建一,伊藤浩	改良版ステム前捻角の術中測定用角度計の製作と有用性	日本人工関節学会	2023.02
29) ABE Satomi, ITO Hiroshi	Progression of coronal varus knee deformity is related to pelvic posterior tilt and distal tibia varus	ORS	2023.02
30) 阿部里見、能地仁、佐々木祐介、前田陽平、伊藤 浩	膝蓋骨非置換人工関節置換術 10 年の治療成績	第 53 回日本人人工関節学会	2023.02
31) 妹尾一誠	脊柱矢状アライメント維持や腰痛予防における体幹筋力の重要性についての縦断調査	第 51 回脊椎脊髄病学会	2022.04
32) 岡安浩宜、小林徹也、妹尾一誠、千葉 恒、杉澤裕之、菅原敏暢、幅口竜也、伊藤 浩	成人脊柱変形の非 X 線学的特徴に関するコホート研究	第 95 回日本整形外科学会学術総会	2022.05
33) 奥原一貴、三好直樹、入江徹、伊藤 浩	腱板修復術・再建術術後長期成績—術後 10 年以上—	日本整形外科学会	2022.05

34)	三好直樹、他	上腕二頭筋長頭腱移行術を併用した小径人工骨頭置換術と腱板再建術	日本整形外科学会	2022.05
35)	光武 遼、谷野弘昌、伊藤 浩	各種インプラントにおけるオフセットおよび脚長の再現度の検討	第 95 回日本整形外科学会学術総会	2022.05
36)	奥原一貴、三好直樹、入江 徹、伊藤 浩	当科における腱板断裂術後 10 年以上の長期成績	第 95 回日本整形外科学会学術総会	2022.05
37)	谷野弘昌、光武 遼、伊藤 浩	側臥位ポータブルナビゲーションのカップ設置精度	第 95 回日本整形外科学会学術総会	2022.05
38)	三好直樹、末永直樹、大泉尚美、久田幸由、松橋智弥、川真田純、伊藤 浩	上腕二頭筋長頭腱移行術を併用した小径人工骨頭置換と腱板再建術	第 95 回日本整形外科学会学術総会	2022.05
39)	千葉 恒、小林徹也、清水睦也、妹尾一誠、神保静夫、今井 充、杉澤裕之、菅原敏暢、幅口竜也、伊藤 浩	脊柱骨盤矢状面アライメントに最も関連する身体機能は筋力か脊柱可動性か	第 95 回日本整形外科学会学術総会	2022.05
40)	三好直樹	腱板断裂手術のトラブルとその回避法—直視下筋腱移行術	肩関節手術研究会	2022.08
41)	Abe S, Nochi H, Ito H	Modifaied Gap Technique for Total Knee Arthroplasty(TKA) in Rheumatoid Arthritis	ISTA 33rd Annual Congress	2022.08
42)	Abe S, Nochi H, Ito H	Examination of Appropriate Gap Balance for Good Flexion Angle and Clinical Results in PS Type TKA	ISTA 33rd Annual Congress	2022.08
43)	三好直樹、入江徹、高橋裕貴、伊藤 浩	腱板断裂性関節症に対する人工骨頭置換術—術後 8 年以上経過例	東日本整形外科学会	2022.09
44)	高木建一、小林徹也、妹尾一誠、水谷幸三郎、今井 充、伊藤 浩	脊柱側彎初診患者の動向調査 コロナ禍前後での比較	第 71 回東日本整形災害外科学会	2022.09
45)	三好直樹、入江 徹、高橋裕貴、奥原一貴、伊藤 浩	腱板断裂性関節症に対する人工骨頭置換術の長期成績 術後 8 年以上経過例	第 71 回東日本整形災害外科学会	2022.09

46)	谷野弘昌、光武 遼、 伊藤 浩	AR ナビゲーションのカップ設置 精度の検討 前向きランダムイズ 研究	第 71 回東日本 整形災害外科学 会	2022.09
47)	前田陽平、阿部里見、 佐々木祐介、伊藤 浩	大腿骨内側顆骨端線損傷 Saltar- Harris type III の一例	第 71 回東日本 整形災害外科学 会	2022.09
48)	阿部里見、能地 仁、 佐々木祐介、前田陽 平、伊藤 浩	二重束 ACL 再建術後の中期治療 成績	第 71 回東日本 整形災害外科学 会	2022.09
49)	阿部里見、佐々木祐 介、前田陽平、伊藤 浩	Coronal Plane Alignment of the Knee 分類を用いた膝内反変形の 進行は脛骨遠位内反と骨盤後傾が 関与する 縦断研究より	第 71 回東日本 整形災害外科学 会	2022.09
50)	入江 徹、三好直樹、 高橋裕貴、伊藤 浩	3D プレートを用いた母指 CM 関 節固定術の治療成績	第 71 回東日本 整形災害外科学 会	2022.09
51)	光武 遼、谷野弘昌、 伊藤 浩	各種インプラントにおけるオフセ ットおよび脚長の再現度の検討	第 71 回東日本 整形災害外科学 会	2022.09
52)	阿部里見、能地 仁、 佐々木祐介、前田陽 平、伊藤 浩	膝蓋骨非置換人工関節置換術 10 年の治療成績	第 71 回東日本 整形災害外科学 会	2022.09
53)	三好直樹、他	65 歳未満の Cuff tear arthropathy に対する小径人工骨頭置換術と腱 板再建術の中期成績 - 5 年以上経 過症例 -	日本肩関節学会	2022.1
54)	三好直樹、末永直樹、 大泉尚美、久田幸由、 松橋智弥、井上和也、 加藤久佳、川真田純、 伊藤 浩	65 歳未満の CTA 症例の小径人工 骨頭置換術と腱板再建術の中期成 績	第 49 回日本肩 関節学会学術集 会・第 19 回日 本肩の運動機能 研究会学術集会	2022.1
55)	Issei Senoo	A longitudinal study of whether maintaining or improving back muscle strength can prevent exacerbation of spinal kyphotic deformity in the long term and contribute to the quality of life and prevention of low back pain	Eurospine	2022.1



56) Issei Senoo	Longitudinal study to determine whether maintaining limb and trunk muscle strength, especially back muscle strength is useful in preventing back pain deterioration, maintaining quality of life, and maintaining sagittal alignment of the spine	AAOS	2023.03
57) 三好直樹	腱板断裂に対する治療戦略 — インピンジメント肯定派 vs 否定派 —	大阪肩関節鏡フォーラム	2023.03
58) 藤田耕司, 小原和宏, 山口博, 林光俊	日本女子バレーボール代表チーム 国際大会海外遠征への対策	日本臨床スポーツ医学会	2022.11

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
1) 谷野弘昌	旭川医科大学整形外科同門会学術奨励賞	旭川医科大学整形外科同門会	2023.07

# 皮膚科学講座

Department of Dermatology

## I. 所属教員等

### 皮膚科学講座

教 授	山本	明美
講 師	井川	哲子
助 教	野崎	尋意
	中川	智絵
	大坪	紗和

### 皮膚科

准 教 授	岸部	麻里
講 師	松尾	梨沙
助 教	菅原	基史
	高橋	千晶
	菅野	恭子

## II. 研究業績紹介

皮膚科学講座では皮膚科領域の臨床と研究論文、学会発表を精力的に行っている。令和4年度の主要な業績としては、松尾梨沙講師の学位論文が JID Innovations に掲載され、論文中の図が雑誌の表紙に掲載されたことが上げられる。また、飯沼晋客員助教が北見赤十字病院の症例を複数の英文誌で掲載したこと、岸部麻里准教授が炎症性疾患に関する原著論文を掲載し、特に新型コロナウイルスのワクチンの後に生じた自己免疫関連好中球性皮膚症に関するものはこの時代の出来事を反映したものとなった。他大学との共同研究も Allergy International に掲載された。

企業との共同研究の成果も Journal of Investigative Dermatology に掲載され、この論文の図も雑誌の表紙に採用された。著書としては、山本明美教授、岸部麻里准教授、菅野恭子助教が皮膚疾患の新しい考え方等を解説した。

井川哲子講師は日本皮膚科学会西部支部企画研修講習会において教育講演を行い、専攻医教育に貢献した。国際学会である ESDR meeting, JSID meeting や、国内では日本皮膚科学会総会、日本皮膚科学会東部支部学術大会、日本皮膚科学会西部支部学術大会、日本皮膚科学会北海道地方会、日本皮膚免疫アレルギー学会、日本美容皮膚科学会総会、日本心脈管作動物質学会、日本血管生物医学学術集会等、においても講座の所属教員が複数の発表を行った。

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

#### IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等名称	発行年月
1) Risa Matsuo, Mari Kishibe, Satomi Igawa, et al.	Ninjurin1 Deletion in NG2-Positive Pericytes Prevents Microvessel Maturation and Delays Wound Healing	JID Innovations	2022.11
2) Nakashima C, Doi H, Nakajima S, Mashimo T, Oga T, Ishida-Yamamoto A, Honda T, Ishida Y, Otsuka A, Kabashima K.	Filaggrin-deficient rats generated using zinc- finger nucleases spontaneously exhibit dry scaly skin	Allergol Int	2022.01
3) Iinuma S, Takahashi C, Hayashi K, Ishida-Yamamoto A.	Perforating pilomatricoma presenting as a cutaneous horn in a patient with myotonic dystrophy.	Eur J Dermatol	2022.04
4) 本間 大, 林 圭, 野崎 尋意, 山本 明美	ヒトパピローマウイルス 52 型が検出された外陰部 Bowen 様丘疹症の 1 例	皮膚科の臨床	2022.05
5) 山本明美	手指消毒による肌荒れ対策について教えてください	薬局	2022.05
6) 林 圭, 飯沼 晋, 澁谷 貴史, 本間 大, 山本 明美	生物学的製剤投与に際し,悪性腫瘍が発見された乾癬患者の臨床的検討	皮膚科の臨床	2022.05
7) Iinuma S, Hayashi K, Tsuda T, Nakano S, Otani Y, Suzuki A, Ishida-Yamamoto A.	Hidradenitis suppurativa associated with immunoglobulin A-dominant infection-related glomerulonephritis	The Journal of Dermatology	2022.07
8) 林 圭, 齊藤 剛史, 本間 大, 山本 明美	著明な腫瘍性病変を呈した尋常性狼瘡の 1 例	皮膚科の臨床	2022.06
9) 松谷 茉莉花, 菅原 基史, 松尾 梨沙, 林 圭, 野崎 尋意, 松谷 泰祐, 岸部 麻里, 山本 明美	匍行性迂回状紅斑様皮疹を呈した菌状息肉症の 1 例	Skin Cancer	2022.06
10) 林 圭, 本間 大, 山本 明美	体組成計を用いた生物学的製剤使用中の乾癬患者における身体計測値の検討	皮膚科の臨床	2022.06
11) 野崎 尋意, 本間 大, 林 圭, 山本 明美, 谷野 弘昌	特発性大腿骨頭壊死を生じた乾癬性紅皮症の 1 例	皮膚科の臨床	2022.07

12)	Kishibe M, Takeda K, Honma M, Makino Y, Ishida-Yamamoto A.	Effectiveness of anti-interleukin-17-receptor antibody for hydroxychloroquine-induced generalized pustular psoriasis in a patient with systemic lupus erythematosus.	The Journal of Dermatology	2022.07
13)	小林 孝弘, 岸部 麻里, 山崎 泰宏, 田村 俊哉, 山本 明美	プレドニゾロン追加内服により治療の継続ができたドセタキセルによる皮膚硬化の1例	臨床皮膚科	2022.08
14)	林 圭, 菅野 恭子, 本間 大, 岸部 麻里, 山本 明美	旭川医科大学皮膚科で経験した悪性腫瘍合併皮膚筋炎の検討	皮膚科の臨床	2022.08
15)	Maeda T, Hiura A, Uehara J, Toyoshima R, Nakagawa T, Yoshino K.	Neutrophil-to-lymphocyte ratio is a potential prognostic biomarker for extramammary Paget disease: A retrospective study	The Journal of Dermatology	2022.11
16)	竹田 恵子, 本間 大, 菅野 恭子, 山本 明美	自己免疫性水疱症との鑑別を要した多形紅斑 バルサルタン長期内服の関与が疑われた1例	皮膚科の臨床	2022.12
17)	Kishibe M, Koike K, Kanno K, Ishida-Yamamoto A.	Autoimmunity-related neutrophilic dermatosis after coronavirus disease 2019 vaccination: A case report and literature review	The Journal of Dermatology	2023.01
18)	Maeda T, Nagai K, Uehara J, Toyoshima R, Nakagawa T, Yoshino K	Sentinel lymph node biopsy in extramammary Paget disease: A 13-year institutional experience	The Journal of Dermatology	2023.01
19)	Hayashi K, Inuma S, Ishida-Yamamoto A.	Erythematous Plaque with Crusting on the Lower Leg: A Quiz	Acta Dermato-Venereologica	2023.02
20)	Nose M, Kanno K, Komatsu M, Kobayashi T, Umekage K, Fujii M, Otsubo S, Ishida-Yamamoto A.	A case of erythema elevatum diutinum with pyoderma gangrenosum.	Australasian Journal of Dermatology	2023.02

21) Inuma S, Hayashi K, Ishida-Yamamoto A.	Accelerated rheumatoid nodulosis resolved after switching to Janus kinase inhibitor therapy	The Journal of Dermatology	2023.03
22) Matsuya M, Komatsu S, Iida T, Hashimoto Y, Honma M, Ishida-Yamamoto A.	Visceral disseminated varicella zoster virus infection in a patient with rheumatoid arthritis treated with immunosuppressive therapy including a Janus kinase inhibitor	The Journal of Dermatology	2023.03
23) Miyagi T, Kanai Y, Murotani K, Okubo Y, Honma M, Kobayashi S, Seishima M, Mizutani Y, Kitabayashi H, Imafuku S.	Itch as a critical factor in impaired health-related quality of life in patients with plaque psoriasis achieving clear or almost-clear skin: Analysis of the single-arm, open-label, multicenter, prospective ProLOGUE study	JAAD Int	2022.06
24) Yamanishi H, Soma T, Ishida-Yamamoto A, Iwabuchi T.	Focused ion beam scanning electron microscopy reveals distinct mesenchymal morphology in human anagen hair follicles	Journal of Investigative Dermatology	2022.05
25) Inuma S, Hayashi K, Sato R, Ishida-Yamamoto A.	Bullous pemphigoid with laryngeal involvement requiring emergency tracheostomy	The International Journal of Dermatology	2022.09
26) Inuma S, Takahashi C, Ishida-Yamamoto A.	Eosinophilic cellulitis with pustular lesions	The International Journal of Dermatology	2022.06
27) Inuma S, Hayashi K, Ishida-Yamamoto A.	Pseudomyxoma peritonei with peristomal skin metastasis	The International Journal of Dermatology	2022.07
28) Inuma S, Takahashi C, Oba M, Ishida-Yamamoto A.	Pneumatosis intestinalis during treatment for bullous pemphigoid	The International Journal of Dermatology	2022.04

- 29) 照井 正, 小林里実, 山本 俊幸, 大久保ゆかり, 阿部 名美子, 井汲菜摘, 石井まどか, 伊藤明子, 梅澤慶紀, 金蔵拓郎, 川上 洋, 岸部麻里, 黒木香奈, 車谷紋乃, 河野通良, 清水忠道, 辻 成佳, 十一英子, 中村元樹, 西田絵美, 葉山惟大, 平野宏文, 藤澤大輔, 藤城幹山, 藤田英樹, 松本由香, 森田明理, 村上正基, 日本皮膚科学会掌蹠膿疱症診療の手引き策定委員会 掌蹠膿疱症診療の手引き 2022 日本皮膚科学会 雑誌 2022.08
- 30) 菅野恭子 【皮膚の炎症性疾患】脂肪織の変化 Panniculitis 病理と臨床 2022.07
- 31) 高橋憲義, 上原治朗, 山本明美 【埋もれた症例に光をあてる～潰瘍底から掘り起こすさまざまな皮膚潰瘍～I】皮膚潰瘍のさまざまな原因(Part1.) 細胞傷害性(case 7) 難治性放射線皮膚潰瘍の2例 Visual Dermatology 2023.01

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 山本明美	あたらしい美容皮膚科学:美容皮膚科を学ぶために知るべき皮膚の構造	南山堂	2022
2) 山本明美	皮膚疾患最新の治療:扁平苔癬	南江堂	2023
3) 岸部麻里	皮膚疾患最新の治療 2023-2024 感染症 B ウイルス 手足口病	南江堂	2023.01
4) 秋岡千佳嗣司, 秋葉陽介, 石原和幸, 石原洋子, 伊藤明子, 大久保ゆかり, 押村憲明, 門野夕峰, 亀田秀人, 菊池重成, 岸部麻里, 岸本暢将, 黒木香奈, 河野	掌蹠膿疱症性骨関節炎診療の手引き 2022 【病因】 病巣感染/病巣扁桃 臨床研究から	文光堂	2022

通良, 小林里美, 高橋慎  
一, 高原 幹, 谷口義典

- 5) 菅野恭子 WHAT'S NEW in 皮膚科学 メディカルレビ 2022-  
Wong-type dermatomyositis~ ュー社 2023  
皮疹の意義について~

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演 会等の名称	発表年月
1) 井川 哲子	2022 年度日本皮膚科学会西部 支部企画研修講習会 電顕組 織学の基礎と応用	第 74 回日本皮膚科 学会西部支部学術 大会	2022.1
2) Igawa S, Takahashi M, Matsuo R, Kishibe M, Ishida-Yamamoto A, and Di Nardo A	Sphingosine 1-phosphate receptor 1 (S1PR1) increases epidermal barrier function- related gene expressions in differentiated keratinocytes	The 47th Annual meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology	2022.12
3) 岸部麻里、小池且弥、 菅野恭子、山本明美	COVID-19 ワクチン接種後に 発症した SLE-associated neutrophilic dermatosis の 1 例	第 78 回日本皮膚科 学会高知地方会~ 佐野栄紀教授退任 記念~	2022.04
4) 岸部麻里	掌蹠膿疱症におけるサイトカ イン-治療における診療科連携 -	第 121 回日本皮膚 科学会総会	2022.06
5) 岸部麻里	専門医取得後の女性医師キャ リアパス	第 121 回日本皮膚 科学会総会	2022.06
6) Kishibe M, Matsuo R, Igawa S, Kubo A, Ishida-Yamamoto A	A frameshift mutation in the keratin 14 impairs cell structural integrity via the formation of keratin fiber aggregates	51st Annual ESDR Meeting	2022.09
7) Kishibe M, Matsuo R, Igawa S, Ishida- Yamamoto A	Attempts at Early Diagnosis of VEXAS Syndrome: A Single-Center Retrospective Analysis of Sweet Syndrome with Hematologic Abnormalities	The 47th Annual meeting of the japanese Society for Investigative Dermatology	2022.12



8)	岸部麻里	皮膚科でみる自己炎症症候群	第 432 回日本皮膚科学会北海道地方会	2022.12
9)	菅野恭子 山本明美	Mechanic's hands の臨床病理組織学的検討	第 38 回日本皮膚病理組織学会	2022.4
10)	山本明美	皮膚病理における光顕所見と電顕所見の関連（非腫瘍性疾患）	第 121 回日本皮膚科学会総会	2022.6
11)	井川哲子	皮膚電子顕微鏡観察：細胞たちの声なき声から病態を解き明かす	第 121 回日本皮膚科学会総会	2022.6
12)	松尾梨沙	新規血管成熟因子 Ninjurin-1 は再生組織内の機能的血管形成により創傷治療を促進する	第 51 回日本心脈管作動物質学会	2022.7
13)	井川哲子	表皮バリア機能からアトピー性皮膚炎を考える	第 40 回日本美容皮膚科学会総会・学術大会	2022.8
14)	井川哲子	表皮バリア機能とアトピー性皮膚炎の関係性、ウパダシチニブ使用経験から	第 86 回日本皮膚科学会東部支部学術大会	2022.8
15)	井川哲子	旭川医科大学病院アトピー性皮膚炎外来での Atopic Dermatitis Control Tool(ADCT)導入の試み	第 431 回日本皮膚科学会北海道地方会	2022.9
16)	松尾梨沙 佐藤祐樹 小林友紀 梅影香央里 高橋千晶 大坪紗和 菅野恭子 岸部麻里 山本明美 古賀浩嗣 石井文人	抗デスマグレイン 3 抗体陽性 IgG/IgA 天疱瘡の 1 例	第 74 回日本皮膚科学会西部支部学術大会	2022.10
17)	山本明美	異業種の女性リーダーから学んだ自己実現の極意	第 86 回日本皮膚科学会東京支部学術大会	2022.11
18)	Matsuo R, Kishibe M, Igawa S, Kubo A, Ishida-Yamamoto A	Cytologic impacts of two kratin 14 mutations, K14 R125C and K14G364Rfr*118 underlying epidermolysis bullosa simplex generalized severe	The 47th Annual meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology	2022.12

19)	菅野恭子 松尾梨沙 岸部麻里 山本明美	Mechanic's hands の臨床病理組織学的検討	第 432 回日本皮膚科学会北海道地方会	2022.12
20)	松尾梨沙 宮澤愛梨 佐藤祐樹 小林友紀 梅影香央里 高橋千晶 大坪紗和 菅野恭子 岸部麻里 山本明美 古賀浩嗣 石井文人	増殖性類天疱瘡との鑑別を要した抗 Dsg3 抗体陽性 IgG/IgA 天疱瘡の 1 例	第 432 回日本皮膚科学会北海道地方会	2022.12
21)	菅野恭子 岸部麻里 山本明美	Mechanic's hands の臨床病理組織学的検討	第 52 回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会	2022.12
22)	松尾梨沙	周細胞に発現する新規血管成熟分子 Ninjurin1 の創傷治癒における役割	第 30 回日本血管生物医学学術集会	2022.12

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

# 腎泌尿器外科学講座

Department of Renal and Urologic Surgery

## I. 所属教員等

### 腎泌尿器外科学講座

教 授 柿崎 秀宏  
准 教 授 橘田 岳也  
助 教 森下 俊

### 泌尿器科

講 師 堀 淳一  
和田 直樹  
助 教 小林 進  
大谷 美結

## II. 研究業績紹介

旭川医科大学腎泌尿器外科学講座は、高度先進医療を実践するとともに、地域医療との連携を重視した活動を展開している。実臨床において生じるクリニカルクエスチョンを解決すべく臨床研究を計画・実行している。また、研究のグローバル化の重要性が強調されている今日において、米国ピッツバーグ大学をはじめ国内外の研究室との共同研究による基礎研究を行い、その成果を学会にて報告し、専門誌での発表を定期的に行っている。

我々の教室における研究テーマは、大きく3つに分けられる。①腫瘍に関する研究、②下部尿路機能障害に関する研究③小児/女性泌尿器科に関する研究を主要テーマとしている。①腫瘍に関する研究については、急速に普及した手術支援ロボットによる手術が可能となった現在の状況から、ロボット支援手術の治療成績や合併症に関しての報告をしている。基礎研究としては、札幌医科大学第一病理学講座との共同研究として、腎癌細胞における癌抗原の同定に関する研究を行った。また、②下部尿路機能障害に関する研究は多岐にわたる。過活動膀胱、前立腺肥大症、低活動膀胱、間質性膀胱炎、さらにそれら疾患に関与するサルコペニア・フレイルといった、超高齢社会における現状を基礎、臨床の両方面からの研究を行っている。特に基礎実験においては、病態モデル動物を用いた生理学的実験を積極的に実施しており、専門誌における報告は多数ある。さらに③小児/女性泌尿器科に関しては、当教室では小児泌尿器科手術の豊富な経験を有しているため、手術による外科的介入の成果を報告している。なかでも先天性の尿路閉塞に対する外科的介入については、症例数も多く定期的に発表している。女性泌尿器科においては、腹圧性尿失禁、骨盤臓器脱、尿路損傷に対する再建手術を積極的に行っており、その成果を報告している。

### Ⅲ. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 橘田岳也, 和田直樹, 柿崎秀宏	尿排出機能障害に対する薬物治療	臨床泌尿器科	2022.04
2) 橘田岳也, 和田直樹, 柿崎秀宏	尿排出機能障害に対する薬物治療, 特集 実践! エビデンスに基づいた「神経因性膀胱」の治療法	臨床泌尿器科	2022.04
3) 橘田岳也, 千葉博基, 樋口まどか, 日下部直久, 篠原信雄	神経因性膀胱での腎機能障害に対する予防と治療, 特集 泌尿器科領域における腎機能障害治療-	泌尿器科	2022.05
4) 柿崎秀宏	下部尿路機能障害の診断と治療	診断と治療	2022.06
5) 和田直樹	前立腺が大きい BPH に対する診療の最適化 シンポジウム 2 Male LUTS 診療の最適化を目指して	泌尿器外科	2022.07
6) 和田直樹, 渡邊成樹, 柿崎秀宏	混合性尿失禁に対する尿失禁手術 シンポジウム 17 難治性過活動膀胱に挑む: 症例から考える外科的治療	泌尿器外科	2022.07
7) 橘田岳也, 今雅文, 千葉博基, 樋口まどか, 日下部直久, 篠原信雄	小児 VUR における下部尿路機能障害の治療の意義, シンポジウム 13, 小児 VUR と下部尿路機能障害: マネージメントのポイント	泌尿器外科	2022.07
8) 橘田岳也, 和田直樹, 柿崎秀宏	糖尿病と頻尿および多尿 まとめと解説! 糖尿病と泌尿器疾患	泌尿器外科	2023.01
9) 橘田岳也, 和田直樹, 柿崎秀宏	過活動膀胱の標準的治療 高齢過活動膀胱患者に対する治療徹底解説! 過活動膀胱(OAB)の診療ストラテジー	臨床泌尿器科	2023.02
10) 橘田岳也	高齢過活動膀胱患者に対する治療, 特集過活動膀胱(OAB)の診療ストラテジー	臨床泌尿器科	2023.02

#### IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等名称	発行年月
1) Nishimura Y, Moriya K, Kobayashi S, Ikeda-Araki A, Sata F, Mitsui T, Itoh S, Miyashita C, Cho K, Kon M, Nakamura M, Kitta T, Murai S, Kishi R, Shinohara N.	Association of exposure to prenatal perfluoroalkyl substances and estrogen receptor 1 polymorphisms with the second to fourth digit ratio in school-aged children:	Reprod oxicol.	2022.04
2) 阿部紀之, 和田直樹, 玉木岳, 永瀨将哉, 石川万友美, 牧野将悟, 宮内琴菜, 小林 進, 堀 淳一, 柿崎秀宏	ロボット支援腎部分切除術における術前画像スコアリングシステムの意義	泌尿器科紀要	2022.05
3) Wada N, Abe N, Miyauchi K, Ishikawa M, Makino S, Kakizaki H.	Dutasteride add-on treatment to tadalafil for patients with benign prostatic enlargement is similarly effective as dutasteride add-on treatment to alpha blocker: a propensity-score matching analysis.	Int Urol Nephrol.	2022.06
4) Abe-Takahashi Y, Kitta T, Ouchi M, Chiba H, Higuchi M, Togo M, Shinohara N.	Evaluation of pelvic floor muscle elasticity in patients with overactive bladder syndrome using real-time tissue elastography.	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol.	2022.06
5) 宮内琴菜, 和田直樹, 永瀨将哉, 石川万友美, 牧野将悟, 阿部紀之, 堀 淳一, 玉木 岳, 舘岡 穰, 北 雅史, 柿崎秀宏	尿管再建術の治療成績	泌尿器科紀要	2022.07
6) Wada N, Karnup S, Kadekawa K, Shimizu N, Kwon J, Shimizu T, Gotoh D, Kakizaki H, de Groat WC, Yoshimura N.	Current knowledge and novel frontiers in lower urinary tract dysfunction after spinal cord injury: Basic research perspectives.	Urol Sci.	2022.07

- |     |   |  |                   |         |
|-----|---|--|-------------------|---------|
| 7)  | Kitta T.  | Editorial Comment to Artificial urinary sphincter in congenital neuropathic bladder: Very long-term outcomes.  | Int J Urol.       | 2022.07 |
| 8)  | Wada N, Ishikawa M, Nagabuchi M, Makino S, Miyauchi K, Abe N, Kakizaki H.   | Deterioration of bladder compliance after botulinum toxin A injection and discontinuation of medication for overactive bladder.  | IJU Case Reports. | 2022.09 |
| 9)  | Kaiho Y, Masuda H, Takei M, Hirayama T, Kitta T, Yokoyama M, Kawamorita N, Mitsui T, Nakagawa H, Iwamura M, Arai Y. | Outcomes of artificial urinary sphincter implantation in patients with diabetes mellitus: A subgroup analysis.   | Int J Urol.       | 2022.09 |
| 10) | Kitta T, Chiba H, Kon M, Higuchi M, Kusakabe N, Ouchi M, Togo M, Abe-Takahashi Y, Tsukiyama M, Shinohara N.         | Urodynamic evaluation of the efficacy of vibegron, a new $\beta$ 3-adrenergic receptor agonist, on lower urinary tract function in children and adolescents with overactive bladder. | J Pediatr Urol.   | 2022.10 |
| 11) | Yoshida M, Gotoh M, Yokoyama O, Kakizaki H, Yamanishi T, Yamaguchi O.   | Efficacy of TAC-302 for patients with detrusor underactivity and overactive bladder: a randomized, double-blind, placebo-controlled phase 2 study.                                   | World J Urol.     | 2022.11 |
| 12) | 久保靖憲, 松野直徒, 中川直樹, 内田大貴, 玉木 岳, 高橋裕之, 黒坂友里恵, 安藤 伸, 谷野美智枝, 柿崎秀宏, 横尾英樹, 東 信良, 田崎嘉一                                      | Tacrolimus 徐放製剤を服用中に腎毒性を示した腎移植症例における CYP3A5 遺伝子*1 allele と肥満サルコペニアの意義  | 移植                | 2022.11 |
| 13) | 谷地元皓太, 和田直樹, 玉木岳, 石川万友美, 永渕将哉, 牧  | 開腹膀胱全摘術とロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘術の周術期成績の比較   | 泌尿器科紀要            | 2022.11 |

野将悟, 阿部紀之, 宮内琴菜,  
小林 進, 堀 淳一, 柿崎秀宏

- |     |   |  |                        |         |
|-----|---|--|------------------------|---------|
| 14) | Sekido N, Matsuoka M, Takahashi R, Sengoku A, Nomi M, Matsuyama F, Murata T, Kitta T, Mitsui T.                           | Cross-sectional internet survey exploring symptomatic urinary tract infection by type of urinary catheter in persons with spinal cord lesion in Japan. | Spinal Cord Ser Cases. | 2023.02 |
| 15) | Chung E, Liao L, Kim JH, Wang Z, Kitta T, Lin AT, Lee KS, Ye L, Chu P, Kaiho Y, Takei M, Jiang H, Lee J, Masuda H, Tse V. | The Asia-Pacific AMS800 artificial urinary sphincter consensus statement.  | Int J Urol.            | 2023.02 |
| 16) | 青木貴寛, 和田直樹, 玉木岳, 阿部紀之, 小林 進, 宮内琴菜, 石川万友美, 牧野将悟, 永渕将哉, 柿崎秀宏  | ロボット支援腎部分切除術の初期経験における Trifecta 達成に影響する術前因子の検討  | 泌尿器科紀要                 | 2023.03 |

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 橘田岳也	排尿障害と便秘, 疾患と便秘の関係	すべての臨床医が知っておきたい便秘の診かた	2022.05
2) 橘田岳也	過活動膀胱 第1章 排尿障害(下部尿路機能障害)	泌尿器科薬剤の考え方, 使い方 改訂2版	2022.07
3) 和田直樹, 大宮剛, 日野岡蘭子	大学病院における認知機能低下高齢者に対する排尿自立支援 chapter 3 事例とともに考える排尿自立支援	泌尿器 Care & Cure	2022.08
4) 橘田岳也(作成委員), 柿崎秀宏(副委員長)	高齢過活動膀胱患者に対する治療	過活動膀胱診療ガイドライン [第3版]	2022.09
5) 和田直樹	新しい前立腺肥大症手術~経尿道的前立腺吊り上げ術~ chapter 4 Treatment (手術療法)	泌尿器 Care & Cure	2022.12
6) Kitta T, Yoshimura N.	41. Autonomic Control of the Lower Urinary Tract	Primer on the Autonomic Nervous System 4th Edition	2022.12



7)	阿部紀之, 柿崎秀宏	膀胱尿管逆流 泌尿器科領域の注目すべき疾患と治療の進歩	腎疾患・透析 最新の治療 2023-2025	2023.01
8)	橘田岳也, 柿崎秀宏	神経因性膀胱, 腎・泌尿器・生殖器疾患	小児科診療ガイドライン-最新の診療指針-	2023.01

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 牧野将悟, 堀 淳一, 永淵将哉, 石川万友美, 宮内琴菜, 阿部紀之, 小林 進, 和田直樹, 玉木 岳, 柿崎秀宏	下大静脈塞栓を伴う後腹膜悪性腫瘍を疑い腫瘍摘除を施行し、後腹膜膿瘍の診断に至った1例	第 415 回日本泌尿器科学会北海道地方会	2022.05
2) 堀 淳一	両側鼠径部及び心窩部違和感を伴う排尿障害に漢方治療で難渋している1例	第 38 回泌尿器漢方研究会学術集会	2022.06
3) 和田直樹, 玉木 岳, 永淵将哉, 石川万友美, 宮内琴菜, 阿部紀之, 牧野将悟, 小林 進, 堀 淳一, 柿崎秀宏	80 歳以上の高齢者におけるロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘除術の有用性	第 35 回日本老年泌尿器科学会	2022.06
4) 橘田岳也	神経因性下部尿路障害の管理を成功させるために考えるべきこととは？	第 50 回日本小児神経外科学会	2022.06
5) 橘田岳也	小児神経因性膀胱の病態と診断	第 31 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会	2022.07
6) 和田直樹, 阿部紀之, 宮内琴菜, 石川万友美, 永淵将哉, 牧野将悟, 柿崎秀宏	高脂肪高スクロース食ラットの下肢筋肉量と膀胱機能	第 29 回日本排尿機能学会	2022.09
7) 橘田岳也	OAB 診療の実態を踏まえたボトックス治療の在り方とは～さあボツリヌス療法の時間で～	第 29 回日本排尿機能学会	2022.09
8) 橘田岳也	ウロダイナミクスから何がわかるか」, Let's ウロダイナミ	第 29 回日本排尿機能学会	2022.09

		クス～さあ、謎解きの時間で す～		
9)	橘田岳也	仙骨神経刺激療法の難治性 OAB における有効性と安全性	第 29 回日本排尿 機能学会	2022.09
10)	Kitta Takeya	Japan Case Profile 2	NOPIA-Asia Masterclass	2022.09
11)	橘田岳也	膀胱機能障害の長期予後を考 える	第 9 回日本ボツリ ヌス治療学会学術大 会	2022.09
12)	橘田岳也	Functional Urology/下部尿路 症状と自律神経における最新 のトピック	第 75 回日本自律 神経学会総会	2022.10
13)	小林 進, 高木はるか, 森下 俊, 竹内慧悟, 牧野将悟, 大谷美結, 堀 淳一, 和田直樹, 橘田岳也, 小笠原穂の 花, 蒔田芳男, 柿崎秀 宏	若年性褐色細胞腫・パラガン グリオーマ患者に対する遺伝 子カウンセリング	第 416 回日本泌尿 器科学会北海道地方 会	2022.10
14)	竹内慧悟, 和田直樹, 高木はるか, 森下 俊, 牧野将悟, 大谷美結, 小林 進, 堀 淳一, 橘田岳也, 柿崎秀宏	前立腺癌に対する拡大リンパ 節郭清の施行基準－NCCN リ スク分類および日本版ノモグ ラムの比較－	第 416 回日本泌尿 器科学会北海道地方 会	2022.10
15)	森下 俊, 和田直樹, 高木はるか, 竹内慧悟, 牧野将悟, 大谷美結, 小林 進, 堀 淳一, 橘田岳也, 柿崎秀宏	前立腺癌における active surveillance 例の転帰	第 416 回日本泌尿 器科学会北海道地方 会	2022.10
16)	阿部紀之, 和田直樹, 高木はるか, 永渕将哉, 石川万友美, 牧野将悟, 宮内琴菜, 大谷美結, 小林 進, 堀 淳一, 北 雅史, 柿崎秀宏	ADL 低下症例に注目した PNL 治療成績	第 87 回日本泌尿 器科学会東部総会	2022.10
17)	高木はるか, 和田直樹, 竹内慧悟, 水永健志, 牧野将悟, 森下 俊,	ロボット支援腹腔鏡下仙骨膣 固定術の初期経験	第 87 回日本泌尿 器科学会東部総会	2022.10

	橘田岳也, 柿崎秀宏, 宮内琴菜			
18)	牧野将悟, 和田直樹, 堀 淳一, 永淵将哉, 石川万友美, 宮内琴菜, 阿部紀之, 小林 進, 玉木 岳, 柿崎秀宏	外科的切除を施行した後腹膜 原発脂肪肉腫の臨床的検討	第 87 回日本泌尿 器科学会東部総会	2022.10
19)	宮内琴菜, 和田直樹, 永淵将哉, 石川万友美, 牧野将悟, 阿部紀之, 柿崎秀宏, 北 雅史	小児の器質的尿道通過障害に 対する内視尿道切開の術後成 績	第 87 回日本泌尿 器科学会東部総会	2022.10
20)	橘田岳也	パーキンソン病にみられる排 尿障害と最新の知見～泌尿器 科医の立場から～	第 40 回日本神経 治療学会学術集会	2022.11
21)	Kitta Takeya	Surgical Treatment of LUTS & Pelvic Organ Prolapse.	The 38th Korea- Japan Urological Congress 2022	2022.11
22)	橘田岳也、和田直 樹、柿崎秀宏	腹腔鏡下仙骨膕固定術による 下部尿路機能の変化について	第 36 回日本泌尿 器内視鏡・ロボティ クス学会総会	2022.11
23)	和田直樹, 高木はるか, 森下 俊, 牧野将悟, 大谷美結, 小林 進, 堀 淳一, 橘田岳也, 柿崎秀宏	麻酔下膀胱水圧拡張術を繰り 返し行っている失感情症を伴 う難治性膀胱痛症候群の 1 例	第 22 回日本間質 性膀胱炎研究会	2023.01
24)	高木はるか, 堀 淳一, 森下 俊, 牧野将悟, 大谷美結, 小林 進, 和田直樹, 橘田岳也, 柿崎秀宏	両側精巣腫瘍の 3 例	第 417 回日本泌尿 器科学会北海道地方 会	2023.01
25)	堀 淳一, 小林 進, 和田直樹, 橘田岳也, 柿崎秀宏	免疫チェックポイント阻害剤 で無菌性髄膜炎を発症した 2 例の転移性腎癌	第 417 回日本泌尿 器科学会北海道地方 会	2023.01
26)	森下 俊, 和田直樹, 牧野将悟, 舘岡 穰, 大谷美結, 小林 進, 堀 淳一, 北 雅史, 橘田岳也, 柿崎秀宏	周産期の重篤な合併症に起因 する尿管狭窄に対して尿管再 建を行った 1 例	第 417 回日本泌尿 器科学会北海道地方 会	2023.01

27) 和田直樹, 濱野博隆, 小林 進, 高木はるか, 森下 俊, 牧野将悟, 大谷美結, 堀 淳一, 橘田岳也, 柿崎秀宏	ロボット支援腹腔鏡下前立腺 全摘後の尿失禁に影響を与え る因子	第 417 回日本泌尿 器科学会北海道地方 会	2023.01
---	---------------------------------------	-------------------------------	---------

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
1) 橘田岳也	市民公開講座, もう悩むのをやめませんか? 人には言えない女性のおしっこトラブル, 第 29 回日本排尿機能学会	2022.09
2) 橘田岳也	市民公開講座, 夜間頻尿--年のせいとあきらめないで-, 第 17 回日本抗加齢医学会北海道研究会	2022.10

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
1) Kitta Takeya	LUTS: Lower Urinary Tract Symptoms Top Reviewer Award for 2021	LUTS: Lower Urinary Tract Symptoms	2022.04
2) 牧野将悟	症例報告部門地方会賞	第 415 回日本泌尿器科学 会北海道地方会	2022.05

# 眼科学講座

Department of Ophthalmology

## I. 所属教員等

### 眼科学講座

准教授 宋 勇錫  
講師 中林 征吾  
木ノ内 玲子  
助教 高橋 賢伍

### 眼科

助教 西川 典子  
善岡 尊文  
講師（学内）宇都宮 嗣了  
診療助教 神谷 隆行

## II. 研究業績紹介

### III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 神谷隆行	緑内障の新規治療法の可能性について	別冊 Bio Clinica: 慢性炎症と疾患	2022.06
2) 西川典子	【弱視と斜視のフォローアップ】調節性内斜視	あたらしい眼科	2022.07
3) 間瀬智子, 石子智士, 吉田晃敏	黄斑疾患患者の固視領域と視機能の特徴	日本ロビジョン学会誌	2022.11

### IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等名称	発行年月
1) Noriko Nishikawa , Yuriya Kawaguchi , Rui Fushitsu	Prism adaptation response and surgical outcomes of acquired nonaccommodative comitant esotropia	Strabismus	2023.03
2) Miki Sato-Akushichi *, Shinji Ono, Tatsuro Taneda, Gerd Klose, Asuka Sasamori, Youngseok Song	One year outcome of combination therapy with full- or reduced-photodynamic therapy and one anti-vascular endothelial growth factor	Pharmaceuticals	2022.04

- in pachychoroid  
neovascularopathy
- 3) Zhen LingTeo, Christopher ZiyuSun, Crystal Chun YuenChong, Yih-ChungTham, KengoTakahashi, ShivaniMajithia, Cong LingTeo, Tyler HyungtaekRim, Jacqueline Chua, LeopoldSchmetterer, Chui Ming GemmyCheung, Tien YinWong, Ching-YuCheng, Anna Cheng SimTan  
Normative data and associations of Optical Coherence Tomography Angiography measurements of the macula: The Singapore Malay Eye Study  
Ophthalmology Retina  
2022.05
  - 4) Kokumai T, Suzuki S, Nishikawa N, Yamamura H, Mukai T, Tanahashi Y, Takahashi S.  
Early Diagnosis of Wolfram Syndrome by Ophthalmologic Screening in a Patient with Type 1B Diabetes Mellitus: A Case Report  
J Clin Res Pediatr Endocrinol  
2022.08
  - 5) Tsubasa Abe, Takafumi Yoshioka, Youngseok Song, Tomofumi Tani, Motofumi Kawai, Tsuneaki Omae, Kengo Takahashi, Yoshitaka Takizawa, Tomoko Romase, Satoshi Ishiko, Kana Minamide, Jun Sakai, Masahiro Akiba, Yohei Hashimoto, Akitoshi Yoshida  
Glaucoma Diagnostic Performance of Retinal Blood Flow Measurement With Doppler Optical Coherence Tomography  
Translational Vision Science & Technology  
2022.10

- |    |  |  |                                |         |
|----|--|--|--------------------------------|---------|
| 6) | Ten Cheer Quek, Kengo<br>Takahashi, Hyun Goo<br>Kang, Sahil Thakur, Mihir<br>Deshmukh, Rachel<br>Marjorie Wei Wen Tseng,<br>Helen Nguyen, Yih-<br>Chung Tham, Tyler<br>Hyungtaek Rim, Sung<br>Soo Kim, Yasuo Yanagi,<br>Gerald Liew, Ching-Yu<br>Cheng | Predictive, preventive, and<br>personalized management<br>of retinal fluid via computer-<br>aided detection app for<br>optical coherence<br>tomography scans                               | EPMA Journal                   | 2022.11 |
| 7) | Rui Fushitsu, Akihiro<br>Ishibazawa, Masataka<br>Muro, Reiko Kinouchi  | Outcomes of patients with<br>acute Vogt-Koyanagi-<br>Harada disease treated with<br>intravenous corticosteroid<br>pulse followed by the slow<br>tapering of oral<br>corticosteroid therapy | International<br>Ophthalmology | 2023.02 |
| 8) | Takahashi Kengo, Song<br>Youngseok, Cheong Kai<br>Xiong, Fenner Beau J.,<br>Teo Kelvin Yi Chong,<br>Chee Miao Li, Li<br>Hengtong, Tham Yih-<br>Chung, Cheung Chui<br>Ming Gemmy, Cheng<br>Ching-Yu, Wong Tien Yin,<br>Yanagi Yasuo, Tan Anna<br>C. S.  | PATTERN AND<br>CHARACTERISTICS OF<br>DRUSEN SUBTYPES IN<br>CHINESE AND INDIAN<br>POPULATIONS IN<br>SINGAPORE   | RETINA                         | 2023.02 |
| 9) | 黒田 優美, 西川 典子, 川口<br>ゆりや, 伏津 壘  | 術後に周期が再出現した周期<br>内斜視の 1 例  | 眼科臨床紀要                         | 2023.03 |

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

---



## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 木ノ内玲子、佐藤美紀、大野晋治、花田一臣、林弘樹、三上大季、石子智士	北海道留萌市で実施した population-base 研究による pachydrusen の危険因子に関する検討	第 126 回日本眼科学会総会	2022.04
2) 西川典子、川口ゆりや、伏津壘、本田聖奈、間野和幸	部分調節性内斜視の目標斜視角と手術成績	第 78 回日本弱視斜視学会総会	2022.06
3) 黒田優美、西川典子、川口ゆりや、伏津壘	術後に調節性内斜視が明らかとなった周期性内斜視の一例	第 78 回日本弱視斜視学会総会	2022.06
4) 宋 勇錫	視機能の夢:国産初の視機能危機を応援する-OCT 血流計-	第 58 回日本眼光学学会総会	2022.09
5) 間瀬 智子	検査機器の基本:検査と評価のポイント 明日から使える OCT・OCTA 撮影のポイント	第 58 回日本眼光学学会総会	2022.09
6) 神谷 由紀, 神谷 隆行, 木ノ内 玲子, 中林 征吾, 善岡 尊文, 室野 真孝, 宋 勇錫	マイクロパルス経強膜毛様体光凝固術の短期治療成績	第 33 回日本緑内障学会	2022.09
7) 井手良輔、室野真孝、木ノ内玲子	ICL 挿入眼に発症した樹氷状血管炎の 1 例	北海道眼科集談会	2022.09
8) 今野 駿、湯澤 明夏、木ノ内 玲子	虹彩生検と前房水腫瘍マーカーの検査が診断に有用であった 転移性虹彩腫瘍の 1 例	第 76 回日本臨床眼科学会	2022.10
9) 宇都宮嗣了、善岡尊文、石羽澤明弘、吉田光一、宋勇錫	シェアストレスに対する角膜上皮細胞の MMP-9 発現上昇	第 47 回日本角膜学会総会、第 39 回日本角膜移植学会	2023.02
10) 宇都宮嗣了	北海道僻地の角膜診療と NS-Endo Inserter を用いた角膜内皮移植片すくい法	第 47 回日本角膜学会総会、第 39 回日本角膜移植学会	2023.02
11) 竇田耕治、宇都宮嗣了、宋勇錫	前眼部 OCT を用いた翼状片無切除 Z 型切開回転術後の翼状片組織の退縮評価	第 47 回日本角膜学会総会、第 39 回日本角膜移植学会	2023.02

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

---

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

---

# 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座

Department of Otorhinolaryngology- Head  
and Neck Surgery

## I. 所属教員等

### 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座

准教授	片田 彰博
講師	大原 賢三 熊井 琢美
助教	林 隆介

### 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

講師	高原 幹 岸部 幹
助教	山木 英聖 寒風澤 知明

## II. 研究業績紹介

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座では、頭頸部癌の病態解明および新規治療の開発を目指し臨床検体を用いた bed to bench 型の reverse translational research および基礎研究を行ってきた。臨床面においては、これまで旭川医科大学で行ってきた頭頸部癌に対する治療成績をまとめ、ドセタキセル/シスプラチン併用化学療法や交替療法の有効性を明らかにした (Kumai et al, 2022.)。さらに栄養介入が化学放射線療法後の入院短縮に寄与すること、免疫チェックポイント阻害薬が頭頸部悪性腫瘍に著効することを見出した。また化学放射線療法を受ける頭頸部癌患者の口腔内有害事象に対する評価項目を検討して早期退院と嚥下との関係性を見出し、この業績により日本看護科学学会 最優秀演題ポスター発表賞を授賞している。

基礎研究として、我々は転写因子である Brachyury や HOXB7 が頭頸部癌に高発現しており、予後不良因子となることを見出した。さらに、これらの分子から T 細胞を特異的に刺激可能なエピトープを複数同定し、エピトープ特異的 T 細胞が頭頸部癌細胞を認識・殺傷することを見出した。我々が世界に先駆けて同定したこれらのエピトープは癌ワクチンとして有望と考えられる。これらのエピトープを有効に活用するため、TLR リガンドや共刺激分子をアジュバントとして用いたペプチドワクチンの開発を進め、In vivo においてペプチドワクチンの有用性を確認した。さらに、MAP キナーゼ系などの癌増殖に寄与するシグナリングが免疫逃避に寄与していることを見出し、これらのシグナリング阻害と免疫治療の併用療法が頭頸部癌細胞の殺傷に有効なこと、また Gemcitabine などの抗癌剤と免疫治療とのシナジー効果を明らかとした。さらに、免疫チェックポイント阻害薬におけるバイオマーカー探索も同時に進めており、PD-1 阻害薬無効例の免疫抑制を解除する新規治療法の開発も行っている。共同研究として本学薬理学講座と低酸素下における腫瘍免疫の動態を確認し、また放射線医学講座と PET-CT の臨床的有用性の検討、和歌山医大と扁桃病巣疾患におけるシングルセル解析を進めている。2022 年度は英文原著論

文を9本発表、博士号取得者も毎年輩出しており、今後も多角的な研究活動を積極的に行なっていく。

### Ⅲ. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 高原 幹	研修ノート 扁桃病巣疾患	耳鼻咽喉科臨床	2022
2) 大崎隆士,岸部幹	ANCA 関連血管炎性中耳炎(OMAAV)	リウマチ科	2022.02
3) 高原 幹	特集 検査結果・検査報告書をどう読むか 咽頭炎・扁桃炎の細菌・ウイルス検査と結果の見方	JOHNS	2022.03
4) 高原 幹	鼻科学会シンポジウム2：鼻副鼻腔悪性腫瘍の基礎と臨床 鼻性NK/T細胞リンパ腫	日本鼻科学会会誌	2022.04
5) 高原 幹	特集 耳鼻咽喉科手術における術中出血を減らす工夫 甲状腺・副甲状腺手術	耳鼻咽喉科	2022.04
6) 高原 幹	特集 耳鼻咽喉科医が知っておきたい薬の知識－私はこちら使う－ 扁桃周囲炎, 扁桃周囲膿瘍に対する治療	MB ENT	2022.04
7) 大崎隆士,岸部幹	【知っておきたい病理の知識】 ANCA 関連血管炎性中耳炎の病態と病理	耳鼻咽喉科	2022.05
8) 高原 幹	特集 ウイルス感染症に強くなる EB ウイルスと関連腫瘍	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2022.07
9) 高原 幹	私の治療 唾石症	日本医事新報	2022.07
10) 高原 幹	薬にまつわる疑問に答える 唾液分泌低下	JOHNS	2022.09
11) 熊井琢美	腫瘍とウイルス－EB ウイルス	月刊耳鼻咽喉科	2022
12) 熊井琢美	扁桃病巣疾患の歴史と病態	炎症と免疫	2022
13) 熊井琢美	鼻性NK/T細胞リンパ腫	ENTONI	2022.01
14) 片田彰博	声門開大術 Ejnell 法による声帯外方移動術を中心に	喉頭	2022.12

### Ⅳ. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等名称	発行年月
1) Miki Takahara	Treatment outcomes of sialendoscopy for submandibular gland sialolithiasis	Auris Nasus Larynx	2023.02
2) Kono M, Yamaki H, Komatsuda H,	IL-2 complex recovers steroid-induced inhibition in	Translational Oncology	2022.04

- |    |  |   |                        |         |
|----|--|---|------------------------|---------|
|    | Kumai T, Hayashi R, Wakisaka R, Sato R, Ohara K, Kishibe K, Takahara M, Katada A, Hayashi T, Kobayashi H, Harabuchi Y.   | immunochemotherapy for head and neck cancer.  |                        |         |
| 3) | Michihisa Kono 1, Hidekiyo Yamaki 1, Hiroki Komatsuda 1, Takumi Kumai, Ryusuke Hayashi 1, Risa Wakisaka 1, Ryosuke Sato 1, Kenzo Ohara 1, Kan Kishibe 1, Miki Takahara 1, Akihiro Katada 1, Tatsuya Hayashi 2, Yasuaki Harabuchi 1 | IL-2 complex recovers steroid-induced inhibition in immunochemotherapy for head and neck cancer | Translational Oncology | 2022.04 |
| 4) | Michihisa Kono, Hidekiyo Yamaki, Hiroki Komatsuda, Takumi Kumai, Ryusuke Hayashi, Risa Wakisaka, Ryosuke Sato, Kenzo Ohara, Kan Kishibe, Miki Takahara, Akihiro Katada, Tatsuya Hayashi, Yasuaki Harabuchi                         | IL-2 complex recovers steroid-induced inhibition in immunochemotherapy for head and neck cancer | Trans Oncology.        | 2022.04 |
| 5) | Ohara K, Kumai T, et al  | Central-part laryngectomy after laryngotracheal separation to manage pharyngocutaneous          | Auris Nasus Larynx     | 2022.05 |

- |     |  |   |                    |         |
|-----|--|---|--------------------|---------|
|     |  | fistula: A case report and retrospective analysis of 12 cases   |                    |         |
| 6)  | Ohara K, Katada A, Kumai T, Ominato H, Hirata-Nozaki Y, Sabusawa T, Yamaki H, Kono M, Komatsuda H, Wakisaka R, Takahara M, Hayashi T, Harabuchi Y.   | Central-part laryngectomy after laryngotracheal separation to manage pharyngocutaneous fistula: A case report and retrospective analysis of 12 cases. | Auris Nasus Larynx | 2022.05 |
| 7)  | Kenzo Ohara, Akihiro Katada, Takumi Kumai, Hisataka Ominato, Yui Hirata-Nozaki, Tomoaki Sabusawa, Hidekiyo Yamaki, Michihisa Kono, Hiroki Komatsudaa, Risa Wakisaka, Miki Takahara, Tatsuya Hayashia, Yasuaki Harabuchia | Central-part laryngectomy after laryngotracheal separation to manage pharyngocutaneous fistula: A case report and retrospective analysis of 12 cases  | Auris Nasus Larynx | 2022.05 |
| 8)  | Kumai T, et al   | 19th International Symposium on Epstein-Barr Virus and Associated Diseases, 29-30 July 2021, Asahikawa, Japan   | Cancers            | 2022.06 |
| 9)  | 井上貴博, 國部 勇, 藤原智貴, 駒林優樹, 熊井琢美, 岸部 幹, 高原 幹, 片田彰博, 林 達哉.  | 陰圧により生じたツチ骨単独骨折例  | 耳鼻臨床               | 2022.06 |
| 10) | 大湊久貴, 河野通久, 山木英聖, 熊井   | 乳癌に対する S-1 投与中に発症した鼻涙管閉塞例   | 耳鼻臨床               | 2022.06 |

琢美, 高原 幹, 片田彰博, 林 達哉, 原 洌保明.

- |     |  |   |   |         |
|-----|--|---|---|---------|
| 11) | 道塚智彦, 熊井琢美, 高原 幹, 片田彰博, 林 達哉, 原 洌保明.   | 新型コロナウイルス陽性患者 (COVID-19) における外科的気管切開術の周術期対応について   | 頭頸部外科   | 2022.06 |
| 12) | Yajima Y, Kumai T, et al   | A tumor metastasis-associated molecule TWIST1 is a favorable target for cancer immunotherapy due to its immunogenicity                    | Cancer Science                                  | 2022.08 |
| 13) | Sato R, Kumai T, et al   | The efficacy of PD-1 inhibitors in patients with salivary gland carcinoma: A retrospective observational study                            | Laryngoscope<br>Investigative<br>Otolaryngology | 2022.11 |
| 14) | Harabuchi S, Khan O, Bassiri H, Yoshida T, Okada Y, Takizawa M, Ikeda O, Katada A, Kambayashi T. | Manipulation of diacylglycerol and ERK-mediated signaling differentially controls CD8(+) T cell responses during chronic viral infection. | Front Immunol                                   | 2022.11 |
| 15) | Ohara K, Kumai T, et al  | Treatment outcomes of alternating chemoradiotherapy for nasopharyngeal carcinoma: a single-center safety and efficacy study               | Brazilian Journal<br>of<br>Otorhinolaryngology  | 2022.12 |
| 16) | Ohara K, Takahara M, Kumai T, Yamashita M, Kishibe K, Katada A, Hayashi T.                       | Treatment outcomes of alternating chemoradiotherapy for nasopharyngeal carcinoma: a single-center safety and efficacy study.              | Braz J<br>Otorhinolaryngol                      | 2022.12 |
| 17) | Kenzo Ohara, Miki Takahara, Takumi Kumai, Masaaki Yamashina, Kan Kishibe, Akihiro                | Treatment outcomes of alternating chemoradiotherapy for nasopharyngeal carcinoma: a single-center safety and efficacy study               | Braz J<br>Otorhinolaryngol.                     | 2022.12 |



Katada, Tatsuya  
Hayashi

- |     |  |  |  |         |
|-----|--|--|--|---------|
| 18) | Komatsuda H,<br>Kumai T, et al   | Sensory trick in patients with<br>opsoclonus-myoclonus syndrome  | Acta Neurologica<br>Belgica            | 2023.01 |
| 19) | 井上 貴博(旭川医科<br>大学 耳鼻咽喉科・<br>頭頸部外科), 熊井<br>琢美, 岸部 幹, 高原<br>幹, 片田 彰博, 林 達<br>哉  | 軟口蓋に発生した筋上皮腫例  | 耳鼻臨床                                   | 2023.01 |
| 20) | 大湊 久貴, 野崎 結,<br>熊井 琢美, 岸部 幹,<br>高原 幹, 片田 彰博,<br>林 達哉   | 入院加療を行った Bell 麻痺および<br>Ramsay Hunt 症候群の検討  | 耳鼻臨床                                   | 2023.01 |
| 21) | 熊井琢美   | 次世代リーダーの育成-頭頸部癌に<br>対する免疫療法の最前線-   | 日本耳鼻咽喉科頭<br>頸部外科学会 会報                  | 2023.02 |
| 22) | Hayashi S, Kumai<br>T, et al   | Internal carotid artery dissection<br>caused by elongated styloid<br>process   | Auris Nasus<br>Larynx                  | 2023.02 |
| 23) | Nagato T, Kumai<br>T, et al.   | Expression of soluble CD27 in<br>extranodal natural killer/T-cell<br>lymphoma, nasal type: potential as<br>a biomarker for diagnosis and<br>CD27/CD70-targeted therapy | Cancer<br>Immunology,<br>Immunotherapy | 2023.02 |
| 24) | Komatsuda H,<br>Kumai T, et al   | Mitogen-activated protein kinase<br>inhibition augments the T cell<br>response against HOXB7-<br>expressing tumor through human<br>leukocyte antigen upregulation      | Cancer Science                         | 2023.02 |
| 25) | Komatsuda H,<br>Wakisaka R, Kono<br>M, Kumai T ,<br>Hayashi R, Yamaki<br>H, Sato R, Nagato<br>T, Ohkuri<br>T, Kosaka A, Ohara<br>K, Takahara M,<br>Katada A,<br>Kobayashi H. | Mitogen-activated protein kinase<br>inhibition augments the T cell<br>response against HOXB7-<br>expressing tumor through human<br>leukocyte antigen upregulation.     | Cancer Science                         | 2023.02 |

- 26) Nagato T, Komatsuda H, Hayashi R, Takahara M, Kishibe K, Yasuda S, Yajima Y, Kosaka A, Ohkuri T, Oikawa K, Harabuchi S, Kono M, Yamaki H, Wakisaka R, Hirata-Nozaki Y, Ohara K, Kumai T, Katada A, Hayashi T, Harabuchi Y, Kobayashi H. Expression of soluble CD27 in extranodal natural killer/T-cell lymphoma, nasal type: potential as a biomarker for diagnosis and CD27/CD70-targeted therapy. *Cancer Immunol Immunother* 2023.02
- 27) Takahara M, Sabusawa T, Ohara K, Katada A, Hayashi T, Harabuchi Y. Treatment outcomes of sialendoscopy for submandibular gland sialolithiasis. *Auris Nasus Larynx* 2023.02
- 28) Hayashi S, Kumai T, Kishibe K, Takahara M, Katada A, Hayashi T. Internal carotid artery dissection caused by elongated styloid process. *Auris Nasus Larynx* 2023.02

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 高原幹	掌蹠膿疱症性関節炎 診療の手引き 2022 XI 治療 3.外科的手術療法 1) 扁桃摘出術	文光堂	2022.09
2) 高原幹	EB ウイルス関連胃癌改訂第2版 全身における EB ウイルス関連腫瘍概論:全身における EB ウイルス関連腫瘍概論	診断と治療社	2022.11
3) 熊井琢美	止血薬	中山書店	2023.01

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会	発表年月
-------	----	----------	------

		等の名称		
1)	高原幹、大原賢三、片田彰博、林達哉、原渕保明	扁桃疾患における扁桃細菌叢の検討	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 総会・学術講演会	2022.05
2)	高原 幹	教育セミナー2 扁桃病巣疾患診療の手引きについて	日本口腔・咽頭科学会 総会ならびに学術講演会	2022.09
3)	高原 幹、片田彰博、林 達哉	当科における上咽頭癌の治療成績	北日本頭頸部癌治療研究会	2022.1
4)	高原 幹	当科における Nivolumab の使用経験	北海道頭頸部がんセミナー	2022.1
5)	岸部幹	好酸球性中耳炎と ANCA 関連血管炎性中耳炎： Up to Date ANCA 関連血管炎性中耳炎 (OMAAV) 診療の現況	第 32 回日本耳科学会総会	2022.1
6)	高原 幹	ビデオセミナー4 当科における甲状腺腫瘍への内視鏡補助下甲状腺手術の実際	日本気管食道科学会 総会ならびに学術講演会	2022.11
7)	岸部幹,小松田浩樹,金谷健史,片田彰博	新型コロナウイルス感染症流行前後でのめまい外来患者動向の変化	第 81 回日本めまい平衡医学会	2022.11
8)	Kan K	Otitis media with ANCA-associated vasculitis (OMAAV): A multicenter study in Japan	4th World Congress on Endoscopic Ear Surgery	2022.12
9)	脇坂理紗,熊井琢美,河野通久,小松田浩樹,山木英聖,岸部 幹,高原 幹,片田彰博,林 達哉,原渕保明	頭頸部扁平上皮癌に対する FGFR1 を標的としたがん免疫療法.	第 2 回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会	2022.04
10)	小松田浩樹,長門利純,河野通久,山木英聖,脇坂理紗,熊井琢美,岸部 幹,高原 幹,片田彰博,林 達哉,小林博也,原渕保明:	頭頸部癌における PEG10 を標的としたペプチドワクチン療法の開発.	第 2 回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会	2022.04
11)	山木英聖,熊井琢美,脇坂理紗,小松田浩樹,大原賢三,河野通久,岸部	奨励賞応募演題 2 : 頭頸部扁平上皮癌に対する Brachyury を標的としたペプチドワクチンの検討.	第 2 回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会	2022.04

	幹, 高原 幹, 片田彰博, 林 達哉, 原渕保明			
12)	大原賢三, 熊井琢美, 山木英聖, 河野通久, 脇坂理紗, 高原 幹, 片田彰博, 林 達哉, 原渕保明	シラカバ花粉 PFAS マウスモデルによる疾患発症機序の解析.	第 2 回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会	2022.04
13)	高原 幹, 大原賢三, 片田彰博, 林 達哉, 原渕保明	扁桃疾患における扁桃細菌叢の検討.	第 2 回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会	2022.04
14)	熊井琢美	頭頸部癌に対する免疫チェックポイント阻害薬のバイオマーカー探索	耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会	2022.04
15)	小松田浩樹, 長門利純, 河野通久, 山木英聖, 脇坂理紗, 熊井琢美, 岸部幹, 高原 幹, 片田彰博, 林 達哉, 原渕保明	HOXB7 を標的としたペプチドワクチン療法の開発.	第 123 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会	2022.05
16)	大原賢三, 片田彰博, 熊井琢美, 野崎 結, 高原幹, 林 達哉, 原渕保明	喉頭気管分離術後の気管皮膚唾液瘻のコントロールに喉頭中央部分切除を施行した症例..	第 123 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会	2022.05
17)	高原 幹, 大原賢三, 片田彰博, 林 達哉, 原渕保明	扁桃疾患における扁桃細菌叢の検討.	第 123 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会	2022.05
18)	熊井琢美	頭頸部癌に対する免疫チェックポイント阻害薬のバイオマーカー探索	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会	2022.05
19)	道塚智彦, 熊井琢美, 高原 幹, 片田彰博, 林 達哉	超選択的動注化学放射線療法が著効した上顎洞 low-grade papillary Schneiderian carcinoma の 1 例.	第 46 回日本頭頸部癌学会	2022.06
20)	高原 幹, 片田彰博, 林 達哉, 原渕保明	ニボルマブ投与により著明な腫瘍縮小効果を認めた上顎洞悪性黒色腫甲状腺転移の 1 例.	第 34 回日本内分泌外科学会総会 : 6.23-25, 2022, 筑波.	2022.06
21)	宮越 薫, 熊井琢美, 岸部 幹, 高原 幹, 片田彰博, 林 達哉	甲状腺腫瘍との鑑別を要した胸腺癌の 1 例.	第 84 回耳鼻咽喉科臨床学会	2022.07

22)	林 美咲, 熊井琢美, 坂上翔大, 林 秀斗, 岸部 幹, 高原 幹, 片田彰博, 林 達哉	外耳道腫瘍を契機に急性前骨髄球性白血病再発と診断された1例.	第 84 回耳鼻咽喉科臨床学会	2022.07
23)	井上貴博, 熊井琢美, 岸部 幹, 高原 幹, 片田彰博, 林 達哉	当科で行ったシェーグレン症候群における診断検査の検討.	第 84 回耳鼻咽喉科臨床学会	2022.07
24)	齋藤日香里, 熊井琢美, 岸部 幹, 高原 幹, 片田彰博, 林 達哉	集学的治療により寛解に至った顎下腺導管癌の1例.	第 35 回日本口腔・咽頭科学会 : 9.8-9, 2022, 倉敷.	2022.09
25)	Kumai T, et al.	The route of administration defines the immunogenicity of tumor associated antigen-targeted peptide vaccine.	日本癌学会	2022.09
26)	Hidekio Yamaki, Takumi Kumai, Risa Wakisaka, Hiroki Komatsuda, Kenzo Ohara, Kan Kishibe, Miki Takahara, Akihiro Katada, Tatsuya Hayashi	Antitumor effect of Brachyury-specific T cells in squamous cell carcinoma of the head and neck.	第 81 回日本癌学会	2022.09
27)	熊井琢美,他	当科における好酸球性副鼻腔炎のまとめ	日本咳嗽学会	2022.1
28)	熊井琢美, 大原賢三, 岸部 幹, 片田彰博	当科における好酸球性副鼻腔炎のまとめ.	第 24 回日本咳嗽学会	2022.1
29)	大原賢三, 熊井琢美, 岸部 幹, 片田彰博	洗剤中の界面活性剤は気道上皮細胞から IL-33 を放出させ、2型炎症を惹起する.	第 24 回日本咳嗽学会	2022.1
30)	Katada A	Neurolaryngology Laryngeal pacing for reanimation of the paralyzed larynx.	The 16th meeting of the International Association of Phonosurgery (IAP Kyoto 2022)	2022.1
31)	井上貴博, 熊井琢美, 岸部 幹, 高原 幹, 片田彰博, 林 達哉	当科における眼症状をきたした鼻副鼻腔疾患の臨床的検討.	第 61 回日本鼻科学会	2022.1

32)	林 美咲, 熊井琢美, 岸部 幹, 高原 幹, 片田彰博, 林 達哉	小児に発生した鼻副鼻腔血管奇形の1例.	第 61 回日本鼻科学会	2022.1
33)	熊井琢美	鼻性 NK/T 細胞リンパ腫	日本鼻科学会	2022.1
34)	片田彰博, 熊井琢美, 岸部 幹, 高原 幹, 西尾信哉, 宇佐美真一, 林 達哉	人工内耳埋込術を施行した新規 MYO15A 複合ヘテロ接合体例.	第 32 回日本耳科学会	2022.1
35)	熊井琢美, 岸部 幹, 高原 幹, 片田彰博, 林 達哉	髄膜炎、硬膜下膿瘍および S 状静脈洞血栓症をきたした慢性中耳炎の1例.	第 32 回日本耳科学会	2022.1
36)	熊井琢美, 他	髄膜炎、硬膜下膿瘍および S 状静脈洞血栓症をきたした慢性中耳炎の1例	日本耳科学会	2022.1
37)	熊井琢美	アレルギー性鼻炎および好酸球性副鼻腔炎診療における Tips	アレルギー学会地方会	2022.1
38)	宮越 薫, 熊井琢美, 岸部 幹, 高原 幹, 片田彰博, 林 達哉	レンバチニブに対するアレルギーの確定診断を得られた甲状腺低分化癌の1例.	第 226 回日耳鼻北海道地方部会	2022.1
39)	林 美咲, 熊井琢美, 大原賢三, 岸部 幹, 高原 幹, 片田彰博, 林 達哉	外耳道扁平上皮癌を発症した Netherton 症候群の1例.	第 226 回日耳鼻北海道地方部会	2022.1
40)	齋藤日香里, 大原賢三, 井上貴博, 佐藤遼介, 野崎 結, 高原 幹, 片田彰博, 林 達哉	中咽頭 Mucinous cystadenoma(粘液性嚢胞腺腫)の1例.	第 226 回日耳鼻北海道地方部会	2022.1
41)	宮越 薫, 熊井琢美, 岸部 幹, 高原 幹, 片田彰博, 林 達哉	レンバチニブに対するアレルギーの確定診断を得られた甲状腺低分化癌の1例.	第 73 回日本気管食道科学会	2022.11
42)	岸部 幹, 小松田浩樹, 金谷健史, 片田彰博	新型コロナウイルス感染症流行前後でのめまい外来患者動向の変化.	第 81 回日本めまい平衡医学会	2022.11
43)	國部 勇, 片田彰博, 熊井琢美	手術により著明な音声改善を認めた陳旧性甲状軟骨骨折の1例.	第 67 回日本音声言語医学会	2022.11
44)	片田彰博, 熊井琢美, 國部 勇	当科および関連施設における内転型痙攣性発声障害症例のまとめ.	第 67 回日本音声言語医学会	2022.11

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

---

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
1) 熊井琢美	最優秀ポスター発表賞	日本看護学学術集会	2022.12

# 産婦人科学講座

Department of Obstetrics and Gynecology



## I. 所属教員等

### 産婦人科学講座

教 授 加藤 育民  
准 教 授 片山 英人  
講 師 (学内) 市川 英俊  
                  金井 麻子  
助 教 板橋 彩

### 産科・婦人科

講 師 高橋 知昭  
助 教 中西 研太郎  
          水無瀬 学  
          宇津野 泰弘  
          水無瀬 萌  
病院助教 石川 雄大

### 周産母子センター

助 教 横浜 祐子  
          吉澤 明希子  
          水崎 恵

## II. 研究業績紹介

旭川医科大学産婦人科学講座の2022年度の研究報告をさせていただきます。

COVID19 対応及び学術集会の現地参加が難しい背景があり、研究活動においても厳しい状況がありました。

地域産婦人科医療を中心に研究をしております当方での研究報告を記載しております。

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

## IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等名称	発行年月
1) 麩澤章太郎, 中西研太郎, 吉澤明希子, 金井麻子, 横 浜祐子, 加藤育民	帝王切開術後の持続する疼痛 と発熱に対して漢方が奏効し た子宮腺筋症合併妊娠の一例	産婦人科漢方研究 のあゆみ	2022.04
2) Kentaro Nakanishi, Ryo Yamamoto, Yousuke Imanishi, Shusaku	Umbilical cord prolapse after preterm premature rupture of membranes	Taiwanese journal of obstetrics & gynecology	2022.05

- Hayashi, Kazuko Wada,  
Keisuke Ishii.
- 3) 水無瀬学,津村亜依,本間寛之,金井麻子,横浜祐子,水無瀬萌,加藤育民 凍結融解胚移植による妊娠週数から1週間の遅延を認めるも正常発育・分娩に至った1例 産婦人科の実際 2022.08
  - 4) 水無瀬学,津村亜依,水無瀬萌,水崎恵,高橋知昭,加藤育民 調節卵巣刺激中に外傷による卵巣チョコレート嚢胞破裂をきたした1例 日本生殖内分泌学会雑誌 2022.09
  - 5) Yuki Kunori, Yasuaki Saijo, Eiji Yoshioka, Yukihiro Sato, Tomoko Kanaya, Kentaro Nakanishi, Yasuhito Kato, Ken Nagaya, Satoru Takahashi, Yoshiya Ito, Sachiko Itoh, Sumitaka Kobayashi, Chihiro Miyashita, Atsuko Ikeda-Araki, Reiko Kishi, the Japan Environment and Children's Study (JECS) Group Evaluating association of smoking status during pregnancy with adverse birth outcomes using urinary cotinine concentration: The Japan environment and Children's study (JECS) Environmental research 2022.09
  - 6) Kentaro Nakanishi, Yasuaki Saijo, Eiji Yoshioka, Yukihiro Sato, Yasuhito Kato, Ken Nagaya, Satoru Takahashi, Yoshiya Ito, Sumitaka Kobayashi, Chihiro Miyashita, Atsuko Ikeda-Araki, Reiko Kishi Association between maternal multimorbidity and preterm birth, low birth weight and small for gestational age: a prospective birth cohort study from the Japan Environment and Children's Study BMJ Open 2023.03

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 中西研太郎, 酒井美穂, 吉澤明希子, 金井麻子, 横浜祐子, 加藤育民	糖尿病内科管理下における妊娠糖尿病単胎妊婦の臨床的特徴	第 19 回北海道周産期談話会	2022.07
2) 中西研太郎, 越澤章太郎, 吉澤明希子, 金井麻子, 横浜祐子, 加藤育民	妊娠糖尿病単胎妊婦におけるインスリン療法の導入のリスク因子	第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会	2022.08
3) 水無瀬萌, 水無瀬学, 津村亜依, 寶田健平, 加藤育民	腹腔鏡下に診断し得た採卵後卵巣出血の 1 例	第 62 回 日本産科婦人科内視鏡学会・学術講演会	2022.09
4) 中西研太郎, 和栗雅子	糖尿病を合併した日本人妊婦における先天異常と妊娠第 1 三半期の HbA1c#DC#DR 値の検討	第 38 回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会	2022.11
5) 高橋 知昭, 青木 直子, 鶴野 裕治, 片山 英人, 市川 英俊, 板橋 彩, 水崎 恵, 早坂 美紗, 寶田 健平, 湯澤 明夏, 上小倉 佑機, 秋山 直子, 谷野 美智枝, 加藤 育民	縦隔悪性リンパ腫と同時性重複した子宮体部中腎様腺癌の 1 例	第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会	2022.11
6) 水無瀬学, 水無瀬萌, 佐藤雅美, 津村亜依, 加藤育民	Zymot を用いた精子選別の有用性についての検討	北海道生殖医学会	2023.02
7) 中西研太郎	双胎妊娠の診断と管理	北海道産婦人科臨床フォーラム	2023.02
8) 市川 英俊, 早坂 美紗, 板橋 彩, 寶田 健平, 高橋 知昭, 片山 英人, 加藤 育民	ペムブロリズマブ長期投与からペムブロリズマブとレンバチニブ併用に移行した再発子宮体癌の一例	第 64 回日本婦人科腫瘍学会	2022.07
9) 市川 英俊, 早坂 美紗, 板橋 彩, 寶田 健平, 高橋 知昭, 片山 英人, 加藤 育民	当科で経験した OHVIRA 症候群の 3 例	第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会	2022.08

10)	金井麻子、麩澤章太郎、中西研太郎、吉澤明希子、横浜祐子、加藤育民	治療に難渋した結節性紅斑を伴う妊娠中の肉芽腫性乳腺炎の一例	第74回 日本産科婦人科学会学術講演会	2022.08
11)	金井麻子 麩澤章太郎 中西研太郎 吉澤明希子 加藤育民 蒔田芳男	当院の遺伝カウンセリング数の推移	第23回北海道出生前診断研究会	2022.1
12)	金井 麻子 麩澤章太郎 中西 研太郎 吉澤 明希子 加藤育民 蒔田 芳男	当院での先天性食道閉鎖症の胎児診断の契機について	日本超音波医学会第52回北海道地方部会	2022.1
13)	片山英人	当院におけるゼジューラの使用経験	Gynecological Cancer WEB Seminar	2022.11
14)	金井 麻子	「北海道・道北地方」における周産期医療体制	第7回 ALSO-Japan 学術集会	2022.11

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
2) 中西 研太郎	第38回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会 若手奨励賞	日本糖尿病・妊娠学会	2022.11

# 放射線医学講座

Department of Radiology

## I. 所属教員等

### 放射線医学講座

教授 沖崎 貴琢  
講師 山品 将祥  
中山 理寛  
講師（学内）石戸谷 俊太  
助教 大屋 明希子

### 放射線科

教授（病院）中島 香織  
講師（学内）渡邊 尚史  
助教 戸田 雅博  
野村 優里菜

## II. 研究業績紹介

2022年度の当科の研究活動としては、共著論文が2報、学会発表が12報であった。Dr. Kumei らによる論文では、急性胸痛を主訴として施行された5年間の胸部CT所見について retrospective な検討を行い、心外膜脂肪壊死の有病率について評価した。救急科を含めた様々な診療科の医師にとって、胸痛を主訴とした患者の診察に当たる際に、心外膜脂肪壊死も念頭に置くことが重要と考えられた。また、Dr. Nakata らによる論文では、心サルコイドーシスに対して FDG-PET を用いた多施設共同研究を行い、病理組織学的な評価が困難な場合であっても、非侵襲的な心筋画像評価の合理性と臨床的有効性を示した。

この期間は COVID-19 のパンデミックの影響下にあり、国際学会に関しては accept されたとしても現地での発表は困難と考えられたことから演題の投稿そのものを見送ったケースもあり、またいくつかの研究は実際に accept されたが、各種の行動制限や海外渡航の禁止など、種々の事情によって国際学会での発表を行うことは出来なかった。

なお、複数の研究テーマで科学研究費を獲得しており、現在もこれらの研究が進行中である。今後、これらの研究を更に発展させ、新規技術開発や特許出願を含め、意欲的に様々な研究テーマに取り組んでいきたい。

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

## IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等名称	発行年月
------	----	--------	------

- |    |  |   |                                    |         |
|----|--|---|------------------------------------|---------|
| 1) | Shima Kumei, Shunta<br>Ishitoya, Akiko Oya, Masumi<br>Ohhira, Masatomo Ishioh<br>and Toshikatsu Okumura  | Epipericardial Fat Necrosis:<br>A Retrospective Analysis in<br>Japan  | Internal<br>Medicine               | 2022.08 |
| 2) | Tomoaki Nakata, Kenichi<br>Nakajima, Masanao Naya,<br>Shohei Yoshida, Mitsuru<br>Momose, Yasuyo Taniguchi,<br>Yoshimitsu Fukushima,<br>Masao Moroi, Atsutaka<br>Okizaki, Akiyoshi<br>Hashimoto, Takatoyo Kiko,<br>Satoshi Hida, Kazuya<br>Takehana | Multicenter-Registry in the<br>Japanese Cardiac<br>Sarcoidosis Prognostic (J-<br>CASP) Study: Baseline<br>Characteristics and<br>Validation of the Non-<br>invasive Approach Using<br>18F-FDG PET | Annals of<br>Nuclear<br>Cardiology | 2022.08 |

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

---

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演 会等の名称	発表年月
1) Naofumi Watanabe, Shunta Ishitoya, Yasuomi Fujimoto, Akiko Oya, Masahiro Toda, Naoko Kamijo, Yurina Nomura, Kenta Nomura, Miki Ogata, Atsutaka Okizaki	腹壁の画像診断	第 81 回日本医学 放射線学会総会	2022.04
2) M. Nakayama, K. Nomura, A. Oya, A. Okizaki	Preventive and palliative effects of basil tea on salivary gland disorders associated with radioactive iodine therapy	2022 年米国核医 学会	2022.06
3) 高橋周平, 西岡健太郎, 森崇, 山口秀, 山品将 祥, 木下学, 青山英史	膠芽腫の再発様式に関する道 内 2 施設共同報告	第 146 回日本医 学放射線学会 北 日本地方会	2022.07

- |     |  |  |   |         |
|-----|--|--|---|---------|
| 4)  | 吉田一平, 野村優里菜, 野村健太, 中山理寛, 渡邊尚史, 石戸谷俊太, 大屋明希子, 戸田雅博, 上條那緒子, 緒方美季, 上枝翔, 林秀美, 中嶋駿介, 澤田康司, 長谷部拓夢, 林真奈実, 谷野美智枝, 沖崎貴琢 | FDG-PET が診断と治療効果判定に有用であった肝血管肉腫の一例                              | 第 32 回北海道肝がん研究会                           | 2022.07 |
| 5)  | 緒方美季, 沖崎貴琢, 石戸谷俊太, 戸田雅博, 大屋明希子, 上條那緒子, 野村優里菜, 上枝翔, 吉田一平, 渡邊尚史  | 尿路悪性腫瘍からの出血に対し経カテーテル的動脈塞栓術を行った 2 例                             | 第 58 回日本医学放射線学会秋季臨床大会                     | 2022.09 |
| 6)  | 石戸谷俊太, 戸田雅博, 上條那緒子, 緒方美季, 渡邊尚史, 沖崎貴琢   | 術前血管塞栓および術中出血に対してステントグラフト内挿術を施行した Parkes-Weber 症候群の一例          | 第 58 回日本医学放射線学会秋季臨床大会                     | 2022.09 |
| 7)  | 野村健太, 大屋明希子, 中山理寛, 沖崎貴琢  | 褐色細胞腫や傍神経節腫に伴う高カテコラミン血症により褐色脂肪の FDG 集積増加を認めた症例に関する検討           | 第 62 回日本核医学会学術総会                          | 2022.09 |
| 8)  | 中山理寛, 野村健太, 大屋明希子, 宇野貴寛, 鈴木達也, 中田綾子, 菅みのり, 佐藤順一, 沖崎貴琢  | BSI を用いた去勢抵抗性前立腺癌多発骨転移患者の Ra-223 治療における効果予測の有用性                | 第 62 回日本核医学会学術総会                          | 2022.09 |
| 9)  | 山品将祥, 青木友希, 佐々木駿, 林秀樹, 山田裕樹, 中島香織  | 唾液腺癌の放射線治療成績   | 日本放射線腫瘍学会第 35 回学術大会                       | 2022.11 |
| 10) | 沖崎貴琢, 中山理寛, 木村隆, 鈴木康博, 大屋明希子, 野村優里菜, 上條那緒子, 野村健太, 緒方美季, 上枝翔, 宇野貴寛, 佐藤順一  | Distance-Weighted Histogram アルゴリズムを用いたドパミントランスポート解析: ヤール分類との比較 | 第 147 回日本医学放射線学会北日本地方会・第 92 回日本核医学会北日本地方会 | 2022.11 |
| 11) | 中島香織, 青木友希, 北田正博   | 乳癌局所単独再発に対する救済放射線治療成績  | 第 30 回日本乳癌学会学術総会                          | 2022.06 |



12) 野村健太, 中山理寛, 沖崎貴琢	パーキンソン病における線条体集積の新たな評価方法に関する検討	第 30 回北海道脳 PET・SPECT 研究会 ウェブ開催	2022.11
----------------------	--------------------------------	--------------------------------	---------

#### VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

---

#### VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

---

# 麻醉・蘇生学講座

Department of Anesthesiology and  
Critical Care Medicine

## I. 所属教員等

### 麻酔・蘇生学講座

准教授 神田 浩嗣  
講師 神田 恵  
講師(学内) 高橋 桂哉  
助教 菅原 亜美

### 麻酔科蘇生科

講師 岩崎 肇  
助教 佐古 澄子  
鷹架 健一  
平川 啓  
井上 真澄  
山谷 修一  
高橋 裕香子  
鈴木 真也  
須田 康裕

## II. 研究業績紹介

旭川医科大学麻酔・蘇生学講座においては、伝統的に筋弛緩薬に対する基礎・臨床研究が研究の柱であり、現在岩崎肇を中心として業績が蓄積されている。当科では臨床面において、経食道心エコー、超音波ガイド下神経ブロックにおいて、全国的に普及する前の早い段階で海外の難資格を取得するなど、国内で指導的位置にあったため、それらに関する症例報告や臨床研究が盛んに行われてきた。また、ウイルスベクターを用いた痛みの遺伝子治療の基礎研究や、新規静脈麻酔薬の血中濃度に関する臨床研究も行われている。2023年度も上記の研究成果が論文及び学会発表されている。

近年の手術件数増加により臨床に費やす時間が増加していることや、長期にわたる教授不在期間における人員減少、コロナ禍など、当科における基礎・臨床研究の遂行には逆風が吹いている状態であるが、2023年7月1日には新教授が就任した。まずは麻酔科医師の充足を図り、研究に割ける時間を作り出すことが急務であるが、時間がない中でも、基礎系講座や各基礎診療科との共同研究を推進することで諸課題を克服していきたいと考えている。新教授が就任したことにより、前任地で行ってきた脳動脈瘤に関する基礎研究や医工連携による“ものづくり”なども増加することが期待されている。

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 神田浩嗣、菅原亜美、白坂知識	低侵襲心臓手術の麻酔	臨床麻酔	2022.04

#### IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等名称	発行年月
1) Iwasaki H, Sato H, Takagi S, Kitajima O, Kyuragi Luthe S, Suzuki T.	A comparison between the adductor pollicis muscle and the abductor digiti minimi muscle using electromyography AF-201P in rocuronium-induced neuromuscular block: a prospective comparative study	BMC Anesthesiology	2022.04
2) Suda Y, Sugawara A, Kanao-Kanda M, Shirasaka T, Kamiya H, Kanda H.	Awake intubation for thoracic aortic aneurysm causing esophageal stenosis with food residues and compression of the pulmonary artery and left bronchi: a case report	JA Clin Rep	2022.06
3) 道塚 智彦, 熊井 琢美, 佐古 澄子, 高原 幹, 片田 彰博, 林 達哉, 藤田 智, 原淵 保明	新型コロナウイルス陽性患者 (COVID-19)における外科的気管切開術の周術期対応について	頭頸部外科	2022.06
4) Iwasaki H, Yamamoto M, Sato H, Doshu-Kajiura A, Kitajima O, Takagi S, Luthe SK, Suzuki T.	A Comparison Between the Adductor Pollicis Muscle Using TOF-Watch SX and the Abductor Digiti Minimi Muscle Using TetraGraph in Rocuronium-Induced Neuromuscular Block: A Prospective Observational Study.	Anesthesia and Analgesia	2022.08
5) Iwasaki H, Takagi S, Kitajima O, Oshima Y, Kyuragi Luthe S, Suzuki T.	Plasma rocuronium concentration in cell salvage blood following cardiac surgery: a case series	J Clin Monit Comput.	2022.08
6) Iwasaki H, Suwanai H, Sakai H, Ishii K, Hara N,	Ventricular fibrillation immediately after the treatment of Graves' disease	Thyroid Res.	2022.10

	Satomi K, Takada Y, Nagamatsu Y, Suzuki R.	coexisting with atypical angina and long QT syndrome: a case report		
7)	Hanae Sato, Hajime Iwasaki, Akira Doshu- Kajiura, Seidai Katagiri, Shunichi Takagi, Sarah Kyuragi Luthe, Takahiro Suzuki	Comparison of two electromyography-based neuromuscular monitors, AF- 201P and TetraGraph, in rocuronium-induced neuromuscular block: A prospective comparative study	Anaesthesia Critical Care & Pain Medicine	2022.12
8)	Noguchi S, Iwasaki H, Shiko Y, Kawasaki Y, Ishida Y, Shinomiya S, Ono Uokawa R, Mazda Y.	Fetal outcomes with and without the use of sugammadex in pregnant patients undergoing non- obstetric surgery: a multicenter retrospective study.	International Journal of Obstetric Anesthesia	2023.02

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 菅原亜美	不整脈手技中の鎮静マニュアル	一般社団法人 日 本不整脈心電学会	2022.06

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等 の名称	発表年月
1) 佐藤 泉、長谷部拓 夢、間宮敬子、加藤育 民	旭川医科大学の漢方処方 量の推移～2010 年度か ら 2020 年度まで～	第 72 回日本東洋医 学会学術総会	2022.05
2) 佐藤 遥、神田 恵、 川田大輔、神田浩嗣	神経細胞特異的に標的遺 伝子を発現させるアデノ 随伴ウイルスベクターの 機能評価	日本麻酔科学会第 69 回学術集会	2022.06
3) 神田浩嗣	ハイブリッド手術室にお ける心臓血管麻酔と低侵 襲心臓手術	日本麻酔科学会第 69 回学術集会	2022.06

- |     |                                     |  |                         |         |
|-----|-------------------------------------|--|-------------------------|---------|
| 4)  | 小野寺美子、矢口陽介、安田麻美、清水知沙、尾崎靖子、阿部泰之、神田浩嗣 | 旭川医科大学病院緩和ケアチーム再開と活動報告                                       | 第4回日本緩和医療学会北海道支部学術大会    | 2022.08 |
| 5)  | 南部湧大、平川 啓、菅原亜美、神田浩嗣                 | 硬膜外麻酔併用全身麻酔下術後に一過性の歩行困難を呈した一例                                | 日本麻酔科学会北海道・東北支部第12回学術集会 | 2022.09 |
| 6)  | 鈴木綾香、多田雅博、丸山世理、山谷修一、黒澤温             | 低侵襲僧帽弁形成術後に両側声帯麻痺が出現した一例                                     | 日本麻酔科学会北海道・東北支部第12回学術集会 | 2022.09 |
| 7)  | 植田穂隆、高橋裕香子、鷹架健一、神田浩嗣                | 局所麻酔鎮静化 TAVI（経カテーテル的大動脈弁留置術）中に喀血し全身麻酔への移行を余儀なくされた間質性肺炎患者の一症例 | 日本麻酔科学会北海道・東北支部第12回学術集会 | 2022.09 |
| 8)  | 山中瑛里加、川村大資、黒澤 温                     | 活動性の高いインスリンオーマに対する膵切除において術中の血糖管理に人口膵臓が有用であった一症例              | 日本麻酔科学会北海道・東北支部第12回学術集会 | 2022.09 |
| 9)  | 小熊眞惟、鷹架健一、神田浩嗣                      | 血症遊離ヘモグロビン濃度を指標としたリベラルなハプトグロビン製剤投与プロトコルは開心術後急性腎障害を減少させたか？    | 日本麻酔科学会北海道・東北支部第12回学術集会 | 2022.09 |
| 10) | 須田康裕、朝井裕一、神田浩嗣                      | 冠動脈バイパス術中のグラフト採取時に経食道心エコーで左内胸動脈のグラフト血流不全を診断し得た一例             | 日本麻酔科学会北海道・東北支部第12回学術集会 | 2022.09 |
| 11) | 高田 優、井上真澄、菅原亜美、神田 恵、神田浩嗣            | 帯状疱疹後神経痛に対するモルヒネ依存から動機付け面接法を参考に用いて離脱できた一症例                   | 日本麻酔科学会北海道・東北支部第12回学術集会 | 2022.09 |

12)	高橋裕香子、鷹架健一、山谷修一、多田雅博、佐古澄子、神田浩嗣	MitraClip 術中に心腔内に空気が混入した一例	日本心臓血管麻酔学会第 27 回学術大会	2022.09
13)	上坂 司、黄 仁謙、薬師寺竜太、渡辺麻由	当院における低侵襲冠動脈バイパス術 (MICS OPCAB) の麻酔経験	日本心臓血管麻酔学会第 27 回学術大会	2022.09
14)	大城 茜、黄 仁謙、上坂 司、薬師寺竜太	重症筋無力症患者の僧帽弁形成・冠動脈バイパス術の麻酔を経験した一例	日本心臓血管麻酔学会第 27 回学術大会	2022.09
15)	神田浩嗣	ロボット心臓手術を安全かつ円滑に行うために麻酔科医の立場から	日本心臓血管麻酔学会第 27 回学術大会	2022.09
16)	佐古澄子	小児の術後疼痛管理とその難しさ	日本小児麻酔学会第 27 回大会	2022.10
17)	佐古澄子	ハンズオンセミナー「小児の神経ブロック」	日本小児麻酔学会第 27 回大会	2022.10
18)	岩崎 肇	Current updates on electromyography-based neuromuscular monitoring	日本臨床麻酔学会第 42 回大会	2022.11
19)	岩崎 肇、佐藤英恵、山本英梨奈、山本舞、道宗 明、北島治、高木俊一、鈴木孝浩	電位感知型筋弛緩モニター-AF-201P と TetraGraph を用いた小指外転筋の筋弛緩回復過程の比較	日本臨床麻酔学会第 42 回大会	2022.11
20)	黒田早姫、山谷修一、佐古澄子、鷹架健一、笹川智貴、神田浩嗣	表皮水疱症患者の大腿切断術を末梢神経ブロックで管理した 1 例	日本臨床麻酔学会第 42 回大会	2022.11
21)	千葉 拓、佐古澄子、笹川智貴、神田浩嗣	気胸合併患者に対する開頭腫瘍摘出術を一側肺換気で管理した 1 症例	日本臨床麻酔学会第 42 回大会	2022.11
22)	袋井謙一郎、川村大資、佐古澄子、菅原亜美、神田浩嗣	全身麻酔下での食道静脈瘤に対する内視鏡的硬化療法 (EIS) 後に抜管困難をきたした小児の一例	日本臨床麻酔学会第 42 回大会	2022.11
23)	岩田千広、小野寺美子	低心機能患者の大腿切断術に対する神経ブロック	日本臨床麻酔学会第 42 回大会	2022.11

	施行後に高度低血圧をきたした1例		
24) 高木真奈、黒澤 温、多田雅博、矢口陽介	経皮的腎結石破碎術 (PNL) 施行中の遷延する低血圧の原因鑑別に難渋した術中敗血症性ショックの一例	日本臨床麻酔学会 第42回大会	2022.11
25) 松井拓郎、佐古澄子、笹川智貴、神田浩嗣	気胸合併患者に対する開頭腫瘍摘出術を一側肺換気で管理した1症例	日本臨床麻酔学会 第42回大会	2022.11

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
1) 鷹架健一	[P05]ポスター (一般演題) 筋弛緩座長	2022.11
2) 岩崎 肇	適切な筋弛緩モニタリング普及のためのハンズオンセミナー 座長 インストラクター	2022.11

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------



# 脳神経外科学講座

Department of Neurosurgery

## I. 所属教員等

脳神経外科学講座  
教授 木下 学  
講師 三井 宣幸  
助教 清水 豪士  
佐藤 広崇  
上森 元気

脳神経外科  
講師 広島 覚  
助教 福山 秀青  
尾崎 博一  
松島 佑二郎

## II. 研究業績紹介

旭川医科大学脳神経外科学講座では脳神経外科学全般における臨床研究を推進しています。脳腫瘍研究では日本臨床腫瘍グループ（Japan Clinical Oncology Group: JCOG）脳腫瘍グループで症例登録数が全国1位であることをはじめとして、悪性脳腫瘍の遺伝子情報と画像情報を包括的に解析する研究を行っております。放射線画像解析には特に力を入れており、MRI画像に対するRadiomics解析や深層学習解析を積極的に取り入れ、非侵襲的に脳腫瘍の真の姿を可視化する新しい技術の開発を進めています。

また脳血管障害研究では画像解析や病理解析による虚血性脳疾患の病態理解を進める研究を実施しています。また、覚醒下手術や皮質脳波解析を中心に据えて、本講座の伝統的な研究分野である脳機能解析を実施しています。

医療安全を主題とした臨床研究も実施しており、抗血栓薬の意図的中止が引き起こす脳卒中の発症リスクを明らかにしました。

2024年には旭川医科大学脳神経外科学講座が研究事務局を担当する、新規JCOG試験がスタートします。これからも旭川医科大学脳神経外科学講座では臨床試験から基礎研究まで幅が広く厚みのある研究を推進してまいります。

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

## IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等名称	発行年月
------	----	--------	------

1)	Okada Y, Mitsui N, Ozaki H, Sanada H, Yamamoto S, Saito M, Kinoshita M	Carotid artery dissection due to elongated styloid process treated by acute phase carotid artery stenting: A case report	Surgical Neurology International	2022.04
2)	Sato H, Saito M, Mitsui N, Hiroshima S, Sawada J, Akasaka K, Kinoshita K	Left Atrial Volume Index as a Predictor for Large-Vessel Occlusion in Cardiogenic Cerebral Infarction: A Single-Center Cohort Study	World Neurosurg	2022.05
3)	Sanada T, Yamamoto S, Sakai M, Umehara T, Sato H, Saito M, Mitsui N, Hiroshima S, Anei R, Kanemura Y, Tanino M, Nakanishi K, Kishima H, Kinoshita M	Correlation of T1- to T2-weighted signal intensity ratio with T1- and T2-relaxation time and IDH mutation status in glioma	Scientific reports	2022.11
4)	Ozaki H, Mitsui N, Kinoshita M, Tanino M, Kimura T	Amyloid deposition at the carotid artery in an ATTRwt amyloidosis patient: a case report	Journal of surgical case reports	2022.12
5)	福山秀青, 湯澤明夏, 真田隆広, 齋藤仁十, 広島覚, 安栄良悟, 木下学	糖尿病と齲歯のある高齢者に発症したノカルジア脳膿瘍	脳神経外科速報	2023
6)	山口なつき, 佐藤広崇, 安栄良悟, 木下学	シルビウス裂くも膜嚢胞の対側に生じた慢性硬膜下血腫の1例	神経外傷	2022
7)	佐藤広崇	遠隔画像診断技術による北海道のあらたな遠隔救急医療体制の創出	開発こうほう	2022
8)	藤川征也, 和田始, 市原寛大, 高野千恵, 佐藤広崇, 齋藤仁十, 安栄良悟	Flow diverter 留置後に生じた内頸動脈海綿静脈洞瘻に対して経静脈的動脈瘤コイル塞栓術を施行した1例	脳卒中	2022

- |     |   |  |   |         |
|-----|---|--|---|---------|
| 9)  | Umehara T, Arita H, Miya F, Achiha T, Shofuda T, Yoshioka E, Kanematsu D, Nakagawa T, Kinoshita M, Kagawa N, Fujimoto Y, Hashimoto N, Kiyokawa H, Morii E, Tsunoda T, Kanemura Y, Kishima H | Revisiting the definition of glioma recurrence based on a phylogenetic investigation of primary and re-emerging tumor samples: a case report.          | Brain Tumor Pathol                          | 2022.01 |
| 10) | Ohashi K, Osanai T, Fujiwara K, Tanikawa T, Tani Y, Takamiya S, Sato H, Mori Yi, Bando K, Ogasawara K   | Spatial-temporal analysis of cerebral infarction mortality in Hokkaido, Japan: an ecological study using a conditional autoregressive model            | International Journal of Health Geographics | 2022.01 |
| 11) | Okada Y, Mitsui N, Ozaki H, Sanada T, Yamamoto S, Saito M, Kinoshita M  | Carotid artery dissection due to elongated styloid process treated by acute phase carotid artery stenting: A case report.                              | Surg Neurol Int.                            | 2022.05 |
| 12) | Sato H, Kinoshita M, Tani Y, Kimura T, Osanai T, Osanai H, Ogasawara K  | The health economic effects of an imaging technology – based telemedicine system for rural neuro-emergency patient care                                | Neurosurg Focus.                            | 2022.06 |
| 13) | Uda H, Uda T †, Kinoshita M, Kishima H, Tanoue Y, Nagahama A, Kawashima T, Ohata H, Nakajo K, Morisako H, Goto T  | Visualization of Resected Area in Endonasal Endoscopic Approach versus Transcranial Approach for Skull Base Meningiomas by Voxel-Based-Lesion Mapping. | Brain Sci.                                  | 2022.06 |
| 14) | Yamada S, Kijima N, Kinoshita M, Shinzaki S, Sato K,  | Cerebellopontine angle metastasis of a neuroendocrine tumor  | Surg Neurol Int                             | 2022.06 |

- Kido K, Hirayama R, Kagawa N, Takehara T, Morii E, Kishima H mimicking vestibular schwannoma: A case report.
- 15) Nakagawa T, Kijima N, Hasegawa K, Ikeda S, Yaga M, Wibowo T, Tachi T, Kuroda H, Hirayama R, Okita Y, Kinoshita M, Kagawa N, Kanemura Y, Hosen N †, Kishima H Identification of glioblastoma-specific antigens expressed in patient-derived tumor cells as candidate targets for chimeric antigen receptor T cell therapy. Neurooncol Adv. 2022.11
- 16) Mishima K, Nishikawa R, Narita Y, Mizusawa J, Sumi M, Koga T, Sasaki N, Kinoshita M, Nagane M, Arakawa Y, Yoshimoto K, Shibahara I, Shinojima N, Asano K, Tsurubuchi T, Sasaki H, Asai A, Sasayama T, Momii Y, Sasaki A, Nakamura S, Kojima M, Tamaru J, Tsuchiya K, Gomyo M, Abe K, Natsumeda M, Yamasaki F, Katayama H, Fukuda H Randomized phase III study of high-dose methotrexate and whole-brain radiotherapy with/without temozolomide for newly diagnosed primary CNS lymphoma: JCOG1114C Neuro Oncol 2022.11

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演 会等の名称	発表年月
1) Sanada T, Yamamoto S, Sato H, Sakai M, Saito M, Mitsui N, Hiroshima S, Anei R, Kanemura Y, Nakanishi K, Kishima H, Kinoshita	The ratio of T1-Weighted to T2-Weighted Signal Intensity and IDH mutation in glioma	Joint Annual Meeting ISMRM-ESMRMB & ISMRT 31st Annual Meeting	2022.05
2) 尾崎博一、上小倉佑機	左側頭葉病変の1例；85歳男性	第40回北海道脳腫瘍病理検討会	2022.07
3) 真田隆広、山本祥太、酒井美緒、梅原徹、佐藤広崇、齊藤仁十、三井宣幸、広島覚、安栄良悟、金村米博、谷野美智枝、中西克之、貴島晴彦、木下学	T1強調画像/T2強調画像比(rT1/T2)による神経膠腫のIDH遺伝子変異予測	第22回日本分子脳神経外科学会	2022.07
4) 広島覚	てんかんの外科治療について 外科の立場から見たてんかん治療と症例検討	第29回日本てんかん学会北海道地方会	2022.09
5) 尾崎博一	外傷性内頸動脈-海綿静脈洞瘻に対し経静脈的塞栓術後、眼動脈瘤の増大を認めた1例	第88回日本脳神経外科学会北海道支部会	2022.09
6) 真田隆広、山本祥太、酒井美緒、梅原徹、佐藤広崇、齊藤仁十、三井宣幸、広島覚、安栄良悟、金村米博、谷野美智枝、中西克之、貴島晴彦、木下学	T1強調画像/T2強調画像比(rT1/T2)による神経膠腫のIDH遺伝子変異予測	日本脳神経外科学会第81回学術総会	2022.09
7) 広島覚、高野琢磨、山口なつき、齊藤仁十、木下学	髄液漏出症の治療経過における脂肪抑制T2WIの有用性について	日本脳神経外科学会第81回学術総会	2022.09
8) 三井宣幸、広島覚、齊藤仁十、山本祥太、山口	観血的処置及び手術治療での抗血栓薬中止中の脳梗塞発症の要因に関して	日本脳神経外科学会第81回学術総会	2022.09

	なつき、真田隆広、尾崎博一、木下 学			
9)	木下 学、真田隆広、佐藤広崇、山本祥太、齊藤仁十、三井宣幸、広島 覚	「前頭葉」初発膠芽腫の再発部位についての定量的検討	日本脳神経外科学会第 81 回学術総会	2022.09
10)	尾崎博一	Charcot-Bouchard Aneurysm 疑い症例の続報;85 歳男性	第 41 回北海道脳腫瘍病理検討会	2022.11
11)	藤川征也、佐藤広崇、尾崎博一、三井宣幸、高杉和雄、タッカー アダム、木村輝雄、鈴木 望	当院におけるバルーンガイディングカテーテルが誘導困難となる因子についての比較検討	第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会	2022.11
12)	広島 覚	パーキンソン病・本態性振戦への手術療法である DBS(脳深部刺激療法)を中心に機能外科について	エーザイ社内勉強会	2022.11
13)	真田隆広、山本祥太、酒井美緒、梅原 徹、佐藤広崇、齊藤仁十、三井宣幸、広島 覚、安栄良悟、金村米博、谷野美智枝、中西克之、貴島晴彦、	T1 強調画像/T2 強調画像比 (rT1/T2) による神経膠腫の IDH 遺伝子変異予測	第 40 回日本脳腫瘍学会学術集会	2022.12
14)	広島 覚	脳神経外科での痛みの治療	遠軽・紋別地区病院薬剤師会合同研修会	2022.12
15)	尾崎博一、三井宣幸、広島 覚、木下 学	正常圧水頭症に対し脳室-腹腔シャント術を施行後、腹側チューブが右心房内に迷入しシャント再建術を要した 1 例	第 24 回日本正常圧水頭症学会学術集会	2023.02
16)	広島 覚	当科での診療から～片頭痛治療と鑑別疾患～	旭川の片頭痛治療を考える会	2023.02
17)	広島 覚	脳腫瘍 手術手技の拘り	脳神経外科 手術手技診療最前線	2023.02
18)	尾崎博一	左小脳半球病変の 1 例;40 歳男性	第 42 回北海道脳腫瘍病理検討会	2023.03
19)	澤田 潤、菊地史織、齋藤 司、齊藤仁十、三井	悪性腫瘍に合併した脳血管障害の臨床的特徴	第 48 回日本脳卒中学会学術集会	2023.03

	宣幸、広島 覚、木下学			
20)	三井宣幸、広島 覚、齊藤仁十、山本祥太、真田隆弘、尾崎博一、松島佑二郎、木下 学	当院予定入院における、抗血栓薬中止の脳梗塞発症要因	第 48 回日本脳卒中学会学術集会	2023.03
21)	松島佑二郎、山本祥太、齊藤仁十、木下 学	直静脈洞と横静脈洞に狭窄を認めた特発性頭蓋内圧亢進症に対して腰椎-腹腔シャント術が有効であった一例	第 89 回 (一社)日本脳神経外科学会北海道支部会	2023.03
22)	尾崎博一、松島佑二郎、真田隆弘、福山秀青、山本祥太、木下 学	当院における覚醒下手術のセットアップの紹介	第 89 回 (一社)日本脳神経外科学会北海道支部会	2023.03
23)	山本祥太、広島 覚、三井宣幸、齊藤 仁十、上森元気、福山秀青、真田隆弘、尾崎博一、松島佑二郎、湯澤明夏、木下学	エキノコックス感染による頭蓋内嚢胞の 1 例	第 89 回 (一社)日本脳神経外科学会北海道支部会	2023.03
24)	三井宣幸	脳動脈瘤治療の反省	BASICS 札幌	2022.06
25)	三井宣幸	関連施設での、SAH 術後管理でのアンケート調査結果報告	SAH Expert Meeting in Asahikawa	2022.07
26)	頸動脈直接穿刺し血管内治療を施行した 2 例	頸動脈直接穿刺し血管内治療を施行した 2 例	第 7 回道北血管内治療セミナー	2022.07
27)	Yamamoto S,Sanada T,Sakai M,Arisawa A,Shimosegawa E,Nakanishi K,Kanemura Y,Kagawa N,Kinoshita M	Estimation of non-enhancing tumor lesions with T1/T2 ratio in glioblastoma patients	ISMRM JPC 2022	2022.09
28)	三井宣幸	i-ED コイルの使用経験	i-ED coil 症例検討会 in YAMAKITA	2022.09
29)	木下 学、山本祥太、有田英之、沖田典子、下瀬川恵久、貴島 晴彦	AI による脳腫瘍画像の解析と研究手法のパラダイムシフト	日本脳神経外科学会第 81 回学術総会	2022.09
30)	山本祥太、真田 隆、酒井美緒、有澤 亜津子、下瀬川 恵久、中西 克之、金	T1/T2 ratio を用いた膠芽腫における T2 high 非造影病変の推定	日本脳神経外科学会第 81 回学術総会	2022.09



	村米博、香川尚己、貴島晴彦、木下			
31)	木下 学、佐藤広崇、木村輝雄、貴島晴彦	テント上脳実質内腫瘍における軟膜下剥離法の実際	第 27 回日本脳腫瘍の外科学会	2022.1
32)	佐藤広崇	右側大動脈弓有する左内頸動脈閉塞に対して機械的血栓回収術を施行した 1 例	第 23 回日本脳神経血管内治療学会北海道地方会	2022.1
33)	三井宣幸	頸動脈直接切開穿刺による血管内治療の経験	第 23 回日本脳神経血管内治療学会北海道地方会	2022.1
34)	佐藤広崇、藤川征也、高杉和雄、アダム タッカー、三井宣幸、木村輝雄、木下 学	Functional Independence Measurement (FIM) で考える脳血栓回収術の効果と限界	第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会	2022.11
35)	三井宣幸、齊藤仁十、山本祥太、木下 学	海綿静脈洞硬膜動静脈瘻の使用コイル本数から見た治療困難となる要因の検討	第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会	2022.11
36)	藤川征也、佐藤広崇、尾崎博一、三井宣幸、高杉和雄、タッカー アダム、木村輝雄、鈴木 望	当院におけるバルーンガイディングカテーテルが誘導困難となる因子についての比較検討	第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会	2022.11
37)	三井宣幸	治療判断を見誤った硬膜動静脈瘻の 2 例	北海道脳血管内治療座談会	2022.12
38)	三井宣幸	当大学における、地域医療の役割から見た問題点	第 1 回 Stroke 手術手技セミナー in 北海道	2022.12
39)	三井宣幸	血管内治療が介入する頭痛	脳神経外科での頭痛診療の会	2022.12
40)	山本祥太	頭痛関連疾患に関する正しい知識とリアルワールドの習得	アムジェン社内勉強会	2023.01
41)	三井宣幸	”まずは、ステントなしで”の施設からの報告	EMB Atlas Conference	2023.02
42)	尾崎博一、三井宣幸、広島 覚、木下 学	正常圧水頭症に対し脳室-腹腔シャント術を施行後、腹側チューブが右心房内に迷入しシャント再建術を要した 1 例	第 24 回日本正常圧水頭症学会学術集会	2023.02
43)	佐藤広崇、木村輝雄、藤川征也、アダム タッカー、高杉和雄、鈴木 望	癌性髄膜炎に対する緩和医療としての L-P Shunt 術を施行した 2 例報告	第 24 回日本正常圧水頭症学会学術集会	2023.02

44)	三井宣幸	脳動脈瘤への治療戦略と症例提示	Asahikawa IVR Seminar	2023.02
45)	三井宣幸	自験例の ADAPT を振り返って	Reports of Experience and Discovery Webinar	2023.03
46)	澤田 潤、菊地史織、齋藤 司、齋藤仁十、三井宣幸、広島 覚、木下学	悪性腫瘍に合併した脳血管障害の臨床的特徴	第 48 回日本脳卒中学会学術集会	2023.03
47)	三井宣幸、広島 覚、齋藤仁十、山本祥太、真田隆弘、尾崎博一、松島佑二郎、木下 学	当院予定入院における、抗血栓薬中止の脳梗塞発症要因	第 48 回日本脳卒中学会学術集会	2023.03
48)	木村輝雄、佐藤広崇、藤川征也、Adam Tucker、高杉和雄、鈴木 望	実臨床におけるクラゾセンタンの使用上の有効性と安全性について	第 89 回日本脳神経外科学会北海道支部会	2023.03
49)	松島佑二郎、山本祥太、齋藤仁十、木下 学	直静脈洞と横静脈洞に狭窄を認めた特発性頭蓋内圧亢進症に対して腰椎-腹腔シャント術が有効であった一例	第 89 回 (一社)日本脳神経外科学会北海道支部会	2023.03
50)	尾崎博一、松島佑二郎、真田隆広、福山秀青、山本祥太、木下 学	当院における覚醒下手術のセットアップの紹介	第 89 回 (一社)日本脳神経外科学会北海道支部会	2023.03

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

齒科口腔外科学講座

Department of Oral and  
Maxillo-Facial Surgery

## I. 所属教員等

### 歯科口腔外科学講座

教 授 竹川 政範

准 教 授 吉田 将亜

### 歯科口腔外科

講 師 小神 順也

助 教 岡 久美子

佐藤 栄晃

## II. 研究業績紹介

歯科口腔外科学講座 竹川政範

歯科口腔外科領域では、歯、歯周組織、口腔、顎骨の疾患を取り扱います。そのため、歯周組織疾患や顎骨腫瘍などの各種疾患治療により失われた歯や顎骨を再生し、審美的な形態の回復と咀嚼・発音などの機能的な回復を目指すことが私たちの使命です。

歯科口腔外科学講座開設以来、当講座では顎骨再生についての基礎的な研究を継続しています。特に骨移植研究では、人工骨や各種処理骨、骨成長因子、放射線照射骨などに関する研究業績を積み重ねてきました。さらに、侵襲の少ない顎骨や歯の再生を目指し、体性幹細胞を用いた研究にも取り組んでいます。この研究では骨髄幹細胞だけでなく、脂肪組織由来の間葉系幹細胞を用いた基礎研究も行っており、その成果の一部は大学院生の学位取得にもつながっています。近年では、骨再生と血管新生にも焦点を当てており、歯科口腔外科の佐藤助教を中心に生化学講座との共同研究を進めています。

臨床研究では、口唇口蓋裂や顎変形症などの顎顔面の変形や奇形、薬剤性顎骨壊死、口腔腫瘍による顎骨の欠損に対して、機能的・形態的な評価と新たな治療法の開発を行っています。本臨床研究は、竹川教授と吉田准教授が中心となって進めています。

また、口腔機能管理においても、小神講師、岡助教を中心に口腔状態評価の標準化と口腔ケア介入の均てん化を目指して研究と臨床を行っています。特に口腔状態評価では、AI技術を活用したスマートホンによる口腔状態の評価に関する臨床研究を推進しており、実践的な応用を目指して研究を継続しています。

以上のように、歯科口腔外科学講座では、口腔疾患の管理・診療を通じて患者の生活の質を向上させ、安心・安全な治療法の開発に取り組んでいます。

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 竹川政範	批判的思考していますか	日本口腔外科学会 雑誌	2022.12

#### IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等名称	発行年月
1) Yuki Yajima, Akemi Kosaka, Kei Ishibashi, Shunsuke Yasuda, Hiroki Komatsuda, Toshihiro Nagato, Kensuke Oikawa, Masahiro Kitada, Masanori Takekawa, Takumi Kumai, Kenzo Ohara, Takayuki Ohkuri, Hiroya Kobayashi	A tumor metastasis - associated molecule TWIST1 is a favorable target for cancer immunotherapy due to its immunogenicity	Cancer Science	2022.05
2) Yukihiro Sato, Eiji Yoshioka, Masanori Takekawa, Yasuaki Saijo	Cross-sectional associations between effort-reward imbalance at work and oral diseases in Japan	Peer J Life and environment	2022.07

#### V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 竹内一夫他	介護福祉士のための口腔ケアマニ ュアル:嘔吐反射が異常に強い方 の口腔ケア	一般社団法人 口腔保健協会	2022.08
2) 福井次矢他 総編集, 竹川政範	今日の治療指針 2023:歯科・口腔 外科疾患 顎変形症	医学書院	2023.01

#### VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演 会等の名称	発表年月
1) 抜歯を契機に上顎歯肉に 認めた Proliferative ver 松田 真也, 竹川 政範, 本 橋 征之, 吉田 将亜, 小神 順也, 櫻井 彩瑛, 松本 侑 樹, 石井 彩華	抜歯を契機に上顎歯肉に認め た Proliferative verrucous leukoplakia の 1 例	第 76 回日本口腔科 学会学術集会	2022.04

2)	矢島 優己, 竹川 政範, 櫻井 彩瑛, 松田 真也, 吉田 将垂, 本橋 征之	口腔扁平上皮癌のバイオマーカーとしての FXYD3 の可能性について	第 76 回日本口腔科学会学術集会	2022.04
3)	岡久美子, 竹川政範	造血幹細胞移植後に発症した下顎骨腫瘍による顎欠損に対し、広範囲顎骨支持型装置での咬合再建を行った 1 例	日本有病者歯科医療学会学術大会	2022.04
4)	矢島優己, 竹川政範, 桜井綾瑛, 松田真也, 吉田将垂, 本橋征之	口腔扁平上皮癌のバイオマーカーとしての FXYD3 の可能性について	第 76 回日本口腔科学会学術集会	2022.04
5)	松田真也, 竹川政範, 本橋征之, 吉田将垂, 小神順也, 桜井彩瑛, 松本祐樹, 石井彩華	抜歯を契機に上顎歯肉に認められた Proliferative verrucous leukoplakia の 1 例	第 76 回日本口腔科学会学術集会	2022.04
6)	竹川政範	院内感染対策教育委員会講演 (ICD 講演会) 病院や介護施設での口腔ケア	第 19 回日本口腔ケア学会総会・学術大会	2022.04
7)	小神順也, 竹川政範	長期間にわたり口腔粘膜のびらんが持続している患者の口腔管理	第 19 回日本口腔ケア学会総会・学術大会	2022.04
8)	松田真也, 竹川政範, 桜井綾瑛, 小神順也, 吉田将垂, 本橋征之	メトトレキサート内服中の口内炎を契機に発症した下顎骨壊死の 1 例	第 31 回日本有病者歯科医療学会学術大会	2022.04
9)	真名瀬愛子, 嶋崎康相, 庭瀬俊, 岡田益彦, 竹川政範	迷走神経刺激装置を装着した難治性てんかん患者の抜歯における周術期管理経験	第 31 回日本有病者歯科医療学会学術大会	2022.04
10)	飯田理人, 松田真也, 岸上正佳, 松本侑樹, 桜井綾瑛, 矢島優己, 小神順也, 吉田将垂, 本橋征之, 竹川政範	拡張相肥大型心筋症患者に抜歯を行った 1 例	第 31 回日本有病者歯科医療学会学術大会	2022.04
11)	庭瀬俊, 岡田益彦, 嶋崎康相, 真名瀬愛子, 竹川政範	4 歳男児に生じた原始性資源性腫瘍の一例	第 48 回日本口腔外科学会北日本支部学術集会	2022.07
12)	飯田理人, 小神順也, 岸上正佳, 水野かほ, 松本侑樹, 石井彩華, 桜井彩瑛, 矢島優己, 松田真也, 吉	Kippel-Trenanay-Weber 症候群患者に対して抜歯を行った 1 例	第 48 回日本口腔外科学会北学術集会学術集会	2022.07

田将垂, 本橋征之, 竹川政  
範

- |   |   |                               |         |
|---|---|-------------------------------|---------|
| 13) 岡久美子, 百合草健圭<br>志, 竹川政範                      | 造血幹細胞移植後に発症した<br>下顎骨腫瘍による学欠損に対<br>し、広範囲顎骨指示装置での<br>咬合再建を行った1例 | 第48回日本口腔外<br>科学会北日本支部<br>学術集会 | 2022.07 |
| 14) 岡久美子, 真名瀬愛子, 矢<br>島優己, 吉田将垂, 本橋征<br>之, 竹川政範 | 旭川医科大学歯科口腔外科に<br>おける小児入院症例の検討                                 | 第34回日本小児口<br>腔外科学会学術大<br>会    | 2022.1  |
| 15) 矢島優己, 竹川政範                                  | 口腔扁平上皮癌の新規バイオ<br>マーカーを関連シグナル経路<br>から追及する                      | 第67回日本口腔外<br>科学会総会・学術<br>大会   | 2022.11 |
| 16) 岸上正佳, 竹川政範、他                                | 二次性抗リン脂質抗体症候群<br>患者の抜歯経験                                      | 第32回日本有病者<br>歯科医療学会学術<br>大会   | 2023.03 |
| 17) 岡久美子, 竹川政範、他                                | 抜歯後止血に難渋した肝硬変<br>による重度血小板減少患者の<br>1例                          | 第32回日本有病者<br>歯科医療学会学術<br>大会   | 2023.03 |

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
1) 矢島 優己	学会賞 優秀ポスター賞	日本口腔科学会	2022.04

# 救急医学講座

Department of Emergency Medicine



## I. 所属教員等

### 救急医学講座

教授 岡田 基  
准教授 丹保 亜希仁  
講師 中嶋 駿介  
講師（学内）川口 哲

### 救急科

講師（学内）齊藤 仁十  
吉田 有里  
助教 大原 みずほ  
山本 昌代  
武田 智宏  
前田 陽平

## II. 研究業績紹介

基礎研究では岡田を中心に、敗血症性心筋症の病態解明とその治療法についての研究を行っている。2022年には、川口学内講師が米国での研究を中心に、 $\beta$ 受容体と $\beta$ アレスチンを介した miR と心不全の関連について、米国心臓協会 AHA の postdoctoral fellowship を獲得し、AHA での発表、及び論文発表を行った。さらに、川口学内講師は AHA の BCVS travel grant を獲得した。

総説・解説関連では、岡田・中嶋講師を中心に、POCUS ハンズオンのインストラクターとして活動し、研修医向けに POCUS における超音波機器使用の解説冊子の作成を行った。

邦文論文では、丹保准教授を中心に、薬剤師とともに感染性 DIC の離脱率の報告、および、COVID-19 の地域医療に及ぼす効果について報告した。

英文では、専攻医を第一著者として、救急の日常診療における感染症を中心とした貴重な症例報告につき case report を数本報告した。

その他、救急・集中治療・災害をはじめとする全国・地方会でのシンポジストや症例報告として関連学会に多数参加した。

岡田は KAKEN 基盤研究 C：「敗血症の心筋代謝制御にかかわる  $\beta$  3 受容体とスフィンゴシン 1 リン酸の役割」を獲得し、また、厚労省の特別研究事業として、「離島医療提供体制の構築に向けた調査研究」を行っている。

### Ⅲ. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 中嶋駿介、岡田 基	エコーを始める前に知っておきたい大切なこと	研修医通信	2022.04
2) Kawaguchi S, Moukette B, Hayasaka T, Haskell AK, Mah J, Sepulveda M, Kim IM	Noncoding RNAs as Key Regulators for Cardiac Development and Cardiovascular Diseases	Journal of Cardiovascular Development and Disease	2023.04

### Ⅳ. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等名称	発行年月
1) 山田峻史, 眞鍋貴行, 丹保亜希仁, 菅谷香緒 里, 田原克寿, 山下恭 範, 中馬真幸, 田崎嘉 一	病棟常駐薬剤師によるリコン ビナント・トロンボモデュリ ンの適正使用推進と感染症性 DIC 離脱率の改善	医療薬学	2022
2) 山田一紀, 黒田祥平, 中田裕隆, 上原聡人, 齋藤成亮, 高橋佳恵, 中村愛, 久木田新, 鈴 木啓子, 鈴木聡, 谷野 洋子, 市川貴也, 柿木 康孝, 古川夕里香, 内 藤祐嗣, 菊地大樹, 佐 藤祿, 入江晃子, 丹保 亜希仁, 中嶋雅秀	当院における新型コロナウイルス 感染症診療のまとめ (総 説)	旭川病医誌	2022
3) 垂又修一, 高橋未来, 丹保亜希仁	COVID-19 流行下でのオンラ イン意見交換会が地域救急医 療業務に及ぼす効果	日救命医療会 誌	2022
4) Erina Miyano 1, Yuichi Horikoshi 1, Miyabi Nakayama 1, Tatsuki Kuroshima 1, Yuka Eto 1, Daisuke Kawata 1, Motoi Okada 1, Naohiro Kokita 1, Satoshi Fujita 1	A case of toxic epidermal necrolysis comorbid with severe burns	Acute Med Surg.	2022.01

5)	Aonuma T, Moukette B, Kawaguchi S, Barupala NP, Sepúlveda MN, Frick K, Tang Y, Guglin M, Raman SV, Cai C, Liangpunsakul S, Nakagawa S, Kim IM	MiR-150 attenuates maladaptive cardiac remodeling mediated by Long noncoding RNA MIAT and directly represses profibrotic Hoxa4	Circulation-Heart Failure	2022.04
6)	Ichikawa T, Torii S, Suzuki H, Takada A, Suzuki S, Nakajima M, Tampo A, Kakinoki Y.	Mutations in the non-structural proteins of SARS-CoV-2 may contribute to adverse clinical outcomes.	Int J Infec Dis	2022.05
7)	Ryosuke Asakura 1, Tatsuki Kuroshima 1, Naohiro Kokita 1, Motoi Okada 1	A case of COVID-19-associated fulminant myocarditis successfully treated with mechanical circulatory support	Clin Case Rep.	2022.09
8)	Moukette B, Kawaguchi S, Sepúlveda MN, Hayasaka T, Aonuma T, Liangpunsakul S, Yang L, Dharmakumar R, Cnway SJ, Kim IM	MiR-150 blunts cardiac dysfunction in mice with cardiomyocyte loss of $\beta$ 1-adrenergic receptor/ $\beta$ -arrestin signaling and controls a unique transcriptome	Cell Death Discovery	2022.12
9)	井尻えり子, 和知修太郎, 丹保亜希仁, 小北直宏	熱傷の疼痛管理	日ペインクリニック会誌	2023
10)	藤川征也、和田 始、市原寛大、高野千恵、佐藤広崇、齊藤仁十、安栄良悟	Flow diverter 留置後に生じた内頸動脈海綿静脈洞瘻に対して経静脈的動脈瘤コイル塞栓術を施行した 1 例	脳卒中	2022
11)	Naohiro Wakabayashi, Shinsuke Kikuchi, Naoya Kuriyama, Yuta Kikuchi, Masahiro Tsutsui, Hayato Ise, Yuri Yoshida, Daiki Uchida, Atsuhiko Koya, Tomonori Shirasaka,	The Impact of Chronic Limb-Threatening Ischemia on Cardiac Surgery	Frontiers in Surgery	2022.04

- Nobuyoshi Azuma,  
Hiroyuki Kamiya
- 12) Okada Y, Mitsui N, Ozaki H, Sanada H, Yamamoto S, Saito M, Kinoshita M Carotid artery dissection due to elongated styloid process treated by acute phase carotid artery stenting: A case report Surgical Neurology International 2022.04
- 13) Sato H, Saito M, Mitsui N, Hiroshima S, Sawada J, Akasaka K, Kinoshita K Left Atrial Volume Index as a Predictor for Large-Vessel Occlusion in Cardiogenic Cerebral Infarction: A Single-Center Cohort Study World Neurosurg 2022.05
- 14) Sato H, Saito M, Mitsui N, Hiroshima S, Sawada J, Akasaka K, Kinoshita K Left Atrial Volume Index as a Predictor for Large-Vessel Occlusion in Cardiogenic Cerebral Infarction: A Single-Center Cohort Study World Neurosurgery 2022.05
- 15) Kazuki Takahashi, Shinsuke Kikuchi, Ai Tochikubo-Suzuki, Yuri Yoshida, Daiki Uchida, Atsuhiko Koya, Kazuya Kato, Nobuyoshi Azuma Traumatic Superficial Femoral Arteriovenous Fistula with Pulsatile Mass and Leg Pain 60 Years after Stabbing Injury Annals of Vascular Diseases 2022.06
- 16) 菊地信介, 若林尚宏, 栗山直也, 菊池悠太, 筒井真博, 伊勢隼人, 吉田有里, 内田大貴, 古屋敦宏, 白坂知識, 東信良, 紙谷寛之 包括的高度慢性下肢虚血が開心術に与える影響 北海道外科雑誌 2022.06
- 17) Shinsuke Kikuchi, Daiki Uchida, Kazuki Takahashi, Yuri Yoshida, Ai Tochikubo-Suzuki, Tomoki Nakatsu, Mineko Higuchi, Nobuyoshi Azuma, Kazuya Kato Wound Healing on the Cutting Plane of Ankle Bones after Incomplete Revascularization for Chronic Limb-Threatening Ischemia in an Elderly Patient: A Case Report Annals of Vascular Diseases 2022.09

18) Yohei Ichikawa , Shinsuke Kikuchi , Yuri Yoshida , Daiki Uchida , Atsuhiko Koya , Nobuyoshi Azuma	Lateral approach to distal peroneal artery without fibular resection	Journal of Vascular Surgery Cases, Innovations and Techniques	2022.09
19) Sanada T,Yamamoto S,Sakai M,Umehara T,Sato H,Saito M,Mitsui N,Hiroshima S,Anei R,Kanemura Y,Tanino M,Nakanishi K,Kishima H,Kinoshita M	Correlation of T1- to T2- weighted signal intensity ratio with T1- and T2-relaxation time and IDH mutation status in glioma	Scientific reports	2022.11

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 森本康裕 (編)	研修医になったら必ずこの手技を身につけてください。改訂版	羊土社	2022
2) 山陰道明, 廣田和美 (監修)	最新主要文献とガイドラインでみる麻酔科学レビュー2022	総合医学社	2022.06
3) 日本救急医学会 ICLS コース企画運営委員会 ICLS コース教材開発ワーキンググループ (編)	改訂版 日本救急医学会 ICLS 指導者ガイドブック	羊土社	2022.07
4) 畑田剛 (監修)	改訂第 5 版日本救急医学会 ICLS コースガイドブック	羊土社	2022.09
5) 丹保 亜希仁	LiSA 【◎○△しかく】日本航空医療学会認定指導者	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2023.02

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
-------	----	--------------	------

1)	Kawaguchi S, Moukette B, Sepulveda M, Kim IM	MicroRNA-125a-5p protects the heart from ischemic injury by directly repressing pro-apoptotic GTP cyclohydrolase 1 feed regulator (GCHFR) in cardiomyocytes	Annual meeting of the Indiana Physiological Society	2022.04
2)	丹保 亜希仁	末梢静脈路確保に超音波ガイド下手技は必要か？	日本超音波医学会 第 95 回学術集会	2022.05
3)	丹保彩, 丹保亜希仁	安全な中心静脈カテーテル留置のための超音波診断装置の役割	日本超音波医学会 第 95 回学術集会	2022.05
4)	丹保 亜希仁, 山田峻史	急性期領域における薬剤師も含む多職種連携の重要性	第 25 回日本臨床救急医学会学術集会	2022.05
5)	井尻えり子, 和知修太郎, 丹保亜希仁, 小北直宏	重症熱傷患者の疼痛管理の経験	日本ペインクリニック学会 第 3 回北海道支部学術集会	2022.09
6)	丹保 亜希仁	救急・集中治療でのポイントオブケア超音波	日本集中治療医学会 第 6 回北海道支部学術集会	2022.1
7)	荒町優香里, 丹保亜希仁	初期臨床研修医が行う末梢挿入型中心静脈カテーテルについて	日本集中治療医学会 第 6 回北海道支部学術集会	2022.1
8)	大滝達也, 垂又修一, 内藤あかね, 米澤里奈, 恩田早苗, 丹保亜希仁, 金井麻子	オンラインによる「道北地域病院前分娩対応セミナー」を開催して	第 99 回 北海道産科婦人科学会 学術講演会	2022.1
9)	大滝達也, 伊藤香里, 丹保亜希仁	COVID-19 流行下での病院前分娩対応 Online Off the Job Training 開催し, アンケート結果から得られた有効性について	日本蘇生学会 大 41 回大会	2022.11
10)	丹保亜希仁	末梢挿入型中心静脈カテーテルによる合併症対策について	日本蘇生学会 大 41 回大会	2022.11
11)	Kawaguchi S, Moukette B, Sepulveda M, Kim IM.	Small Proline-rich Repeat Protein 1a Is A Significant Functional Target Of Microrna-150 In Mouse Hearts And Human Cardiac Fibroblasts	アメリカ心臓協会	2022.11

12)	大滝達也, 高橋未来, 丹保亜希仁, 小林巖, 藤田智	ドクターヘリは人口希薄地域消防の救急車不在時間を短縮する	第 29 回 日本航空医療学会総会	2022.12
13)	丹保彩, 奥田勝博, 清水恵子, 丹保亜希仁	敗血症性ショックとして治療されていた, 薬物中毒によると考えられた低血圧の 1 症例	第 50 回 日本集中治療医学会学術集会	2023.03
14)	丹保亜希仁	集中治療医が医療安全に寄与できることは何か?	第 50 回 日本集中治療医学会学術集会	2023.03
15)	大滝達也, 河地祥平, 高嶋弘継, 丹保亜希仁, 小林巖, 藤田智	コロナ禍における北海道での MCLS 関連コース開催の取り組みと課題	第 28 回 日本災害医学会学術集会	2023.03
16)	陶山真一, 古澤貴裕, 多地貴則, 丹保亜希仁, 小林巖	保健所業務支援の変遷～ロジスティクスの視点から～	第 28 回 日本災害医学会学術集会	2023.03
17)	菊地信介, 内田大貴, 浦本孝幸, 高橋一輝, 大平成真, 竜川貴光, 吉田有里, 東信良	神経ブロック下末梢バイパス術の成績と Global Vascular Guideline を踏まえた適応拡大	第 122 回 日本外科学会定期学術集会	2022.04
18)	内田大貴, 高橋一輝, 大平成真, 吉田有里, 菊地信介, 東信良	破裂性 AAA と腹部コンパートメント (ACS) ～開腹マネジメント (OAM) の有効性	第 30 回 日本大動脈外科学会	2022.04
19)	Sanada T, Yamamoto S, Sato H, Sakai M, Saito M, Mitsui N, Hiroshima S, Anei R, Kanemura Y, Nakanishi K, Kishima H, Kinoshita	The ratio of T1-Weighted to T2-Weighted Signal Intensity and IDH mutation in glioma	Joint Annual Meeting ISMRM-ESMRMB & ISMRT 31st Annual Meeting	2022.05
20)	高橋一輝, 菊地信介, 浦本孝幸, 大平成真, 吉田有里, 内田大貴, 東信良	カリキュレーターによる Chronic limb threatening ischemia 患者の予後予測の意義	第 50 回 日本血管外科学会学術総会	2022.05
21)	菊地信介, 内田大貴, 浦本孝幸, 高橋一輝, 大平成真, 竜	The current Japanese situation of chronic limb-threatening ischemia	第 50 回 日本血管外科学会学術総会	2022.05

	川貴光、吉田有里、東信良			
22)	内田大貴、菊地信介、浦本孝幸、高橋一輝、大平成真、吉田有里、東信良	動脈解剖学的側面から見た足関節動脈バイパスハイリスク例の手術戦略	第 50 回 日本血管外科学会学術総会	2022.05
23)	浦本孝幸、菊地信介、高橋一輝、大平成真、竜川貴光、吉田有里、内田大貴、東信良	大腿動脈血栓内膜摘除術にウシ心膜パッチ (Xenosure) を用いる有用性の検討	第 50 回 日本血管外科学会学術総会	2022.05
24)	吉田有里、菊地信介、浦本孝幸、高橋一輝、大平成真、竜川貴光、内田大貴、東信良	包括的高度慢性下肢虚血 (CLTI) の血行再建と包括的治療 - 広大な医療圏における救肢への取り組み -	第 50 回 日本血管外科学会学術総会	2022.05
25)	浦本孝幸、菊地信介、神野浩史、高橋一輝、吉田有里、内田大貴、東信良、三井宣幸、真田隆広、尾崎博一	右総頸動脈起始部狭窄症に対してカットダウン下逆行性アプローチで総頸動脈ステントを留置した 1 例	第 127 回日本循環器学会北海道地方会	2022.06
26)	吉田有里、菊地信介、神野浩史、浦本孝幸、高橋一輝、大平成真、内田大貴、日野岡蘭子、宮本郁未、徳原教、東信良	遠隔医療モバイル端末を用いた施設間医療連携によって、重症下肢虚血患者の治療を行った 1 例	第 127 回日本循環器学会北海道地方会	2022.06
27)	大平成真、内田大貴、神野浩史、横山倫之、浦本孝幸、高橋一輝、竜川貴光、吉田有里、菊地信介、東信良	当院における PAPS 第 1 例目の経験	第 21 回内視鏡下静脈疾患治療研究会	2022.07
28)	真田隆広、山本祥太、酒井美緒、梅原徹、佐藤広崇、齊藤仁十、三井宣幸、広島 覚、安栄良悟、	T1 強調画像/T2 強調画像比 (rT1T2) による神経膠腫の IDH 遺伝子変異予測	第 22 回日本分子脳神経外科学会	2022.07



金村米博、谷野美智  
枝、中西克之、貴島  
晴彦、木下 学

- |     |  |   |   |         |
|-----|--|---|---|---------|
| 29) | 神野浩史、内田大貴、横山倫之、浦本孝幸、高橋一輝、大平成真、竜川貴光、吉田有里、菊地信介、東信良                         | 腹部大動脈瘤破裂の診断で緊急ステントグラフト挿入術を施行した後に判明した後腹膜腫瘍の一例  | 第5回 北海道外科<br>関連学会機構合同学<br>術集会 (HOPES<br>2022) | 2022.09 |
| 30) | 淵澤京慶、菊地信介、吉田有里、浦本孝幸、高橋一輝、内田大貴、東信良  | Klippel-Trenaunay-Weber 症候群を背景とした大腿部動静脈瘻破裂による巨大血腫の切除経験  | 第5回 北海道外科<br>関連学会機構合同学<br>術集会 (HOPES<br>2022) | 2022.09 |
| 31) | 高橋一輝、菊地信介、神野浩史、横山倫之、浦本孝幸、大平成真、竜川貴光、吉田有里、内田大貴、東信良                         | 下肢潰瘍を呈する高位大動脈 - 腸骨動脈閉塞病変 (AIOD) に対して Covered Endovascular Reconstruction of the Aortic Bifurcation(CERAB)technique により救肢しえた1例 | 第5回 北海道外科<br>関連学会機構合同学<br>術集会 (HOPES<br>2022) | 2022.09 |
| 32) | 横山倫之、菊地信介、東信良、内田大貴、吉田有里、竜川貴光、大平成真、高橋一輝、浦本孝幸、神野浩史、林利彦、山尾健、西尾卓哉、宮田明久生、宮田夏実 | 両側足部動脈病変を合併する CLTI に対して外側足根骨動脈バイパスと遊離広背筋皮移植術を含めた形成外科的治療介入にて救肢できた症例  | 第5回 北海道外科<br>関連学会機構合同学<br>術集会 (HOPES<br>2022) | 2022.09 |
| 33) | 神山藤吾、菊地信介、神野浩史、横山倫之、浦本孝幸、高橋一輝、大平成真、竜川貴光、吉田有里、内田大貴、東信良                    | 深部静脈血栓症、外腸骨動脈狭窄をきたした内腸骨動脈静脈瘻に伴う内腸骨静脈瘤の加療経験  | 第5回 北海道外科<br>関連学会機構合同学<br>術集会 (HOPES<br>2022) | 2022.09 |
| 34) | 浦本孝幸、内田大貴、神野浩史、横山倫之、高橋一輝、吉田有里、菊地信介、                                      | 術前コイル塞栓後に外科的瘤切除術を施行した巨大鎖骨下動脈側枝仮性動脈瘤の1例  | 第5回 北海道外科<br>関連学会機構合同学<br>術集会 (HOPES<br>2022) | 2022.09 |

	東信良、永田真莉 乃、谷野美智枝			
35)	Kazuki Takahashi,Shinsuke Kikuchi,Takayuki Uramoto,Seima Ohira,Takamitsu Tatsukawa,Yuri Yoshida,Daiki Uchida,Nobuyoshi Azuma	Significance of predicting prognoses of chronic limb- threatening ischemia patients using a prognostic risk calculator	ESVS 36TH ANNUAL MEETING	2022.09
36)	真田隆広、山本祥 太、酒井美緒、梅原 徹、佐藤広崇、齊藤 仁十、三井宣幸、広島 覚、安栄良悟、金村 米博、谷野美智枝、 中西克之、貴島晴 彦、木下 学	T1 強調画像/T2 強調画像比 (rT1/T2) による神経膠腫の IDH 遺伝子変異予測	日本脳神経外科学会 第 81 回学術総会	2022.09
37)	広島 覚、高野琢 磨、山口なつき、齊 藤仁十、木下 学	髄液漏出症の治療経過における 脂肪抑制 T2WI の有用性につい て	日本脳神経外科学会 第 81 回学術総会	2022.09
38)	三井宣幸、広島 覚、齊藤仁十、山本 祥太、山口なつき、 真田隆広、尾崎博 一、木下 学	観血的処置及び手術治療での抗 血栓薬中止中の脳梗塞発症の要 因に関して	日本脳神経外科学会 第 81 回学術総会	2022.09
39)	木下 学、真田隆 広、佐藤広崇、山本 祥太、齊藤仁十、三 井宣幸、広島 覚	「前頭葉」初発膠芽腫の再発部 位についての定量的検討	日本脳神経外科学会 第 81 回学術総会	2022.09
40)	菊地信介、竜川貴 光、高橋一輝、大平 成真、栗山直也、吉 田有里、内田大貴、 吉岡祐亮、落合孝 広、東信良	大状在静脈壁構成細胞内のコミ ュニケーションにおけるエクソ シームの関与	第 9 回 日本細胞外 小胞学会	2022.1

41) 菊地信介、内田大貴、浦本孝幸、横山倫之、神野浩史、大平成真、竜川貴光、吉田有里、東信良	CLTI に対する末梢バイパスによる血行再建と創傷治療に向けた診療連携	第 63 回 日本脈管学会総会	2022.1
42) 三井宣幸、齊藤仁十、山本祥太、木下学	海綿静脈洞硬膜動静脈瘻の使用コイル本数から見た治療困難となる要因の検討	第 38 回 NPO 法人 日本脳神経血管内治療学会学術集会	2022.11
43) 齊藤仁十	旭川医科大学の取組み ~STROKE~	レスキューストローク旭川	2022.11
44) 田丸裕也、菊地信介、浦本孝幸、高橋一輝、鎌田啓輔、吉田有里、内田大貴、稲葉雅史、東信良	重症下肢虚血をきたした Pseudo-Kapoji Sarcoma の一治験例	第 128 回 日本循環器学会北海道地方会 (第 102 回 北海道医学大会 循環器分科会)	2022.11
45) 真田隆広、山本祥太、酒井美緒、梅原徹、佐藤広崇、齊藤仁十、三井宣幸、広島 覚、安栄良悟、金村米博、谷野美智枝、中西克之、貴島晴彦、	T1 強調画像/T2 強調画像比 (rT1/T2) による神経膠腫の IDH 遺伝子変異予測	第 40 回日本脳腫瘍学会学術集会	2022.12
46) 日野岡蘭子、中村智美、菊地信介、内田大貴、吉田有里、高橋一輝、神野浩史、横山倫之、浦本孝幸、大平成真、西尾卓哉、山尾健、林利彦、東信良	CLTI の広範囲組織欠損に対する遊離広背筋皮弁術後管理を行った 5 症例	第 3 回 日本フットケア・足病医学会年次学術集会	2023.02
47) 日野岡蘭子、菊地信介、吉田有里、高橋一輝、神野浩史、大平成真、竜川貴光、内田大貴、東信良	医師とのタスクシフト・シェアを実現する特定行為研修修了看護師の実践～血管外科医師と協働～	第 3 回 日本フットケア・足病医学会年次学術集会	2023.02
48) 齊藤仁十	困難だった血栓回収～t-PA 適応外症例に対して～	REACT User's Meeting	2023.03

49)	澤田 潤、菊地史 織、齋藤 司、齊藤 仁十、三井宣幸、広 島 覚、木下 学	悪性腫瘍に合併した脳血管障害 の臨床的特徴	第 48 回日本脳卒中 学会学術集会	2023.03
50)	三井宣幸、広島 覚、齊藤仁十、山本 祥太、真田隆弘、尾 崎博一、松島佑二 郎、木下 学	当院予定入院における、抗血栓 薬中止の脳梗塞発症要因	第 48 回日本脳卒中 学会学術集会	2023.03
51)	竜川貴光、吉田有 里、東信良、川辺淳 一	NG2 陽性毛細血管周皮細胞は筋 幹細胞として骨格筋－遅筋維持 に必要である	第 53 回 日本心臓 血管外科学会学術総 会	2023.03
52)	浦本孝幸、菊地信 介、横山倫之、神野 浩史、高橋一輝、大 平成真、竜川貴光、 吉田有里、内田大 貴、東信良	ウシ心膜パッチ (Xenosure) は 大腿動脈血栓内膜摘除術で自家 静脈の代用となるかの検討	第 53 回 日本心臓 血管外科学会学術総 会	2023.03
53)	栗山直也、菊地信 介、吉岡祐亮、高橋 一輝、鎌田啓輔、竜 川貴光、大平成真、 吉田有里、内田大 貴、落谷孝広、東信 良	末梢動脈疾患における細胞外小 胞由来 miRNA のバイオマーカ ーとしての可能性	第 53 回 日本心臓 血管外科学会学術総 会	2023.03
54)	吉田 有里、菊地信 介、内田大貴、東信 良	血管外科での地域医療連携と専 門医療の在り方－広大な医療圏 での包括的治療－	第 53 回 日本心臓 血管外科学会学術総 会	2023.03
55)	内田 大貴、菊地信 介、神野浩史、高橋 一輝、鎌田啓輔、吉 田有里、東信良	破裂性腹部大動脈瘤 (r A A A) に対する地方型施設におけ る救命への取り組み	第 53 回 日本心臓 血管外科学会学術総 会	2023.03
56)	松島佑二郎、山本祥 太、齊藤仁十、木下 学	直静脈洞と横静脈洞に狭窄を認 めた特発性頭蓋内圧亢進症に対 して腰椎-腹腔シャント術が有効 であった一例	第 89 回 (一社)日本 脳神経外科学会北海 道支部会	2023.03
57)	山本祥太、広島 覚、三井宣幸、齊藤 仁十、上森元気、福	エキノコックス感染による頭蓋 内嚢胞の 1 例	第 89 回 (一社)日本 脳神経外科学会北海 道支部会	2023.03

山秀青、真田隆広、  
尾崎博一、松島佑二  
郎、湯澤明夏、木下  
学

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
1) 岡田 基	令和 4 年度厚生労働科学特別研究事業 離島の医療提供体制の構築に向けた調査研究	2022.04

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
1) Satoshi Kawaguchi	2022 BCVS Abstract Travel Grant	American Heart Association	2022.11

地域医療教育学講座

Department of Regional Medicine  
and Education

## I. 所属教員等

地域医療教育学講座

教授 野津 司

## II. 研究業績紹介

当講座では、内科学講座の奥村教授と共同で、ストレスと消化管機能、機能性消化管障害の病態生理についての研究を行っている。具体的には過敏性腸症候群（IBS）のラットモデルを使用して、IBS の新規治療薬の探索、内臓感覚、腸管バリア機能の制御機構の探究、また腹部手術後イレウスモデルを使用して、術後麻痺性イレウスの病態と新規治療法の探索等をテーマに実験を進めている。IBS は腸管バリアの傷害の結果、LPS が遊離し、TRL4 を介して炎症性サイトカインが放出される。サイトカインは内臓の感覚神経を刺激し内臓知覚過敏を起し、さらに腸管上皮の tight junction protein に作用して、腸管バリアのさらなる傷害を惹起する。その結果、慢性の全身性微小炎症が生じて、腸管機能に異常を来すことが病態として重要である。我々はこれらの変化は、corticotropin releasing factor (CRF)と TLR4 が相互に活性化し合い悪循環を形成し、サイトカインシグナルの持続的な活性化という機序によって起きることを報告している。一方、メタボリックシンドロームでも、慢性の全身性炎症と TLR4-炎症性サイトカインシグナルの活性化が起きており、腸管バリアも傷害されていることがわかっている。以上より IBS とメタボリックシンドロームは共通の病態を持っていると考えられ、この視点から両者に対する新たな治療アプローチの可能性について指摘し、当該年度はこれに関する review 論文を作成し J.

Neurogastroenterol. Motility に掲載された。また本論文はこの号の表紙論文に採択された。

さらにアペリンという分子が、CRF, TLR4 シグナルを双方向性に活性化させることにより内臓知覚過敏、腸管バリアの傷害を惹起し、IBS の病態に関与する事を明らかとした。これまでは CRF, TLR4 が、炎症性サイトカインシグナルを誘導することにより、これらの消化管機能変化を起こすことがわかっていたが、これにアペリンという分子が新たに加わり、このシグナルを抑制する事が、IBS 治療に有効である事を指摘した論文である (Neuropeptides)。その他腸管バリアの中枢調節機序に関する仕事も複数論文化した。また総合診療部外来で経験した症例は、迅速に症例報告として論文化し採択された。

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) Tsukasa Nozu, Toshikatsu Okumura	Pathophysiological Commonality Between Irritable Bowel Syndrome and Metabolic Syndrome: Role of Corticotropin-	J Neurogastroentero I Motil	2022.04

releasing Factor-Toll-like  
Receptor 4-Proinflammatory  
Cytokine Signaling

#### IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Masatomo Ishioh, Tsukasa Nozu, Saori Miyagishi, Sho Igarashi, Takuya Funayama, Masumi Ohhira, Toshikatsu Okumura	Activation of basal forebrain cholinergic neurons improves colonic hyperpermeability through the vagus nerve and adenosine A2B receptors in rats	Biochemical Pharmacology	2022.01
2) Tsukasa Nozu, Saori Miyagishi, Masatomo Ishioh, Kaoru Takakusaki, Toshikatsu Okumura	Peripheral apelin mediates visceral hypersensitivity and impaired gut barrier in a rat irritable bowel syndrome model	Neuropeptides	2022.04
3) Shima Kumei, Masatomo Ishioh, Yuki Murakami, Katsuyoshi Ando, Tsukasa Nozu & Toshikatsu Okumura	A patient with familial Mediterranean fever mimicking diarrhea- dominant irritable bowel syndrome who successfully responded to treatment with colchicine: a case report	Journal of Medical Case Reports	2022.06
4) Toshikatsu Okumura, Tsukasa Nozu, Masatomo Ishioh, Sho Igarashi, Takuya Funayama, Shima Kumei, Masumi Ohhira	Oxytocin acts centrally in the brain to improve leaky gut through the vagus nerve and a cannabinoid signaling in rats	Physiol Behav .	2022.07
5) Tsukasa Nozu, Masumi Ohhira, Masatomo Ishioh, Toshikatsu Okumura	A Case of Adult-onset Periodic Fever, Aphthous Stomatitis, Pharyngitis and Cervical Adenitis Syndrome Responsive to Colchicine	Internal Medicine	2023
6) Shima Kumei, Masatomo Ishioh,	Prostaglandin I2 suppresses the development of gut- brain axis disorder in	Biochimica et Biophysica Acta	2023.03



Tsukasa Nozu, irritable bowel syndrome in (BBA) - General  
 Toshikatsu Okumura rats Subjects

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 野津 司, 奥村 利勝	メトホルミンは IBS モデルの内臓知覚過敏・腸管透過性亢進を抑制する	第 24 回日本神経消化器病学会	2022.09
2) 野津 司, 奥村 利勝	反復水回避ストレスによる内臓知覚過敏と腸管透過性亢進の機序について	第 24 回日本神経消化器病学会	2022.09

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
1) 野津 司	第 24 回日本神経消化器病学会並木賞	日本神経消化器病学会	2022.09

形成・再建外科学講座

Plastic and Reconstructive Surgery

## I. 所属教員等

形成・再建外科学講座

教授 林 利彦

講師（学内）山尾 健

助教 西尾 卓哉

## II. 研究業績紹介

### III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 林 利彦	【随想】 思い返すと	形成外科	2023

### IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) 石井陸, 前田 拓, 石川耕資, 山尾 健, 山本有平, 林 利彦	大殿筋弁を用いて再建した仙骨浸潤を伴う熱傷瘢痕癌の1例	創傷	2022
2) Maeda T, Yamamoto Y, Satoh A, *Hayashi T	Refinements in the reconstruction of bisphosphonate-related osteonecrosis of the jaw	JPRAS Open	2022
3) 松田識郁, 石川耕資, 前田拓, 大澤昌之, 舟山恵美, 村尾尚規, 林 利彦, 山本有平.	チームサージャリーにおける形成外科の貢献：新型コロナウイルス感染症が及ぼした影響	日本形成外科学会誌	2022
4) Maeda T, Yamamoto Y, Hayashi T, Furukawa H, Ishikawa K, Miura T, Hojo M, Funayama E.	Restoration of lymph flow by flap transfer can prevent severe lower extremity lymphedema after inguino-pelvic lymphadenectomy	Surgery Today	2022
5) Takeda T, Shonaka T, Tani C, Hayashi T, Kakizaki H, Sumi Y.	Gracilis muscle flap combined with a laparoscopic transabdominal approach is effective in the treatment of post-prostatectomy rectourethral fistula: A case report.	Int J Surg Case Rep	2022

6)	Hato H, Ohga N, Satoha C, Sakata K, Asaka T, Maed T, Yamaguchi T, Hayashi T, Kitagawa Y.	Temporoparietal fascia flap was useful for the open surgery of temporomandibular joint mobilization.	J Oral Maxillofac Surg, Med, Pathol.	2022
----	--	---	--	------

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会 等の名称	発表年月
1) 林 利彦	シンポジウム 14【形成外科領域における近赤外線的应用】近赤外線カメラシステムを応用した皮膚悪性腫瘍の外科手術と臨床研究	第 65 回日本形成外科学会総会・学術大会	2022.04
2) 林 利彦	シンポジウム 5：顔面皮膚悪性腫瘍手術に対する Aesthetic mind：頬部、頸部に関して	第 40 回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会	2022.11
3) 林 利彦	褥瘡・難治性潰瘍の診断と治療	北部檜山医師会学術講演会	2022.6
4) 西尾卓哉	遊離腓骨弁と大胸筋皮弁を併用した下顎の一期再建	第 103 回北日本形成外科学会北海道地方会	2022.2
5) 宮田明久生	前額皮弁を用い頭髪で眉毛再建を行った前額部隆起性皮膚線維肉腫の 1 例	第 103 回 北日本形成外科学会 北海道地方会	2022.2
6) 西尾卓哉	眼窩に生じた孤立性線維性腫瘍の外科的治療	第 65 回日本形成外科学会総会・学術大会	2022.4
7) 山尾 健	重症下肢虚血治療：形成外科-血管外科-WOC ナースの連携構築	第 65 回日本形成外科学会総会・学術集会	2022.4
8) 西尾卓哉	前額部隆起性皮膚線維肉腫の治療経験	第 38 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会	2022.6
9) 山尾 健	重症下肢虚血患者に対する Sorbact® の使用経験	第 14 回日本創傷外科学会総会・学術集会	2022.7

10) 宮田明久生	回腸人工肛門部に発生し皮膚浸潤をきたした悪性腫瘍の治療経験	第 104 回 北日本形成外科学会 北海道地方会	2022.10
11) 山尾 健	眼窩内に生じた孤立性線維性腫瘍の治療経験	第 40 回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会	2022.11
12) 西尾卓哉	重症下肢虚血 (CLI) に対する治療戦略—血行再建と遊離組織移植のコラボレーション—	第 49 回日本マイクロサージャリー学会学術集会	2022.12
13) 宮田明久生	保存的治療中に感染をきたした右上肢デグロービング損傷の 1 例	第 2 回 旭川の手外科を考える会	2022.12
14) 西尾卓哉	【ポスター】眼窩内孤立性線維性腫瘍の治療経験	第 46 回日本頭頸部癌学会	2022.6

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
1) 山尾 健	【講演】3M+KCI リモートカンファレンス：特別コメンテーター，道北創傷ケア	2022.3
2) 西尾卓哉	【講演】CLTI 症例に対する Sorbact を併用した NPWT, 第 4 回 WOUND BED PREPARATION 研究会	2022.8
3) 西尾卓哉	【講演】北海道内の LM 患者の現状, Hokkaido LM Expert Seminar	2022.11

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

看護学講座

Department of Nursing Course

## I. 所属教員等

### 看護学講座

教 授	阿部	修子
	伊藤	俊弘
	及川	賢輔
	長谷川	博亮
	濱田	珠美
	藤井	智子
	升田	由美子
	山内	まゆみ
	山根	由起子
	准 教 授	荒
一條		明美
塩川		幸子
野中		雅人
平		義樹
森		浩美
講 師		石川
	神成	陽子
	苫米地	真弓
助 教	綱元	亜依
	出村	唯
	巻島	愛
	牧野	志津
	松田	奈緒美
	水口	和香子
	矢田	しずえ
	山口	希美
	山田	咲恵
吉原	茉寿	

## II. 研究業績紹介

2022（令和4）年度現在、看護学講座は形態機能学、生体防御学、基礎看護学、成人看護学、精神看護学、母性看護学・助産学、小児看護学、高齢者看護学、在宅看護学、がん看護学、公衆衛生看護学、健康教育開発学の12領域、計28名が所属する大講座です。それぞれの専門領域の研究はもちろん、講座内の複数の領域、他講座、看護職キャリア支援センターの各部門との共同研究などの取り組みがあります。大学院修士課程での修士論文研究をベースにした学会発表や論文発表も積極的に行い、看護の専門性を高めるととも

に対象者への看護として社会に還元できるように研究成果を蓄積・発表しています。

今回の年報の対象年である 2022 年度は、コロナ禍により大きな影響を受けた看護学教育について、より効果的に教授するための方略や人材育成の取組みについての研究があることが特徴と言えます。

また、上述した看護職キャリア支援センターを中心として取り組んだ研究が複数発表されています。2019 年度末に開設した同センターは大学看護学科と大学病院看護部が協働し活動に取り組んでいます。今後も道北・道東地区の看護職・看護学生のキャリア開発に貢献する研究成果を公表していく予定です。

最後に、看護学講座では研究支援チームが NAMU (Journal Club for Nurses of AMU) という研究論文抄読会を月 1 回のペースで開催しており、2024 年 1 月で第 45 回となります。全領域が輪番で担当し、看護学科教員と大学院生、臨床ナースを対象にしています。各領域に関連した研究論文を紹介してクリティークするだけでなく、自分が取り組んでいる研究を紹介して参加者からアドバイスをもらうなど幅広い内容となっています。他領域の研究の方向性や内容を知ることによって、研究計画のブラッシュアップや新たな共同研究が生まれることを期待しています。

### Ⅲ. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 山根由起子	旭川地域で連携した新卒訪問 看護師の育成	Best Nurse	2023.02
2) 荒ひとみ、松田奈緒美、 苫米地真弓、山口希美、 阿部修子	コロナ禍でも学びを止めない ハイブリッド型臨地看護学実 習の構築の取り組みー成人看 護学（外来機能・慢性期）ー	旭川医科大学研究 フォーラム第 20 集	2023
3) 野中雅人	看護職キャリア支援センター 人事交流部門 ～教育人事交 流を体験して～	旭川医科大学研究 フォーラム第 20 集	2023

### Ⅳ. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名 称	発行年月
1) 神田 浩路, 伊藤 俊弘, 藤井 智子, 塩川 幸子, 吉田 貴彦	JICA 課題別研修における アフリカ地域保健人材を 対象とした遠隔研修の実 施	国際保健医療	2023.01
2) 巻島愛, 清水裕子	北海道の人口過疎地域に おける多胎育児に対する 保健師の関わり	日本母性衛生学会 誌	2022.04



- 3) Junko Sugama, Misako Dai, Miyuki Ishibasi, Erika Ota, Yayoi Kamakura, Eiichi Saitoh, Hiromi Sanada, Takeo Nakayama, Takeshi Nomura, Masako Yamada, Gojiro, Nakagami, Naoko Sato, Seiko Shibata, Takashi Hase, Junko Fukada, Tatsuto Miki, Mikiko Arita<sup>1</sup>, Tamae Urai, Yohei Okawa, Aya Kitamura, Toshiaki Takahashi, Nao Tamai<sup>1</sup>, Itoko Tobita, Hiroshi Noguchi, Masaru Matsumoto, Yuka Miura, Kanae Mukai, Yuko Mugita, Mikako Yoshida, Masako Kurachi, Takako Sirasaka, Yukiko Yamane. Japanese clinical practice guidelines for aspiration and pharyngeal residual assessment during eating and swallowing for nursing care Japan Journal of Nursing Science 2022.04
- 4) 須釜 淳子, 石橋 みゆき, 大田 えりか, 鎌倉 やよい, 才藤 栄一, 真田 弘美, 中山 健夫, 野村 岳志, 山田 雅子, 仲上 豪二郎, 佐藤 直子, 柴田 斉子, 長谷 剛志, 深田 順子, 三鬼 達人, 有田 弥棋子, 浦井 珠恵, 大川 洋平, 北村 言, 臺 美佐子, 高橋 聡明, 玉井 奈緒, 飛田 伊都子, 野口 博史, 松本 勝, 三浦 由佳, 向井 加奈恵, 麦田 裕子, 吉田 美香子, 倉智 雅子, 白坂 誉子, 山根 由起子 摂食嚥下時の誤嚥・咽頭残留アセスメントに関する看護ケアガイドライン 日本看護科学会誌 2022.12
- 5) Yuki Morikawa, Yukari Watanabe, Mayumi Educational significance and challenges of PLOS ONE | <https://doi.org/> 2022.12

Yamauchi, Mayumi Yamamoto, Mamoru Morikawa, Kazumi Ishibiki, Mai Ohtomo, Michiko Miyazaki, Keiko Nakamura.	conducting the objective structured clinical examination twice for midwifery students before and after clinical training: A longitudinal single university study during 2014–2019 in Japan	10.1371/ journal.pone. 0278638 December 1, 2022	
6) 荒ひとみ, 山田 咲恵, 井戸 川みどり, 浅島結華, 原口眞 紀子, 服部ユカリ	コロナ禍での臨地看護学 実習の実際と課題の質的 分析～看護学科・看護部 FACULTY DEVELOPMENT 研修会よ り～	旭川医科大学研究 フォーラム第 20 巻 集	2023
7) 土橋 邦生, 吉田 貴彦, 森本 泰夫, 上田 厚, 伊藤 俊弘, 和田 裕雄, 香山 不二雄, 佐 藤 一博, 佐藤 実, 柴田 英 治, 菅沼 成文, 竹下 達也, 角田 正史, 西村 泰光, 柳澤 裕之, 李 卿	予防・臨床医学理論と実 践体系におけるアレルギー ー・免疫毒性制御 職業 アレルギーとイソシアネ ート喘息	日本産業衛生学雑 誌	2023.01
8) 藤井智子, 塩川幸子	小規模自治体における地 域ケア会議の課題 -自治 体, 医療機関, 保健所へのイ ンタビュー調査から-	日本ルーラルナー シング学会誌	2023.03
9) 巻島愛, 清水裕子	北海道上川中部地域にお ける多胎育児への助産師 の関わり	旭川医科大学研究 フォーラム第 20 集	2023

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 濱田珠美	第 2 特集 がん看護に活かす 腫瘍循環器学 Part 4 腫瘍循 環器学をがん看護にどのよう に活かすか :Part4 腫瘍循環 器学をがん看護にどのように 活かすか、濱田珠美、看護技	メヂカルフレンド 社	2022.08

	術、東京、メヂカルフレンド社、68 (9)、69-71		
2) 山根由起子	エビデンスに基づく脳神経看護ケア関連図 改訂版 百田武司・森山美知子(編)	中央法規	2023.03
3) 濱田珠美、神成陽子	ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業活動報告書(文部科学省令和3年度大学改革等補助金):年次醸成自己技術研教育プラン発案、企画、実施、報告書編集、成長期(3年次)、評価期(OSCE)、成果まとめ執筆	旭川医科大学医学部看護学科	2023.03
4) 濱田珠美、神成陽子	ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業活動報告書(文部科学省令和3年度大学改革等補助金):年次醸成自己技術研教育プラン発案、企画、実施、報告書編集、萌芽期(1年次)、促進期(2年次)、成果まとめ執筆	旭川医科大学医学部看護学科	2023.03
5) 植山さゆり, 升田由美子, 神成陽子, 他	A市内の基幹病院における外国人患者と家族への看護実践上の困難に関する調査報告書	旭川医科大学	2023.03

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 田中理佳, 升田由美子, 児玉真利子	大学病院に勤務する中堅看護師の職務満足と関連要因 仕事に対する価値のおき方とレジリエンスに焦点をあてて	日本看護管理学会 第26回学術集会	2022.07
2) 森浩美, 矢田しずえ	終末期にある子どもを看護する訪問看護師の体験	第32回日本小児看護学会学術集会	2022.07
3) 山根由起子, 西條泰明, 橋本和季.	地域在住高齢者における摂食嚥下機能とMNA-SFの関連-在	第33回日本老年医学会北海道地方会	2022.07

		宅（居宅）で生活する要介護認定高齢者の横断研究－		
4)	山根 由起子	在宅医療と人材育成 在宅医療における食支援と教育 集合教育とコンサルテーションを通して	第 4 回日本在宅医療連合学会	2022.07
5)	織田裕子, 升田由美子	大学病院に勤務する 2 年目看護師を成長させた経験	日本看護学教育学会第 32 回学術集会	2022.08
6)	升田由美子	看護系大学「地域包括ケア」教育プログラムに参加する地域住民のソーシャルキャピタルと健康感の実態	日本看護学教育学会第 32 回学術集会	2022.08
7)	勝見真衣, 竹内美紀, 米澤里奈, 相原広美, 阿部明美	旭川医科大学病院における、乳頭条件や妊娠期からの乳頭ケアと母乳率の関連	第 63 回日本母性衛生学会総会・学術集会	2022.09
8)	牧野志津, 塩川幸子, 山内まゆみ, 井戸川みどり, 金田豊子, 平塚志保, 平瀬美恵子, 奥田久美, 澤田裕子	在宅の暮らしを支える訪問看護師が大切にしていること	第 74 回北海道公衆衛生学会	2022.10
9)	塩川幸子, 藤井智子, 水口和香子, 神戸愛, 神田浩路, 山下千絵子	地域ケア会議ロールプレイの評価（第 3 報）-会議のリアリティを体験した保健師学生の学び-	第 74 回北海道公衆衛生学会	2022.10
10)	水口和香子, 藤井智子, 塩川幸子	地域ケア会議ロールプレイの評価（第 2 報）-リアリティから学びを得るための技術教育の工夫-	第 74 回北海道公衆衛生学会	2022.10
11)	藤井智子, 塩川幸子, 水口和香子	地域ケア会議ロールプレイの評価（第 1 報）-リアリティを生み出す教員の介入と成果-	第 74 回北海道公衆衛生学会	2022.10
12)	植山さゆり, 升田由美子, 阿部修子, 井戸川みどり, 尾崎靖子, 神成陽子, 石川千恵, 奥田久美, 平瀬美恵子	A 市内の基幹病院における外国人患者と家族への看護実践上の困難	第 7 回国際臨床医学会学術集会	2022.11

13)	石井里佳, 岡山睦美, 池田行宏, 巻島愛	インターネットを介して性的対 象と会うことにいたる要因と危 険意識	一般社団法人日本 学校保健学会第 68 回学術大会	2022.11
14)	奥原真仁, 森永康平, 春日 美由紀, 長谷川博亮, 石川 千恵, 横井怜奈	対話型鑑賞法を用いた「正解の ない問いに向き合う力」の育成	第 29 回日本精神 科看護専門学術集 会 in 島根県	2022.11
15)	神田浩路, 伊藤俊弘, 藤井智子, 塩川幸子, 吉田貴彦	アフリカ地域保健人材育成のた めのオンライン研修の実施方法 に関する考察	第 36 回日本国際 保健医療学会学術 大会	2022.11
16)	野中雅人、熊井琢美、 服部ユカリ	化学放射線療法を受ける高齢頭 頸部がん患者の口腔内有害事象 に対する口腔内評価ツールの開 発	第 42 回日本看護 科学学会学術集会	2022.12
17)	矢田しずえ, 森浩美	学童期に小児がん治療を受けた 子どもの長期入院生活における 心の糧	第 42 回日本看護 科学学会学術集会	2022.12
18)	片川俊太郎, 森浩美	小児病棟看護師が認識する造血 幹細胞移植を経験した小児にと っての成功体験	第 42 回日本看護 科学学会学術集会	2022.12
19)	森浩美, 矢田しずえ	訪問看護師による終末期を在宅 で療養する子どもの親への看護	第 42 回日本看護 科学学会学術集会	2022.12
20)	矢田しずえ、森浩美	学童期に小児がん治療を受けた 子どもの長期入院生活における 心の糧	第 42 回日本看護 科学学会学術集会	2022.12
21)	藤井智子, 塩川幸子	アクションリサーチによる小規 模自治体職員が生み出す地域ケ ア会議企画の可視化	第 11 回日本公衆 衛生看護学会学術 集会	2022.12
22)	塩川幸子, 藤井智子, 山下千絵子, 水口和香 子, 神戸愛	アセスメント力向上を目指した 保健師現任教育の研修企画 (第 2 報) -アクションリサーチに よる事例検討の企画意図-	第 11 回日本公衆 衛生看護学会学術 集会	2022.12
23)	山下千絵子, 塩川幸 子, 藤井智子, 水口和 香子, 神戸愛	アセスメント力向上を目指した 保健師現任教育の研修企画 (第 1 報) -研修企画担当者の個別支 援能力育成における課題認識-	第 11 回日本公衆 衛生看護学会学術 集会	2022.12
24)	森川 由紀, 山本 真由美, 山内 まゆみ, 石引 かず み, 大友 舞, 中村 恵子	助産学生の分娩介助に関する客 観的臨床能力試験(OSCE)を実習 前後に実施することの教育的意 義と課題	日本看護科学学会 学術集会講演集 42 回 Page297- 298	2022.12

25) Ai Makishima, Mayumi Yamauchi	Educational Evaluation of Hybrid Online and In-School Exercises in Practical Nursing Technology II (Maternal Nursing) with COVID-19 Measures	26th EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS (EAFONS2023)	2023.03
--------------------------------------	---	--	---------

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

---

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
1) 野中雅人、澤田愛 希、眞鍋真実、三 浦美佳、熊井琢 美、服部ユカリ	最優秀演題ポスター発表賞	第42回日本看護科学学 会学術集会	2022.12

一般教育

Department of General Education

## I. 所属教員等

### 心理学

准教授 池上 将永

### 社会学

講師 工藤 直志

### 数学

准教授 加藤 勲

### 数理情報科学

教授 高橋 龍尚

### 物理学

教授 本間 龍也

准教授 稲垣 克彦

講師（学内）藤井 敏之

### 化学

准教授 眞山 博幸

講師（学内）室崎 喬之

### 生物学

准教授 日下部 博一

講師（学内）日野 敏昭

### 生命科学

講師（学内）津村 直美

### 英語

教授 三好 暢博

准教授 桑名 保智

## II. 研究業績紹介

### 【一般教育】

2022年度の一般教育は9つの研究領域（学科目）で構成されています。学内・学外の研究者との活発な交流および本学の研究の発展を願いつつ、各研究領域の研究活動・成果の概要を記載します。

心理学：歌唱や音読に関わる運動性言語野の活動を比較した研究を日本心理学会で発表した。また、令和4年度科研費「多次元衝動性検査の開発とADHD診断補助への応



用」の交付を受け、衝動性に関する研究を開始した。

社会学：令和4年度「基盤的科学研究の自立化支援助成」の支援を受けて、現代の日本社会における異種移植への態度を把握するための社会調査を実施した。調査データの分析に取り組むことで、調査結果を発表するための準備を進めている。

数学：3次元 Zakharov 方程式という非線型分散型方程式について、初期値が小さく球対称なら大域的適切性が最も広い空間で成立することを示した。

数理情報科学：アロメトリ的スケールリング則を用いた肺胞-毛細血管システムの数学モデルを構築した。哺乳動物の体重依存性に変わる全肺胞容積、全肺胞表面積、全肺胞数、全肺胞毛細血管数、毛細血管流量などの定式化を行った。

化学：生体表面の濡れ性や知覚に関する研究および生物付着に関する研究を行っている。皮膚の変形と触覚に関する研究や付着基質の表面官能基と生物付着との関係についての研究成果を、日本生物物理学会や高分子学会などで発表した。

生物学：マウス生殖細胞を核型解析する手法を確立した。また本手法を応用した共同研究を学外研究機関と行い、無精子症マウスからの産子獲得や、精子形成における Trim41 遺伝子の機能解明に貢献し、論文発表を行った。

物理学：銅酸化物高温超伝導の分野で蓄積された実験データを解析し、高温超伝導の発現機構解明を目指している。低次元導体分野での未解決問題を研究するとともに、動的カシミール効果の理論的研究にも取り組んでいる。

生命科学：アルツハイマー病は原因不明の孤発性のものが多い。酸化ストレス過程の関与を仮定し、神経変性の機序解明のために分子細胞生物学的なアプローチを試みている。また、抗認知症食となる成分も調べている。

英語：言語間の差異を超えた言語の特性を理論的に研究する基礎研究を行っている。動詞、目的語、斜格の語順に関する研究、含意的普遍性に関する研究、英語の語法に関する研究を主に行った。

### Ⅲ. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

---

#### IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Momoka Sano, Hiroyuki Mayama, Yoshimune Nonomura	Friction dynamics of human hair treated with water or cationic surfactant aqueous solution	JOURNAL OF SURFACTANTS AND DETERGENTS	2023.03
2) Oura S, Hino T, Satoh T, Noda T, Koyano T, Isotani A, Matsuyama M, Akira S, Ishiguro K, and Ikawa M	Trim41 is required to regulate chromosome axis protein dynamics and meiosis in male mice.	PLOS Genetics	2022.06
3) Ogonuki N, Kyogoku H, Hino T, Osawa Y, Fujiwara Y, Inoue K, Kunieda T, Mizuno S, Tateno H, Sugiyama F, Kitajima T, and Ogura A	Birth of mice from meiotically arrested spermatocytes following biparental meiosis in halved oocytes	EMBO reports	2022.07

#### V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) Hiroyuki Mayama, (Edited by Akihiro Miyauchi, Masatsugu Shimomura)	“Wetting Phenomena on Structured Surfaces: Contact Angle, Pinning, Rolling and Bouncing” in Biomimetics -Connecting Ecology and Engineering by Informatics-	Jenny Stanford Publishing	2022.09
2) Takayuki Murosaki, (Edited by Akihiro Miyauchi, Masatsugu Shimomura)	“Anti-Biofouling Effects against Sessile Organisms of Soft Materials” in Biomimetics -Connecting Ecology and Engineering by Informatics-	Jenny Stanford Publishing	2022.09

#### VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会 等の名称	発表年月
1) 桑名保智	派生名詞 slowness の統語と意味	英語語法文法学会第 30 回記念大会	2022.1

2)	時崎久夫, 桑名保智	目的語－斜格－動詞の語順をとる言語	日本語学会第 165 回大会	2022.11
3)	Yasutomo Kuwana, Hisao Tokizaki	The Ordering of Obliques and Adpositional Elements	2023 Linguistic Society of America 97th Annual Meeting	2023.01
4)	時崎久夫, 桑名保智	目的語・斜格・動詞の語順と格表示	理論言語学と言語類型論と計量言語学の対話にもとづく言語変化・変異メカニズムの探求：2022 年度第 5 回研究会	2023.01
5)	時崎久夫, 桑名保智	膠着性に関する含意的普遍性	「言語変化・変異研究ユニット」第 10 回ワークショップ (AA 研 2022 年度第 6 回研究会)	2023.03
6)	渡邊純平, 三上 恵, 室崎喬之, 野方靖行, 下村政嗣, 平井悠司	表面官能基パターンニング基板上におけるフジツボキプリス幼生の付着評価	第 71 回高分子学会年次大会	2022.05
7)	Takayuki Murosaki, Taiki Kishigami, Yuji Hirai, Yasuyuki Nogata	Growth behaviors of marine benthic diatoms on the surfaces with micro dimple arrays	The 39th International Conference of Photopolymer Science and Technology (ICPST-39)	2022.06
8)	Hiroyuki Mayama	Adhesion Probability of Droplets onto Structured Surface	The 39th International Conference of Photopolymer Science and Technology	2022.06
9)	室崎 喬之, 渡邊 純平, 平井 悠司, 野方 靖行	海洋生物の付着基質選択性と付着制御技術 (依頼講演)	第 71 回高分子討論会	2022.09
10)	渡邊 純平, 室崎 喬之, 野方 靖行, 下村 政嗣, 平井 悠司	異なる表面官能基でマイクロパターン化された SAM 基板上でのフジツボ付着評価	第 71 回高分子討論会	2022.09
11)	眞山 博幸, 西村 涼, 室崎 喬之, 横島 智、	超撥水表面での水滴の跳ね返り確率	第 73 回コロイドおよび界面化学討論会	2022.09

中村 振一郎、内田 欣  
吾

- |     |   |   |   |         |
|-----|---|---|---|---------|
| 12) | 室崎 喬之, 渡邊 純平,<br>岸上 大輝, 平井 悠司,<br>野方 靖行   | 付着生物の付着基質選択性 –<br>表面官能基の種類,面積率,及び<br>幾何的パターンに関して–   | 第 73 回コロイドお<br>よび界面化学討論会  | 2022.09 |
| 13) | Hiroyuki Mayama   | Theoretical Consideration on<br>Bouncing Behavior of Water<br>Droplet on Superhydrophobic<br>Surface 超撥水表面上の水滴の<br>跳ね返り挙動に関する理論的<br>考察              | 第 60 回日本生物物<br>理学会年会  | 2022.09 |
| 14) | Takayuki Murosaki,<br>Taiki Kishigami, Yuji<br>Hirai, Yasuyuki<br>Nogata                            | The growth of marine benthic<br>diatoms on micro patterned<br>surfaces  | 第 60 回日本生物物<br>理学会年会  | 2022.09 |
| 15) | Jumpei Watanabe,<br>Takayuki Murosaki,<br>Yasuyuki Nogata,<br>Masatsugu<br>Shimomura, Yuji<br>Hirai | Investigation of the larval<br>surface recognition abilities<br>of barnacles on the surfaces<br>with several patterned<br>surface functional groups | Chitose<br>International Forum<br>on Science &<br>Technology 2022<br>(CIF 22)         | 2022.09 |
| 16) | 渡邊純平, 室崎喬之,<br>野方靖行, 下村政嗣,<br>平井悠司  | 表面官能基の幾何学的なパタ<br>ーンがフジツボキプリス幼生<br>の着生に与える影響   | 日本付着生物学会 50<br>周年記念シンポジウ<br>ム   | 2022.1  |
| 17) | Jumpei Watanabe,<br>Takayuki Murosaki,<br>Yasuyuki Nogata,<br>Masatsugu<br>Shimomura, Yuji<br>Hirai | Barnacle Settlements on the<br>Dot-patterned SAM surfaces   | MNC 2022, 35th<br>International<br>Microprocesses and<br>Nanotechnology<br>Conference | 2022.11 |
| 18) | 浅野祥大, 渡邊純平,<br>室崎喬之, 野方靖行,<br>下村政嗣, 平井悠司  | SAM 基板上におけるフジツボ<br>探索挙動の動画解析  | 2023 年度 日本付着<br>生物学会研究集会  | 2023.03 |
| 19) | 池上将永, 高橋雅治  | 音読・歌唱およびハミング課<br>題遂行中の前頭前皮質活動 –<br>近赤外分光法 (NIRS) を用い<br>た検討–  | 日本心理学会第 86<br>回大会   | 2022.09 |
| 20) | 越後貫成美, 日野敏昭,<br>京極博久, 大澤優生,<br>藤原靖浩, 井上貴美子,   | 一次精母細胞からのマウス産<br>子作出法の改善と不妊雄マウ<br>スへの応用   | 第 63 回 日本卵子学<br>会   | 2022.05 |

田崎秀尚, 大月純子,  
国枝哲夫, 水野聖哉,  
立野裕幸, 杉山文博,  
北島智也, 小倉淳郎

21) 日野 敏昭	マウス卵管内における配偶子・初期胚の輸送機構：生体の卵管を使ってわかったこと	第 8 回 生殖若手の会	2022.09
22) Toshiaki Hino	Development of a method for the identification of each meiotic chromosome using multicolor FISH in mice	The International Symposium "Totipotency and Germ Cell Development"	2022.11

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
1) 日野 敏昭	第 8 回生殖若手の会 ベストプレ ゼンテーション賞	生殖若手の会	2022.09

リハビリテーション科

Physical Medicine and Rehabilitation

## I. 所属教員等

リハビリテーション科  
教 授 大田 哲生  
助 教 及川 欧  
伊達 歩  
遠藤 寿子

## II. 研究業績紹介

リハビリテーション科ではリハビリテーション医療による運動機能の改善を中心に研究を進めたいと考えています。特に脳卒中などの中枢神経障害による片麻痺の上下肢機能の改善を brain machine interface の技術を応用した治療法で行うことを目指しています。

中枢神経障害による運動機能障害では筋緊張亢進による随意性の低下を来すこともあり、効果的なボツリヌス療法の実施方法についても検討を重ねるつもりです。また末梢動脈疾患や関節疾患患者の歩行分析を足底圧測定や AI を活用した画像解析で行い、歩容改善のための運動療法や装具療法を見出すことに生かしていきたいと考えています。

さらに超高齢社会における健康寿命の延伸を図るため、医師やセラピストの少ない地域でも適切なリハビリテーション治療を受けられるように遠隔リハビリテーションシステムの構築も目指しています。

運動機能の改善には循環器の機能改善も欠かせません。心不全や心筋梗塞患者に対する効果的なリハビリテーション治療も併せて検討していきたいと思えます。

当科ではスポーツにおけるパフォーマンスの向上やスポーツによる健康づくりにも興味を持っており、例えば車椅子フェンシングにおける効果的な運動方法の研究を行ったり、旭川の地域性を生かして歩くスキーと健康との関連を調査したりすることも考えています。

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

## IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Misumi Kayo, Nakanishi Michio, Miura Hiroyuki, Date Ayumi, Tokeshi Tatsuo, Kumasaka Leon, Arakawa Tetsuo, Nakao Kazuhiro, Hasegawa Takuya,	Exercise-Based Cardiac Rehabilitation Improves Exercise Capacity Regardless of the Response to Cardiac Resynchronization Therapy in Patients with Heart Failure and Reduced Ejection Fraction	Circulation Journal	2022

Fukui Shigefumi,  
Yanase Masanobu,  
Noguchi Teruo,  
Kusano Kengo,  
Yasuda Satoshi,  
Goto Yoichi

- |    |   |   |   |         |
|----|---|---|---|---------|
| 2) | 田哲生, 池田夢子, 呂隆徳, 野坂利也  | ウィメンズヘルスを考慮した痙縮治療   | Monthly Book<br>Medical<br>Rehabilitation | 2022.06 |
| 3) | 細川祐司, 村岡法彦, 吉田圭佑, 岡村綾子, 呂隆徳, 及川欧, 大田哲生  | 多職種と協働し人工呼吸器離脱を進めた悪性腫瘍摘出術後高位脊髄損傷児の一症例   | 北海道理学療法                                   | 2022.08 |
| 4) | 村岡法彦, 景山研斗, 高山拓也, 酒井周平, 呂隆徳, 大田哲生   | 理学療法士の ICU 専任体制の導入は開胸術後患者の早期離床と ADL 改善を可能にする  | 北海道理学療法                                   | 2022.08 |
| 5) | 大田哲生  | フィードバック制御とフィードフォワード制御   | Clinical<br>Rehabilitation                | 2022.09 |
| 6) | Tokeshi, Tatsuo and Date, Ayumi and Miura, Hiroyuki and Kumasaka, Leon and Arakawa, Tetsuo and Nakao, Kazuhiro and Fukui, Shigefumi and Hasegawa, Takuya and Yanase, Masanobu and Nakanishi, Michio and Noguchi, Teruo and Yasuda, Satoshi and Goto, Yoichi | Predictors of Improvement in Exercise Capacity After Cardiac Rehabilitation Differ Between Octogenarian and Young-Old Patients With Acute Myocardial Infarction | Circulation Journal                       | 2023    |
| 7) | 高橋佑弥, 及川欧, 村岡法彦, 塚田鉄平, 池田夢子, 高山拓也, 林圭輔, 甲谷滉康, 呂隆徳, 大田哲生   | COVID-19 患者に関わるリハビリテーション専門職のメンタルヘルスについて   | 日本リハビリテーション教育学会誌                          | 2023    |



## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 伊達 歩	U-40 企画②若年心不全患者の社会復帰の支え方～運動処方 Karvonen 法～	第 28 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2022.06
2) 伊達 歩、北川 拓、早坂太希、三田村 信雄、呂隆徳、大田 哲生	当院における MitraClip 患者に対する心臓リハビリテーションの現状	第 28 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2022.06
3) 澁谷匠、大田哲生	筋電義手ミケランジェロハンドと能動義手を使い分け農業へ復帰している一例	第 59 回日本リハビリテーション医学会学術集会	2022.06
4) 及川欧, 澁谷匠, 佐藤健太, 大田哲生	スポーツ現場でのリハビリテーション科医の役割についての一考	第 59 回日本リハビリテーション医学会学術集会	2022.06
5) 藤保 洋祐, 伊達 歩, 秋田 滉一, 北川 拓, 小林 祐也, 早坂 太希, 本谷 光咲子, 木谷 祐也, 葦島 暁帆, 坂本 央, 田邊 康子, 竹内 利治, 中川 直樹, 湯澤 明夏	間欠性完全房室ブロックによる失神を契機に遅発型 Fabry 病の診断に至った 1 例	第 295 回日本内科学会北海道地方会	2022.07
6) 大田哲生	遠隔リハビリテーションへの取り組み～展望と課題～	京都府理学療法士会研修会	2022.07
7) 大田哲生	痙縮治療再考～より良い生活のために～	リハビリテーション・ケア合同研究大会 苫小牧 2022	2022.09
8) 大田哲生	医療過疎地域における遠隔リハビリテーション医療	第 6 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会	2022.11
9) 伊達 歩	基礎から始める CPX	第 7 回日本心臓リハビリテーション学会北海道支部地方会	2022.11

10) 景山 研斗, 伊達 歩, 呂 隆徳, 大田 哲生	IMPELLA 挿入下で歩行練習を開始した重症心不全症例	第 7 回日本心臓リハビリテーション学会北海道支部地方会	2022.11
11) 三田村 信雄, 伊達 歩, 呂 隆徳, 大田 哲生	ICU-AW の疑いのある急性心筋梗塞後患者に対する理学療法の一例	第 7 回日本心臓リハビリテーション学会北海道支部地方会	2022.11
12) 藤保 洋祐, 伊達 歩, 佐 藤 朱夏, 伊與部 拳太, 國兼 祐樹, 徳野 翔太, 木谷 祐也, 河端 奈穂 子, 葦島 暁帆, 坂本 央, 田邊 康子, 竹内 利治, 紙谷 寛之, 湯澤 明夏	乾癆性関節炎に合併した房室ブロック, 重症大動脈弁閉鎖不全症の一例	第 128 回日本循環器学会北海道地方会	2022.11
13) 大田哲生	旭川医科大学病院リハビリテーション科における専攻医育成の現状	国立大学病院リハビリテーション部門代表者会議	2023.01
14) 西谷健太郎, 佐藤弘也, 呂隆徳, 大田哲生	包括的高度慢性下肢虚血による両足部切断後、両短下肢装具を製作し歩行再獲得した一症例	第 3 回日本フットケア・足病医学会年次学術集会	2023.02
15) Ayaka Sato, Ayumi Date, Mai Takada, Yosuke Fujiyasu, Fumitaka Suzuki, Kenta Iyobe, Yuki Kunikane, Shota Tokuno, Yuya Kitani, Yoshinori Minami, Naoko Kawabata, Akiho Minoshima, Naka Sakamoto, Yasuko Tanabe, Toshiharu Takeuchi, Hiroyuki Kamiya, Mishie Tanino, Naoki Nakagawa	A case of acute tuberculous pericarditis showing significant preoperative PET-CT uptake and positive postoperative T-SPOT test	第 87 回日本循環器学会学術集会	2023.03

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

**Ⅷ. 学術関係活動**

受賞者氏名

受賞名

受賞学会

受賞年月

---

腫瘍センター

Oncology Center

## I. 所属教員等

腫瘍センター  
准教授 田邊 裕貴  
講師 更科 岳大

## II. 研究業績紹介

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

## IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Ando Katsuyoshi, Uehara Kyoko, Sugiyama Yuya, Kobayashi Yu, Murakami Yuki, Sato Hiroki, Kunogi Takehito, Sasaki Takahiro, Takahashi Keitaro, Ueno Nobuhiro, Kashima Shin, Moriichi Kentaro, Tanabe Hiroki, Okumura Toshikatsu, Fujiya Mikihiro	Correlation Among Body Composition Parameters and Long-Term Outcomes in Crohn's Disease After Anti-TNF Therapy.	Frontiers in Nutrition	2022
2) Takada, K. and Kubo, T. and Kikuchi, J. and Yoshida, M. and Murota, A. and Arihara, Y. and Nakamura, H. and Nagashima, H. and Tanabe, H. and Sugita, S. and Tanaka, Y. and Miura, A. and Ohhara, Y. and Ishiguro, A. and Yokouchi, H. and Kawamoto, Y. and Mizukami, Y. and Ohnishi, H. and Kinoshita, I. and Sakurai, A.	Effect of comprehensive cancer genomic profiling on therapeutic strategies and clinical outcomes in patients with advanced biliary tract cancer: A prospective multicenter study	Frontiers in Oncology	2022
3) Murakami Yuki, Konishi Hiroaki, Fujiya Mikihiro, Takahashi Keitaro, Ando	Testis-specific hnRNP is expressed in colorectal cancer cells and	Cancer Medicine	2022.04

- Katsuyoshi, Ueno  
Nobuhiro, Kashima Shin,  
Moriichi Kentaro, Tanabe  
Hiroki, Okumura  
Toshikatsu
- accelerates cell growth  
mediating ZDHHC11  
mRNA stabilization.
- 4) 齋藤豪\*1, 櫻井晃洋\*2, 青山  
英史\*3, 木下一郎\*4,5, 更科  
岳大\*6, 濱田珠美\*7, 井関健  
\*8, 三国久美\*9 人と医を紡ぐ北海道がん  
医療人養成プラン 癌と化学療法 2022.05
- 5) Yukari Sakurai, Naohisa  
Toriumi, Takeo Sarashina,  
Toru Ishioka, Marino  
Nagata, Hiroya Kobayashi,  
Hiroshi Azuma An infantile case of  
hereditary folate  
malabsorption with  
sudden development of  
pulmonary hemorrhage: a  
case report Journal of Medical  
Case Reports 2022.06
- 6) Takahashi, K. and  
Murakami, Y. and Sasaki,  
T. and Ueno, N. and  
Tachibana, S. and Ikeda, J.  
and Ishigaki, K. and  
Horiuchi, M. and Yoshida,  
M. and Uehara, K. and  
Kobayashi, Y. and  
Sugiyama, Y. and Kunogi,  
T. and Muto, M. and Ando,  
K. and Muto, M. and  
Kashima, S. and Moriichi,  
K. and Tanabe, H. and  
Yanagawa, N. and Harada,  
K. and Teramoto, T. and  
Okumura, T. and Fujiya, M. Nasal breathing is  
superior to oral breathing  
when performing and  
undergoing transnasal  
endoscopy: a randomized  
trial Endoscopy 2023
- 7) Ueno, N. and Sugiyama, Y.  
and Kobayashi, Y. and  
Murakami, Y. and Iwama,  
T. and Sasaki, T. and  
Kunogi, T. and Sakatani, A.  
and Takahashi, K. and  
Tanaka, K. and Serikawa,  
S. and Ando, K. and  
Kashima, S. and Muto, M. Concomitant  
pharmacologic  
medications influence the  
clinical outcomes of  
granulocyte and  
monocyte adsorptive  
apheresis in patients with  
ulcerative colitis: A Journal of Clinical  
Apheresis 2023

- and Inaba, Y. and Moriichi, K. and Tanabe, H. and Okumura, T. and Fujiya, M.
- 8) Murakami, Y. and Tanabe, H. and Ono, Y. and Sugiyama, Y. and Kobayashi, Y. and Kunogi, T. and Sasaki, T. and Takahashi, K. and Ando, K. and Ueno, N. and Kashima, S. and Yuzawa, S. and Moriichi, K. and Mizukami, Y. and Fujiya, M. and Okumura, T.
- multicenter retrospective cohort study
- Local recurrence after successful endoscopic submucosal dissection for rectal mucinous mucosal adenocarcinoma: A case report
- World Journal of Gastrointestinal Oncology
- 2023

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 田邊裕貴, 水上裕輔	家族性大腸腺腫症と通常型大腸癌の発癌早期における APC 遺伝子変異	第 28 回日本遺伝性腫瘍学会 学術集会	2022.06
2) 田邊裕貴, 小林裕, 久野木健仁, 坂谷 慧, 安藤勝祥, 嘉島 伸, 盛一健太郎, 藤谷幹浩, 奥村利勝	機能的消化管疾患患者の受診者数の調査研究	第 24 回日本神経消化器病学会	2022.09
3) 田邊裕貴, 他	免疫チェックポイント阻害剤 (ICI) 関連胃炎の臨床病理学的検討	第 60 回日本癌治療学会学術集会	2022.1
4) Hiroki Tanabe, Takehito Kunogi, Katsuyoshi Ando, Shin Kashima, Kentaro Moriichi,	Endoscopic management of familial adenomatous polyposis using	JDDW2022	2022.1

Mikihiro Fujiya, artificial intelligence-  
Toshikatsu Okumura assisted polypectomy

#### **VII. その他研究活動**

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

---

#### **VIII. 学術関係活動**

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

---



呼吸器センター

Respiratory Center

## I. 所属教員等

呼吸器センター  
教授（病院） 北田 正博  
講師（学内） 佐々木 高明  
南 幸範  
奥村 俊介  
助 教 梅影 泰寛  
吉田 奈七  
安田 俊輔  
伊藤 茜

## II. 研究業績紹介

2008年の設立以来、呼吸器センターは臨床医学と基礎研究の最前線で重要な役割を果たしてきました。このセンターは、先進的な教育と研究活動を通じて、これまでに6人の医学博士を輩出し、それぞれが臨床および研究の現場でリーダーとして活躍しています。その成功の秘訣は、クリニカルクエスションに基づいた基礎研究と臨床研究を統合する Physician Scientist の育成にあります。

センターの基礎研究は、肺癌の分子標的治療やがん免疫療法に焦点を当てています。これらの研究分野では、多施設共同研究や観察研究、医師主導治験、企業治験など、多岐にわたるアプローチでクリニカルクエスションを追求しています。特に、がんゲノム解析やデジタル PCR を用いた遺伝子解析、薬物血中動態の解析と副作用の関連研究に力を入れ、より効果的で安全な治療法の開発を目指しています。

臨床研究では、自己免疫性間質性肺炎、アレルギー性疾患、感染症など、様々な呼吸器疾患に対する研究を積極的に進めています。

医局員の積極的な参加もセンターの魅力の一つです。「シーズ探索会議」は医局員からの提案で始まり、新しい研究テーマやアイデアを探求するためのダイナミックな場を提供しています。このオープンな環境は、若手医師のクリニカルクエスションを育てるための重要なプラットフォームとなっています。

講座の再編により、呼吸器内科と呼吸器外科に分かれた呼吸器センターですが、学内での共同研究はこれからも継続していきます。

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

## IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Yoshida N, Okumura S, Sasaki T, Chiba S, Sado M,	SETD2 deficiency and miR-21: Potent	Journal of Cancer Science	2022

	Oyama K, Yoshida R, Hirai N, Minami Y, Kitada M, Ohsaki Y.	therapeutic targets in NUT midline carcinoma.	and Clinical Therapeutic	
2)	木田 涼太郎, 平井 理子, 鳴海 圭倫, 石田 健介, 森田 一豊, 梅影 泰寛, 風林 佳大, 山本 泰司, 佐々木 高明	気管切開後に自然寛解した特発性気管狭窄の1例	気管支学/44 巻 1 号	2022
3)	岡崎 智, 伊藤 茜, 安田 俊輔, 吉田 奈七, 佐々木 高明, 北田 正博	Triple negative 乳癌手術症例における driver 変異頻度の検討	日本外科学会定期学術集会抄録集 122 回	2022.04
4)	伊藤 茜, 北田 正博, 岡崎 智, 吉田 奈七, 安田 俊輔	原発不明小細胞癌肺門リンパ節転移を伴う多発癌の1例	日本呼吸器外科学会雑誌(0919-0945)36 巻 Suppl.	2022.05
5)	伊藤 茜, 北田 正博, 岡崎 智, 吉田 奈七, 安田 俊輔	乳癌骨髄転移症例の検討	日本乳癌学会総会プログラム抄録集 30 回	2022.06
6)	Kodai Kawamura, et al	A randomized phase II study of 5-aminolevulinic acid hydrochloride and sodium ferrous citrate for the prevention of nephrotoxicity induced by cisplatin-based chemotherapy of lung cancer	Oncology	2022.09
7)	佐々木 高明, 南 幸範, 大崎 能伸	肺癌に対する PDT の現状と課題	日本レーザー医学会誌(0288-6200)43 巻 3 号	2022.09

- 8) Kitajima S, Tani T, Springer BF, Campisi M, Osaki T, Haratani K, Chen M, Knelson EH, Mahadevan NR, Ritter J, Yoshida R, Köhler J, Ogino A, Nozawa RS, Sundararaman SK, Thai TC, Homme M, Piel B, Kivlehan S, Obua BN, Purcell C, Yajima M, Barbie TU, Lizotte PH, Jänne PA, Paweletz CP, Gokhale PC, Barbie DA. MPS1 inhibition primes immunogenicity of KRAS-LKB1 mutant lung cancer. *Cancer Cell.* 2022.10
- 9) 伊藤 茜, 中坪 正樹, 吉野 流世, 安田 俊輔, 吉田 奈七, 北田 正博, 紙谷 寛之 後縦隔リンパ節に対する胸腔鏡下後縦隔腫瘍摘除術の一例 *日本臨床外科学会雑誌(1345-2843)83 巻増刊* 2022.10
- 10) 吉野 流世, 北田 正博, 安田 俊輔, 伊藤 茜, 中坪 正樹 間質性肺炎の治療中に発症した難治性気胸に外科的切除術が著効した1例 *日本臨床外科学会雑誌(1345-2843)83 巻増刊* 2022.10
- 11) 伊藤 茜 MEN1 型に合併した胸腺神経内分泌腫瘍の1例 *胸部外科学会誌* 2022.10
- 12) 安田 俊輔, 伊藤 茜, 吉田 奈七, 岡崎 智, 北田 正博 リンパ濾胞過形成を伴った多胞性胸腺嚢胞の1例 *日本臨床外科学会雑誌(1345-2843)83 巻 10 号* 2022.10
- 13) Yoshida R, Saigi M, Tani T, Springer BF, Shibata H, Kitajima S, Mahadevan NR, Campisi M, Kim W, Kobayashi Y, Thai TC, Haratani K, Yamamoto Y, Sundararaman SK, Knelson EH, Vajdi A, Canadas I, Uppaluri R, Paweletz CP, Miret JJ, Gokhale PC, Jänne PA, Barbie DA. MET-Induced CD73 Restrains STING-Mediated Immunogenicity of EGFR-Mutant Lung Cancer. 2022.11

14) 吉田 遼平, 佐々木 高明, Barbie David	MET 遺伝子増幅を獲得し た EGFR 遺伝子変異陽性 肺がんへの新規免疫療法 の開発	肺癌(0386-9628) 62 巻 6 号	2022.11
15) 小泉 明子, 奈良岡 妙佳, 志垣 涼太, 天満 紀之, 木田 涼太郎, 梅影 泰寛, 森 千恵, 吉田 遼平, 南 幸範, 奥村 俊介, 佐々木 高 明	Pembrolizumab で 5 年以 上の長期奏効が得られた 全身状態不良な SMARCA4 欠損非小細胞 癌の一例	肺癌(0386- 9628)62 巻 6 号	2022.11
16) 木田 涼太郎, 湯澤 明夏, 奈良 岡 妙佳, 志垣 涼太, 天満 紀之, 梅影 泰寛, 森 千恵, 吉田 遼平, 南 幸範, 奥村 俊介, 谷野 美智 枝, 佐々木 高明	当院における浸潤性粘液 性腺 癌 32 例の検討	肺癌(0386- 9628)62 巻 6 号	2022.11
17) 木田 涼太郎, 奈良岡 妙佳, 志 垣 涼太, 天満 紀之, 梅影 泰寛, 森 千恵, 吉田 遼平, 南 幸範, 奥村 俊介, 佐々木 高明	クライオ生検時の挿管困 難症 例に対する当科での工夫	気管支学(0287- 2137)44 巻 6 号	2022.11

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 奈良岡妙佳, 南幸範、権寧博、 仁多寅彦、神津悠、廣瀬正裕、 原丈介、松本久子	N-ERD の実態と対応 呼吸器内科 Vol.43 No.1	科学評論社	2023.01

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
-------	----	--------------	------

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

緩和ケア診療部

Department of Palliative Care

## I. 所属教員等

### 緩和ケア診療部

准教授 神田 浩嗣  
講師 小野寺 美子  
助教 井上 真澄  
高橋 裕香子

## II. 研究業績紹介

### 緩和ケア診療部 研究活動

緩和ケア診療部として、日常的に多くの患者さんに使用しているオピオイドに関する臨床研究、さまざまな痛みに関する理論研究、治療方針や最期の過ごし方に対する意思決定に関する理論研究、地域連携に関する量的・質的研究などを行っている。特に2023年は放射線治療中における疼痛緩和に対する検討を行い、治療中の苦痛をより軽減できるようにEvidenceの集積に努めている。また当院内で作成している特殊製剤であるケタミン軟膏の神経障害性疼痛への有効性についても検討を行っている。さらにはがん拠点病院である旭川医科大学病院の緩和ケア診療部としては院内で使用されている医療用麻薬の量について把握する義務があり、今後はその集計方法を使用して当院での医療用麻薬の使用方法の特性、患者背景による効果の違い、より苦痛軽減をはかれるようなオピオイド使用などについて検討を重ねていきたい。診療科横断的にオピオイドについての質的研究や混合研究を行っていく予定であり具体的な内容を検討しているところである。診療科としての特性、対象患者さんの特性上、ランダム化した臨床研究は非常に困難であるがケーススタディの集積がより質の高い緩和ケアにつながると考えられるので研究活動が重要な分野である。

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

## IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) 南 ひかり、安濃 英里、 小野寺 美子、菅原 亜 美、神田 恵、神田 浩嗣	直腸がん術後の難治性旧肛 門部痛を複数回のくも膜下 フェノールブロックで管理 し得た1症例	日本ペインクリニック 学会誌	2023.01

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 小野寺美子	ACP と最後に過ごしたい 場所	腫瘍センターセミナー —	2022.5
2) 岩田 千広、小野寺 美子	低心機能患者の大腿切断術に対する神経ブロック施行後に高度低血圧をきたした1例	日本臨床麻酔学会第42回大会	2022.11
3) 渡邊 香留、鈴木 智美、田中 誠子、山近 真実、小野寺 美子	手術安全チェックリストを通じた医療安全の再考	第17回医療の質・安全学会学術集会	2022.11

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------



乳腺疾患センター

Breast Diseases Center

## I. 所属教員等

乳腺疾患センター  
教授（病院）北田 正博  
助 教 伊藤 茜

## II. 研究業績紹介

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

## IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Yajima Y, Kosaka A, Ishibashi K, Yasuda S, Komatsuda H, Nagato T, Oikawa K, Kitada M, Takekawa M, Kumai T, Ohara K, Ohkuri T, Kobayashi H.	A tumor metastasis-associated molecule TWIST1 is a favorable target for cancer immunotherapy due to its immunogenicity.	Cancer Sci.	2022.08
2) Uno Y, Tanaka H, Miyakawa K, Akiyama N, Kamikokura Y, Yuzawa S, Kitada M, Takei H, Tanino M	Subcellular localization of hTERT in breast cancer: insights into its tumorigenesis and drug resistance mechanisms in HER2-immunopositive breast cancer.	Hum Pathol.	2022.11
3) Aogi K, Watanabe K, Kitada M, Sangai T, Ohtani S, Aruga T, Kawaguchi H, Fujisawa T, Maeda S, Morimoto T, Sato N, Takao S, Morita S, Masuda N, Toi M, Ohno S.	Correction to: Clinical usefulness of eribulin as first- or second-line chemotherapy for recurrent HER2-negative breast cancer: a randomized phase II study (JBCRG-19).	Int. J Clin Oncol.	2022.11
4) Abe Y, Taira N, Kashiwabara K, Tsurutani J, Kitada M, Takahashi M, Kato H,	Association of Genetic Polymorphism with Taxane-induced Peripheral Neuropathy: Sub-analysis of	Acta Med Okayama	2022.12

Kikawa Y, Sakata E, Naito Y, Hasegawa Y, Saito T, Iwasa T, Takashima T, Aihara T, Mukai H, Hara F, Shien T, Doihara H, Toyooka S.	a Randomized Phase II Study to Determine the Optimal Dose of 3-week Cycle Nab-Paclitaxel in Metastatic Breast Cancer Patients.		
5) Shigehira Saji, Naruto Taira <sup>2</sup> , Masahiro Kitada <sup>3</sup> , Toshimi Takano <sup>4</sup> , Masahiro Takada <sup>5</sup> , Tohru Ohtake <sup>6</sup> , Tatsuya Toyama <sup>7</sup> , Yuichiro Kikawa <sup>8</sup> , Yoshie Hasegawa <sup>9</sup> , Tomomi Fujisawa <sup>10</sup> , Masahiro Kashiwaba <sup>11</sup> , Takanori Ishida <sup>12</sup> , Rikiya Nakamura <sup>13</sup> , Yutaka Yamamoto <sup>14</sup> , Uhi Toh <sup>15</sup> , Hiroji Iwata <sup>16</sup> , Norikazu Masuda <sup>17</sup> , Satoshi Morita <sup>18</sup> , Shinji Ohno <sup>19</sup> , Masakazu Toi	Switch maintenance endocrine therapy plus bevacizumab after bevacizumab plus paclitaxel in advanced or metastatic oestrogen receptor-positive, HER2-negative breast cancer (BOOSTER): a randomised, open-label, phase 2 trial	Lancet Oncol.	2022.5
6) Ryusei Yoshino <sup>1</sup> , Nana Yoshida <sup>1</sup> , Shunsuke Yasuda <sup>1</sup> , Akane Ito <sup>1</sup> , Masaki Nakatsubo <sup>1</sup> , Masahiro Kitada <sup>1</sup>	Primary Dedifferentiated Liposarcoma of the Posterior Mediastinum With a Positive Surgical Margin	Cureus	2023.3

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 北田正博	乳癌診療 state of the art 科学に基づく最新診療 遺伝性乳癌遺伝子キャリアのフォローアップ	医歯薬出版株式会社	2022.09

**VI. 研究発表**

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
-------	----	--------------	------

---

**VII. その他研究活動**

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

---

**VIII. 学術関係活動**

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

---

臨床検査・輸血部

Department of Clinical Laboratory  
and Transfusion

## I. 所属教員等

臨床検査・輸血部  
講師 坂本 央  
助教 河端 薫雄  
齊藤 江里香  
河端奈穂子（兼務）  
高橋 裕貴

## II. 研究業績紹介

私たちは大学病院の臨床検査・輸血部として教育や研究にも力を注いでいます。臨床検査医学は基本 19 診療領域に含まれており、旭川医科大学病院は、日本臨床検査医学会の認定研修施設です。奥村利勝部長指導の下、坂本 央副部長（講師）、河端薫雄助教、齊藤江里香助教、河端奈穂子助教、高橋裕貴助教が医学部学生や検査技師養成機関の実習生の教育、医療スタッフや検査技師の院内研修を行い、臨床検査や輸血療法の意義や重要性を伝え、人材養成に注力しています。研究では機器や試薬の性能評価はもちろん、各科の諸先生のご指導を仰ぎ、日常の業務のなかで遭遇する疑問や新しい知見から、臨床検査・輸血に携わる者だからこそできる学術研究を発展させています。

2022 年度は、生理機能検査、特に心エコーや心電図学的指標を用いた臨床研究を中心に学会発表等を行いました。心アミロイドーシス、肥大型心筋症、がん治療関連心筋障害等の心筋疾患についての病態や、経皮的僧帽弁接合不全修復術、経皮的心房中隔欠損閉鎖術などの構造的疾患に対するカテーテル治療効果についての検討等を行っています。また、当部門は COVID-19 の PCR 検査運用により本院診療および安全な本学教育実施へ中心的な役割を果たしておりますが、2 種の抗 SARS-CoV-2 抗体価の比較と COVID-19 の重症度との関連や、COVID-19 重症心筋炎症例の病態等についての検討を行いました。

これからは疾患の予防、早期診断や鑑別診断、治療効果予測などの診療に役立つ新しい検査法の開発を目指していくことが使命と考えます。安全・安心な医療が求められる一方、医療技術の高度化や高齢化社会は医療を複雑化しています。質の高い医療に貢献するために、検査技術の向上、業務の効率化、チーム医療の柱として役割を果たしてまいります。皆さまに深く信頼される臨床検査・輸血部を目指して、スタッフ一同努力を続けていきますので、ご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
赤坂和美	循環器領域における LISENDO 880 の臨床応用	映像情報 Medical	2022.9

#### IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
Mitsushige Murata, Masashi Fujita, Hiroyuki Toide, Kazumi Akasaka, Takako Iino, Akiko Goda, Kohta Takei, Norihisa Toh, Yoko Miyasaka, Mai Iwatani, Michiyo Yamano, Tomoko Ishizu, Satoshi Nakatani, Kazuhiro Yamamoto	Survey results: status report on problems caused by sexual mismatch between sonographer and patient during echocardiography-a 2020 report of the Japanese Society of Echocardiography	J Echocardiogr	2022.10

#### V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

#### VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
竹内 健汰、坂本 央	IMPELLA 補助循環下 のステロイドパルス療 法が著効した COVID- 19 重症心筋炎の一例	第 119 回日本内科学会総 会 医学生研修医の日本内 科学会ことはじめ 2022	2022.4
坂本 央	心アミロイドーシスの 不整脈マネージメント ～新規疾患修飾療法時 代における不整脈治療 とは?～	第 2 回日本不整脈心電学会 北海道支地方会	2022.5
坂本 央	タファミジス治療後に ペースメーカーを必要と し、経時的に右室波高 が低下したトランスサ イレチン心アミロイド ーシス症例の検討	第 2 回日本不整脈心電学会 北海道支地方会	2022.5
赤坂和美	超音波検査のパニック 所見：実臨床での役割	日本超音波医学会第 95 回 学術集会	2022.5

	と意義		
赤坂和美	大学病院である当院におけるパニック所見の対応	日本超音波医学会第 95 回 学術集会	2022.5
大塚浩平	輸血検査技師としてのこれから	第 70 回日本輸血・細胞治療学会学術集会	2022.5
伊與部拳太、河端奈穂子、坂本 央、赤坂和美、竹内利治	がん治療関連心筋障害による重症心不全に MitraClip 治療が奏功した 1 例	第 127 回日本循環器学会 北海道地方会	2022.6
及川貴允, 伊藤敦巳, 野澤佳祐, 藺田弥代, 佐渡正敏, 赤坂和美, 奥村利勝, 藤井 聡	HCV 抗体陽性者への受診勧奨の効率化を目指して	第 58 回日本肝臓病学会総会	2022.6
佐藤朱夏、河端奈穂子、坂本 央、赤坂和美、佐藤伸之	心房中隔欠損症による繰り返す慢性心不全増悪に対して経皮的心房中隔欠損閉鎖術が有効であった超高齢女性の 1 例	日本老年医学会第 33 回北海道地方会	2022.7
齊藤江里香、青沼達也、河端奈穂子、長多真美、中森理江、田丸奈津子、赤坂和美、紙谷寛之	複数の欠損孔を認めた心房中隔欠損症の 1 例	日本超音波医学会第 52 回 北海道地方会学術集会	2022.10
青沼達也、長多真美、中森理江、田丸奈津子、河端奈穂子、伊達 歩、齊藤江里香、赤坂和美	SAM による左室流出路狭窄と重症僧帽弁逆流の主因が余剰な僧帽弁尖と考えられた肥大型心筋症の 1 例	日本超音波医学会第 52 回 北海道地方会学術集会	2022.10
及川貴允, 伊藤敦巳, 野澤佳祐, 藺田弥代, 佐渡正敏, 赤坂和美, 奥村利勝, 藤井 聡	IFCC 法試薬による新生児および小児アルカリフォスファターゼ基準範囲の検討①—新生児および小児 ALP 基準範囲設定の条件—	第 10 回日臨技北日本支部 医学検査学会	2022.11
及川貴允, 伊藤敦巳,	IFCC 法試薬による新	第 10 回日臨技北日本支部	2022.11



野澤佳祐, 藪田弥代, 佐渡正敏, 赤坂和美, 奥村利勝, 藤井 聡	生児および小児アルカリ リフォスファターゼ基 準範囲の検討②—新生 児および小児 ALP 換 算基準範囲の妥当性—	医学検査学会	
河端奈穂子	専門性を高め、診療に 貢献できる医師を目指 して～ワークライフバ ランスとの闘い～	第 69 回日本臨床検査医学 会学術集会	2022.11
赤坂和美、河端奈穂 子	超音波検査で孤立性総 腸骨動脈解離が疑われ た 2 例	第 69 回日本臨床検査医学 会学術集会	2022.11
赤坂和美、河端奈穂 子	超音波検査における緊 急に対応すべき異常所 見について	第 69 回日本臨床検査医学 会学術集会	2022.11
及川貴允, 伊藤敦巳, 野澤佳祐, 藪田弥代, 西中麻里奈, 菊池彩 翔, 吉野寛隆, 佐藤望 有, 佐渡正敏, 赤坂和 美, 奥村利勝, 藤井 聡	IFCC 法試薬による新 生児および小児アルカ リフォスファターゼ基 準範囲の検討	第 69 回日本臨床検査医学 会学術集会	2022.11
藪田弥代, 伊藤敦巳, 野澤佳祐, 及川貴允, 西中麻里奈, 吉野寛 隆, 佐藤望有, 佐渡正 敏, 赤坂和美, 奥村利 勝, 藤井 聡	2 種の抗 SARS-CoV-2 抗体価の比較と COVID-19 の重症度と の関連	第 69 回日本臨床検査医学 会学術集会	2022.11
赤坂和美	血管エコーにおけるパ ニック値／パニック所 見	第 87 回日本循環器学会学 術集会	2023.3
Kawabata Naoko, Sakamoto Naka, Akasaka Kazumi, Nakagawa Naoki	Cancer Therapeutics- related Cardiac Dysfunction in Which a Transcatheter Edge- to-Edge Repair of the Mitral Valve was	第 87 回日本循環器学会学 術集会	2023.3

	Effective for Reverse Remodeling		
佐藤朱夏, 伊達歩, 河端奈穂子, 坂本央, 中川直樹, 紙谷寛之	A Case of Acute Tuberculous Pericarditis Showing Significant Preoperative PET-CT Uptake and Positive Postoperative T-SPOT Test	第 87 回日本循環器学会学術集会	2023.3

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

手術部

Department of Surgical Center

## I. 所属教員等

手術部  
准教授 林 達哉  
黒澤 温  
講師 小野寺 美子

## II. 研究業績紹介

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 林 達哉	AMR (薬剤耐性) 対策と上気道感染症	耳鼻咽喉科奈良	2022.01
2) 林 達哉	みみ・はな・のどの感染症のガイドラインを活用する	ENTONI	2022.01
3) 宗万孝次、山近真実、小野寺美子、黒澤 温、林達哉	【DX(デジタルトランスフォーメーション)時代の手術室教育(1)】DX(デジタルトランスフォーメーション:デジタル変革)時代の手術室教育	日本手術医学会誌	2022.1
4) 保富宗城,柳原克紀,石和田稔彦,伊藤真人,大石智洋,賀来敬仁,笠原 敬,小宮幸作,進藤有一郎,林 達哉	気道感染症の抗菌薬適正使用に関する提言 (改訂版)	感染症学雑誌	2022.11
5) 保富宗城,伊藤真人,林 達哉,河野正充,香山智佳子,角田梨沙,櫛橋幸民,原淵保明,日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会上気道感染症対策・抗菌薬適正使用検討委員会	耳鼻咽喉科頭頸部外科領域感染症における抗菌薬の適正使用の推進と新規抗菌薬開発	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報日耳鼻	2022.11

## IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) 平田哲, 宗万孝次, 山近真実, 小野寺美子, 黒澤温, 林達哉	DX (デジタルトランスフォーメーション: デジタル変革) 時代の手術室教育	日本手術医学会誌	2022.01

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 林達哉 他多数	耳鼻咽喉科薬物治療ベッドサイドガイド	中山書店	2023.02

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 鈴木綾香, 多田雅博, 丸山世理, 山谷修一, 黒澤温	低侵襲僧帽弁形成術後に両側声帯麻痺が出現した一例	日本麻酔科学会 2022 年度支部学術集会 北海道東北支部第 12 回学術集会	2022.09
2) 山中瑛里加, 川村大資, 黒澤温	活動性の高いインスリンノーマに対する臍切除において術中の血糖管理に人工臍臓が有用であった一症例	日本麻酔科学会 2022 年度支部学術集会 北海道東北支部第 12 回学術集会	2022.09
3) 鈴木綾香, 多田雅博, 丸山世理, 山谷修一, 黒澤温	低侵襲僧帽弁形成術後に両側声帯麻痺が出現した一例	日本麻酔科学会 2022 年度支部学術集会 北海道東北支部第 12 回学術集会	2022.09
4) 山中瑛里加, 川村大資, 黒澤温	活動性の高いインスリンノーマに対する臍切除において術中の血糖管理に人工臍臓が有用であった一症例	日本麻酔科学会 2022 年度支部学術集会 北海道東北支部第 12 回学術集会	2022.09
5) 福土明里, 平田哲, 宗万孝次, 山崎大輔	心臓植込み型電気デバイス患者に対する手術対応の取り組み	第 44 回日本手術医学会総会	2022.10
6) 高木真奈, 黒澤温, 多田雅博, 矢口陽介	経皮的腎結石破砕術 (PNL) 施行中の遷延する低血圧の原因鑑別に難渋した術中敗血症性ショックの一例	日本臨床麻酔学会第 42 回大会	2022.11
7) 高木真奈, 黒澤温, 多田雅博, 矢口陽介	経皮的腎結石破砕術 (PNL) 施行中の遷延する低血圧の原因鑑別に難渋した術中敗血症性ショックの一例	日本臨床麻酔学会 第 42 回大会	2022.11

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

---

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

---

放射線部

Clinical Radiology

## I. 所属教員等

放射線部  
助 教 青木 友希

## II. 研究業績紹介

### III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

### IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

### V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

### VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 中島香織, 青木友希, 北田正博	乳癌局所単独再発に対する救済放射線治療成績	第30回日本乳癌学会 学術総会	2022.06
2) 山品将祥, 青木友希, 佐々木駿, 林秀樹, 山田裕樹, 中島香織	唾液腺癌の放射線治療成績	日本放射線腫瘍学会 第35回学術大会	2022.11

### VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

### VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------



病理部

Surgical Pathology

## I. 所属教員等

### 病理部

教 授 谷野 美智枝  
講 師 湯澤 明夏  
助 教 上小倉 佑機

## II. 研究業績紹介

### III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 谷野美智枝	間質性肺疾患の病理診断	日本内科学会誌 111(6) 1132-1138,	2022
2) 小田義崇, 湯澤明夏, 田中 伸哉	髄膜腫	病理と臨床	2022.12
3) 湯澤明夏, 谷野美智枝	中枢神経系血液系腫瘍	病理と臨床	2023.01

### IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Masumi Tsuda, Runa Horio, Lei Wang, Tomoko Takenami, Jun Moriya, Jun Suzuka, Hirokazu Sugino, Zenichi Tanei, Mishie Tanino, Shinya Tanaka	Novel rapid immunohistochemistry using an alternating current electric field identifies Rac and Cdc42 activation in human colon cancer FFPE tissues	Scientific Report	2022
2) Sugiyama Y, Tanabe H, Matsuya T, Kobayashi Y, Murakami Y, Sasaki T, Kunogi T, Takahashi K, Ando K, Ueno N, Kashima S, Moriichi K, Tanino M, Mizukami Y, Fujiya M, Okumura T	Severe immune checkpoint inhibitor-associated gastritis: A case series and literature review.	Endosc Int Open.	2022
3) Xiang H, Toyoshima Y, Shen W, Wang X, Okada N, Kii S, Sugiyama K, Nagato T, Kobayashi H, Ikeo K, Hashimoto S, Tanino M, Taketomi A, Kitamura H	IFN- $\alpha/\beta$ -mediated NK2R expression is related to the malignancy of colon cancer cells.	Cancer Sci.	2022

- |    |   |   |  |         |
|----|---|---|--|---------|
| 4) | Adachi Y, Yokoo H, Hagiwara M, Takahashi H, Iwata H, Takeda T, Yamamoto T, Imai K, Yuzawa S, Tanino M, Matsuno N  | Lymphoepithelioma-like cholangiocarcinoma not associated with Epstein-Barr virus or hepatitis virus: case report and literature review of 100 reported cases. | Therapeutic Advances in Medical Oncology | 2022.01 |
| 5) | Kawabata H, Ono Y, Tamamura N, Oyama K, Ueda J, Sato H, Takahashi K, Taniue K, Okada T, Fujibayashi S, Hayashi A, Goto T, Enomoto K, Konishi H, Fujiya M, Miyakawa K, Tanino M, Nishikawa Y, Koga D, Watanabe T, Maeda C, Karasaki H, Liss AS, Mizukami Y, Okumura T. | Mutant GNAS limits tumor aggressiveness in established pancreatic cancer via antagonizing the KRAS-pathway.   | J Gastroenterol.                         | 2022.05 |
| 6) | Kii S, Kitamura H, Hashimoto S, Ikeo K, Ichikawa N, Yoshida T, Homma S, Tanino M, Taketomi A.   | STAT1-mediated induction of Ly6c-expressing macrophages are involved in the pathogenesis of an acute colitis model.   | .Inflamm Res.                            | 2022.08 |
| 7) | Ichihara S, Nakatani Y, Tanino M, Fujimori K, Cho Y, Otsuka M, Kitamura C, Murao K, Taya T, Mori M, Ichimura T, Muraoka S   | Post-coronavirus disease 2019 smoldering interstitial pneumonia/pulmonary fibrosis.   | Pathol Int.                              | 2022.08 |
| 8) | 福山 秀青, 湯澤 明夏, 真田 隆広, 齋藤 仁十, 広島 覚, 安栄 良悟, 木下 学   | 糖尿病と齲歯のある高齢者に発症したノカルジア脳膿瘍   | 脳神経外科速報                                  | 2022.09 |
| 9) | Ota Y, Aso K, Otake S, Okada M, Shukuda K, Sawada K, Yokoo H, Tanino M, Fujiya M, Okumura T.  | Contrast-enhanced ultrasonography for the diagnosis of spontaneous necrosis of hepatocellular carcinoma: A report of 2 cases.                                 | Radiol Case Rep.                         | 2022.11 |

- |     |   |   |  |         |
|-----|---|---|--|---------|
| 10) | Sanada T, Yamamoto S, Sakai M, Umehara T, Sato H, Saito M, Mitsui N, Hiroshima S, Anei R, Kanemura Y, Tanino M, Nakanishi K, Kishima H, Kinoshita M   | Correlation of T1- to T2-weighted signal intensity ratio with T1- and T2-relaxation time and IDH mutation status in glioma.     | Sci Rep                                    | 2022.11 |
| 11) | Ozaki H, Mitsui N, Kinoshita M, Tanino M, Kimura T.   | Amyloid deposition at the carotid artery in an ATTRwt amyloidosis patient: a case report.                                       | Surg Case Rep.                             | 2022.12 |
| 12) | Saito S, Ueno N, Kamikokura Y, Sugiyama Y, Kobayashi Y, Murakami Y, Kunogi T, Sasaki T, Takahashi K, Ando K, Kashima S, Moriichi K, Tanabe H, Tanino M, Okumura T, Fujiya M   | Gastro-colic Fistula-associated Hypersplenism Causes Pancytopenia in a Patient with Crohn's Disease.                            | Intern Med.                                | 2023.01 |
| 13) | Yuki Murakami, Hiroki Tanabe, Yusuke Ono, Yuya Sugiyama, Yu Kobayashi, Takehito Kunogi, Takahiro Sasaki, Keitaro Takahashi, Katsuyoshi Ando, Nobuhiro Ueno, Shin Kashima, Sayaka Yuzawa, Kentaro Moriichi, Yusuke Mizukami, Mikihiro Fujiya, Toshikatsu Okumura | Local recurrence after successful endoscopic submucosal dissection for rectal mucinous mucosal adenocarcinoma: A case report    | World Journal of Gastrointestinal Oncology | 2023.01 |
| 14) | Mizukami S, Shonaka T, Tani C, Ihara K, Takeda T, Ohara M, Hasegawa K, Tanino M, Sawada K, Sumi Y.  | A case of percutaneous transhepatic stomal varices embolization and partial splenic artery embolization for rectal cancer after | Clin J Gastroenterol                       | 2023.02 |

- CAPOX/BEV chemotherapy:  
the summary of the stomal  
varices related to oxaliplatin  
administration.
- 15) Imai K, Nanjo H, Shigeeda W, Sugai T, Ito T, Maniwa Y, Takashima S, Saito H, Yanagawa N, Tanaka Y, Doi T, Hiroshima Y, Nomura K, Tanino M, Tanaka S, Minamiya Y; R-IHC Study Group. Intraoperative rapid immunohistochemistry with noncontact antibody mixing for undiagnosed pulmonary tumors. *Cancer Sci* 2023.02
- 16) Tanaka K, Tanabe H, Sato H, Ishikawa C, Goto M, Yanagida N, Akabane H, Yokohama S, Hasegawa K, Kitano Y, Sugiyama Y, Uehara K, Kobayashi Y, Murakami Y, Kunogi T, Sasaki T, Takahashi K, Ando K, Ueno N, Kashima S, Moriichi K, Sato K, Yuzawa S, Tanino M, Taruiishi M, Sumi Y, Mizukami Y, Fujiya M, Okumura T. Prognostic factors to predict survival in patients with advanced gastric cancer patients who receive late-line nivolumab monotherapy –The Asahikawa Gastric Cancer Cohort Study (AGCC)– *Cancer Med.* 2022;11:406-416. 2022
- 17) Ishi Y, Era T, Yuzawa S, Okamoto M, Sawaya R, Motegi H, Yamaguchi S, Terasaka S, Houkin K, Fujimura M. Analysis of induced pluripotent stem cell clones derived from a patient with mosaic neurofibromatosis type 2 *Am J Med Genet A.* 2022;188:1863-1867. 2022

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 松野吉宏、鍋島一樹、谷野美智枝、他	腫瘍病理鑑別診断アトラス	文光堂	2022.04

- |    |                    |                       |              |         |
|----|--------------------|-----------------------|--------------|---------|
| 2) | 蛇澤晶、熊坂利夫、谷野美智枝、他   | 非腫瘍性疾患病理アトラス 肺        | 文光堂          | 2022.04 |
| 3) | 中村仁志夫、石津明洋、谷野美智枝、他 | 医療系学生のための病理学 第5版 呼吸器系 | 講談社          | 2022.11 |
| 4) | 中村仁志夫、石津明洋、谷野美智枝、他 | 肺癌診療ガイドライン 2022年版     | 2022年 日本肺癌学会 | 2022.12 |

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 湯澤 明夏, 林 真奈実, 上小倉 佑機, 永田 真莉乃, 青木 直子, 道塚 智彦, 谷野 美智枝	Low-grade papillary Schneiderian carcinoma の一例	第 111 回日本病理学会総会	2022.04
2) 上小倉佑機, 青木直子, 林真奈実, 永田真莉乃, 湯澤明夏, 西川祐司, 谷野美智枝.	腺筋上皮腫から発生したと考えられる乳腺の低異型度腺扁平上皮癌の一例.	第 111 回日本病理学会総会	2022.04
3) 湯澤明夏, 林真奈実, 上小倉佑機, 永田真莉乃, 青木直子, 道塚智彦, 谷野美智枝.	Low-grade papillary Schneiderian carcinoma の一例.	第 111 回日本病理学会総会	2022.04
4) 永田 真莉乃, 湯澤 明夏, 林 真奈実, 上小倉 佑機, 青木 直子, 津田 真寿美, 田中 伸哉, 小林 博也, 谷野 美智枝	眼窩原発孤立性線維性腫瘍の 2 例	第 111 回日本病理学会総会	2022.04
5) 田村ゆき穂, 永田真莉乃, 湯澤明夏, 佐々木高明, 林真奈実, 上小倉佑機, 青木直子, 山本祥太, 水上祐輔, 谷野美智枝	免疫チェックポイント阻害薬を含む化学療法著効後に脳転移をきたした SMARCA4-deficient 肺癌の一例	第 111 回日本病理学会総会	2022.04
6) 宮川京大, 吉岡治彦, 湯澤明夏, 南宏樹, 小田嶋広和, 秋山直子, 鶴野裕治, 佐々木高明, 渡邊純, 谷野美智枝	METex14 skipping 変異非小細胞肺癌における細胞形態学的特徴の解析	第 63 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会) (東京)	2022.6
7) 鶴野裕治, 宮川京大, 山下萌, 秋山直子, 湯澤明夏, 谷野美智枝	胸水中に出現した乳腺アポクリン癌の一例	第 63 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会) (東京)	2022.6
8) 鶴野裕治, 宮川京大, 秋山直子, 田中宏樹, 上小倉佑機, 湯澤明夏, 北田正博, 谷野美智枝	HER2 過剰発現乳癌におけるヒトテロメラーゼ逆転写酵素 (hTERT) の発現と治療抵抗性	第 55 回北海道病理談話会 (札幌)	2022.9

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

---

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

---

集中治療部

Surgical Pathology



## I. 所属教員等

### 集中治療部

准教授 小北 直宏  
助教 井尻 えり子  
黒嶋 健起  
國岡 信吾

## II. 研究業績紹介

### III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

### IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Miyano E, Horikoshi Y, Nakayama M, Kuroshima T, Eto Y, Kawata D, Okada M, Kokita N, Fujita S.	A case of toxic epidermal necrolysis comorbid with severe burns	Acute Med Surg	2022.01
2) Asakura R, Kuroshima T, Kokita N, Okada M.	A case of COVID-19-associated fulminant myocarditis successfully treated with mechanical circulatory support	Clin Case Rep	2022.09

### V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

### VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 國岡信吾	旭川における補助循環治療を考える～国立循環器病研究センターでの研修を終えて～	外科医・内科医が考える循環器疾患講演会	2022.04
2) 鈴木文隆、白坂知識、石川成津矢、筒井真博、國岡信吾、他	剖検にて類白血病性反応が指摘された ECPELLA 治療を行った急性心不全の 1 例	第 127 回 日本循環器学会北海道地方会	2022.06

3)	白坂知識、望月伸浩、瀬戸川友紀、成田昌彦、鈴木文隆、広藤愛菜、國岡信吾、他	ECG-gated helical CT を用いた術前大動脈弁径測定により大動脈弁置換術はより安全に迅速化できる	第 5 回 北海道外科 関連学会機構合同学 術集会	2022.09
4)	鈴木文隆、白坂知識、石川成津矢、筒井真博、國岡信吾、他	診断に苦慮した結核性心膜炎の 1 例	第 5 回 北海道外科 関連学会機構合同学 術集会	2022.09
5)	橋本侑樹、広藤愛菜、望月伸浩、鈴木文隆、瀬戸川友紀、成田昌彦、國岡信吾、他	重複大動脈弓と心室中隔欠損症に対して二期的に手術治療を行った 1 例	第 5 回 北海道外科 関連学会機構合同学 術集会 (HOPES2022)	2022.09
6)	福田はな、広藤愛菜、望月伸浩、瀬戸川友紀、鈴木文隆、成田昌彦、國岡信吾、他	急性心筋梗塞後の oozing rupture、乳頭筋断裂による僧帽弁閉鎖不全症と左室瘤に対して staged therapy を行った 1 例	第 5 回 北海道外科 関連学会機構合同学 術集会 (HOPES2022)	2022.09
7)	丸岡純、広藤愛菜、望月伸浩、瀬戸川友紀、鈴木文隆、成田昌彦、國岡信吾、他	狭心症発症を契機に診断された冠動脈肺動脈瘻より発生する 3 c m 大の冠動脈瘤に対する 1 手術症例	第 5 回 北海道外科 関連学会機構合同学 術集会 (HOPES2022)	2022.09
8)	清水要、広藤愛菜、望月伸浩、瀬戸川友紀、鈴木文隆、成田昌彦、國岡信吾、他	心室細動を契機に診断された右冠動脈起始異常症に対して冠動脈バイパス術を施行した 1 例	第 5 回 北海道外科 関連学会機構合同学 術集会 (HOPES2022)	2022.09
9)	堀元美里、筒井真博、石川成津矢、白坂知識、國岡信吾、他	心原性ショックを伴った急性冠症候群に対しハートチームによる段階的治療と補助循環管理により救命できた一例	第 5 回 北海道外科 関連学会機構合同学 術集会 (HOPES2022)	2022.09
10)	李延娥、筒井真博、石川成津矢、白坂知識、國岡信吾、他	著明な心機能低下状態により耐術不可能と思われた大動脈弁狭窄症及び冠動脈 3 枝病変に対しハートチームによる集学的治療により救命できた一例	第 5 回 北海道外科 関連学会機構合同学 術集会 (HOPES2022)	2022.09
11)	瀬戸川友紀、國岡信吾、他	肺動脈圧排を伴う未破裂 Valsalva 洞動脈瘤に対し、自己弁温存大動脈基部置換術を施行した 1 例	第 5 回 北海道外科 関連学会機構合同学 術集会 (HOPES2022)	2022.09

12)	望月伸浩、鈴木文隆、瀬戸川友紀、成田昌彦、広藤愛菜、國岡信吾、他	切除不能局所進行食道癌患者の大動脈食道瘻に対して姑息的 TEVAR を施行した1例	第5回 北海道外科 関連学会機構合同学術集会 (HOPES2022)	2022.09
13)	井尻えり子、栗澤 圭輔、佐藤 寛起、和知修太朗、黒嶋 健起、中嶋駿介、高氏 修平、小林厚志、岡田 基、小北直宏	集中治療から適切に終末期医療へ移行した、肝硬変合併の敗血症性多臓器不全の1例	日本集中治療医学会 第6回北海道支部学術集会	2022.1
14)	紙谷寛之、小山恭平、筒井真博、國岡信吾、他	Polycaprolactone ナノファイバー小口径人工血管の機能評価	第60回 日本人工臓器学会	2022.11
15)	望月伸浩、瀬戸川友紀、鈴木文隆、成田昌彦、広藤愛菜、竹吉大輔、國岡信吾、他	David-I 手術後に医原性三尖弁逆流をきたし、三尖弁形成術を施行した一例	第128回 日本循環器学会北海道地方会	2022.11
16)	白坂知識、望月伸浩、鈴木文隆、瀬戸川友紀、國岡信吾、他	当科における僧帽弁 MICS の遠隔成績	第53回 日本心臓血管外科学会学術集会	2023.03
17)	成田昌彦、望月伸浩、鈴木文隆、瀬戸川友紀、國岡信吾、他	補助循環装置抜去後の創部治癒遅延に関する検討	第53回 日本心臓血管外科学会学術集会	2023.03
18)	白坂知識、望月伸浩、鈴木文隆、瀬戸川友紀、成田昌彦、広藤愛菜、國岡信吾、他	MICS 時代でも若手が習得すべき AVR は今なお classical AVR である asahikawa policy	第53回 日本心臓血管外科学会学術集会	2023.03
19)	鈴木文隆、望月伸浩、瀬戸川友紀、成田昌彦、広藤愛菜、國岡信吾、他	偽腔閉塞型 stanfordB 型急性大動脈解離の中長期経過の解析	第53回 日本心臓血管外科学会学術集会	2023.03
20)	横山博一、菊池悠太、白坂知識、國岡信吾、他	複数のオーバーラップしたステントグラフトの血管壁に対する密着度の初期検討	第53回 日本心臓血管外科学会学術総会	2023.03
21)	瀬戸川友紀、望月伸浩、鈴木文隆、成田昌彦、広藤愛菜、國岡信吾、他	包括的高度慢性下肢虚血を合併する重症心疾患患者の予後予測に関する検討	第53回 日本心臓血管外科学会学術総会	2023.03
22)	紙谷寛之、小山恭平、國岡信吾、他	分解性ナノファイバーを用いた小口径人工血管の機能評価	第53回 日本心臓血管外科学会学術総会	2023.03

23) 白坂知識、望月伸浩、鈴木文隆、瀬戸川友紀、成田昌彦、広藤愛菜、國岡信吾、他	高齢者の僧帽弁手術：どのような患者群が MICS に最適か？	第 53 回 日本心臓血管外科学会学術総会	2023.03
24) 成田昌彦、望月伸浩、鈴木文隆、瀬戸川友紀、國岡信吾、他	開心術後患者における便秘症の発症頻度とその危険因子に関する検討	第 53 回 日本心臓血管外科学会学術総会	2023.03

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

周産母子センター

Center for Maternity and Infant Care

## I. 所属教員等

周産母子センター  
教 授 長屋 建  
講 師 岡本 年男  
講師（学内）金井 麻子  
助 教 横浜 祐子  
吉澤 明希子  
二井 光麿  
水崎 恵

## II. 研究業績紹介

周産母子センターは産婦人科の産科部門と小児科の新生児部門が共同して運営しているため、各部署で独立した研究活動をしている。また、大学診療部門として学会発表や論文は主に臨床研究に重点を置いている。

2022年度に新生児科から発表した二井助教の論文は彼の学位論文になった。産科部門では2名の臨床遺伝専門医が周産期における遺伝診療に関する研究を継続しており、金井助教は周産期救急にも力を入れALSOインストラクターオブザイヤーを受賞している。

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 岡本年男	家族の？をビジュアル解決！赤ちゃんの疾患サクッとシート～早産児編～ 動脈管開存症 (PDA)	with NEO	2022.04
2) 二井 光麿	第3章 新生児の代表的疾患、7 その他、押さえておくべき疾患 02 新生児寒冷障害	新生児の生理・徴候と代表的疾患まるごとガイド	2022.09

## IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Nii M, Okamoto T, Sugiyama T, Aoyama A, Nagaya K	Reticulocyte hemoglobin content changes after treatment of anemia of prematurity	Pediatrics International	2022.08

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 岡本年男、高橋健太、杉山達俊、青山藍子、二井光麿、長屋建	当科で経験した新型コロナウイルス陽性または濃厚接触者妊婦から出生した11例の検討	第19回北海道周産期談話会	2022.07
2) 岡本年男、杉山達俊、青山藍子、二井光麿、長屋建	肝腫瘍を無治療で経過観察している18トリソミーの1例	第58回日本周産期・新生児医学会学術集会	2022.07
3) 横浜祐子、金井麻子、吉澤明希子、中西研太郎、加藤育民	当院における先天性心疾患の胎児診断について	北海道出生前診断研究会	2022.1
4) 金井麻子、麩澤章太郎、中西研太郎、吉澤明希子、横浜祐子、加藤育民	治療に難渋した結節性紅斑を伴う妊娠中の肉芽腫性乳腺炎の一例	第74回日本産科婦人科学会学術講演会	2022.08
5) 金井麻子、酒井美穂、中西研太郎、吉澤明希子、横浜祐子、加藤育民	当院での先天性食道閉鎖症の胎児診断の契機について	日本超音波医学会第52回北海道地方会学術集会	2022.10
6) 金井麻子、酒井美穂、中西研太郎、吉澤明希子、横浜祐子、加藤育民、笹川穂の花、蒔田芳男	本学の遺伝カウンセリング数の推移	第23回北海道出生前診断研究会	2022.10
7) 金井麻子、酒井美穂、中西研太郎、吉澤明希子、横浜祐子、加藤育民	当院における精神疾患合併妊娠の検討	第58回周産期新生児医学会学術講演会	2022.07
8) 金井麻子、酒井美穂、中西研太郎、吉澤明希子、横浜祐子、加藤育民	急激な血小板減少の後に重症妊娠高血圧腎症を発症した抗リン脂質抗体症候群合併妊娠の1例	第97回北海道産科婦人科学会学術講演会	2022.10
9) 長屋建 高橋健太 杉山達俊 青山藍子 二井光麿 岡本年男	コロナ禍におけるNICUでの親子への制限が与える影響-アンケート調査から	第66回日本新生児成育医学会学術集会	2022.11
			2022.11

- 10) 杉山達俊 長屋建 在胎 35 週未満の早産児 第 66 回日本新生児成育医学  
 高橋健太 青山藍子 における胃食道逆流症遷 会学術集会  
 二井光麿 岡本年男 延のリスク因子について

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

- |         |                     |                 |         |
|---------|---------------------|-----------------|---------|
| 1) 金井麻子 | ALSO インストラクターオブザイヤー | NPO 法人周生期医療支援機構 | 2022.11 |
|---------|---------------------|-----------------|---------|



経営企画部

Management Planning

## I. 所属教員等

### 経営企画部

教授 沖崎 貴琢

准教授 谷 祐児

## II. 研究業績紹介

経営企画部では、病院における病院情報システムの管理、企画、運営などのほか、病院管理及び病院経営に関する支援業務を行っております。研究においても、これらの業務に関連する情報セキュリティや医療情報リテラシー、医療情報システムの構築やそれらの利活用といった病院情報システムに関する研究をはじめ、病院情報システム内に蓄積される様々な診療データや業務データの利活用に関する研究、病院経営や病院管理に関する研究をおこなっております。また、これらの研究は、経営企画部単独での研究はもちろんのこと、本学他診療科や講座、他大学との共同研究も積極的に進めており、それらの成果は関連学会での発表や講演、論文投稿等により公表しております。

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 青木智大, 森井康博, 椎名希美, 石川智基, 鈴木哲平, 藤原健祐, 谷祐児, 小笠原克彦	病院経営に係るリカレント教育の現状調査—北海道大学における病院経営アドミニストレータ育成プログラムを通じて—	高等教育ジャーナル—高等教育と生涯学習—	2022

## IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) 41. Kazuki Ohashi, Toshiya Osanai, Kensuke Fujiwara, Takumi Tanikawa, Yuji Tani, Soichiro Takamiya, Hiroataka Sato, Yasuhiro Morii, Kyohei Bando, Katsuhiko Ogasawara	Spatial-temporal analysis of cerebral infarction mortality in Hokkaido Japan: an ecological study using a conditional autoregressive model	International Journal of Health Geographics	2022
2) 青木智大, 森井康博, 椎名希美, 石川智基, 鈴木哲平, 藤原健祐, 谷祐児, 小笠原克彦	病院経営に係るリカレント教育の現状調査：北海道大学における病院経営アドミニストレータ育成プログラムを通じて	高等教育と生涯学習	2022

- |    |   |  |  |         |
|----|---|--|--|---------|
| 3) | 39. Hiroataka Sato,<br>Manabu Kinoshita, Yuji<br>Tani, Teruo Kimura,<br>Toshiya Osanai, Hiroaki<br>Osanai, Katsuhiko<br>Ogasawara | The health economic<br>effects of an imaging<br>technology-based<br>telemedicine system for<br>rural neuro-emergency<br>patient care | Neurosurg  | 2022    |
| 4) | Tani Y, Hayashi T,<br>Iwata T, Hirokawa H   | Consideration of Usefulness<br>of Leakage Prevention<br>System for Critical<br>Diagnostic Information<br>Transmission                | Studies in Health<br>Technology and<br>Informatics | 2022.06 |

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 一般社団法人日本医療情報学会医療情報技師育成部会編	医療情報 第7版 医療情報システム編	一般社団法人日本医療情報学会医療情報技師育成部会	2022.08

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 谷祐児	医療情報に必要な医療経営の視点	日本放射線技術学会 医療情報部会 eveningSeminer	2022.08
2) 谷祐児	放射線技術学の視点からの医療経営と医療情報システム	日本放射線技術学会 医療情報部会 eveningSeminer	2022.09

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

臨床研究支援センター

Clinical Research Support Center

## I. 所属教員等

### 臨床研究支援センター

教 授 松本 成史  
教 授 本間 大  
教 授 西條 泰明  
教 授 伊藤 俊弘  
教 授 田崎 嘉一  
准教授 谷 祐児  
助 教 神山 直也  
眞鍋 貴行

## II. 研究業績紹介

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

## IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) 小川真澄、眞鍋貴行、近藤夕子、畑山幸恵、谷 香苗、佐藤 幸、横山真利子、結城和美、神山直也、本間 大、田崎嘉一、松本成史	旭川医科大学病院での治験品質の効率的な向上を目指した逸脱報告書の改定と逸脱事例の分類化による治験プロセスの最適化に関する取り組み	臨床薬理	2023.03

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 小川真澄、眞鍋貴行、近藤夕子、畑山幸恵、岩城千晶、五十嵐恵、神山直也、本間大、田崎嘉一、松本成史	Covid-19 感染症流行前後でのオンサイトモニタリングと治験逸脱の推移について	第 5 回日本臨床薬理学会北海道・東北地方会	2022.07
2) 小川真澄、眞鍋貴行、近藤夕子、畑山幸恵、谷香苗、佐藤	治験品質の効率的な向上を目指した逸脱報告書の改訂	第 22 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議	2022.09

幸、横山真利子、結城和美、神山直也、松本成史

- |    |  |  |                      |         |
|----|--|--|----------------------|---------|
| 3) | 松山琴音, 菅野仁士, 大塚俊昭, 浅野健人, 神山直也, 筒泉直樹, 広田沙織, 岡崎愛, 吉田幸恵, 上村尚人    | Quality by Design を考慮した臨床研究計画立案プロセスの実装に向けた取り組み       | 日本臨床試験学会第 14 回学術集会総会 | 2023.2  |
| 4) | 神山直也, 堀江奈穂, 小村悠, 一村昌彦, 岡崎愛, 今井穰, 佐藤隆, 今野浩一                   | アカデミアプロジェクトマネージャーらの新たな対話の場「アカデミア PM カフェ」の構築と運営       | 日本臨床試験学会第 14 回学術集会総会 | 2023.2  |
| 5) | 浅野健人, 松山琴音, 大塚俊昭, 菅野仁士, 神山直也, 筒泉直樹, 広田沙織, 岡崎愛, 上村尚人          | Quality by Design を用いた研究計画立案及び実装を目指した支援体制の構築に向けた取り組み | 第 43 回日本臨床薬理学会学術総会   | 2022.12 |
| 6) | 松山 琴音, 大塚 俊昭, 菅野 仁士, 浅野 健人, 神山 直也, 筒泉 直樹, 広田 沙織, 岡崎 愛, 上村 尚人 | Quality by Design を用いた研究計画立案及び実装を可能とする研究支援体制構築に関する研究 | 第 43 回日本臨床薬理学会学術総会   | 2022.12 |

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
1) 松山 琴音, 大塚 俊昭, 菅野 仁士, 浅野 健人, 神山 直也, 筒泉 直樹	Quality by Design を用いた研究計画立案及び実装を可能とする研究支援体制の構築 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 医療研究開発推進事業費補助金 研究開発推進ネットワーク事業 3. 研究計画立案及び実装が可能となる研究支援	2022.08- 2023.3

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

遺伝子診療カウンセリング室

Department of Genetic Counseling

## I. 所属教員等

### 遺伝子診療カウンセリング室

教授 蒔田 芳男  
教授（病院） 北田 正博  
准教授 片田 彰博  
田邊 裕貴  
講師（学内） 金井 麻子  
助教 横浜 祐子

## II. 研究業績紹介

遺伝子診療カウンセリング室では、①小児期発症遺伝性疾患、②出生前診断、③成人発症遺伝性疾患、④家族性がんなど主に4領域に関わる遺伝カウンセリングと遺伝学的検査選択提出の業務を扱っています。

この4領域には含まれない「希少・未診断疾患」と呼ばれる分野に関しては、拠点病院として2015年からAMED主導の研究プロジェクトに参画しております。この「希少・未診断疾患」というのは、どの診断カテゴリーにも合致せず診断に至ることができない疾患を意味しています。これらの疾患を対象とするAMED主導のプロジェクトが

「Initiative on Rare and Undiagnosed Disease」であり略して「IRUD」と呼ばれるものです。このプロジェクトでのゲノム解析能力は、当初のエクソームから現在で全ゲノムに移行しており、自前での解析技術が無くても日本での最先端技術を患者さんに提供することが可能です。このプロジェクトでの当カウンセリング室との共同研究は、学内（小児科、腎臓内科、血管外科、眼科）、学外（道立旭川子ども総合療育センター、富良野協会病院、遠軽厚生病院、釧路市立総合病院、旭川厚生病院）と広がっており、その成果は2022年度末に学内講演会としても公開されています。

また家族性がんに関わる患者さんやその家族、医療従事者への支援活動にも力をいれており「遺伝性がん当事者からの手紙」写真パネル展の開催や遺伝性乳がん卵巣がん当事者会である特定非営利法人クラヴィスアルクス理事長の太宰牧子さんを迎える公開講演会なども企画開催しております。

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

## IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

- |  |  |                                 |         |
|--|--|---------------------------------|---------|
| 1) Okano S, Makita Y, Kimura K, Fukuda I, Miyamoto A, Tanaka H | Wisconsin syndrome with brain volume laterality: clinical report and literature review | Journal of Medical Case Reports | 2022.04 |
|--|--|---------------------------------|---------|



2)	Akaba Y, Takeguchi R, Tanaka R, Makita Y, Kimura T, Yanagi K, Kaname T, I Nishino, Takahashi S	Wide Spectrum of Cardiac Phenotype in Myofibrillar Myopathy Associated With a Bcl-2-Associated Athanogene 3 Mutation: A Case Report and Literature Review.	CLINICAL NEUROMUSCULAR DISEASE	2022.09
3)	Okano S, Makita Y, Miyamoto A, Taketazu G, Kimura K, Fukuda I, Tanaka H, Yanagi K & Kaname T,	GRIA3 p.Met661Thr variant in a female with developmental epileptic encephalopathy	Human Genome Variation	2023.02

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 蒔田芳男	医学教育の変遷を基盤とした臨床遺伝専門医教育改革	第46回日本遺伝カウンセリング学会	2022.07
2) 蒔田芳男	看護教育における遺伝教育-成人教育理論から学びを改革する-	第21回日本遺伝看護学会学術大会	2022.08
3) 金井麻子,酒井美穂,中西研太郎,吉澤明希子,横浜祐子,加藤育民,笹川穂の花,蒔田芳男	本学の遺伝カウンセリング数の推移	第24回北海道出生前診断研究会	2022.10
4) 蒔田芳男	なぜ教育改革に成人教育論が必要なのか?	日本人類遺伝学会第67回大会	2022.12
5) 稲垣 秀人,加藤 武馬,豊田 敦,蒔田 芳男,倉橋 浩樹	染色体複雑構造異常の切断点形成におけるクロマチンドメインの効果	日本人類遺伝学会第67回大会	2022.12
6) 岡野聡美,蒔田芳男,高橋悟,木村加弥乃,福田郁江,宮本晶恵,田中肇	典型的症状に乏しくジストニアが診断のきっかけとなった Angelman 症候群の11歳女児例	日本小児遺伝学会第45回学術集会	2023.01

## Ⅶ. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
遺伝子診療カ ウンセリング 室主催	「 <b>遺伝性がん当事者からの手紙</b> 」写真パネル展 共催：特定非営利法人クラヴィスアルクス	2023.06
遺伝子診療カ ウンセリング 室主催	～ <b>遺伝性がん当事者からの手紙</b> ～ 私たちが持っている大切なもの の <b>見つけ方</b> 演者 太宰 牧子さん（遺伝性乳がん卵巣がん当事者会特定非営 利法人クラヴィスアルクス理事長	2023.06
遺伝子診療カ ウンセリング 室主催	<b>旭川医科大学 IRUD 参加成果発表会</b> 特別講演「IRUD 研究の現在と今後の展開」 国立成育医療センター ゲノム医療研究部 部長 要 匡先生 成果発表 ・「旭川医科大学の検体提出状況」 蒔田芳男 ・「当院小児科での未診断疾患を対象とした IRUD の成果」小児科 高橋 悟先生 ・「北海道立旭川子ども総合療育センターにおける IRUD 提出症例 の概要」 同小児科 岡野 聡美先生 ・「NT5E 遺伝子異常と病的石灰化への関与-IRUD を通じた希少脈 管疾患メカニズム解明-」血管外科 菊地 信介先生	2023.06

## Ⅷ. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

透析センター

Dialysis Center

## I. 所属教員等

### 透析センター

准教授 中川 直樹

講師（学内）松木 孝樹

## II. 研究業績紹介

透析センターでは、ハイリスク患者の血液浄化療法に従事しつつ、医師のみならず、臨床検査技師、看護師等の多職種で精力的に学会発表および論文発表を行っている。

中川直樹センター長を中心に、ファブリー病やネフローゼ症候群に関する報告を行っている。ファブリー病における効率的なスクリーニング方法や尿中のアルブミン排泄量が正常でも尿中の桑の実細胞がみられるという2例の姉妹のケースを報告し、尿沈渣検査の重要性を報告した (Mol Genet Metab Rep. 31:100874, 2022)。また、COVID-19 ワクチン後に発症または再発するネフローゼ症候群に関する全国調査を行い、COVID-19 ワクチン接種後にネフローゼ症候群が生じる可能性を報告した (Clin Exp Nephrol. 26:909-916, 2022)。

松木副センター長は第43回日本アフェリシス学会において、クライオフィルトレーションが著効したクリオグロブリン血症性糸球体腎炎の一例を報告した。

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 中川直樹	効率の良いファブリー病スクリーニング	臨床透析	2022.12
2) 中川直樹	COVID-19 ワクチン後のネフローゼ症候群	臨床免疫・アレルギー科	2023.01
3) 中川直樹	DKD 進行予防の観点からの他科連携, 多職種連携の必要性	Progress in Medicine	2023.02
4) 中川直樹	MPGN,C3 腎症	日本腎臓学会誌	2022.10

## IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Nakagawa N	Prognostic value of target organ damage in patients with cardiovascular risks	Hypertension research	2022.06
2) Yamada N, Sakuma H, Yanai M, Suzuki A, Maruyama K, Matsuki M, Nakagawa N	Unexpectedly high renal pathological scores of two female siblings with Fabry disease presenting with urinary	Molecular Genetics and Metabolism Reports	2022.06

		mulberry cells without microalbuminuria		
3)	Nakagawa N, Maruyama S, Kashihara N, Narita I, Isaka Y	New-onset and relapse of nephrotic syndrome following COVID-19 vaccination: a questionnaire survey in Japan	Clinical and experimental nephrology	2022.09
4)	Ikeuchi H, Sugiyama H, Sato H, Yokoyama H, Maruyama S, Mukoyama M, Hayashi H, Tsukamoto T, Fukuda M, Yamagata K, Ishikawa E, Uchida K, Kamijo Y, Nakagawa N, Tsuruya K, Nojima Y, Hiromura K	A nationwide analysis of renal and patient outcomes for adults with lupus nephritis in Japan	Clinical and experimental nephrology	2022.09
5)	Mase K, Saito C, Usui J, Arimura Y, Nitta K, Wada T, Makino H, Muso E, Hirawa N, Kobayashi M, Yumura W, Fujimoto S, Nakagawa N, Ito T, Yuzawa Y, Matsuo S, Yamagata K	The efficacy and safety of mizoribine for maintenance therapy in patients with myeloperoxidase anti-neutrophil cytoplasmic antibody (MPO-ANCA)-associated vasculitis: the usefulness of serum mizoribine monitoring	Clinical and experimental nephrology	2022.11
6)	Nakagawa N, Nishio S	Knowledge of chronic kidney disease among the general population: A questionnaire survey in Hokkaido prefecture, Japan	Journal of Personalized Medicine	2022.11
7)	Nasu M, Nakagawa N, Hara S, Yano J, Kurokawa Y, Nakamura N, Yokoyama H, Shimizu A, Sugiyama H, Sato H, Fukami K	A nationwide cross-sectional analysis of biopsy-proven Fabry nephropathy: the Japan Renal Biopsy Registry	Clinical and experimental nephrology	2023.02

- 8) Kario K, Hoshide S, Tomitani N, Nishizawa M, Yoshida T, Kabutoya T, Fujiwara T, Mizuno H, Narita K, Komori T, Ogata Y, Suzuki D, Ogoyama Y, Ono A, Yamagiwa K, Abe Y, Nakazato J, Nakagawa N, Katsuya T, Harada N, Kanegae H; HI-JAMP Study Group. Inconsistent control status of office, home, and ambulatory blood pressure all taken using the same device: The HI-JAMP study baseline data. American journal of hypertension 2023.02

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 中川直樹	腎疾患・透析 最新の治療 2023-2025 A. 一次性糸球体疾患 2. 微小変化型ネフローゼ症候群：成人	南江堂	2023.01

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) Nakagawa N, Matsuo Y, Hasebe N	Dietary salt intake assessed by spot urinary sodium excretion from child to adulthood in a Japanese town	The 29th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension	2022.10
2) 林 望美, 倉 麻里香, 山田 一紀, 松元 慈, 山田 夏生, 松木 孝樹, 高橋 直生, 岩野 正之, 中川 直樹	Fanconi 症候群と高 IgM 血症から診断に至った IgM 陽性形質細胞浸潤を主体とする尿細管間質性腎炎 (IgMPC-TIN) の一例	第 52 回日本腎臓学会東部学術大会	2022.10
3) 中川 直樹	腎臓学の進歩 2022：腎炎・ネフローゼ症候群	第 52 回日本腎臓学会東部学術大会	2022.10

- |     |   |   |  |         |
|-----|---|---|--|---------|
| 4)  | Kuroda S, Sakuma H, Matsuki M, Hasebe N, Nakagawa N | Trends of antihypertensive drug prescription and blood pressure changes by prefecture using national database of health insurance claims of Japan | The 29th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension | 2022.10 |
| 5)  | Sakuma H, Matsuki M, Hasebe N, Nakagawa N           | Real-world data of blood pressure in dialysis patients with and without diabetes in Japan using the web-based database                            | The 29th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension | 2022.10 |
| 6)  | Sakuma H, Matsuki M, Hasebe N, Nakagawa N           | The real world trends in blood pressure of dialysis patients in Japan using the web-based database  | The 29th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension | 2022.10 |
| 7)  | 松木孝樹, 本間祐平, 成田孝行, 中川直樹                              | クライオフィルトレーションが著効したクリオグロブリン血症性糸球体腎炎の一例   | 第 43 回日本アフェレシス学会   | 2022.11 |
| 8)  | Sawada J, Kamiya H, Nakagawa N, et al.              | Basilar artery changes in adult Japanese patients with Fabry disease  | 第 63 回 日本神経学会学術大会  | 2022.05 |
| 9)  | 佐久間寛史, 松木孝樹, 和田篤志, 中川直樹                             | 推定透析見合わせ数・割合の経年的推移に関する検討  | 第 65 回日本腎臓学会学術総会   | 2022.06 |
| 10) | 黒田紳之亮, 中川直樹, 長谷部直幸                                  | NDB オープンデータを用いた都道府県別の降圧薬処方動向と血圧変化   | 第 10 回臨床高血圧フォーラム   | 2022.06 |
| 11) | 倉 麻里香, 林 望美, 末次令奈, 松木孝樹, 中川直樹                       | 単純及び選択的血漿交換の混合療法とリツキシマブによる集約的治療を行った抗 GBM 抗体型糸球体腎炎の 1 例  | 第 67 回日本透析医学会学術集会・総会   | 2022.07 |
| 12) | 藤野貴行, 山田一紀, 倉 麻里香, 堂野                               | 透析心における心電図左室電位の経時的変化と心  | 第 67 回日本透析医学会学術集会・総会   | 2022.07 |

	隆史, 窪田将司, 中川直樹, 石井良直	エコーパラメーターの関連		
13)	松田正大, 中川直樹, 平山智也, 和田篤志, 長谷部直幸	高齢維持透析患者では低亜鉛血症のリスクは増大するか?	日本老年医学会第 33 回北海道地方会	2022.07
14)	澤田潤, 鈴木奈々, 植村友裕, 菊地史織, 鹿野耕平, 齋藤司, 木下学, 中川直樹	癌関連血栓症による脳梗塞の臨床的特徴	日本老年医学会第 33 回北海道地方会	2022.07
15)	中川直樹	ファブリー病ハイリスクスクリーニングの効果	第 70 回日本心臓病学会学術集会	2022.09
16)	久保靖憲, 松野直徒, 中川直樹, 内田大貴, 玉木岳, 高橋裕之, 黒坂友里恵, 安藤伸, 谷野美智枝, 柿崎秀宏, 横尾英樹, 東信良, 田崎嘉一	Tacrolimus 徐放製剤を服用中に腎毒性を示した腎移植症例における CYP3A5 遺伝子*1 allele と肥満サルコペニアの意義	移植	2022.10
17)	才田良幸, 呂隆徳, 中川直樹, 高橋裕之, 松野直徒, 横尾英樹, 大田哲生	腎移植前後の運動療法が身体機能向上に奏効したサルコペニアを有する腎移植患者の 1 例	第 58 回日本移植学会総会	2022.10

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------



薬剂部

Pharmacy Department

## I. 所属教員等

薬剤部			
教 授	田崎	嘉一	
准 教 授	中馬	真幸	
助 教	神山	直也	
	眞鍋	貴行	
客員教授	栗屋	敏雄	
客員講師	田原	克寿	

## II. 研究業績紹介

薬剤部では、様々な疾患に対する治療薬の「有効性と安全性を評価する」研究を展開しており、医薬品の適正使用を推進するエビデンスの創出を目指している。特に、① 難治性神経変性疾患（パーキンソン病）に対する治療薬開発、② 感染症治療薬に対する安全で効果的な治療法の確立、③ 薬剤師業務に対する評価などのテーマに注力している。研究には、疾患モデル動物や培養細胞を用いた基礎研究、臨床検体や医療情報を活用した臨床研究と様々な手法を用いており、テーマや特性に応じて複数の手法を組み合わせ研究を展開している。2022年度は、論文発表14回(国際誌10報、国内誌4報)、学会発表16回(国際学会1回、国内学会15回)を行った。①のパーキンソン病に対する研究では、慶應義塾大学との共同研究により、病態の進行を抑制する新規化合物を取得した。現在、特許申請済であり、治療薬としての開発を継続している。②の感染症治療に関する研究では、進展著しい「医療ビッグデータ解析」を積極的に活用している。抗MRSA薬を対象に副作用発症後の生命予後(Chuma M et al. Basic Clin Pharmacol Toxicol)や、脂質異常症治療薬との併用による副作用発症への影響(Chuma M et al, Clin Infect Dis)について、徳島大学との共同研究を行い、論文発表した。この医療ビッグデータは、免疫チェックポイント阻害薬など他の薬を対象とした解析にも適用し成果が得られている(Manabe T et al, In Vivo)。③の薬剤師業務に関する研究では、集中治療室における薬剤師の介入が、DIC(播種性血管内凝固症候群)治療薬の適正使用を推進することを明らかにし、論文発表を行った(山田峻史ら. 医療薬学)。

今後も、医薬品に関する諸問題を解決する研究を精力的に展開し、他機関との共同研究も積極的に取り入れながら、継続的に成果を発信していく予定である。

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 吉田光一, 高崎英 気, 中馬真幸, 田崎 嘉一	遅発性ジスキネジアを 発症した多剤併用患者 の処方介入 し症状が軽快した1例	北海道病院薬剤師会誌	2022
2) 田崎嘉一	ジェネリック医薬品 処方現況と未来は?	Journal of Otolaryngology, Head	2022.09

#### IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) 吉田光一, 高崎英気, 中馬真幸, 田崎嘉一	遅発性ジスキネジアを発症した多剤併用患者の処方に介入し症状が軽快した1例	北海道病院薬剤師会誌	2022
2) 田崎嘉一	第5回日本臨床薬理学会 北海道・東北地方会を開催して	臨床薬理	2022
3) 久保靖憲, 松野直徒, 中川直樹, 内田大貴, 玉木岳, 高橋裕之, 黒坂友里恵, 安藤伸, 谷野美智枝, 柿崎秀宏, 横尾英樹, 東信良, 田崎嘉一	Tacrolimus 徐放製剤を服用中に腎毒性を示した腎移植症例における CYP3A5 遺伝子*1 allele と肥満サルコペニアの意義	移植	2022
4) Chuma M, Hamano H, Bando T, Kondo M, Okada N, Izumi Y, Ishida S, Yoshioka T, Asada M, Niimura T, Zamami Y, Takechi K, Goda M, Miyata K, Yagi K, Kasamo S, Izawa-Ishizawa Y, Azuma M, Yanagawa H, Tasaki Y, Keisuke Ishizawa K.	Non-recovery of vancomycin-associated nephrotoxicity is related to worsening survival outcomes—combined retrospective analyses of two real-world databases.	Basic Clin Pharmacol Toxicol,	2022.01
5) Zamami Y, Niimura T, Kawashiri T, Goda M, Naito Y, Fukushima K, Ushio S, Aizawa F, Hamano H, Okada N, Yagi K, Miyata K, Takechi K, Chuma M, Koyama T, Kobayashi D, Shimazoe T, Fujino H, Izawa-Ishizawa Y, Ishizawa K.	Identification of Prophylactic Drugs for Oxaliplatin-Induced Peripheral Neuropathy using Big Data	Biomedicine & Pharmacotherapy	2022.04

- |     |  |  |  |         |
|-----|--|--|--|---------|
| 6)  | Kanda M, Goda M, Maegawa A, Yoshioka T, Yoshida A, Miyata K, Aizawa F, Niimura T, Hamano H, Okada N, Sakurada T, Chuma M, Yagi K, Izawa-Ishizawa Y, Yanagawa H, Zamami Y, Ishizawa K.          | Discovery of preventive drugs for cisplatin-induced acute kidney injury using big data analysis  | Clinical and Translational Science   | 2022.04 |
| 7)  | Chiba T, Ujiie H, Yaegashi Y, Umehara K, Takada S, Otaki K, Sako KI, Nakamaru Y, Meada T, Kudo K, Tasaki Y, Sato H.  | Renin-angiotensin system inhibitors may have an advantage over calcium channel blockers in reducing proteinuria in gastric cancer patients receiving ramucirumab | Biomedical Reports   | 2022.07 |
| 8)  | Nishiuchi S, Yagi K, Saito H, Zamami Y, Niimura T, Miyata K, Sakamoto Y, Fukunaga K, Ishida S, Hamano H, Aizawa F, Goda M, Chuma M, Izawa-Ishizawa Y, Nawa H, Yanagawa H, Kanda Y, Ishizawa K. | Investigation of drugs for the prevention of doxorubicin-induced cardiac events using big data analysis  | European Journal of Pharmacology   | 2022.08 |
| 9)  | Chuma M, Nakamoto A, Bando T, Niimura T, Kondo Y, Hamano H, Okada N, Asada M, Zamami Y, Takechi K, Goda M, Miyata K, Yagi K, Yoshioka T, Izawa-Ishizawa Y, Yanagawa H, Ishizawa K, Tasaki Y.   | Association between statin use and daptomycin-related musculoskeletal adverse events.  | International Symposium, The 32nd Annual Meeting of the Japanese Society of Pharmaceutical Health Care and Sciences, 2022. | 2022.09 |
| 10) | 山田峻史, 眞鍋貴行, 丹保亜希仁, 菅谷香緒里, 田原克寿, 山下恭  | 病棟常駐薬剤師によるリコンビナント・トロンボモデュリ   | 医療薬学   | 2022.11 |

- 範, 中馬真幸, 田崎嘉  
—
- 11) Niimura T, Zamami Y, Miyata K, Mikami T, Asada M, Fukushima K, Yoshino M, Mitsuboshi S, Okada N, Hamano H, Sakurada T, Matsuoka-Ando R, Aizawa F, Yagi K, Goda M, Chuma M, Koyama T, Izawa-Ishizawa Y, Yanagawa H, Fujino H, Yamanishi Y, Ishizawa K.      ンの適正使用推進と感染症性 DIC 離脱率の改善      The Journal of Clinical Pharmacology      2022.12
- 12) Chuma M, Hamano H, Bando T, Kondo M, Okada N, Izumi Y, Ishida S, Yoshioka T, Asada M, Niimura T, Zamami Y, Takechi K, Goda M, Miyata K, Yagi K, Kasamo S, Izawa-Ishizawa Y, Azuma M, Yanagawa H, Tasaki Y, Ishizawa K.      Non-recovery of vancomycin-associated nephrotoxicity is related to worsening survival outcomes: Combined retrospective analyses of two real-world databases      Basic & Clinical Pharmacology & Toxicology      2022.12
- 13) Manabe T, Iwayama K, Chuma M, Tasaki Y and Matsumoto S      The effect of concomitant usage of analgesics on immune checkpoint inhibitor-related interstitial lung disease.      In Vivo      2023
- 14) Mitsuboshi S, Hamano H, Kuniki Y, Niimura T, Chuma M, Ushio S, Lin TJ, Matsumoto J, Takeda T, Kajizono M, Zamami Y, Ishizawa K.      Proton Pump Inhibitors and Rhabdomyolysis: Analysis of Two Different Cross-Sectional Databases      Annals of Pharmacotherapy      2023.02

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 中馬真幸, 田崎嘉 —	腎機能の評価 月刊薬事	(株)じほう	2022
2) 田崎嘉—	記憶より記録 立ち上がれ! 令和の 薬剤師 月刊誌「薬局」	南山堂	2022
3) 中馬真幸他	抗菌薬TDM臨床実践ガイドライン 2022	日本化学療法学 会・日本TDM学 会	2022.04
4) 中馬真幸, 田崎嘉 —	腎機能の評価	じほう	2022.07

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 坂東 貴司, 中馬 真 幸, 合田 光寛, 谷 友 歩, 國木 悠理香, 小 川 敦, 櫻田 巧, 相澤 風花, 新村 貴博, 八 木 健太, 石澤 有紀, 座間味 義人, 石澤 啓介	医療ビッグデータ解析お よび基礎研究を融合した バンコマイシン関連腎障 害に対する予防薬探索	次世代を担う若手のための創 薬・医療薬理シンポジウム 2022	2022.08
2) 坂東 寛, 合田 光寛, 新田 侑生, 中馬 真 幸, 小川 敦, 櫻田 巧, 桐野 靖, 石澤 啓 介	医療ビッグデータを用い たラモトリギン皮膚障害 リスクに影響する併用薬 の探索と多施設診療情報 による検証	第32回日本医療薬学会年会	2022.09
3) Chuma M, Nakamoto A, Bando T, Niimura T, Kondo Y, Hamano H, Okada N, Asada M, Zamami Y, Takechi K, Goda M, Miyata K, Yagi K, Yoshioka T, Izawa-Ishizawa Y, Yanagawa H,	Association between statin use and daptomycin-related musculoskeletal adverse events	The 32nd Annual Meeting of the Japanese Society of Pharmaceutical Health Care and Sciences	2022.09

Ishizawa K, Tasaki  
Y.

- |     |  |  |                                     |         |
|-----|--|--|-------------------------------------|---------|
| 4)  | 松浦泰寛, 眞鍋貴行, 新田悠一郎, 石川良太, 仲谷彰規, 久保靖憲, 山本讓, 岩山訓典, 神山直也, 中馬真幸, 小野尚志, 田崎嘉一   | バイアル製剤の分割使用を目指した模擬バイアルを用いた長期無菌性保持条件の検討                                   | 第 32 回日本医療薬学会年会                     | 2022.09 |
| 5)  | 都築仁美, 中馬真幸, 寺川央一, 寒藤雅俊, 岩山訓典, 山本讓, 久保靖憲, 神山直也, 眞鍋貴行, 田崎嘉一                | 小児におけるアルベカシンの体内動態に発熱性好中球減少症が及ぼす影響について                                    | 第 32 回日本医療薬学会年会                     | 2022.09 |
| 6)  | 山本讓, 田崎嘉一  | エンタカポン併用下における L-dopa およびその代謝物である 3-OMD の体内動態に及ぼす COMT Val158Met 遺伝子多型の影響 | 第 32 回日本医療薬学会年会                     | 2022.09 |
| 7)  | 田崎嘉一   | 論文作成にも役立つ査読・論文審査のポイント  | 第 32 回日本医療薬学会年会                     | 2022.09 |
| 8)  | 久保靖憲, 山本讓, 眞鍋貴行, 中馬真幸, 高橋裕之, 内田大貴, 今井浩二, 松野直徒, 横尾英樹, 田崎嘉一                | 腎移植患者におけるタクロリムス血中濃度と体組成に関する検討  | 第 58 回日本移植学会総会                      | 2022.1  |
| 9)  | 飯田慎也, 岩田達也, 太田一美, 清水由美子, 林達哉, 田崎嘉一, 藤谷幹浩                                 | 薬剤師による疑義照会情報の院内共有と処方適正化への取り組み  | 第 17 回医療の質・安全学会学術集会                 | 2022.11 |
| 10) | 中馬真幸, 濱野裕章, 坂東貴司, 新村貴博, 岡田直人, 笠茂紗千子, 八木健太, 合田光寛, 座間味義人, 楊河宏章, 石澤啓介, 田崎嘉一 | バンコマイシン関連腎障害発症後の腎障害遷延は、生命予後を悪化させる - 2 種類のリアルワールドデータを用いた融合解析 -            | 第 96 回日本薬理学会年会 / 第 43 回日本臨床薬理学会学術総会 | 2022.11 |

11) 中馬真幸, 田崎嘉一	臨床現場のエビデンスを 社会に発信する－臨床研 究および薬剤師業務の普 及と推進を目的とした研 究の自験例を中心に－	日本薬学会第 143 年会	2023.03
12) 寒藤雅俊, 山本讓, 岩山訓典, 寺川央 一, 都築仁美, 中馬 真幸, 田崎嘉一	セファゾリンの供給停止 に伴い抗菌薬適正使用チ ームと医薬品情報室の薬 剤師が中心となって行っ た薬剤提案とその評価	日本薬学会第 143 年会	2023.03
13) 久保靖憲、山本 讓、眞鍋貴行、岩 山訓典、神山直 也、山下恭範、小 野尚志、中馬真 幸、田崎嘉一	アドレナリン含有リドカ イン塩酸塩注射液とリド カイン塩酸塩注射液の等 量混合希釈時におけるア ドレナリンの安定性	日本薬学会第 143 年会	2023.03
14) 中馬真幸, 山田峻 史, 田崎嘉一	重症病態におけるバンコ マイシンの TDM	第 50 回日本集中治療医学会	2023.03
15) 新田悠一郎, 眞鍋貴 行, 松浦泰寛, 仲谷 彰規, 石川良太, 岩 山訓典, 神山直也, 山本讓, 中馬真幸, 小野尚志, 田崎嘉一	バイアル製剤の分割調製 を目指した、模擬バイア ルによる複数回針刺しで の長期無菌性条件の検討	日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2023	2023.03
16) 新田悠一郎, 眞鍋貴 行, 松浦泰寛, 仲谷 彰規, 石川良太, 岩 山訓典, 神山直也, 山本讓, 中馬真幸, 小野尚志, 田崎嘉 一.	分割調製を目的とした模 擬バイアルによる複数回 穿刺を行ったバイアルの 無菌的検討	日本臨床腫瘍薬学会学術大会	2023.03

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
1) 山本讓	Postdoctoral Award	日本医療薬学会	2022.09



国際交流推進センター

Center for Promotion of  
International Exchange

## I. 所属教員等

国際交流推進センター  
教授 本間 大

## II. 研究業績紹介

### III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 本間 大	乾癬の併存疾患と生活指導	皮膚科	2022
2) 本間 大	汎発性膿疱性乾癬の病態と北海道における医療連携	日本臨床皮膚科医 会雑誌	2022
3) 本間 大	乾癬治療のターゲット～IL-17 および関連サイトカインを中心とする乾癬病態	皮膚科	2023
4) 本間 大	患者ニーズを考慮した乾癬診療	日本臨床皮膚科医 会雑誌	2023

### IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Honma M et al.	Clinical Characteristics of Peristomal Pyoderma Gangrenosum: A single-center retrospective observational study	J Dermatol	Nov 2022
2) Kishibe M, Takeda K, Honma M et al.	Effectiveness of anti-interleukin-17-receptor antibody for hydroxychloroquine-induced generalized pustular psoriasis in a patient with systemic lupus erythematosus	J Dermatol	Dec 2022
3) Miyagi T, Kanai Y, Murotani K, Okubo Y, Honma M et al.	Itch as a critical factor in impaired health-related quality of life in patients with plaque psoriasis achieving clear or almost-clear skin: Analysis of the single-arm, open-label, multicenter, prospective ProLOGUE study.	JAAD Int.	Jun 2022
4) Matsuya M, Komatsu S, Iida T, Hashimoto Y, Honma M et al.	Visceral disseminated varicella zoster virus infection in a patient with rheumatoid arthritis treated with immunosuppressive therapy including a Janus kinase inhibitor.	J Dermatol	Mar 2023

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 本間 大	皮膚疾患診療実践ガイド 第3版：黒色表皮腫	文光堂	2022
2) 本間 大	皮膚疾患診療実践ガイド 第3版：鱗状毛包性角化症：	文光堂	2022
3) 本間 大	皮膚疾患最新の治療 2021-2022 異汗性湿疹・汗疱：分担	南江堂	2022
4) 本間 大	今日の治療指針 2023年版：凍瘡:分担	医学書院	2023

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
-------	----	--------------	------

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

地域共生医育統合センター

Center for Integrated Medical Education  
and Regional Symbiosis

## I. 所属教員等

地域共生医育統合センター

教 授 牧野 雄一  
教 授 山根 由起子  
助 教 中山 友佳  
助 教 福浦 愛

## II. 研究業績紹介

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

## IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Mari Kishibe, Keiko Takeda, Masaru Honma, Yuichi Makino, Akemi Ishida-Yamamoto	Effectiveness of anti-interleukin-17-receptor antibody for hydroxychloroquine-induced generalized pustular psoriasis in a patient with systemic lupus erythematosus	J Dermatol	2022.12

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 福浦愛、岡本健作、 荻野久美子、池知佑 太、川幡智樹、田中 来、江口耕平、藤代 大介、小林厚志、牧 野雄一	関節リウマチに対する TNF 阻害薬投与中に発 症したリウマチ性髄膜 炎の 1 例	第 66 回日本リウマチ学会・ 学術集会	2022.04
2) 大野翼、藤代大介、 荻野久美子、池知佑 太、川幡智樹、田中 来、福浦愛、江口耕 平、小林厚志、岡本 健作、牧野雄一	筋限局型結節性多発動 脈炎 (M-PAN) の一例	第 32 回日本リウマチ学会北 海道・東北支部学術集会	2022.09

- 3) 江口耕平、大野翼、 網膜中心動脈閉塞症 第 32 回日本リウマチ学会北 2022.09  
 荻野久美子、池知佑 (CRAO)をきたした顕 海道・東北支部学術集会  
 太、川幡智樹、田中 微鏡的多発血管炎の一  
 来、福浦愛、藤代大 例  
 介、小林厚志、岡本  
 健作、牧野雄一

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

インスティテューショナル・リサーチ室

Institutional Research Office

## I. 所属教員等

### インスティテューショナル・リサーチ室

教 授	松本 成史
講 師	井上 裕靖
講 師	大関 智史
助 教	笠茂 紗千子

## II. 研究業績紹介

本室のインスティテューショナル・リサーチ(IR: Institutional Research)とは、大学等の教学を中心とした「"機関"研究」と定義される。現在、最も広く使われている定義としては "Institutional research is research conducted within an institution of higher education to provide information which supports institutional planning, policy formation and decision making. (Joe L. Saupe 1990)"があり、"機関"の計画選定、政策形成、意思決定の支援のための情報提供を目的として、高等教育"機関"内で実施される調査研究を指す。このように IR 室では本学"機関"に関する情報を取り扱い、執行部への報告目的の分析・研究を主に行っている。一方、本学の IR 室では、日頃の IR 業務に係る調査研究のみならず、全教員が各々の専門分野を持っており、研究者でもある各教員自身のテーマに関する研究活動も尊重している。

本年度は、IR 室として第 54 回日本医学教育学会大会において、医科大学における社会貢献の重要性と、本学の派遣講座の実績を可視化したインフォグラフィックスの発表を行った。国際査読誌には 2 報受理され、1 誌目の International Journal of Institutional Research and Management では、現在の日本の教育政策と医学教育の背景にある国際基準、コア・カリキュラムの特徴、さらに、本学のデータ活用事例と教育データの効果的な活用に向けた現在の取り組みについて報告している。2 誌目の International Journal of Medical Education では、医学部学生の学業成績に入学形態による差があるかを検討し、その差がないことを示し、医師の偏在対策および地域医療の担い手として貴重な地域枠に関して、改めてその入学形態の重要性を認めている。

このように IR 室では本学における教育、研究・社会貢献に関し、国内のみならず海外からの情報や議論を広く収集、把握した上で研究発表、論文投稿を積極的に行い、本学における"機関"研究の推進に寄与している。

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

---



#### IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Satoshi Ozeki, Sachiko Kasamo, Hiroyasu Inoue, Seiji Matsumoto	Essential Milestones in Japanese Medical Education and Data Utilization with Practical Cases from a Regional Medical University	International Journal of Institutional Research and Management	2022.06
2) Satoshi Ozeki, Sachiko Kasamo, Hiroyasu Inoue, Seiji Matsumoto	Does regional quota status affect the performance of undergraduate medical students in Japan? A 10-year analysis	International Journal of Medical Education	2022.11

#### V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

#### VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) Sachiko Kasamo, Satoshi Ozeki, Hiroyasu Inoue, Seiji Matsumoto	Social Contribution Through Community Lectures at the Regional Medical University	第 54 回日本医学教育学会大 会	2022.08

#### VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

#### VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

研究技術支援センター

Research Technology Support Center

## I. 所属教員等

研究技術支援センター

教 授 川辺 淳一

教 授 松本 成史

教 授 高澤 啓

准教授 伊藤 拓哉

講 師 笹島 仁

講師（学内）宮園 貞治

## II. 研究業績紹介

## III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

## IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Aya O Satoh, Yoichiro Fujioka, Sayaka Kashiwagi, Aiko Yoshida, Mari Fujioka, Hitoshi Sasajima, Asuka Nanbo, Maho Amano, Yusuke Ohba	Interaction between PI3K and the VDAC2 channel tethers Ras- PI3K-positive endosomes to mitochondria and promotes endosome maturation	Cell Reports	2023.03

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 伊藤拓哉	心拍変動による胎子脆弱性検 出の試み	令和4年度北海道実験動物研 究会学術集会	2022.07
2) 伊藤拓哉	動物実験に関する法律・指針 について考える	第67回日本動物学会北海道 支部大会	2023.03

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

---

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
-------	-----	------	------

---

先進医工学研究センター

Advanced Medical Engineering  
Research Center

## I. 所属教員等

### 先進医工学研究センター

教 授	武輪 能明
准 教 授	井上 雄介
講 師	寺澤 武
助 教	佐藤 康史

## II. 研究業績紹介

先進医工学研究センターは、2020年1月に医工学の知識を基に最先端の医療機器の開発や革新的な治療技術の発案を行う拠点として設立された新しいセンターです。

主要研究の一つは、組織工学的手法によって作製する心臓弁の開発です。現在使われている2種類の人工心臓弁（機械弁と異種生体弁）以外の第3の人工弁として自己組織由来の生体弁を開発していますが、他の研究とは違い、皮膚の下などの患者さん本人の体の中で弁を形作る鋳型を入れて体が異物を包み込むカプセル化反応を用いて弁組織を作製し、鋳型のみを取り除き傷害された心臓弁の部位に移し替える方法を考案し開発しています。今年度は、科研（基盤 B）の研究費を獲得し、小児の先天性心疾患の根治術後の肺動脈弁疾患に対する経カテーテル的に弁を留置するための金属ステント付き自己組織心臓弁について、企業と共に形状記憶合金による自己拡張型ステントを試作し、鋳型と共に皮下に埋め込んで自己組織弁を作製するなど開発を進めました。

もう一つの主要研究は、体外式膜型人工肺（ECMO）を用いた新規呼吸不全治療法の開発です。現在問題となっている新型コロナ肺炎の患者が重症化し ECMO 装置を用いて治療している場合に、懸案となっている生存率向上と ECMO から早期離脱し重症ベッドの不足を減らすために積極的に気道から薬剤を注入する方法を開発するという画期的な研究です。今年度は、大動物（成ヤギ）による重症呼吸不全モデルの確立と、抗炎症薬であるメシル酸ナファモスタットを経気道的に投与した際の治療効果について研究を進めました。

2つの主要研究の他に、新たな医療機器の開発や、革新的な治療技術の発案および人工心臓や人工肺を用いた特殊循環の病態生理の研究等を行っています。

旭川発世界的レベルの医療イノベーションを目指しています。より質の高い移植医療を提供するために研究開発を進めていきます。

### Ⅲ. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) Masanobu Horie, Noriko Yamano-Adachi, Yoshinori Kawabe, Hidenori Kaneoka, Hideaki Fujita, Eiji Nagamori, Ryosuke Iwai, Yasushi Sato, Kei Kanie, Seiichi Ohta, Masaharu Somiya, Kosuke Ino	Recent advances in animal cell technologies for industrial and medical applications	Journal of Bioscience and Bioengineering	2022

### Ⅳ. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Kohei Hatakenaka, Wataru Hijikata, Tatsuki Fujiwara, Katsuhiko Ohuchi, Yusuke Inoue	Prevention of thrombus formation in blood pump by mechanical circular orbital excitation of impeller in magnetically levitated centrifugal pump	Artificial Organs	2022.01
2) Yasuhide Nakayama , Ryosuke Iwai , Takeshi Terazawa , Tsutomu Tajikawa , Tadashi Umeno , Takayuki Kawashima , Yumiko Nakashima , Yasuyuki Shiraishi , Akihiro Yamada , Ryuji Higashita , Manami Miyazaki , Tomonori Oie , Satoki Kadota , Nozomi Yabuuchi , Fumie Abe , Marina Funayama-Iwai , Tomoyuki Yambe , Shinji Miyamoto	Pre-implantation evaluation of a small diameter, long vascular graft (Biotube®) in goats	Journal of Biomedical Materials Research: Part B	2022.05
3) 秋山大地、片桐伸将、水野敏 秀、築谷朋典、武輪能明、巽 英介	第 59 回日本人工臓器学会 大会 論文賞（循環）受賞 レポート Preclinical biocompatibility study of ultra-compact durable	人工臓器	2022.06

		ECMO system in chronic animal experiments for 2 weeks		
4)	Hironobu Sakurai, Tatsuki Fujiwara, Katsuhiko Ohuchi, Wataru Hijikata, Yusuke Inoue, Osamu Maruyama, Tomoki Tahara, Sachie Yokota, Yui Tanaka, Yoshiaki Takewa, Tomohiro Mizuno, Hirokuni Arai	Innovative experimental animal models for real-time comparison of antithrombogenicity between two oxygenators using dual extracorporeal circulation circuits and indocyanine green fluorescence imaging	Artificial Organs	2022.08

## V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

## VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 佐藤康史, 井上雄介, 寺澤武, 堀江風花, 山名智尋, 山家智之, 白石泰之, 山田昭博, 武輪能明	COVID-19 重症肺炎に対する ECMO 下での経気道的治療法の開発	第 50 回人工心臓と補助循環懇話会学術集会	2022.04
2) 一宮 光悦, 諏訪 陵弥, 寺澤 武, 荒川 俊也	病理画像生成における敵対的生成ネットワーク(GAN)の適用	生物学若手研究者の集い 夏のオンラインセミナー 2022	2022.05
3) 諏訪 陵弥, 一宮 光悦, 寺澤 武, 荒川 俊也	GAN 生成病理画像が深層学習を用いた組織検出精度に与える影響	生物学若手研究者の集い 夏のオンラインセミナー 2022	2022.05
4) 佐藤 康史, 寺澤 武, 井上 雄介, 武輪 能明	圧電性ポリ乳酸繊維を用いた移植用グラフトの開発	第 60 回日本人工臓器学会大会	2022.11
5) 武輪 能明, 井上 雄介, 寺澤 武, 佐藤 康史	自己組織生体弁はロス手術よりも進化した大動脈弁置換の選択肢となり得るか?	第 60 回日本人工臓器学会大会	2022.11
6) 井上 雄介, 佐藤 康史, 寺澤 武, 堀江 風	ECMO 装着下における重症肺炎に対する経気道的治療法の開発	第 60 回日本人工臓器学会大会	2022.11



花, 山名 智尋, 武輪  
能明

- |     |  |  |                            |         |
|-----|--|--|----------------------------|---------|
| 7)  | 寺澤 武, 一宮 光悦,<br>諏訪 陵弥, 荒川 俊<br>也, 佐藤 康史, 井上<br>雄介, 武輪 能明 | 敵対的生成ネットワー<br>ク(GAN)によるディ<br>プラーニング用人工病<br>理画像生成の可能性 | 第 60 回日本人工臓器学会大<br>会       | 2022.11 |
| 8)  | 寺澤 武, 佐藤 康史,<br>井上 雄介, 山名 智<br>尋, 堀江 風花, 中山<br>泰秀, 武輪 能明 | 生体内組織形成術によ<br>る CLOSED 型心臓弁グ<br>ラフト形成用鋳型の開<br>発      | 第 60 回日本人工臓器学会大<br>会       | 2022.11 |
| 9)  | 畠中 晃平, 土方 亘,<br>藤原 立樹, 大内 克<br>洋, 井上 雄介                  | インペラの円軌道加振<br>による磁気浮上型血液<br>ポンプ内の血栓検出技<br>術の開発       | 第 60 回日本人工臓器学会大<br>会       | 2022.11 |
| 10) | 井上雄介、佐藤康<br>史、寺澤武、堀江風<br>花、山名智尋、武輪<br>能明                 | ECMO 装着下における<br>重症肺炎に対する経気<br>道的治療法の開発               | 第 60 回日本人工臓器学会大<br>会       | 2022.11 |
| 11) | 井上 雄介, 佐藤 康<br>史, 寺澤 武, 紀本 直,<br>山田 健人, 武輪 能明            | 重症肺炎に対する<br>ECMO 装着下での経気<br>道的治療法の開発                 | 第 51 回人工心臓と補助循環<br>懇話会学術集会 | 2023.02 |
| 12) | 一宮 光悦, 寺澤 武,<br>荒川 俊也                                    | 敵対的生成ネットワー<br>ク(GAN)を用いた人工<br>病理画像生成とその評<br>価        | 電気学会 U-21 学生研究発表<br>会      | 2023.03 |
| 13) | 武輪 能明, 井上 雄<br>介, 寺澤 武, 佐藤 康<br>史                        | 様々な大動脈弁疾患に<br>対する自己組織生体弁<br>を代用とする可能性の<br>検討         | 第 53 回日本心臓血管外科学<br>会学術集会   | 2023.03 |

## VII. その他研究活動

氏名	活動等の内容	活動年月
----	--------	------

## VIII. 学術関係活動

受賞者氏名	受賞名	受賞学会	受賞年月
1) 佐藤康史	第 14 回理事長賞	ノーステック財団	2022.01
2) 一宮 光悦, 寺澤 武, 荒 川 俊也	電気学会 U-21 学生研究発 表会	一般社団法人電気学会	2023.03